

令和4年度

高等学校教育課程研究会

研究報告

第2集



神奈川県立総合教育センター

まえがき

令和4年度から年次進行により実施されている高等学校学習指導要領において、育成を目指す資質・能力が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理されました。各教科等でどのような資質・能力の育成を目指すのかが明確に示され、生徒の学習成果の状況に基づき、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が教員に一層求められています。

神奈川県教育委員会では、神奈川県立総合教育センターを中心として学習指導要領に基づく教育課程の実施に伴う学習指導上の諸課題並びに生徒指導上の諸課題について部門ごとに研究協議を行い、高等学校教育の改善と発展、充実を図ることを目的として教育課程研究会を設置し、その研究成果を「高等学校教育課程研究会研究報告（第2集）」としてまとめました。

令和4年度については、学習指導要領の年次進行の実施の流れを受け、研究主題は「組織的な授業改善の推進～新学習指導要領の実施を踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践～」を趣旨として、各部門においてテーマを定め、授業の中で生徒一人ひとりが「主体的・対話的な深い学び」を単元のまとまりの中で実現し、教育課程全体を通じた質の高い学びを実現するとともに、学習評価の結果を学習指導にいかしていく「指導と評価の一体化」を実践していくための研究を行いました。また、教科以外の部門においても、特別活動部門においては、「特別活動における資質・能力の三つの視点（「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」）から合意形成や意思決定を実践するホームルーム活動 ～ルールメイキングをテーマとした指導事例～」道徳教育部門においては、『『SOSの出し方に関する教育』の推進』等の研究実践をし、教育活動及び学習過程を実現するための適切な指導について研究を行いました。

各学校等においては、「令和4年度高等学校教育課程研究会研究報告（第2集）」を活用し、生徒の確かな資質・能力を育成するための組織的な授業改善を図り、生徒の資質・能力を育成することができるよう、教育活動のさらなる充実をお願いします。

最後になりますが、本研究協議を進めるに当たり、御協力くださいました関係の方々に深く感謝を申し上げます。

令和5年3月

神奈川県立総合教育センター

所長 田中 俊穂

目 次

国 語	1
地 理 歴 史	10
公 民	22
数 学	28
理 科	34
保健体育 (保 健)	42
保健体育 (体 育)	48
芸 術 (音 楽)	57
芸 術 (美術・工芸)	67
芸 術 (書 道)	80
外 国 語 (英 語)	87
家 庭	105
情 報	116
農 業	125
工 業	135
商 業	142
水 産	152
看 護	156

福	社	166
総合的な探究の時間	173	
特別活動	180	
道徳教育	186	
協力者氏名	193	

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

組織的な授業改善の推進

～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程の実践と適切な評価について～

(2) 研究のねらい

学習指導要領「現代の国語」「言語文化」の指導内容に基づき、単元で身に付けさせたい資質・能力の育成を目指した学習過程の実践と評価方法について研究を行った。

「現代の国語」については、「話すこと・聞くこと」の領域における単元の指導計画及び評価方法の検討を行い、実践した。「言語文化」については、「読むこと」の領域における単元の指導計画及び評価方法の検討を行い、実践した。

2 実践事例

【事例1】

(1) 単元指導計画

ア 科目名：現代の国語

イ 単元名：わかりやすく伝えるための3か条を考えよう

ウ 単元の目標：

(1) 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。[知識及び技能]

(1) オ

(2) 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して 論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。[思考力、判断力、表現力等] A (1) イ

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会と関わろうとする。「学びに向かう力、人間性等」

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。(1) オ	「話すこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう自分の立場や考えを明確にし、論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。A (1) イ	効果的な組立て方や接続の仕方を意識した論理的な会話表現を工夫する中で、自分の考えが的確に伝わるよう、聞き手からの助言などを踏まえ、粘り強く自らの学習を調整しようとしている。

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	○学習の見通しを立てる。 ○論理的な表現のルールを、例文の分析を通して知識として理解する。 ○「わかりやすく伝える」ために重要な要素を考えさせ、Google スプレッドシートに書き込ませる。 ・クラス内で出てきた意見の中で、特に大切だと考える要素を選び、「わかりやすく伝えるための3か条」を定める。	○			・書き込ませたGoogle スプレッドシートをGoogle Classroom上で全体に共有する。 [知識・技能] (1) オ 「わかりやすく伝える」ための要素を整理し、文章の効果的な組立てや接続の仕方についての理解を深めている。 (ワークシート及び振り返りシートの記述の確認)

2	2	<ul style="list-style-type: none"> ○構成メモを作成する(下書き程度のものでかまわない)。そのメモを基にグループで発表する。 ・聞き手は良いところ、改善すべきところをメモする。発表終了後に発表者に渡す。 ○身に付けた技能をいかして書く。 ・前時に考えた「わかりやすく伝えるための3か条」と今回の発表を経て聞き手から受け取ったメモを参考にしながら、「職業を選択する際に優先すべき価値観は何か」というテーマで原稿を書く。 				<ul style="list-style-type: none"> ・原稿は、発表を通して気が付いたことを赤で訂正したところまでを評価に含むことを伝える。 ・発表の様子を自己の媒体で動画撮影させる。評価する物ではなく、自己の振り返りに使用させる。 ・発表時間は2分程度であることを伝え、話す分量や順番を考えさせる。
3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ発表を行う。 ・前回の授業で作成した原稿を基にグループ発表を行う。 ・前時と同じように聞き手はメモを取る。 ○グループで意見を共有する。 ・発表の中で良かった人は誰か、またその発表はなぜ良かったのかを考えさせる。また、自分で定めた「わかりやすく伝える3か条」についても話し合う。 ○グループで共有したことを全体で発表する。 			○	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで共有したことを全体でも共有する。 <p>[思考・判断・表現] A (1)イ 発表や話し合いを通して得た気付きや意見を、自分の原稿や3か条に反映させ、話の構成や展開を改善させている。 (ワークシート及び振り返りシートの記述の確認)</p>
4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の確認をする。 ・「わかりやすく伝えるための3か条」について前時で出てきた意見について確認を行う。 ○原稿を仕上げる。 ・自己の発表動画を見ながら(聞きながら)、前時に班員から出た意見やメモを参考にして原稿を赤で訂正する。 ○振り返りを行う。 ・クラス全体で「わかりやすく伝えるための3か条」を定める。1次に自分で定めた「3か条」や発表、話し合いで出た意見を参考に最終決定をする。 			○	<ul style="list-style-type: none"> ・赤で訂正する際に、なぜそのように変更をしたのかがわかるように工夫をするように指示する。評価規準に“気付き”も含まれていることを確認する。 <p>[主体的に学習に取り組む態度] 発表を通して得た気付きや、話し合いを通して出てきた意見を自分の原稿や3か条に反映させようとしている(伝わりやすい原稿にしようとしている)。</p>

カ 授業実践例 (3時間目/4時間)

学習活動 (指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
1. 本時の目標を確認する。(5分) ・「自分の考えをわかりやすく人に伝える」ためには何が大切なのかを理解する。その際に、前時に行ったグループ発表の振り返りや各自で定めた「わかりやすく伝えるための3か条」を意識する。	[思考・判断・表現] A (1)イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。
2. 原稿を基にグループ発表を行う。(25分) ・発表時間は1人2分間。聞き役フィードバックや次の発表者との転換を含めて5分間とする。 ・フィードバックの内容を振り返りに反映できるよう、他者の助言や自己の気付きについて具体的にメモを取る。	

<p>3. グループで意見を共有する。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の中で良かった人は誰か、なぜ良かったのかを話し合う。また、自分が何を意識して(自分で定めた3か条)発表したのかを共有する。 ・それぞれ自分で定めた3か条が異なるが、良かった発表の共通点や複数の発表を聞く中で気付いたことなど、わかりやすく伝えるために大切なことへの理解を深める。 <p>4. グループで共有したことを全体で発表する。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような発表が良かったか、他の人が納得するような発表にはどのような特徴があったかについて、グループで話し合ったことを発表する。 ・出てきた意見に応じて、必要があれば教員から補足の説明を行う。 <p>【例】今回のスピーチでは1時間目から「わかりやすく伝えるため」に必要な要素や内容についての指導を行ってきた。また、原稿(内容)の評価を行うことも生徒に事前に示している。そのため「話す」ことの技術面についての意見が生徒からは出てこない可能性がある。</p> <p>その場合には、人前で話をする際には、本単元で学んだことの他に、声の抑揚、間の取り方や聞き手の反応をつかむなど、技術的な要素も重要であることを補足する。</p> <p>5. 本時のまとめと次回の見通しの説明。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の発表や意見を参考に原稿の訂正を行うことや持ち物などを確認し、次回の活動に対して見通しをもつ。 	<p>(ワークシート及び振り返りシートの記述の確認)</p> <p>※評価規準 発表を通して得た気づきや、話し合いを通して出てきた意見を自分の原稿や3か条に反映させ整理することができた(わかりやすく伝わる原稿になった)。</p> <p>この評価規準は生徒に提示する。</p>
---	---

研究実施校：神奈川県立横浜翠嵐高等学校(全日制)

実施日：令和4年10月24日(月)

授業担当者：杉山 真里亜 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア 主体的な学び

本単元は、「自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。[思考力, 判断力, 表現力等] A(1)イ」を単元の目標とし、「わかりやすく伝えるための3か条」という具体を考察させた上でスピーチ原稿を作成させた。自分の考えが的確に伝わるためにはどのような工夫が必要かという視点で省察させることによって、自分の発表原稿がより適切な表現となっているのか都度振り返りながらブラッシュアップさせることができた。従前の授業においては「書きっぱなし」であることも多い中で、このように原稿を自ら見直し、より良く伝えるための工夫が主体的になされたことは収穫であった。

また、この原稿作成という過程を経ることで、「話すパフォーマンス力」よりも、「わかりやすく伝えるための工夫とその実践」に着目する視点を身に付けさせることにつながった。伝わるようにしていく工夫は、準備における工夫の段階と、パフォーマンスにおける工夫の段階と二つの段階に分けることができるが、本単元を通して「自分の考えが的確に伝わるよう」にするためには準備における工夫が必要であるという実感としての学びがあったと言えるだろう。

課題としては、中学校までの「話す・聞く」領域の学習内容とのつながりが希薄であったことが挙げられる。導入段階で既習事項を振り返る機会を設けることで、改めて相手や場に応じた内容や表現の工夫の必要性について生徒に主体的に考えさせることを通して、深い学びへとつなげていきたい。

イ 対話的な学び

単元を通して「自分の考えが的確に伝わるよう」工夫した意見を、相互に点検し改善点を出し合うとともに、相手の良さについても吸収しながら、より高い完成度を目指すことができた。本発表の前に練習発表を置くことで、メモを基に構成や展開、表現について、より「伝えるための」という視点で推敲する様子が見られた。

アにも書いたとおり「書きっぱなし」が往々にして起きるのが高校生の活動であり、そうならないためには、途中で自分以外の客観的な視点を入れることと、自らが客観的な視点をもつことが必要である。

このように対話的な学びの活動を取り入れることによって、客観的視点で自らを見る訓練となった。

これらの気づきを原稿に落とし込んだか、「わかりやすく伝えるための3か条」に反映させることができたかという点については、ワークシートの記述から[主体的に学習に取り組む態度]として評価した。原稿そのものの巧拙にとらわれず、何に気づき、どう自分の原稿の改善に反映させていったか、そのつながりは適切であるかという点に着目することに留意したい。

ウ 深い学び

例文の「悪い点」を指摘する活動による「よりよく伝えるために必要な要素」について考える活動によって、主体的に思考を深めることができた。主張と結論の関連性や主張と論拠の結び付きといった、論理的な文章となるために必要な要素について、学びを深めることができた。

また、スピーチ原稿の相互評価や振り返りを通して自身の変化を可視化し分析していくことで、本単元のみにとどまらない汎用的スキルが獲得できたと考えられる。

課題としては、原稿作成時に、主張や論拠が相手に「伝わる」内容や表現になっているのか不安を感じている生徒がいたことが挙げられる。また、発表の際「話すパフォーマンス力」に意識が向いてしまい、内容を思うように伝えきれていないグループもあった。今後は、聞き手が話し手の主張を受容する姿勢には「納得・理解・共感」の三つの側面があり、それらを得るためにどのような工夫を施して伝えるかを意識させながら原稿作成に取り組ませたい。また、発表時にはどのような観点でスピーチを評価するのかを事前に確認させることで、内容や表現に焦点を当て自ら吟味する指標をもたせるようにしたい。

※生徒ワークシート記入例

「わかりやすく伝えるための3か条を考えよう」～イイトイコトはこういうこと～への道のり①

【目的】
 ・話の聴衆的な側面からやや複雑な仕方について理解することができる。
 ・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。

【活動】
 ① 例文やまた「わかりやすく伝えるための3か条」をよまえ、テーマについて自分なりの考えを持つ。
 ② 例文やまた3か条を通して他者から助言をもらい、発表表現の原稿を準備する。
 ③ 「わかりやすく伝えるための3か条(改)」や発表時間を意識しながら、発表を行う。
 ④ 発表活動を通して他者から助言や自己の気づきをよまえ、原稿を仕上げ(修正)する。

①わかりやすく伝えるための3か条
 あなたの選んだ3か条(選定理由)
 ・主張を明確にする
 ・正確かつ有効な情報を使う
 ・一文は簡潔にまとめる

②テーマ「職業を選択する際に優先すべき価値は何か」(構成メモ)
 ①イイトイコト
 ②自分の能力を發揮できる(何を)
 ③論拠(理由・具体・体験談など)
 ④まとめ

③練習発表
 発表者氏名 発表者のイイトイコト 内容メモ、いいところ、伝わりやすく改善すべきところなど

②「職業を選択する際に優先すべき価値は何か」(原稿作成)・本稿の発表時間は2分間

私は、自分の能力を最大限に發揮できることに
 価値を見出し、ということを重視すれば良いと
 思います。具体的には、
 ①自分の得意なことを仕事にできれば、
 ②やりがいとすること、
 ③人生の大半の時間を費
 費しなくて済むこと、
 ④また、自分の能力を最大限に發揮
 できることに価値を見出し、
 ⑤これにより、よりよい社会を
 作り出すことに貢献できることに
 価値を見出し、

具体的な資料や例
 から自分の意見、思
 いをわかりやすく
 伝える、
 数字、グラフなど
 を出す

最初のことより取り
 たいとあきらめる
 方法が自分のように
 して、自分のいいところ
 が伝わりやすく、
 ①以上理由から私は
 (主張)
 →具体的な例を挙げたい
 ②例えば、自分の得意なことを仕事にできれば、
 ③やりがいとすること、
 ④人生の大半の時間を費
 費しなくて済むこと、
 ⑤また、自分の能力を最大限に發揮
 できることに価値を見出し、
 ⑥これにより、よりよい社会を
 作り出すことに貢献できることに
 価値を見出し、

③発表
 ペア発表後、ペアの人がメモしてくれた言葉書きの内容と動画(録音)を参考にして作成する。
 ・発表の内容(理由が詳しく説明されており、論理的な説明になっているか)
 ・店の構成(簡潔が整理されているか、話の順序や文章が適切か)
 ・話し言葉(準に想定した原稿を話すのではなく、)

(1) 発表者が発表します。(2分)
 ・事前に自分の定めたことをグループに説明してから始めましょう。
 ・原稿やメモなどをそのまま読まずに、「相手に伝える」ことを意識します。
 ・聞き手はそれをしっかりと聞きましよう。感心シートにメモを取るなら発表者程度で。
 ・発表者は聞き手のために、発表を自己の媒体で撮影(録音)しましょう。

(2) グループで振り返りをおこないます。(3分)
 ・2分経過し、発表が終わったら聞き手は感想シートを完成させます。(1分以内)
 ・いいところや改善すべきところはもちろん、前回より改善されていた点や新たな発見など気づいたことを紙で共有し合います。

◎感想シート
 発表者氏名 | 発表者のイイポイント | 内容メモ、おかりやすかった・おかりづらかったところ、感想

1	語りがよい	おかりやすかった→「おかりやすかった」 おかりづらかった→「おかりづらかった」 おかりやすいポイント おかりやすい理由	おかりしやすい理由 おかりやすい理由
2	楽しそう	おかりやすい理由 おかりやすい理由	おかりやすい理由 おかりやすい理由
3	生活以外にも おかりやすい理由	おかりやすい理由 おかりやすい理由	おかりやすい理由 おかりやすい理由

◎グループ内で一番良かった発表をした人は誰ですか?
氏名 | 理由

◎良い発表は、なぜ良かったんですか?グループでたくさん書き出してみましよう
話し手の方の良否、話し手の選民に関するところ

◎話し手の方の良否、話し手の選民に関するところ

◎話し手の方の良否、話し手の選民に関するところ

◎話し手の方の良否、話し手の選民に関するところ

【事例2】

(1) 単元指導計画

ア 科目名：言語文化

イ 単元名：令和最新版新古今恋歌集 ～比較して見える恋模様～

ウ 単元の目標：

- 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解することができる。〔知識及び技能〕
- (2)エ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- B (1)オ (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。「学びに向かう力、人間性等」

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。(2)エ	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。B (1)オ	和歌と現代の歌謡との共通点や相違点を考える活動を通して、他者の考えを基に我が国の言語文化について自分の考えを深めるため、粘り強く自らの学習を調整しようとしている。

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・ 指導上のポイント
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の見通しを立てる。 ・和歌の学習の振り返りを行う。 ・和歌を一首取り上げ、全体で内容、技法等を学習する。 ・和歌の一覧を確認し、事前に準備した歌謡(J-POP)を踏まえ、自分が興味をもった和歌一首を選ぶ。 ○古典特有の表現を理解し、読み手の心情や、表現技法を理解する。 ・選択した和歌の内容・技法を調べ、作者の心情を整理する。 ・調べた内容は「Google スライド」にまとめる。 	○			<p>[知識・技能](2)エ 和歌に用いられている語の意味や修辞技法を正しく理解し、正確な訳解ができています。 (「Google スライド」の記述)</p>
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ○古典と現代におけるものの見方や感じ方について考える。 ・現代における「歌謡(J-POP)」と、調べた和歌とを比較、関連させ、当時と現代のものの見方や考え方、感じ方について、共通点及び相違点を分析し、「Google スライド」にまとめる。 ・発表の準備を行う。 		○		<p>[思考・判断・表現]B(1)オ 和歌と歌謡を関連させ、当時と現代のものの見方や感じ方の継承について、根拠を基に自分の考えをもつことができています。 (「Google スライド」の記述)</p>
3	3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○他者のものの見方や感じ方を知り、自身の考えを深める。 ・自身の調べた内容を発表する。 ・発表された内容に対して、自分の考えを記入し、発表者と意見を交換する。 ・他者からのコメントを基に、自身の考えをブラッシュアップする。 ・全体で発表内容を交流する。 ○学習の振り返りを行う。 ・グループ、全体での意見交流を終えて、他者の発表や、他者からのコメントをもとにして気付いたこと、考えたことをまとめる。 			○	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 他者の発表や意見をふまえ、我が国の言語文化に対する自らの学習を調整し、考えを深めようとしている。 (「Google フォーム」による振り返り)</p>

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」

カ 授業実践例 (3時間目/3時間)

学習活動 (指導上の留意点も含む)	評価の観点 (評価方法)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習の振り返りを行い、本時の目標を確認する。 ・自身が選択した和歌と、歌謡(J-POP)についての分析を整理し、交流の準備をする。 2. グループで交流する。 ・発表時間は1人5分とする。 ・発表者は、自分が選んだ和歌、歌謡(J-POP)についての分析、和歌と歌謡(J-POP)の共通点と相違点について説明する。 ・聞き手は、発表者の考えを自分のスライド内のメモに簡潔に記録する。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 他者の発表や意見を踏まえ、我が国の言語文化に対する自らの学習を調整し、考えを深めようとしている。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手は自分のメモを基に、発表者の分析や考えについて考えたことを発表者スライド内の交流コメント欄に入力する。 ・発表者は聞き手のコメントを見て、気付いたことや考えたことを自分のスライドに記録し、自分の分析を見つめ直す。 <p>3. グループの中で代表者を1名選出し、全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表発表者は、グループ内で出た考えも紹介し、それを踏まえてブラッシュアップした自分の分析を発表する。 ・聞き手は、発表者のスライド内の交流コメント欄に入力する。 ・指導者は、聞き手に発表者の考えの変容にも注目するよう促す。 <p>4. 学習のまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流を経て深まったこと、考えたことを自分のスライドにまとめる。 ・Google フォームで、学習を通しての振り返りを行う。 	<p>(「Google フォーム」による振り返り)</p>
---	-------------------------------

研究実施校：神奈川県立多摩高等学校(全日制)
 実施日：令和4年10月28日(金)
 授業担当者：芦原 徹 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア 主体的な学び

本単元では、「時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解することができる。〔知識及び技能〕(2)エ」、「作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)オ」を目標とし、和歌と現代の歌謡を比較・分析して得られた学びを共有する活動を行った。現代の歌謡と比較する和歌を探す際、教員がある程度和歌を選択して生徒に提示する手順をとったが、生徒の中には、情景や感覚に関連性のある和歌を自ら文献やインターネットを使用して探し出し、自身の分析をより深くできるように試みる者も見られ、積極的に比較・分析の活動に取り組み、類似点や相違点の気づきを発表する生徒が多く見られた。身近なものとの比較によって、遠い過去のものとして認識してしまいがちな古典、和歌の魅力を理解することにつながり、自分のものの見方や考え方を深めるきっかけとなったと言える。

振り返りには、「感情、情景、環境、行動など多面的に物事の違いや似ているところを観察し、今後の国語の読解や生活そのものにもいかしていきたいと思う。」など、今後の学ぶ姿勢や方法にも言及する生徒が見られた。単元間のつながりも意識して、生徒の学びがより意欲的で深いものとなるよう今後の授業を展開していくことが必要である。

イ 対話的な学び

本単元では、比較・分析の際のワークシートとして、「Google スライド」を使用した。これは、学習を進める際の振り返りやすさやまとめやすさを考えたものであり、スライドの中には、他者との交流で得られた学びを整理できるよう、「班員からのコメント」スライドを用意した。班員が、発表者の比較、分析を聞いて気付いたことや考えたことを入力することで、自身の比較、分析によって得られた学びだけでなく、同じ現代に生きる人の、自分とは異なった感性やものの見方や考え方を知ることにつながった。発表者も聞き手も、より多くの学びを得られた活動であったと言える。

課題としては、発表を聞いてコメントをする際に、自身の感想のみを入力して活動を終わらせてしまっている生徒が見られ、聞き手、発表者の両者にとって自分の考えを深める機会が少なくなってしまうことが挙げられる。改善策として、コメント入力の際に、伝える内容について指定したり、発表者に疑問を投げかけるようにして考えるきっかけを作ったりする等、スライドを工夫し、活動の道筋を示すことが必要である。

ウ 深い学び

比較・分析の活動を経て、共通点と相違点について、言葉のもつ意味やイメージの普遍性、時代の流れによる変化について考えることができており、古典と現代の言葉のつながりについて考えを深められていた。また、生徒の振り返りの中には、上記の気づきを基にして相違点が生じた要因について文化的な背景の違いや、人とのつながり方の違い、価値観の違いなど、多様な視点から理由を分析している生徒が見られた。古典と現代とをつなぎ、我が国の言語文化について自分の考えをもつことを実感できた学びであったといえる。

学習のまとめでは、グループでの交流後、他者からの意見や疑問を基に考えた内容を踏まえてまとめ

のスライドを作成する活動を行った。まとめのスライドには、他者から指摘されたことを基にして新たに考えたことや感じたことを整理する生徒が多く見られ、欠けていた視点や新たな感覚を得て、自らの考えを深めることができていた。

課題としては、歌謡と和歌の比較の際に、歌謡の分析に重きを置いてしまい、和歌の理解や古典と現代とのつながりにまで学びを深められなかった生徒がいたことが挙げられる。指導事項として「言葉」に注目することを大切にさせるために、分析するポイントを絞って考えやすくなるような声掛けが必要であった。また、交流を経て自分の考えを深める場面では、発表時間の短さによって発表者の分析を理解できないままコメントせざるをえない生徒や、コメントが感想のみで終了しているグループ等、他者からのコメントが上手く機能しない場面があったことも反省点であった。「イ 対話的な学び」で述べたように、他者との交流が、多様なものの見方や考え方を理解するための重要な活動となったことを踏まえ、スライドの中にコメントする観点を示すものを用意するなどして、交流を有意義なものとするような手立てが求められる。

*** 生徒が作成したスライドの例**

<p>考えてきた J-POP「オレンジ -GReeeen」</p> <p>【歌詞・心情】</p> <p>「振り返り目があった瞬間 赤く染めた頬を 空の色のせいにした ・・・ ああ 止められない これなんだい？ 焦るこの胸の鼓動が 君に聞こえそうで 近づけない どうしようもないくらい 君が好きなんだ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔にまで表れた感情を「空のせい」とごまかし、素直になれない様子を情景を使って効果的に表現している！ ・サビでは感情を隠さず、ストレートに思うままに表現している！ 	<p>和歌「忍ぶれど色にいでにけりわが恋は物や思ふと人のとふまで」</p> <p>【表現技法】</p> <p>○語句 「忍ぶ」 人に知られないよう心に秘めてきたけど 「色にいづ」 恋愛感情が顔つきに出る 「けり」 感動、詠嘆を表す 「ものや思ふと」 恋について想いわずらう（「や」は疑問詞）</p> <p>○文法 倒置法... 「秘めていたはずの恋心が表に出てしまった」ことを最初に置くことでその情景を強調している！ 「表情に出ている、私の恋が」と2句と3句でも倒置法を用いている！ 伝聞...恋の思いを直接読まず、「他の人が自分が恋をしていると言っている」という伝聞の形で表している！ 結句...「まで...」とただらかにつなげることで余情を残している！</p>
---	--

<p>和歌「忍ぶれど色にいでにけりわが恋は物や思ふと人のとふまで」</p> <p>【現代語訳】</p> <p>心に秘めてきたけれど、顔や表情に出てしまっていたようだ。「恋の想いごとでもしているのですか？」と人に聞かれるほどに</p> <p>【読み手の心情のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「けり」や「まで」等、短い言葉で情景を最大限に表現しようと工夫が凝らされている。 ・倒置法や伝聞を用いることにより、自分の気持ちに素直になれていない様子を効果的に表現している。 	<p>比較したいところはココ!! 素直になれない、それでも表れる恋愛感情をどう表現しているのか！</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="837 1070 1093 1220"> <p>自分の分析 【和歌】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの倒置法を用いて、「ずっと心に秘めてきた」ことを強く、丁寧に表現。 ・「表情に出てしまうほど好き」という気持ちを「人に言われた」と詠い、素直になれていない様子まで表現。 </td> <td data-bbox="1093 1070 1220 1220"> <p>共通点や相違点は？</p> </td> <td data-bbox="1220 1070 1476 1220"> <p>自分の分析 【J-pop】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「空の色」を用いて素直になれない気持ちを表現。 ・サビになるにつれて、「どうしようもないくらい」と相手への気持ちを露わにして歌っている。 </td> </tr> </table> <p>比較して考えたこと 恋愛感情はなるべく心に秘め、なかなか素直になれないという気持ちは、昔から今まで変わらないものだということが分かった。その気持ちを表すため、和歌では伝聞を、J-popでは情景描写を用いて表現している部分は少し異なるが、どちらも直接的ではなく間接的に表現しているところが、日本人の含蓄が表れて</p>	<p>自分の分析 【和歌】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの倒置法を用いて、「ずっと心に秘めてきた」ことを強く、丁寧に表現。 ・「表情に出てしまうほど好き」という気持ちを「人に言われた」と詠い、素直になれていない様子まで表現。 	<p>共通点や相違点は？</p>	<p>自分の分析 【J-pop】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「空の色」を用いて素直になれない気持ちを表現。 ・サビになるにつれて、「どうしようもないくらい」と相手への気持ちを露わにして歌っている。
<p>自分の分析 【和歌】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの倒置法を用いて、「ずっと心に秘めてきた」ことを強く、丁寧に表現。 ・「表情に出てしまうほど好き」という気持ちを「人に言われた」と詠い、素直になれていない様子まで表現。 	<p>共通点や相違点は？</p>	<p>自分の分析 【J-pop】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「空の色」を用いて素直になれない気持ちを表現。 ・サビになるにつれて、「どうしようもないくらい」と相手への気持ちを露わにして歌っている。 		

<p>和歌「さつき待つ 花橘の香をかげば 昔の人の 袖の香ぞする」</p> <p>【現代語訳】</p> <p>五月を待って咲く花橘の香をかぐと、昔親しくしていた人の袖（に薫っていたお香の）の香がするようで懐かしい思いになる。</p> <p>【読み手の心情のポイント】</p> <p>花橘の白い花という視覚的な要素と嗅覚的な要素である花の香りが「今」と「昔」という二つの時間を繋げ、作者のほのぼのとした思いが伝わる。</p>	<p>比較したいところはココ!! 「匂い」に秘めた思い</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="837 1382 1093 1532"> <p>自分の分析 【和歌】</p> <p>香で過ぎ去った昔の日々を思い出す切なさ詠む。 香りが今と昔をつなげる懸け橋になっている。</p> </td> <td data-bbox="1093 1382 1220 1532"> <p>共通点や相違点は？</p> </td> <td data-bbox="1220 1382 1476 1532"> <p>自分の分析 【J-pop】</p> <p>相手への感情を匂いとともに伝える。 変わらない香水の香りで楽しかった日々を思い出す。</p> </td> </tr> </table> <p>比較して考えたこと 匂いとともに思い出があふれるという部分は共通していて今と昔の日々をつなぐ記憶になっていた。恋という感情がそのまま表されるのではなく別の感覚とともに表現されていた。</p>	<p>自分の分析 【和歌】</p> <p>香で過ぎ去った昔の日々を思い出す切なさ詠む。 香りが今と昔をつなげる懸け橋になっている。</p>	<p>共通点や相違点は？</p>	<p>自分の分析 【J-pop】</p> <p>相手への感情を匂いとともに伝える。 変わらない香水の香りで楽しかった日々を思い出す。</p>
<p>自分の分析 【和歌】</p> <p>香で過ぎ去った昔の日々を思い出す切なさ詠む。 香りが今と昔をつなげる懸け橋になっている。</p>	<p>共通点や相違点は？</p>	<p>自分の分析 【J-pop】</p> <p>相手への感情を匂いとともに伝える。 変わらない香水の香りで楽しかった日々を思い出す。</p>		

<p>①()さんからのコメント</p> <p>交流シート</p> <p>○気づいたこと・考えたこと・疑問に感じたこと</p> <p>匂いというか香りが、思い出を呼び起こすトリガーとなっており、また、「恋」という言葉をそのまま使わず、他の語で表現する共通点から、日本人は今も昔も一つの要素から様々な心情を想像できるところは変わってないと思いました。</p> <p>しかし、和歌の方が五感をより多く趣深くなるように工夫しているように感じられました。</p> <p>○私ならこのJ-pop！</p>	<p>③()さんからのコメント</p> <p>交流シート</p> <p>○気づいたこと・考えたこと・疑問に感じたこと</p> <p>過去の恋愛、香りなど共通のキーワードがたくさん含まれていて良い選曲だと思います！和歌のほうは別れをすんなり受け入れている感じがしたけど、jpopは少し心残りがあるところが違うと思いました。和歌の季節は初夏だと分かりましたが、jpopのほうはどの季節の歌なのか気になりました。</p> <p>○私ならこのJ-pop！</p>
---	--

交流を終えて 再考・まとめシート

仲間の考えを聞いて、自分の分析を振り返ってみよう。
最初の自分の分析とどのように変わりましたか？

①比較したい(比喻の対象&歌を構成しているもの)について

和歌 対象が自然 自然が身近

J-pop 対象が信号機やガラスの蓋 身近なもの(機械)

MV・タイトルも重要 例えば、ガラスの蓋を閉める→あまりきいてない
隠しきれてない

②想起するJ-popについて

③その他 気づいたこと・考えたこと

透明→実は伝わっている？ 伝えちゃいけない でも伝えてほしい、

* 学習の振り返り(生徒の記述より抜粋)

- ・短歌という昔に書かれたものは初めて触れるにはハードルが高いけれど現代のJ-POPと比べて同じ点や違う点を探すととても理解が深まりやすいなと思った。
- ・短歌の現代語訳など調べていく中で現代を生きる私たちと昔を生き詩人には同じ感情があることが分かった。逆に時代の環境は異なっていて、例えば「想いが伝えられない」でも昔は立場的に付き合いなかったことがあるのに対し、現代では恥ずかしがってしまって付き合いなかつたりするという違いも分かった。今回の授業を通して似ているけれども性質が違う二つの物の比べ方が少しくまくなったと思う。
- ・感情、情景、環境、行動など多面的に物事の違いや似ているところを観察し、今後の国語の読解や生活そのものにもいかしていきたいと思う。
- ・今回は、他の人の発表を聞いて、様々な和歌とJ-POPについて知り、考えを広げることが出来ました。自分のプレゼンでは、上手く言いたいことが伝わらなかった部分もあるので、説明の仕方やスライドをより工夫してまたこのような機会があったときに改善できるようにしたいです。時代は違っても変わらない部分や全く異なる部分も発見できて、とても面白い授業でした。これから古典や昔の文学作品等を学ぶときは、その時代ならではの表現や心情などにも注目をして読み取りながら学びたいと思いました。
- ・和歌と現代の曲を比較するという点が非常に面白かった。今回和歌を深掘したことによって同じ言葉でも使うタイミングによって受け取られ方が違ったり、一つの言葉でも複数の意味があったりすることが分かり、非常に奥の深い言葉遊びだと感じた。時間があるときに和歌を作ってみるのも面白いと思った。
- ・和歌を通して、日本人の性質が変わったのかなとか様々な事を読み取ることが出来た。ただ、これはこういうものだって頭で決めつけて自ら思考の幅を狭めちゃってたのか、全然友達の発表に対して気になった点とかをあげることが出来なかったの、もっと柔軟に思考をロックせずに考えたい。

地 理 歴 史

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

組織的な授業改善の推進～主体的・対話的で深い学びの視点からの指導と評価～

(2) 研究のねらい

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のためには、単元や題材など内容のまとまりを見通した「単元の指導と評価の計画」を作成することが重要である。「主題」や「問い」を中心に構成する指導と評価の計画を作成し、資料を活用して事象を多面的・多角的に考察する学習活動を設定することで、生徒の資質・能力の育成を図ることを研究のねらいとする。また、指導と評価の一体化の観点から、学習記録表(ポートフォリオ)を取り入れることで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の見取りについて妥当性と信頼性の担保された評価となりえるか検証する。

2 実践事例

【事例1】

(1) 単元指導計画

ア 科目名：地理総合

イ 単元名：国際理解と国際協力((1) 生活文化の多様性と国際理解)

ウ 単元の目標：場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、世界の人々の生活文化の多様性や変容、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性を理解する。

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	気温と降水 ・気候と人々の生活の関係 ・世界の住居の特徴から気候について学ぶ	●			<ul style="list-style-type: none"> 気候と人々の生活の関係についての理解 学習記録表(評価表)への取組(知識・技能)
2	2	大気大循環 ・大気大循環 ・風の発生の仕組み(台風等)		●		<ul style="list-style-type: none"> 大気大循環についての理解 学習記録表(評価表)への取組(思考・判断・表現)
3	3	気候区分 ・気候区分(ケッペン)	●			<ul style="list-style-type: none"> ケッペンの気候区分についての理解 学習記録表(評価表)への取組(知識・技能)

4	4	気候帯の特徴 ・世界の各気候帯の特徴	●		・世界の各気候帯の特徴の理解 ・学習記録表(評価表)への取組(知識・技能)
5	5	気候帯の比較(本時) ・各気候帯の比較 ・人々の生活文化の形成要因や多様性について考察 ・気候についてのまとめ		○ ○	・各気候帯の比較を通して人々の生活文化の形成要因や多様性についての理解を促す ・学習記録表(評価表)への取組(思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)

カ 授業実践例 (5時間目/5時間)

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>1. 導入(2分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の目標確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>世界の国々の生活文化の比較を通して生活文化を形成する要因について理解する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方の説明 <p>2. 展開①(6分)</p> <p>※班作成(5人1班×8)</p> <ul style="list-style-type: none"> 衣食住の分類(4分) <p>衣食住を気候帯の特徴に照らし合わせながら分類を行い、理由も考察・表現する。</p> <p>※下記の内容が記入されているGoogle Jamboardを各班に配付し分類と理由の記入を行わせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>高床式住居、キャッサバ(いも)、サロン、なつめやし、日干しレンガの住居、袖丈の長い衣服、オリーブ、イタリアの住居(アルベロベッロのトゥルッリ)、紳士服(スーツ)、ライ麦、イヌイット住居、厚手の帽子や防寒着</p> </div> <p>分類後</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>熱帯 …キャッサバ(いも)、高床式住居、サロン 乾燥帯…なつめやし、日干しレンガの住居、袖丈の長い衣服、 温帯 …オリーブ、イタリアの住居、紳士服(スーツ) 亜寒帯・寒帯…ライ麦、イヌイットの住居、厚手の帽子や防寒着</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 各班の意見を全体に共有(2分) <p>気候が、人々の生活文化を形成する要因であることを理解する。</p> <p>※次に繋げるために「気候が似ていると生活文化も似るだろう」と仮説を立てる。</p> <p>3. 展開②(40分)</p> <p>※仮説を検証するための発問を行う。</p> <p>発問：「気候が似ていると生活文化は似るのだろうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> 検証のために各気候帯の代表的な都市を調べてまとめる(20分)。 <p>※代表的な都市は教師が指定し都市名と雨温図を生徒に示す。</p> <p>※各班の都市は、教師側で指定(下記参照)しGoogle Jamboardで配付を行う。</p> <p>※まとめ方等の説明を行う。</p> <p>※共通点と相違点をまとめるように促す。</p> <p>また、都市(国)の生活文化を調べるように促す。</p> <p>※2分で発表できる内容にするように伝える。</p> <p>※発表資料は配付したGoogle Jamboardを使用し1枚で作成するように伝える。</p>	

熱帯の都市

- 1班 熱帯雨林気候(Af)
 - クアラルンプール(マレーシア)とタクロバン(フィリピン)
- 2班 サバナ気候(Aw)
 - コルカタ(インド)とサンパウロ郊外(ブラジル)

乾燥帯の都市

- 3班 砂漠気候(BW)
 - ラスベガス(アメリカ)とニズワー近郊(オマーン)
- 4班 ステップ気候(BS)
 - ウランバートル(モンゴル)とハリコフ郊外(ウクライナ)

温帯の都市

- 5班 地中海性気候(Cs)
 - ローマ(イタリア)とロサンゼルス(アメリカ)
- 6班 温暖湿潤気候(Cfa)
 - 東京(日本)とダーバン(南アフリカ共和国)

亜寒帯の都市

- 7班 亜寒帯湿潤気候(Df)
 - モスクワ(ロシア)とフェアバンクス(アラスカ - アメリカ)

寒帯の都市

- 8班 ツンドラ気候(ET)
 - ニーク(グリーンランド)とバロー(アラスカ - アメリカ)

生徒の作成資料

3班 砂漠気候帯

教師から提示

Google Jamboard 例

ラスベガス (アメリカ)

ラスベガス都市の画像

「ラスベガス(ネバダ州)」の雨温図

ラスベガス 人口**59万**人

特産物：デーツ・いんげん豆・大理石・乳香

ラスベガスの主要産業はカジノ観光業がさかん

共通点 気温や降水量が似ている

相違点 産業、寒暖差

ニズワー (オマーン)

ニズワー、日干し煉瓦の住宅の画像

「ニズワー」の雨温図

ニズワー 人口**38万7111**人

主要産業：石油関連業・農漁業・銅鉱業

男性の伝統衣装は定自まである長袖の襟のついたガウン

女性の伝統衣装には「シルワル(sawal)」というズボンや「ハムフ(humf)」という長巻リがある。

高原、島、雪山、氷が主要食材として使われる。食料料のハーブ、マリナーなどが使用される。

付箋は生徒がまとめたもの

・各班の発表を受けて各自の考察を思考・判断・表現として評価

・学習記録表への取組(表現)を主体的に学習に取り組む態度として評価

- ・各班の発表者が各班へ出向き発表を行う(1班2分×7=14分)。
- ・全班の発表終了後、仮説(教師からの問い)の検証を考察し表現する(3分)。
- ・教師の問いに対する回答の相互評価(3分)。

4. まとめ(2分)

- ※自然環境だけではなく社会環境も人々の生活文化を形成する要因であるということを理解させるため、教師からのまとめを行う。
- ・テーマのまとめ「国際理解を行う上で必要なことは何か」の記入を宿題にする。

研究実施校：神奈川県立松陽高等学校(全日制)
 実施日：令和4年10月12日(水)
 授業担当者：西村 拓哉 教諭

参考文献・資料

- ・使用教科書『高等学校 新地理総合 帝国書院、『新詳高等地図』 帝国書院
- ・『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説地理歴史編』 文部科学省
- ・『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ補足資料』 文部科学省
- ・学習記録表(評価表)の参考図書 『単元を貫く「発問」でつくる中学校社会科新授業&評価プラン』 内藤圭太 明治図書株式会社(2021年9月出版)

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア 授業づくりの取組について

今回の研究テーマ「組織的な授業改善の推進～主体的・対話的で深い学びの視点からの指導と評価～」の研究にあたって地理総合を題材として取り扱った。『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説地理歴史編』p.54の大項目の2番目である「B国際理解と国際協力(1)生活文化の多様性と国際理解」において「地理的環境が生活文化にどのような影響を与えているのかを考察するために…世界各地の生活文化がその特色ある地理的環境を生かして生まれていることを考察する」といった学習活動が考えられる」を参考に、世界の人々の生活文化を比較させることで国際理解に必要な多面的・多角的に考察し表現する授業を考えた。

まず、主体的・対話的で深い学びを行うためには、生徒の既存の知識をもとに他者との協働などを通して見方・考え方を働かせながら物事や事象のより深い理解を促す仕掛け作りが必要だと考えた。そこで、単元を通してどのようなことを生徒に学ばせる必要があるのかを整理するために指導と評価の計画表の作成を行った。また、指導と評価の計画の実行にあたり単元を貫く問いの設定や授業ごとの教師からの発問の設定を行っている。生徒の表現活動の充実を図り、生徒が授業で身に付けた知識の整理に繋げるために授業ごとの発問の設定を行っている。そのため、単元を貫く問いや授業ごとの発問を一覧表にまとめた学習記録表(評価表)の作成も合わせて行っている(図1・2を参照)。その中で、生徒の表現力の向上を促すために、生徒同士の相互評価を取り入れている。生徒の評価は、あらかじめ学習記録表(評価表)に評価基準を提示し評価を行わせている。生徒の相互評価は、生徒の読解力の向上や表現力の向上を目的としている。注意としては生徒の相互評価は、記録に残す評価としていない点である。理由は、生徒によって評価基準に違いが生じてしまう可能性が高いため評価の正当性を欠いてしまうと判断したためである。

地理総合 世界の気候と人々の生活 評価表 1年 組 番 氏名 ~単元のテーマ~ 気温や降水、風などの気候要素は場所によって異なる。人々の生活はそれぞれの気候要素とどのように関わり合っているのか。そして、世界各様ではどのような生活が営まれていたのかを学び国際理解を進めよう！ ・単元を貫く問い 「国際理解を行う上で、必要なことは何か？」 ・単元の導入 「気候」と人々の関係はどのような関係だと考えるか、率直な意見を記入しよう！	
テーマについての学習項目 <input type="radio"/> 1 気候と人々の生活の関係について <input type="radio"/> 2 大気の状態について <input type="radio"/> 3 ケッペンの気候区分について <input type="radio"/> 4 気候帯の特徴について <input type="radio"/> 5 同一気候区分の比較	
・教師の問いに関する記録の評価基準	
知識・技能 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様な生活文化や、地理的環境の条件によって異なる生活文化について具体的に説明している。 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、他の文化を学習し国際理解を促すことの意味や目的について具体的に説明している。	思考・判断・表現 ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が思われる場所の気候や自然及び社会的条件との関係について見られる現象や気候帯の特色を説明している。 ・異文化が多面的・多角的に考察し、表現している。
・各授業の教師からの問い一覧 *各節は、評価内容(●●)を基に評価基準と照らし合わせながら評価を行う。 *下線部+波線部両方記入でA 下線部、波線部どちらか一方記入でB どちらの記入もない場合C	
<input type="radio"/> 1 気候と人々の生活はどのように結びついているだろうか？ 評価内容(知識・技能)	
さんへ() より) 他者評価 A・B・C	
<input type="radio"/> 2 なぜ南からきた台風は日本で西から東にコースを変えるのか？ 評価内容(思考・判断・表現)	
さんへ() より) 他者評価 A・B・C	
<input type="radio"/> 3 ケッペンの気候区分の長所と短所はなんだろうか？ 評価内容(知識・技能)	
さんへ() より) 他者評価 A・B・C	
<input type="radio"/> 4 気候の影響によってどのような産業が発展するだろうか？ 評価内容(知識・技能)	
さんへ() より) 他者評価 A・B・C	
<input type="radio"/> 5 気候が起きていると生活文化は異なるだろうか？ 評価内容(思考・判断・表現)	
さんへ() より) 他者評価 A・B・C	

図1 学習記録表(評価表)プリント(表)

さらに今回の単元を通して生徒がどのようなことを学び得たのかを単元を貫く問いの回答から読み解く。

<p>単元を貫く問い 「国際理解を行う上で必要なことは何か？」 主体的に学習に取り組む態度として評価</p>	<p>国際理解がなぜ必要なのか という視点について触れつ つ、具体的な自身の解決策 について述べられている。</p>
<p>国際理解が必要とされているのは、戦争に関し、経済に関し、問題を解決するため だと思うので、気候や土地に対してだけでなく、宗教や食文化、経済成長の具合など幅 広い視野でその国を理解しようとする必要があると思う。そのためには、理解するに だけでなく、理解されるということも大切だと思うので、SNSを利用した情報の発信やSDGs のような国際的な目標に向かって一緒に活動していくということも問題解決に向 けて大切なことだと思う。これからの社会をつかっていく身として今のうちから国際情 勢や歴史も勉強したり、SNSを用いた情報の発信や他国の人々はどうな人々な のか知って自分達にもできることを探していきたいと思う。</p>	

図4 単元を貫く問いへの生徒の回答例

多くの生徒が多様な視点が必要であるというこちらの狙いを理解していた。ただ、なぜ国際理解を求められているのかという視点が抜けている生徒が多かった。なお、単元を貫く問いへの回答を主体的に学習に取り組む態度として評価を行っている。理由としては、授業ごとの問いは授業で身に付けてほしい知識や技能、考えてほしい思考力・判断力・表現力等をもとに設定しており、それらの知識を踏まえ、自己調整等を行いながらまとめる役割を果たすのが単元を貫く問いだと考えているためである。そのため、単元を貫く問いは、単元全体を通した学びで回答ができる発問にしないといけない。図4に示した生徒は、今回の評価でA評価を付けた生徒の記述内容である。国際理解がなぜ必要なのかという視点を踏まえ、自分なりの考えを具体的に表現できているという点からA評価を付けた。様々な視点のみの記述はB評価とした。

エ 成果と課題

成果としては、2点あげられる。まずは、指導と評価の計画の作成によって生徒に何を考えさせたいのか、何を身に付けさせたいのかの見通しを整理することができたということである。次に、学習記録表(評価表)の作成によって様々な効果があったということである。様々な効果とは、生徒の学びの蓄積が可能(振り返りにも活用)になり、単元を貫く問いへの回答(まとめ)に活用できたということである。さらに生徒同士の相互評価を導入したことで評価側の読解力向上と記述力向上にもつながったということ。最後に生徒が授業で学んだ内容について教師側の振り返りに活用できたということである。

課題としては、2点あげられる。学習記録表(評価表)に示している評価基準が自校の生徒の状況に応じた評価基準になっているかどうかの検証が必要であるということ。また評価基準を生徒に示すかどうか検証が必要であるということである

【事例2】

(1) 単元指導計画

- ア 科目名：世界史A
- イ 単元名：第二次世界大戦
- ウ 単元の目標：第二次世界大戦に向かう20世紀前半の世界の歴史を、諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、基軸となる問い「国際社会は、なぜ第二次世界大戦の勃発を防ぐことができなかつたのだろうか」を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

エ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：資料活用の技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
第二次世界大戦の推移や大戦後の世界に与えた影響について関心を持ち、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	各国の世界恐慌への対応の特徴やファシズムの台頭を基に、国際協調体制の動揺の要因を多面的・多角的に考察し、表現している。	地図や諸資料を活用し、世界を空間的に認識しながら、複数の資料から問いの考察の根拠となる有用な情報を読み取っている。	世界恐慌からのファシズムの台頭、第二次世界大戦の展開の特徴や背景について、現代社会と関連付けて理解している。

オ 単元（題材）の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習内容及び学習活動 それぞれの項目での問い	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	1 ～ 2	世界恐慌 「世界恐慌をきっかけに各国の経済政策はどのように変化したのか」 ・既習のドーゾ案を思い起こし、ドイツ経済への影響を考える。 ・世界恐慌への各国の対策の違いを理解する。	○	●			・第二次世界大戦勃発の要因を探る視点を持ち、主体的に課題を追究しようとしている。 ・各国の世界恐慌への対応の特徴を、多面的・多角的に考察している。	ワークシートの記述内容
2	3 ～ 5	日中戦争 「日本が中国侵攻に至った背景には何があったのだろうか」 ・「世界史A学習の記録」プリントの前時の世界恐慌についての問いの考察を相互評価する。 ・位置関係を整理しながら、満州事変、日中戦争の流れを把握する。			●		・既習の東アジアの民族運動を踏まえ、地図を活用し位置関係を整理しながら、日本の動きと中国の動きを空間的に把握している。	ワークシートの記述内容
3	6	イタリアのファシズム ・「世界史A学習の記録」プリントの前時の日中戦争についての問いの考察を相互評価する。 ・イタリアのファシズムの一党独裁の流れを理解する。				●	・これまでの社会情勢を踏まえ、ファシズムという概念を理解している。	ワークシートの記述内容
	7 本 時	ドイツのファシズム① 「なぜドイツ国民は、ナチスを支持したのだろうか」 ・ヒトラーの演説に熱狂する民衆の様子等から、なぜナチスはドイツ国民に支持されたのか考えていく。 ・諸資料から問いの答えを導き、議論する中で考えを深めていく。	●	●			・視点の異なる資料に対し関心を持ち、主体的に共有しようとしている。 ・諸資料をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。	ワークシートの記述内容
	8	ドイツのファシズム② ・「世界史A学習の記録」プリントの前時の問いの考察を相互評価する。 ・ドイツのファシズムの一党独裁の流れを理解する。				●	・前時の活動を踏まえ、ナチスの一党独裁の流れを、現代社会と関連付けて理解している。	ワークシートの記述内容

4	9 ～ 10	第二次世界大戦の勃発 「ドイツのヨーロッパ侵攻や日本のアジア侵攻の大義名分は何だったのだろうか」 ・ドイツや日本の動きに対する国際社会の対応の変化を理解する。		●		・第二次世界大戦に突入した要因を、多面的・多角的に考察し、表現している。	ワークシートの記述内容
5	11 ～ 12	第二次世界大戦の終結 「 連合国は、戦後どのような国際秩序を築こうとしたのだろうか 」 ・「世界史A学習の記録」プリントの前時の第二次世界大戦の勃発についての問いの考察を相互評価する。 ・ドイツと日本の敗戦と連合国の首脳会談の内容を理解する。			●	・第二次世界大戦終結への流れを、現代社会と関連付けて理解している。	ワークシートの記述内容
	13	基軸となる問い「 国際社会は、なぜ第二次世界大戦の勃発を防ぐことができなかったのだろうか 」を考察する ・「世界史A学習の記録」プリントの基軸となる問いの考察を相互評価し、発表して共有する。	○	○		・基軸となる問いについて主体的に追究しようとしている。 ・基軸となる問いについて多面的・多角的に考察し、表現している。	ワークシートの記述内容

* 上記の評価と定期試験を合わせて評価を行う。

カ 授業実践例 (7時間目/13時間)

学習活動 (指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>1. 導入(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの復習：イタリアのファシズム、世界恐慌後のドイツ ・本時の舞台であるドイツの ①ヒトラーの演説動画(1933年)を視聴。 ・基軸となる問い「国際社会は、なぜ第二次世界大戦の勃発を防ぐことができなかったのだろうか」 →項目の問い「<u>なぜドイツ国民は、ナチスを支持したのだろうか</u>」 問いに対する考察を班ごとに探っていき、最終的には自分で「世界史A学習の記録」プリントに記述するという本時の流れを把握する。 <p>2. 展開①(18分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・列ごとに資料を配付し、資料兼ワークシートに取り組む。 A列：“女性”に関する資料 <ul style="list-style-type: none"> ②解説資料 ナチズムとジェンダー B列：“経済”に関する資料 <ul style="list-style-type: none"> ③演説 全ドイツ労働総同盟書記エッガードによる演説(1932年) ④統計資料 ドイツの国民総生産の推定値(1928～1943年) ⑤統計資料 登録失業者数(1929～40年) C列：“民族”に関する資料 <ul style="list-style-type: none"> ⑥手記 M. マシュマン『結末』(1933年) ⑦手記 『ナートルフの日記』(1934年) ⑧ヒトラーの著作 『わが闘争』(1925年) <p>※A～Cの資料はそれぞれ2列ごとに配付。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートごとの小さな問いに対し、個人で考え記述。(10分) “根拠”を示しながらまとめる。 	<p>● 思考・判断・表現 各資料をもとに、</p>

<p>・その後、列ごとに3～4人の班を12班作り、班で共有し、議論する。(5分)</p> <p>3. 展開②(34分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班替えをし、A～Cの資料を使った班員が1人以上いるように別の班を組む。 ・それぞれの班で導き出した考察を共有。 →資料が異なることによる差異と、異なる資料にも関わらず導かれた共通部分について整理する。(10分) ・様々な理由から、国民がナチスを支持したことを理解した上で、⑨統計資料 国会選挙の得票率(1919～1933年)を見て、得票率は伸びているが、最大でも約43%の得票率にとどまっていることに気付く。 →冒頭で見た演説のように国民皆が熱狂しているのはなぜか？(5分) ・⑩風刺画 ヒトラーの演説風景(1936年)を配付し、班で協力して内容を読み取る。(10分) ・読み取った内容を発表する。(5分) ・A～Cの3種類の資料と風刺画から、「なぜドイツ国民は、ナチスを支持したのだろうか」の問いに対する考察を改めて考える。 <p>4. まとめ(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界史A学習の記録」プリントの問いに各自答えてくるのは、宿題とする。 ※本日の資料A～Cは、この後Google Classroomにあげ、自分の担当以外の資料も確認できるようにする。 ・次回授業冒頭に相互評価を実施。プリント提出。 	<p>問いについて考察。 次回、プリント提出により評価。 「指導に生かす評価」とする。</p> <p>●関心・意欲・態度 次回、プリントの生徒相互評価により評価。 「指導に生かす評価」とする。</p>
--	--

研究実施校：神奈川県立鎌倉高等学校(全日制)
実施日：令和4年11月2日(水)
授業担当者：土谷 優子 教諭

※参考文献・資料

- ①：You Tube「ヒトラー首相就任演説」<https://youtu.be/0KU7UM3i4qw> (11月2日時点で取得)
11' 00"～13' 35" ヒトラー入場、演説開始
31' 00"～32' 30" 演説半ば

②：三成美保他『歴史を読み替えるジェンダーから見た世界史』 大月書店 p.248-249

③⑥⑦：歴史学研究会『世界史史料 第10巻 20世紀の世界 I ふたつの世界大戦』 岩波書店
③p.217、⑥⑦p.230

④⑤⑨：リチャード・オウヴァリー『地図で読む世界の歴史 ヒトラーと第三帝国』 河出書房新社
⑨p.119、④⑤p.120

⑧：第一学習社編集部『グローバルワイド 最新 世界史図表 五訂版』 第一学習社 p.358

⑩：若林悠『風刺画とジョークが描いたヒトラーの帝国』 現代書館 p.17

※風刺画で、演説台の下に閉じ込められている人たちの首に掛かっているプレートの英語(左から順に)

- ・RELIGIOUS FREEDOM Suppressed(宗教の自由 抑圧)
- ・ACDEMIC FREEDOM Suppressed(学問の自由 抑圧)
- ・LABOR UNIONS・～TERNAL ASSOCIATIONS・OPPOSITION PARTIES Suppressed
(労働組合と共済組合と反対党の自由 抑圧) *一部英語解読不能
- ・WOMENS INDEPENDENCIES Suppressed(女性の自立の自由 抑圧)
- ・FREEDOM of the PRESS Suppressed(報道の自由 抑圧)
- ・JUDICIAL INTEGRITY Suppressed(司法の独立の保全 抑圧)

その他参考文献：内藤圭太『単元を貫く「発問」でつくる中学校社会科新授業&評価プラン』 明治図書

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント
ア 本時の授業について

今回の単元「第二次世界大戦」において、『高等学校学習指導要領(平成21年告示)解説 地理歴史編』p.22「世界恐慌が戦間期の国際秩序に危機をもたらし、新たな国際対立を生み出したことを理解させる。その際、…ドイツのナチズムなどを取り上げ、ファシズムの台頭を大衆社会化現象と関連付けて理解させる。」を参考に、「なぜドイツ国民は、ナチスを支持したのだろうか」という問いを設定して、ナチスの主張や政策、ドイツ国民の立場からのナチス政権の見え方、そして反対派の存在といった多面的・多角的な歴史的観点で問いについて考察し、歴史的思考力を培う授業を構成した。

生徒はヒトラーやナチスについては中学校までにある程度の知識は獲得していることから、今回は敢えてこちらから先に講義等を行わず、まず当時のナチスの考え方やドイツ国民の様子が見える資料を提示し、生徒に読み取らせ、思考を促す。その上で各々が読み取った内容を共有し、さらに別の資料からの考察結果を共有することで、多面的・多角的な視点を獲得させることがねらいである。

当時のドイツ国民がナチスを支持した要因が見えてきたところで、今度は冒頭で提示した動画のような全国民の熱狂的支持の雰囲気がある一方、実際の得票率は43%止まりであり“全国民ではない”という視点にも着目させた。そして、風刺画を読み取らせることで、熱狂した国民の裏で多くの人々が口を塞がれ捕らえられていた現状を理解させ、この授業で獲得した視点や思考力をを用いて、最後には宿題で「なぜドイツ国民は、ナチスを支持したのだろうか」という問いについて考察する流れとなっている。その考察については、別紙「学習の記録」プリント(図1・2)に記述し、記録していく。

イ 本時の後の流れ・成果

授業プリント No.8~12 **世界史A 学習の記録**
 2年 組 番 氏名: _____

～テーマ～ **国際社会は、なぜ第二次世界大戦の勃発を防ぐことができなかったのだろうか**

①テーマについて知っていることを書こう
※必ずでもOK!

②テーマについて“わからない”こと、疑問に思ったことを書こう!
教科書を読み返してよくわからなかったところ等…

③学習しよう・探究しよう

問1 世界恐慌をきっかけに各国の経済政策はどのように変化したのか	相互評価
コメント	
	A・B・C
	評価者()
問2 日本が中国侵攻に至った背景には何があったのだろうか	相互評価
コメント	
	A・B・C
	評価者()
問3 なぜドイツ国民はナチスを支持したのだろうか	相互評価
コメント	
	A・B・C
	評価者()

図1 「学習の記録」プリント(表)

問4 ドイツのヨーロッパ侵襲や日本のアジア侵襲の決意を分けたのだろうか	相互評価
コメント	
	A・B・C
	評価者()
問5 連合国は、戦後どのような国際秩序を築こうとしたのだろうか	相互評価
コメント	
	A・B・C
	評価者()

④まとめよう・つなげよう

●授業での学習を振り返って、テーマに対する解を記述しよう。

相互評価 コメント

A・B・C 評価者()

●授業での学習を振り返り、あなた自身が感じたこと・考えたことや、これからも問い続けていきたいことをそう思った理由とともに書こう。

自己評価	A・B・C
------	-------

図2 「学習の記録」プリント(裏)

本時の次の授業では、宿題としていた「学習の記録」の問いの考察を生徒間で相互評価する。ここでも、他の生徒の考察を読むことで、また新たな視点を獲得させるねらいがある。その上で別紙授業プリントを確認していき、ドイツの地理的条件等を補足しながら、知識を体系化していく。そして最終的には、単元の基軸となる問い「国際社会は、なぜ第二次世界大戦の勃発を防ぐことができなかったのだろうか」に答えていき、生徒同士意見を交換して現代の世界の動向と平和の意義についても考えさせる。

今回、この研究収録の執筆までに基軸となる問いの考察まで辿り着けなかったため、単元全体の研

究結果をここで紹介することはできないが、本時の問いである「なぜドイツ国民は、ナチスを支持したのだろうか」についての生徒の考察を紹介したい。

一つ目の考察ではナチスの政策が具体的かつ適切にまとめられており、二つ目の考察では既習事項にも触れながら反対意見を抑圧している側面も書かれている。

- ・ナチ党、特にヒトラーは以前の政治から大きく改革をした。特に世界恐慌で大量に生まれた失業者を公共事業や国営企業などを作るなどして救済措置をした。また、女性の権利がまだ各国で定められていなかった中、手厚い保障をして女性から多くの票を集めた。一方で、外国人やユダヤ人を明確に「敵」とすることで国民の一体感を高めるなどした。
- ・ドイツ国民はWW I の賠償金や世界恐慌の影響を受け苦しんでいた。ヒトラーはこれをユダヤ人のせいにし、ドイツ人を団結させた。ナチスを支持すれば生活が改善し、支持しなければ恐ろしい目にあうと考えたドイツ人は支持した。ナチスは大衆心理を利用して、大衆の支持を得て、ドイツ国民の多くの人々に支持された。

また、今回のような授業形式について、研究授業後にとったアンケートには次のような声もあった。

- ・講義を聞くよりやっぱり考えて話し合ってたってすると、より理解が深まったと思う。それぞれ持ってるワークシートがちがうと知ったときはえっ！！って思ったけど、違う視点から同じ議題を話し合えるのは面白かったです。

三つのワークシートの共有に至るまで、生徒はまさか隣の人が違う資料を持っていたとは思ってもいなかったようで、他の生徒がどんな資料を読んでいたのか大変興味を持ち、まさに主体的・対話的に共有してくれていた。それぞれの担当箇所を学び、学んだものを共有する授業形態であるジグソー法が効果的に活用され、物事を多面的・多角的にとらえていく一つのきっかけを与えられたように思う。

本時の授業形式では教員から“教える”という場面はほとんどなかったが、考察やアンケート結果からも、今回の授業で伝えたいことが着実に生徒に届いていたのだと再確認することができた。この研究授業のために夏を費やして様々な書籍を読んで、このグループワークに使えるような資料を探した甲斐はあったといえる。だが、このような教科書・資料集以外の資料を多量に用いる授業をゼロから作り上げていくのには、かなりの時間を費やす覚悟が必要である。

ウ 評価の扱い

「学習の記録」の記述内容の生徒相互評価は「指導に生かす評価」とする。この単元の授業開始時に、まず基軸となる問い(テーマ)について知っていることや疑問に思ったことを書かせ、自身の認識を整理した上で、問1から問5にかけて授業で学んだ視点や思考力を生かして記述をしていく。その中で少しずつ理解が深まり、視野が広がっていくことが望ましい。

そして最終的には、これまで見落としていた視点等を含めた形で、基軸となる問いに対する考察を論述していく。ここも、生徒同士で読み合っほしいため相互評価は行う予定だが、教員の方でも評価を行い、この評価を「記録に残す評価」とする。

この「学習の記録」プリントは、新学習指導要領における“主体的に学習に取り組む態度”の観点の評価していくことを視野に入れ作成している。ここには、生徒が知識を獲得し、思考力、判断力、表現力を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤していく様が記録されていく。今回の研究授業は「世界史A」での実施だが、新学習指導要領「歴史総合」では“主体的に学習に取り組む態度”を評価していく必要があり、生徒自らの学習を調整しながら学ぶ意志的な側面がこのプリントでどのように浮かび上がってくるか、今回試行的に検証している。

本来であれば、そこまで含めてここに検証結果を記すべきところであるが、まだこの単元の最後の記録に残す評価まで至っていない。その代わりに、生徒が実際に相互評価を行ってみたいの感想を掲載する。

- ・実名で人の評価をするから、A以外書きにくい。(人間关系的な)
- ・プリントの問いがあることで、全体の振り返りができるし、視点を増やせてよかった！ただ、ペアの評価をするのが難しい。基準がわからない…
- ・いろんな視点からの意見や、まとめ方を知れて、新しいことに気づける。自分が思っていたことと全然違ったり、本当にいろんな角度から出来事を知れて面白い！！

相互評価については、この単元では明確な評価基準を生徒に示していない。ただの知識の羅列はB、知識の羅列にとどまらず、その項目を俯瞰的にとらえて多面的・多角的に言及しているものはAということをお口頭で伝えている。生徒はそれに則って評価はしているものの、感想にもあったように、付度からどうしてもAを付けがちである。相互評価の基準の難しさを挙げる声も多くみられた。

しかしながら、わかりやすい具体的な評価基準を示そうとすると汎用性がなく、また、問ごとの詳細な評価基準を示してしまうことで答えを提示するような形にもなりかねない。生徒に相互評価をさせるための力をどう育成するかという課題がある。

ただ、他者の考察を読み込んでいく中で視点を増やせるなど、気づきを挙げる生徒も多くみられ、その点は今回の形式での授業の成果といえる。

また、研究協議において、評価基準を明確に示せば生徒の相互評価も「記録に残す評価」に使えるのか？という疑問も出たが、これはあくまでも「指導に生かす評価」である。今回の「学習の記録」では、最後にまとめの論述があり、そこに向かって自身の思考・判断・表現をより洗練されたものに改良していくために、相互評価を実施していく。項目ごとの問いの時にはうまく表現できなかったものが、相互評価を通して、最後の論述では表現できるようになる、その生徒自らが学習を調整しながら学んでいく主体的に学習に取り組む態度を、最後に教員が「記録に残す評価」として評価することになる。その教員の評価基準も手探りの部分が多く、特にAの評価基準をどう設定するのか、引き続き研究が必要である。

エ おわりに

今回の授業では、教師の方で事前に問いを立てて「学習の記録」プリントにその問いを掲載し、生徒に単元の流れを見せた上で学習に取り組む形式をとった。この形式で進行していくためには、事前の教師の問い設定が重要となる。どのような問いを設定するかで、生徒の思考も変わってしまう。地理が専門の私にとってはここが一番難しく、適切な問いの設定に苦戦した。生徒に問いを立てさせる方式も模索してみたいが、生徒も同様に、ある程度の理解がないと適切な問いを立てるのは難しいだろう。調べれば簡単に答えがわかってしまう問いでは意味がなく、考えるきっかけを与えてくれる“答えのない問い”でなければならない。

地理歴史の授業では、特に「なぜ」という視点が大切である。これからの時代では、“答えのない問い”をもとに、なぜ？と生徒が思考・判断・表現をして能力を鍛えていくことが必要とされていると、今回の研究を通して改めて認識した。

さらに、地理歴史・公民科には、他教科にはない“平和で民主的な国家・社会の形成に必要な公民としての資質・能力を育成する”という使命がある。この使命に適した題材が今回の単元、今回の授業形式であり、現代の政治・民主主義について考える“種まき”が、今回の授業でできたのではと考える。

公 民

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践

(2) 研究のねらい

安全保障における2つの安全保障システムの知識と、現在の日本と周辺諸国を取り巻く国際情勢を関連付けながら、生徒自身の考えを求める問いや、ICTを用いた他者との意見共有を通じて、主体的・対話的で深い学びの実現をめざした。

2 実践事例

(1) 単元指導計画

ア 科目名：政治・経済

イ 単元名：現代の国際政治

ウ 単元の目標：国際政治が、安全保障の問題、国際情勢の変化による株価や為替の変動、それにもなう物価の変動など、生徒の日常生活に大きく関わると理解する。これにより、主体的に学ぶ態度を養いながら、国際平和と人類の福祉に寄与しようとする自覚を深める。

【単元を貫く問い】私たちの安全はどのようにすれば保障されるだろうか。

エ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：資料活用の技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
国際政治について、国際社会の仕組みや国際組織の役割に関心を示し、学ぶ意欲を持ち、主体的に解決しようとしている。	国際政治の諸問題について多面的・多角的に考察し、「幸福・正義・公正」などの観点から自分の意見をまとめ、適切に表現している。	国際政治に関する諸資料、教科書・資料集・その他新聞記事にあるグラフ等の資料を適切に選択し、活用している。	国際法と国際社会の仕組み、国際組織や安全保障の仕組み、国際貢献などそれらの役割について理解している。

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価のポイント・指導上のポイント
			a	b	c	d	
1	1	<p>【本時の問い】「国」とはなにか。</p> <p>【国際関係と国際法】</p> <p>○国家の条件を確認し、国際政治の成立について理解する。</p> <p>○国際法と国内法を比較し国際社会について考察する。</p>				●	国家の条件について理解し、その知識を身に付けている。
				○			国際法の性質に着目し、国際社会について多面的・多角的に考察している。
2	2	<p>【本時の問い】国際社会に秩序はあるか。</p> <p>【国際社会の変化】</p> <p>○戦争が国際社会でどのような位置付けにあったのかを確認する。</p> <p>○国際社会が人権保障の実現に向けてどのように歩んできたかを確認し、将来予想される課題を考える。</p>	○				違法化された戦争、国際的な人権保障の実現について、解決していかうとする態度を身に付けている。

3	3 本時	<p>【本時の問い】日本の安全をどのように確保すればよいだろうか。</p> <p>【勢力均衡と集団安全保障】 ○国際連盟と国際連合の成立を学ぶなかで、勢力均衡と集団安全保障の特徴を理解する。 ○勢力均衡と集団安全保障の仕組みが、私たちの日常にどのように関わっているかを考える。 <u>○これからの日本の安全は、どのような安全保障の仕組みに基づくべきかを考える。</u></p>				○	<p>勢力均衡と集団安全保障の特徴についての資料を収集し、適切に読み取っている。</p>	
						●	<p>勢力均衡と集団安全保障が、日本の安全にどのように関わっているか多面的・多角的に考察し、表現できている。</p>	
4	4	<p>【本時の問い】国際連合は国際社会にどのように貢献しているか。</p> <p>【国際連合の仕組み】 ○国際連合の組織について理解する。 ○国際連合が国際社会においてどのような役割を果たしているか考察する。</p>				○	○	<p>国際連合の現代における役割について考察し、適切に表現できている。</p>
5	5	<p>【本時の問い】大戦後、世界は平和になったのか。</p> <p>【第二次世界大戦後の国際政治】 ○冷戦体制が成立した背景と経緯を理解する。 ○冷戦体制終結までの経過を確認し、国際社会がどのような状態に置かれていたかを、資料を基に考察する。</p>				○		<p>冷戦体制が国際社会にどのような影響を与え、どのように受け止められていたかを、資料を収集・選択し考察の根拠にできている。</p>
6	6	<p>【本時の問い】冷戦後、国際秩序はどのように変化したか。</p> <p>【冷戦終結後の国際政治】 ○冷戦後、地域・民族紛争や難民問題が噴出したことを、資料を基に考察する。 ○アメリカの同時多発テロは、国際秩序の変化にどのような影響を与えたかを確認する。</p>				●		<p>冷戦後の国際秩序において、国際社会の単位が国家のみではなくなったことを考察している。</p>
7	7	<p>【本時の問い】戦争はコントロールできるか。</p> <p>【軍拡競争から軍縮へ】 ○核兵器や軍拡競争がもたらした世界へのリスクについて、生徒自身に関わることと捉え、どのように解決すべきかを考える。</p>				●		<p>核兵器や軍拡競争がもたらすリスクについて主体的に考察し、解決していこうとする態度を身に付けている。</p>
		<p>○軍縮の現状と課題について学んだ上で、どのような国際秩序の枠組みが必要かを考察し、表現する。</p>				○	<p>これからの国際社会のあり方について考察し、適切に表現できている。</p>	

力 授業実践例

授業展開	学習活動	指導上の留意点	評価方法 【評価の観点】
導入 5分	<p>【本時の問い】 日本の安全をどのように確保すればよいだろうか。</p> <p>【発問1】 あなたは安全に生活していますか？</p> <p>【発問2】 近隣諸国との関係の中で日本は安全か？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数名指名する。 ・生徒の直感で答えて良いと伝え、答えやすくさせる。 ・生徒の答えについて、評価はしない。 ・数名指名する。 ・画面上のヒントに注目させ、答えやすくする。 	
展開 40分	<p>○勢力均衡システムは、どのような特徴があり、どのような欠陥があったかを、教科書を基に確認する。</p> <p>【設問1】 勢力均衡システムの特徴と欠点を説明しなさい。</p> <p>○Googleフォームのワークに答える。</p> <p>○第一次世界大戦が、勢力均衡による秩序の崩壊によって起こったことを確認する。</p> <p>○集団安全保障システムの特徴を確認する。</p> <p>【発問3】 集団安全保障と勢力均衡との違いは何か？</p> <p>【発問4】 クイズ「日常生活における勢力均衡と集団安全保障」</p> <p>○日常生活で考えられる事例を基に、勢力均衡と集団安全保障の仕組みを考えさせる。</p> <p>○国際連盟の成立と課題を学びながら、集団安全保障の課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に教科書を音読させる。 ・教科書の文言、図を丁寧に確認させながら答えさせる。 ・Googleフォームの回答をスクリーンに映して共有する。 ・第一次世界大戦の説明に時間をかけ過ぎない。 ・教科書の文言、図を丁寧に確認させながら答えさせる。 ・正解を明言しない。これを足掛かりに勢力均衡と集団安全保障の理解を深める。 	Google フォーム ワークシート 【c】

	【設問2】 これからの日本の安全をどのように守ればよいかを考え、それが勢力均衡・集団安全保障どちらの仕組みに近いかを示しなさい。		
	○Googleフォームのワークに答える。	○Googleフォームの回答をスクリーンに映して共有する。	Google フォーム ワークシート 【b】
まとめ 5分	○【設問2】の発表を振り返りながら、勢力均衡と集団安全保障の仕組みと欠陥に触れる。		

研究実施校：神奈川県立秦野曾屋高等学校（全日制）
 実施日：令和4年11月2日（水）
 授業担当者：河崎 千愛希 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア 題材について

本研究においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて、より多面的・多角的に考察することが求められる国際政治の単元を選んだ。その中で、実践事例となる本時の研究授業では「安全保障システム」を題材として取り上げた。日本を取り巻く国際状況の変化と、これからの安全保障については多様な議論の余地があるが、公民の一人として社会形成に向けた責任ある行動のために、個人の思想や嗜好のみに依らず、安全保障システムとして定説化された「勢力均衡」と「集団安全保障」の理論を用いて考察させることをねらいとした。

また、国際政治についてはスケールが大きく敬遠しがちな生徒もいることもあり、実感を伴った理解を実現するために、生徒の日常生活に関連した授業の進行を意識した。ただし、国家間の安全保障システムを個人の社会生活にそのまま落とし込むと誤解を生む恐れがあるのでこの点には留意した。

イ 手法・展開について

研究テーマである「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践」について、主体的な学び、対話的な学び、深い学びについて次のように整理した。主体的な学びは、学ぶことに興味や関心を持ちながら、生徒が自身の生活と関連付け、新たな課題に気付き考えることで、深い学びにつながる。具体的な手法として、勢力均衡と集団安全保障の考え方を学校生活などにおける生徒個人の日常の安全に置き換え、クイズ形式で比較させた。

対話的な学びは、生徒同士の協議がよく注目されるが、今回は、「教職員との対話」や「先哲の考え方を手掛かりに考えること」に着目した。教員の問いに対する思考や、知識を相互に関連付けた思考が、深い学びにつながると整理した。具体的な手法として、教科書に示された勢力均衡と集団安全保障の仕組みを整理させ、同じく現代の「日本の領土をめぐる情勢」についても理解させ、これらの知識を相互に関連付けて思考する問いとして「これからの日本の安全をどのように守れば良いか」を設定した。

また、生徒の意見共有や指導に生かす評価を実現する手段としてGoogleフォームを使用した。設問1・2については、生徒が考えた回答を生徒自身がGoogleフォームで入力し、その結果を教室にあるディスプレイに映し、これについて説明や評価を行った。指名や挙手による意見の発表ではクラス全体の意見をすくいあげられないが、Googleフォームでは回答者全員の回答を共有でき、さらにディスプレイで文

章化された意見を表示することで、講評や指摘など指導に生かす評価も分かりやすくなるという利点があった。

ウ 最後に

学習指導要領にある「対話的で深い学び」の定義を良く見てみると、グループワークだけではなく「教職員との対話」や「先哲の考え方を手掛かりに考えること」も対話的で深い学びの実現に関わっていると分かる。

また、今回「主体的な学び」にある、「学ぶことに興味や関心を持つ」という文言にもこだわった。生徒が学ぶ理由、我々が教員である理由の根源がここにあるのではないかと思うからだ。生徒が興味や関心を持てるかという視点を一貫して維持できた。生徒の生活と関連させて授業をすることが必要であるというように、研究授業のための非日常の授業ではなく、普段通りの授業を目指した。研究授業ではあるが、教員の都合で進度を変えることなく年度当初に計画した単元構成で研究授業を実施できたことも成果としたい。

3 国際連合と国際協力

教科書P.54～P.55資料集P.90～P.95

① 国際連盟の成立と崩壊

○ (1,) 方式・・・17世紀～19世紀のヨーロッパで主流となった、国家間の力を均衡させることで、国家による侵略を防ごうという考え方。



(2,) 大戦 (1914～1918) を招く一因に

○第一次世界大戦の反省から、安全保障の在り方が勢力均衡方式

⇒ (3,) 方式へ。

↳ 国際社会の組織化が目指され (4,) が創設された。

○国際連盟設立

- ・ 設立の背景 — アメリカのウィルソン大統領—平和原則14ヶ条の発表 (1918年)
加盟国の国際紛争の軍事的解決の禁止、秘密外交の禁止、民族自決、国際連盟の設立

○問題点

- ・ (5,) 方式・・・足並みをそろえることが出来ず、有効な決定できなかった
- ・ (6,) 制裁のみ・・・軍事的な制裁を行なえず、強制力が乏しかった。
- ・ 主要国の不参加、脱退・・・アメリカ参加せず、ソ連途中参加 (1934)



(7,) 大戦 (1939～1945) の勃発を防げなかった。

数 学

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

組織的な授業改善の推進

～新学習指導要領の円滑な実施を踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践～

(2) 研究のねらい

新学習指導要領で重視している主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通して、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っている。

本研究では、「主体的に学習に取り組む態度」の「記録に残す評価」に焦点を当てた。学習の振り返りを通して「主体的に学習に取り組む態度」の育成を図り、教科の特性をいかして他の二つの観点と関連付けた評価を行うことで、適切な学習評価を実現することをねらいとした。

2 実践事例

(1) 単元指導計画

ア 科目名：数学 I

イ 単元名：2次関数の最大・最小

ウ 単元の目標：2次関数の値の変化についてグラフを用いて調べ、最大値・最小値を求めることができる。

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定義域に制限がある場合とない場合のそれぞれについて、2次関数の最大値・最小値を求めている。	二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりしている。	2次関数の最大値・最小値について、グラフを用いた考察のよさを認識し、問題解決において数学的論拠に基づき粘り強く考え、その過程を振り返って考察を改善しようとしている。

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1 時間 扱	・2次関数の値の変化についてグラフを用いて調べ、定義域に制限がない場合の最大値・最小値を求めることができるようにする。	●			【評価のポイント】 (知) 関数の最大値・最小値について、与えられた関数のグラフについて考察し、値を求めることができているかを評価する。

2	1 時 間 扱	<ul style="list-style-type: none"> ・定義域に制限がある場合の2次関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 	●		<p>【指導上のポイント】</p> <p>一般形で与えられた2次関数のグラフをかく技能が習得不十分な生徒には、予めかかれたグラフを用いて最大値・最小値について考察させる等、スモールステップを意識した指導を行う。</p> <p>【評価のポイント】</p> <p>(知) 関数の最大値・最小値について、与えられた関数のグラフについて考察し、値を求めることができているかを評価する。</p>
3	本時 1 時 間 扱	<ul style="list-style-type: none"> ・2次関数の最大値・最小値に関心をもち、数学的論拠に基づき粘り強く考えようとしている。 ・定義域に制限がある場合の2次関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 	●		<p>○ 【指導上のポイント】</p> <p>グラフ描画ソフトを活用しながら、定義域に制限がある場合の最大値・最小値について、視覚的に理解できるよう指導する。</p> <p>【評価のポイント】</p> <p>(態) 自分の学習のプロセスに着目し、習得状況を踏まえながら、問題解決において数学的論拠に基づき粘り強く考えようとしているか、という意志的な側面を評価する。</p>
4	1 時 間 扱	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題の最大・最小問題において、変数 x, y を決めて立式できるようにする。 ・上で決めた x の定義域を調べ、立式した2次関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 	○	●	<p>【評価のポイント】</p> <p>(思) 面積を2次式で表し、条件を関数の定義域に整理することで、2次関数の問題として考えることができているか、その最大値・最小値を求めることができているかを評価する。</p>
5	1 時 間 扱	<ul style="list-style-type: none"> ・定義域に制限がある場合の2次関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 ・小単元の学習を振り返り、振り返りシートに記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。 	○		<p>○ 【評価のポイント】</p> <p>(知) 関数の最大値・最小値について、与えられた関数のグラフについて考察し、値を求めることができているかを評価する。</p> <p>(態) 問題解決において2次関数を活用することのよさを認識しているかを振り返りシートの記述から評価する。</p>

力 授業実践例 (3時間目/5時間)

学習活動 (指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p><導入> 10分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を理解する。 ・前回の授業で行った確認テストの内容を確認する。 (確認テストの結果を返却し、本時の学習内容を確認する。つまづきやすいところを強調し、生徒自身が学習状況を確認できるように注意して説明する。グラフ描画ソフトを活用しながら、「定義域に制限がある場合の最大値・最小値」について、視覚的に理解できるよう指導する。 <p><展開①> 5分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の確認テストの状況を確認し、その状況に応じてどの学習課題に取り組むのかを考え、ワークシートに記入する。 (導入での説明内容を参考に選択できるよう指導する。) ・自分の学習状況と、その状況に応じて選んだ学習課題についてグループの仲間と共有する。 (発表方法の型を示し、スムーズに共有できるように支援する。) <p><展開②> 20分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展開①で選んだ学習課題に取り組む。 (机間指導の際に、教え合いを促しながら、必要に応じて説明する。) ・教科書準拠問題集ネオパルに取り組む。 (理解が進んでいる生徒は、グループの仲間に教えるように促し、不要だと感じた場合は問題集で演習を行うように指示する。) <p><振り返り> 10分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに取り組む。 (単元の学習内容に関する数学的な内容についての振り返りとなるよう、振り返り内容について具体的に質問をする。) ・振り返りで記入した内容をグループで発表する。 (他の仲間の振り返り内容の発表を聞いてから、自分の考えを修正してよいことを伝える。) 	<p>● (知) 行動観察により、定義域に制限がある場合の2次関数の最大値・最小値を求めることができているかを評価し、その場や次回以降の指導に生かす。</p> <p>○ (態) 記入された内容を確認することにより、自分の学習のプロセスに着目し、習得状況を踏まえながら、問題解決において数学的論拠に基づき粘り強く考えようとしているか、という意志的な側面を評価する。 (振り返りシート)</p>

研究実施校：神奈川県立大和東高等学校(全日制)
 実施日：令和4年9月27日(火)
 授業担当者：佐藤 陽亮 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

本研究においては、「主体的な学び」について、自ら設定した課題を、自分の力で解決するサイクルを繰り返し、さらにその過程と成果について自己分析することで、自らの学びを調整できる状態として捉えた。また、「対話的な学び」については、学習の質を高めるために、他者や文献などから情報を得ることができ、さらには自分の考えを他者に伝える過程を通して、問題の解決に向けて協働することができる状態として捉えた。そして、「深い学び」については、問題解決の過程を振り返り、数学的な見方・考え方を働かせながら、事象の数学的な特徴について考察することができる状態として捉えた。これらの実現のためには、生徒の学びの姿を具体的にどのように表現し、どのように評価することができるのかを明らかにすることで、授業改善に向けた具体的な手立てを考えていくことが必要だ。しかし、授業研究を行うための事例が少ないのが現状である。

このような現状から、本研究では主に、観点別評価の観点の一つである「主体的に学習に取り組む態度」をどのように育成し、単元と授業内における「振り返り」を通して行った評価方法について検証・考察することとした。「主体的に学習に取り組む態度」については、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」では、「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうか」という意思的な側面を評価することが重要である。」（文部科学省 2021 p.10）と記されており、従前の「関心・意欲・態度」の観点においても含まれていた側面を改めて強調している。学習の調整については、各教科の性質によって目的や手法が異なると考え、数学科では「問題を解く」ことを踏まえた学習の調整について着目することとした。また、「記録に残す評価」をする上で、「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするための粘り強さ」とあるように、「主体的に学習に取り組む態度」は他の二つの観点と関連がある。しかし、「主体的に学習に取り組む態度」を行動観察とワークシートの提出のみ、他の二つの観点をペーパーテストのみで評価する場合、CCAやAACといった、観点の関連がない評価がつく場合がある。そのため、このような評価は「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」では「生徒の実態や教師の授業の在り方などそのばらつきの原因を検討し、必要に応じて、児童生徒への支援を行い、児童生徒の学習や教師の指導の改善を図るなど速やかな対応が求められる。」（中央教育審議会 2018 p.13）と示されており、改善する必要がある。そこで、本授業では、事前に実施した「小テストの問題（図1）」を「自己分析シート（図2）」によって自ら課題を設定し直し、課題を解決するために必要な知識・技能を習得するための「個別学習課題（図3）」に取り組む授業展開を実践し、その自己分析の状況を「記録に残す評価」の材料とした。

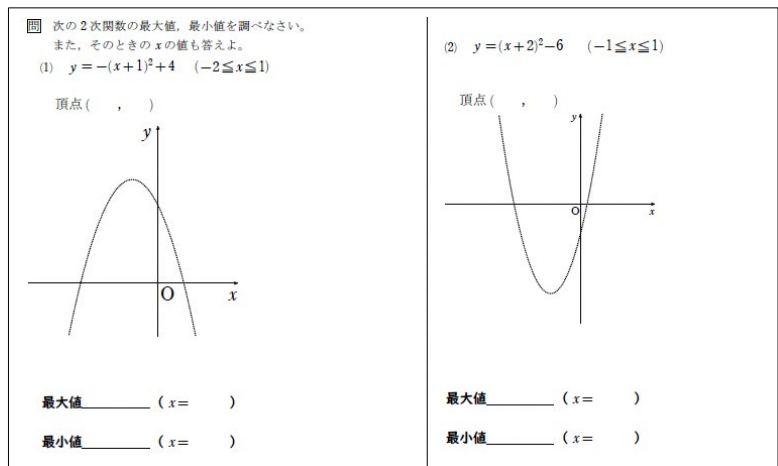


図1 小テストの問題

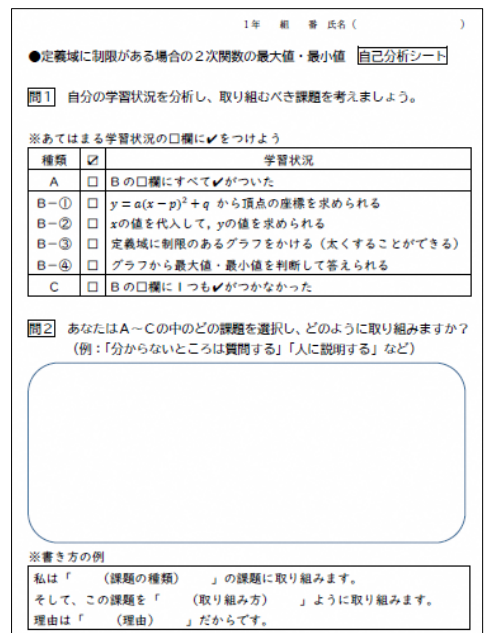


図2 自己分析シート

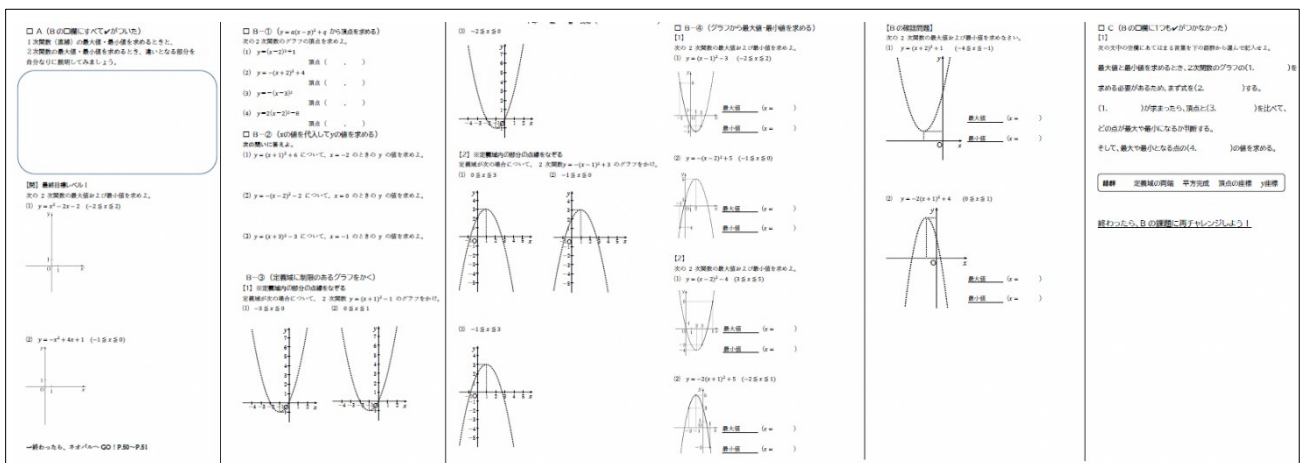


図3 個別学習課題

授業の導入では、自己分析を行う観点について明確になるよう、事前の「小テストの問題（図1）」の内容について説明を行った。説明内容については、事前のテスト結果と記述の状況を「指導に生かす評価」として利用し、内容をより丁寧に説明するように変更した。「主体的な学び」の実現のためには、授業者による受容的な教室環境づくりと、生徒が見通しをもって授業に参加することができる必要がある。そのため、テスト結果で一喜一憂する生徒の様子をよく観察しながら、本時の目標と授業展開について丁寧に共有することに注意した。

自己分析を行う場面では、「自己分析シート（図2）」に「自分ができる項目」をチェックし、取り組むべき課題を把握することができるようにした。そして、その課題について「どのように学習に取り組むのか（以後、「学習方略」とする）」について記述させ、生徒は小グループで発表を行った。本授業では、書き方の例を示すことで、書くことが苦手な生徒への配慮をすることにしたが、学校の状況に応じて変更することが考えられる。図4のように、書き方の例の通りに記述する生徒もいれば、自ら数学的な用語を用いて考えたことを表現する生徒もいた。自己分析が終わると、取り組むべき課題が明確となっているため、指示なしに「個別学習課題（図3）」に取り組み始める様子が見られ、これまでの授業における行動との変容が見られた。

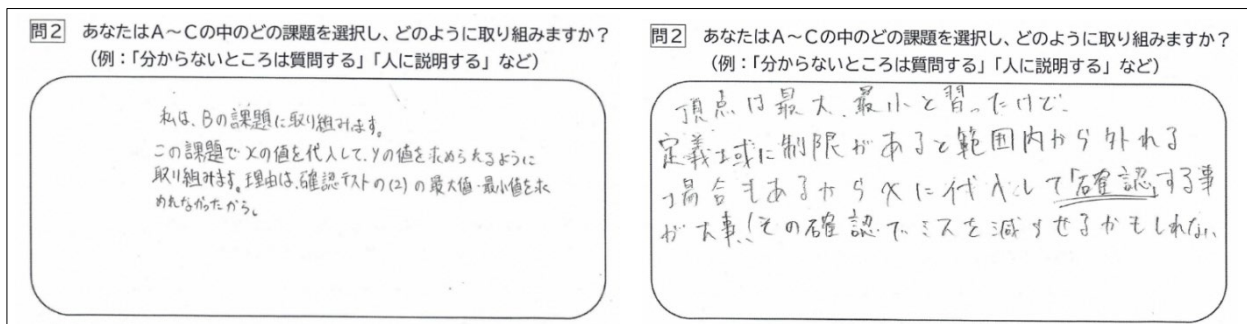


図4 自己分析シートの生徒の記述

「個別学習課題（図3）」に取り組む場面では、「学習方略」を発表したときと同じ小グループで学習させた。図5のように、自己分析において「説明する」と記述した生徒が記述の通り他の生徒に教えるなど、取り組むべき課題を解決した後、どのグループでもグループ内の生徒に教える生徒の姿を観察することができた。また、「個別学習課題（図3）」では、学習到達度がA評価である生徒に向けた数学的活動を意識した考察課題（図6）を設定した。学力差のある教室において、このような考察課題を設定することでA評価の生徒についても、「説明する」という活動以外に「主体的に学習に取り組む態度」を評価する材料も同時に設定することが可能であると考える。

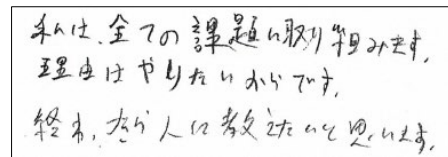


図5 自己分析シートの生徒の記述

A (Bの□欄にすべて✓がついた)
1次関数(直線)の最大値・最小値を求めるときと、
2次関数の最大値・最小値を求めるとき、違いとなる部分を自分なりに説明してみましょう。

図6 A評価生徒向けの考察課題

「自己分析シート（図2）」裏面の「振り返りシート」に取り組む場面では、個別学習課題にどのように取り組んだのかを記述式で書かせるような設問を設けた。設問1については、主につまずいた点について、数学的な用語を用いて具体的に記述させるようにした。設問2と設問3については、「学習方略」に関して自らの取組を振り返り、本時の授業を通して考えたことについて記述させるようにした。この振り返りの記述内容を、「記録に残す評価」の材料とすることを想定している。生徒の中には、記述することが苦手である生徒もいるため、見えにくい資質・能力を見取るためには工夫が必要である。そのため、この場面におけるポイントは、

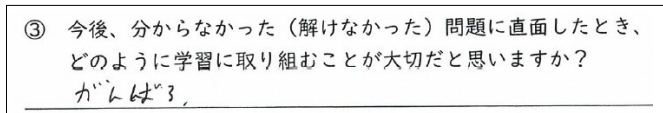


図7 不十分な振り返りの記述

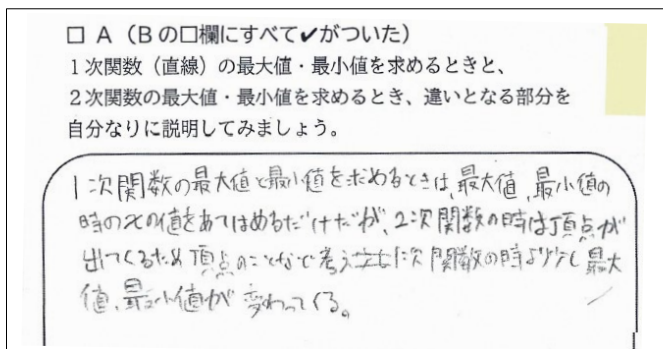


図8 A評価の生徒の考察課題の記述

「①授業の前半から後半にかけて、生徒の姿をよく観察すること」、「②グループワークや個人ワークのそれぞれの場面において、振る舞いや表情等をよく観察して多面的に見取るといこと」、「③評価規準に基づき、生徒の成果物を加点方式によって評価すること」、「④個別課題や振り返りシート、①～③を判断する上で学校・生徒の状況を踏まえた設定を行うこと」である。図7のように、設問の一つが不十分な記述だとしても、その他二つの設問から加点ができる部分を拾い、①～④の四つのポイントを踏まえて総合的に評価することで、B評価とした。また、図8のように、振り返りにおいて数学的な用語を用い、具体的な記述をした上で考察課題に取り組もうという意志を示した生徒については、総合的に評価をすることで、A評価とした。

生徒がこの自己分析を通して学習した成果を確認するため、単元の終わりに2回目の小テストを実施した。同様の授業展開を行った他クラスも含めたテストの結果は表1のとおりである。平均値の有意差を見るt検定の結果、事前事後の得点間に、有意な差がみられた($t(26) = 3.5831, p < .01$)。0点の生徒が減少し、大幅に点数が伸びた生徒は試験後のアンケートにおいて「自分が苦手なところを探して、勉強の方法を見直すことができた」という感想を述べていた。また、0点から点数が向上した生徒は「自分が分からなかったところが少しでも明確になったので良いと思った」という感想を述べていた。学習に不安を抱えている生徒についても、個別学習課題に取り組む前に自己分析シートを用いて自分が取り組むべき課題を把握し、自ら目標を設定することで個別学習課題に対して見通しをもって取り組むことができたと考えられる。そして、点数の有意差の結果と自己分析シートや振り返りシートなどの記述から、本研究での取組を通して、「知識・技能」と「主体的に学習に取り組む態度」が関連して育成され、その評価を見取ることができる。と考える。

表1 6点満点の小テストの平均点 (n=27)

	1回目	2回目	増減
平均	1.96	3.00	1.04

今回の取組の課題は三点ある。一点目は、解くことができなかつた問題を解決しようとするとき、「学習方略」の記述にも実際の生徒の行動にも、教科書や過去のプリント等を参考にしようとする生徒が少ないということだ。「他者に聞く」という行動を起こした生徒が多く、授業の中でも教科書を活用したり、過去のプリントを振り返ったりする活動を繰り返し行うことが必要であることが分かった。生徒の学習過程に着目することで見えてきた課題であるため、「学習方略」を身に付けるための年間を見通した計画の重要性を改めて感じた。課題の二点目は、自己分析シートでCに該当した生徒に向けた個別学習課題については、具体的な計算ではなく、論理の整理をねらいとした、解くための過程を穴埋め形式で出題した。しかし、答えることができない生徒がいたため、教科書や過去のプリント等を参考にし進めることができる課題を設定することで、取り組みやすくする必要があった。各学校の状況に応じた適切な課題設定は難しいが、自ら課題に取り組むことができるようにするためには重要であり、教科の中で議論を重ねながら課題の設定を行う必要があると考える。課題の三点目は、成績処理シートでの作業である。行動観察や提出物に加え、今回の取組のような他の観点と関連させる評価物を含め、総括的に評価した結果、A、B、Cとなるそれぞれの評価がつく生徒像を各学校の状況に応じて設定を適切に行う必要がある。また、単元の計画の中で、定期テストと関連した評価物のみにならないように、様々な学習活動を計画に入れ、その評価を見取り、年間を通して指導と評価が一体化できるようにしていく必要がある。

参考文献

- 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター 2021 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（東洋館出版社）
- 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 2018 「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」 https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingji/toushin/_icsFiles/afieldfile/2019/04/17/1415602_1_1_1.pdf

理 科

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

組織的な授業改善の推進

～題材を貫く問いによる探究活動を取り入れた理科の授業実践～

(2) 研究のねらい

主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践として、日常生活に関連した題材を貫く問いを設定し、その問いに関する探究活動を行うことで、生徒自身が学習の意義を実感し、単元の内容を学習できることをねらいとした。

2 実践事例

(1) 単元指導計画

ア 科目名：化学

イ 単元名：溶液の性質

ウ 単元の目標：溶液とその性質に関する実験などを行い、近な現象を通して溶媒と溶液の性質の違いを理解すること。

エ 単元の評価規準

a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：観察・実験の技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
溶液の性質について、日常生活と関連付けて説明しようとしている。実験結果や日常の現象に対して、自ら仮説を立て、それを検証する実験を主体的に考えようとしている。	溶媒と溶液の性質の違いや特徴、性質について、基本的な概念や原理・法則を踏まえて、身近な現象の仕組みを論理的に説明している。	実験に関する予想を立て、実験の操作の意味や試薬の特徴を考えながら適切な手順や方法で実験を行うなどの技能を身に付けている。	溶媒と溶液の性質の違いや特徴について理解し、身近にある様々な溶液を、科学的な観点から分析し、多角的に捉えている。

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	1	○溶解の仕組み ・「水に溶けやすいものと溶けにくいものの違いは何か」を議論し、説明する。		●		●	溶解の仕組みを極性の有無を踏まえて説明している。	行動観察
2	2・3	○溶解度 ・「水に溶ける溶質の量に限度があるのはなぜか」について、その要因を検討し、計算する。		●			溶解度が温度によって変化することを踏まえ、再結晶による析出量を計算している。	行動観察
3	4	○溶液の濃度 ・「質量パーセント濃度の等しい食塩水と砂糖水では味の濃さに違いがあるのか」について、議論する。濃度の換算を行う。	●			●	様々な濃度表記の意味を考え、その変換をしている。	行動観察

4	5	○蒸気圧降下と沸点上昇【実験】 ・様々な溶液の沸点と濃度の関係に対して仮説を立て、溶液の沸点を測定する実験を行う。			○	様々な溶液の沸点と濃度の関係に対して仮説を立て、実験により検証している。	プリント 行動観察
	6 7	○蒸気圧降下と沸点上昇【考察】 ・「味噌汁の沸点は何℃なのだろう」について、前時の実験結果から水溶液の沸点の違いの原因を考察する。			○	実験で得たグラフから溶液の沸点と濃度の関係を考察している。	プリント 行動観察
	8	○凝固点降下 ・「冬場に塩化カルシウムCaCl ₂ を散布する理由は何か」について、沸点上昇と関連づけて凝固点降下を考察する。また、水溶液の沸点や凝固点と質量モル濃度の量的関係をまとめる。	●	●		沸点での考察を基にして、溶液の濃度と凝固点について考察している。	行動観察
5	9	○浸透圧 ・日常的な現象をもとに、浸透圧の原因と、気体の状態方程式との関連を考察する。また、モル濃度と浸透圧の量的関係をまとめる。	●	●		日常生活と関連付けて浸透圧について説明できるとともに、その量的関係を理解している。	行動観察
6	10	○コロイドの特徴と分類 ・「泥水を浄水するにはどうすればいいだろう」について、化学的性質の違いから考察する。			●	様々な観点からコロイドを捉えている。	プリント 行動観察
7	11	○コロイドの性質【発表準備】 ・わかりやすい説明のための準備を行う。		●	●	コロイドの特徴や性質を踏まえて現象の仕組みを考えている。	プリント 行動観察
	12	○コロイドの性質【発表・共有】 ・コロイドに関する身の回りにある様々な現象を自分なりに考察し説明する。		●		身近なコロイドの現象を科学的に説明している。	プリント 行動観察
8	13	○泥水の凝析の実験 ・種類の異なる電解質水溶液を用いて凝析実験を行う。	●		●	泥水のコロイドの特徴を踏まえて、凝析に適した試薬を考えている。	プリント 行動観察
	14	○凝析の実験に関する考察 ・個人で考察した後、グループで実験結果をもとに議論し、さらに他の班と共有する。その後、個人の考察をまとめる。	○			実験結果について、他者の意見を踏まえ、科学的に妥当な仮説を立てて考察しようとしている。	プリント
9	15	○気体の溶解度 ・「炭酸水をつくるときにはどんな工夫をしているのか」について、分圧や固体の溶解度との違いを踏まえ考察する。		●	●	固体の溶解度との違いを意識しながら気体の溶解度の変化について考えている。	行動観察
		○ペーパーテスト（定期考査）		○	○		

※本実践の報告対象：上記表の太枠囲みの箇所（6～8次（10～14時））

カ 授業実践例 (14時間目/15時間)

生徒の学習活動	教員の指導上の留意点	学習活動における具体的な評価規準
<p>1. 泥水の凝析の実験結果の確認 (導入) 前時の実験結果を振り返り、凝析に用いた試薬の種類や濃度の条件を確認する。 【試薬】※前時の実験 (凝析) ① 5.0×10^{-3} mol/L NaCl水溶液 ② 1.5×10^{-2} mol/L NaCl水溶液 ③ 5.0×10^{-3} mol/L CaCl_2水溶液 ④ 5.0×10^{-3} mol/L AlCl_3水溶液</p> <p>2. 疑問を基にした凝析のしやすさについての考察 (展開) 前時の実験に関する疑問を基に、全体として考えたい課題を確認する。</p>	<p>前時の実験結果の画像やグラフをクラス全体に提示し、本時で扱う内容を整理するよう展開に留意する。</p> <p>前時の実験に係るワークシートを事前に回収し前時の実験についての生徒の疑問を共有し、本時の課題を設定する過程を共有することで、クラス全体で課題を把握するよう留意する。</p>	
<p>【全体の課題】凝析のしやすさは何によって変化するのか?</p>		
<p>①グループで疑問に対する仮説を立てる。(5分) ②仮説を検証する実験を考える。(10分) ③考察内容を共有し、議論する。(1班あたり2分の発表)</p> <p>3. 凝析についての考察の整理 (まとめ) 様々な考察や意見を基に、自分なりの考察をまとめる。</p>	<p>各生徒が立てた仮説から議論することを通して考えを深めるため、仮説を立てる際、凝析の原理を必ずしも説明の必要がないことを伝える。</p> <p>仮説と検証実験は科学的かつ論理的なものであるかを、議論の中で生徒自身に気付かせるように促した。また、生徒の考えを否定せず、その考えの前提となっている意見が適当かどうかを生徒に判断させる言葉掛けをした。</p>	<p>凝析の実験結果について、他者の意見 (協議内容) を踏まえ、科学的に妥当な仮説を立てて考察しようとしている。 (課題の取組)</p>

研究実施校：神奈川県立川崎北高等学校 (全日制)

実施日：令和4年11月25日 (金)

授業担当者：山西 康介 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア 主体的・対話的で深い学びの視点から学習過程の実践における指導のポイント

本研究では「泥水を浄水するには、どうすればよいだろう」という日常生活に関連した題材を貫く問いを設定した。このことにより、生徒が学習の意義や必要性を実感し、主体的に学習に取り組むとともに、本題材（コロイド）における学習が進むたびにこの問いに立ち返り（振り返り）、生徒自身が単元の学習を深められるように工夫した。

本題材における構成はさらに次の(ア)～(ウ)の小さなまとまりに分けることができる。その構成は「(ア) コロイドの分類、(イ) コロイドの性質、(ウ) 泥水の凝析を通じた探究」である。それぞれの内容のまとまりでの指導の工夫点を以下にまとめる。

(ア) コロイドの分類

ここでの目標は、コロイドは他の水分子などに比べて粒子が大きいことやその種類が多様であることを身近な例から理解することである。

具体的な実践として、音楽ライブの映像から、レーザーの演出の原理を考察した。粒子の大きさによる化学的性質の学習を通して、コロイドの特徴を学んだ。さらに、身近にあるコロイドを挙げ、その種類の多さを理解し、様々な視点からコロイドを分類して学習することの必然性を生徒が実感できるように促した。この学習を通して、泥水もコロイドに分類されることに気付くことができた。また、泥水がどんな特徴をもつコロイドなのかを考えるよう促した。

(イ) コロイドの性質

ここでの目標は、コロイド粒子の大きさゆえの様々な性質や化学的な現象を理解し、説明することである。この目標を達成するために、コロイドにまつわる身近な現象を調べ、発表させる活動を行った。具体的には次の六つの項目についての調べ学習を行った。

- | | |
|------------|----------------|
| ① 三角州の形成過程 | ② 腎臓のはたらき |
| ③ セッケンの製造 | ④ 煙を電気によって除く方法 |
| ⑤ 墨汁の安定化 | ⑥ 顕微鏡で見た花粉の動き |

これらの調べ学習を通して、コロイドの性質を主体的に学び、それを共有することで学びを深めることができた。また、泥水の浄化にこのような性質を用いることができるかを考えさせ、次につなげた。

(ウ) 泥水の凝析を通じた探究（本時）

ここでの目標は、今まで学習したコロイドの性質を踏まえて、実験結果の予想・考察をすることである。そして、コロイドについての学びを深めるとともに、主体的・対話的に事象の探究をすることである。本研究で使用した教科書「東京書籍改訂化学」には、凝析について「コロイド粒子と反対符号の電荷をもち、価数の大きなイオンほど、疎水コロイドを凝析させやすい」とある。本授業ではこの内容を泥水の凝析を通して探究する活動にあてた。

実験においては、題材を貫く問いを確認することで主体性をもって取り組めるように工夫した。また、実験後の考察では、生徒の疑問を基にして授業を展開することで凝析のしやすさに対し、考察し、仮説を立て、検証する実験をグループで検討させた。意見を共有する場面では、仮説と検証実験は科学的かつ論理的なものであるかを、教員が判断するのではなく、議論の中で生徒自身に気付かせるように促した。また、生徒の発言を受容することを心掛け、その生徒の考えを否定せず、その考えの前提となっている意見が適切かどうかを生徒に判断させる言葉掛けをした。

【主体的な学び】

身近な例から学びを深めるだけでなく、題材を貫く問いを設定することで学習の見通しをもち、自分事として学習を進められるように工夫した。

【対話的な学び】

学習を通してグループで学びを深め、様々な観点からの考察を全体で共有することで、自分の学習をさらに深めていくことができるように場を設定した。

【深い学び】

凝析のしやすさに関して自分なりの仮説を立てるだけでなく、それを検証する実験を考えることで、さらに深い学びができるように工夫した。本研究での凝析の実験における協議を行う前の生徒の疑問の一部を示す。

② 実験の結果を参考に、これから考えてみたいことは何か？(自分の予想と結果を比べてみよう！)

予想では、濃度の差が大きいほど沈殿しやすくなると思っていたけれど、実験結果が全然違う。NaClも薄く、NaClもあまり結果が変わらなかった。だから、濃度の関係が正しいのか？
 ① どうして原理で沈殿しやすさが変わるのか？

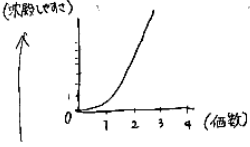
② 実験の結果を参考に、これから考えてみたいことは何か？(自分の予想と結果を比べてみよう！)

AlCl₃以外ではあまり差がないのはなぜか。
 NaClは濃度を変えても凝析しやすさは変わらないように見えたけれど、AlCl₃の濃度を変えるとどうなるか

協議を行った後の生徒の考察の一部を示す。

凝析のしやすさは、溶液の陽イオンの価数の大きさに変化すると考える。また、その指数関数的な増加になる。
 増え方が

実験
 同じ物性である
 Al³⁺と同じ価数の Fe³⁺, Fe²⁺, Ti⁴⁺ などの4つの陽イオンのうち、同じ濃度、同じ方法で実験する。もしも私の考察が正しいならば Fe²⁺ < Fe³⁺ < Ti⁴⁺ となる。もしも Fe²⁺ と Fe³⁺ が同じ値にならないならば、物質の特性によって沈殿している、という説が成り立たなくなる。(なぜ Fe²⁺ と Fe³⁺ を入れ替えたか)
 得た結果でグラフを書く。



このような指数関数的な増加が急激に大きくなる
 グラフはこんな感じではないか

自分の考え
 自分も実験後に感じた疑問
 (1) 濃度の関係は何か
 (2) どうして原理で沈殿しやすさが変わるのか
 (3) 凝析させよう
 今回の自分のグループでは陽イオンの引力は同じ目盛りに引く力が強いほどその分だけ沈殿すると思える。
 したがって、Alと同じ3族の金属元素(Ca, In, Tl)を使う。
 この場合グループが話せるとき、陽イオンの引力が強ければ濃度の関係は2倍の差は出ないか、と思える。

仮説1
 前回の実験では NaCl (5.0 × 10⁻³), NaCl (1.5 × 10⁻³) の濃度の違う水溶液では、沈殿するの時間的差は (濃度の異なる方の沈殿するの時間) だった。

仮説2
 この考えは、2つの説を試しに
 (1) 濃度の異なる同じ物質の水溶液を試す。
 (2) 陽イオンの引力の関係は何かを試しに、陽イオンの価数の違う水溶液を同時に実験しよう。

左の生徒の考察の記述から、泥水の凝析のしやすさを陽イオンの価数と関連付けるだけでなく、他教科の学習内容である指数関数と結びつけて考察し、それを検証する実験が考えられている。また、それを検証するため実験について、その実験に用いる試薬の物性に言及しながら提案できており、凝析について深く学んでいることが読み取れる。

右の生徒は、協議前の自身の疑問を踏まえ、協議内容を自分なりに解釈し考察を深めていることが読み取れる。また、実験において、沈殿する時間を測定することで凝析のしやすさを比較することが示されており、具体的な実験を想定しながら深く学ぶことができている。

イ 評価のポイント

本実践例では、コロイドの凝析について、第14時において「関心・意欲・態度」を評価した。題材を貫く問いに対する考えを授業ごとに生徒に記述させ、その変容を教員と生徒自身が見取れるようにした(別紙資料)。また、本時では実験事実と仮説を比較し、それを検証するために論理的な実験を説明しようとしている側面をワークシートの記述を分析することにより評価した。

本授業のテーマである題材を貫く問いの「泥水を浄水するには、どうすればよいだろう」に対して、生徒は最初、ろ過や蒸留、塩素による消毒などを挙げていた。しかし、題材の学習が進むにつれてコロイドの性質から考えを再構築し、凝析や電気泳動などの意見が増加した。このような生徒の考えの変容を見取る機会を設定し、生徒の思考に寄り添った授業を行えるように工夫した。

次に具体的な評価方法について、本授業の評価基準は次のとおりである。

A	B	C
凝析の実験結果について、他者の意見（協議内容）を踏まえ、科学的に妥当な仮説及び仮説を検証するための実験計画を立てて考察しようとしている。	凝析の実験結果について、他者の意見（協議内容）を踏まえ、科学的に妥当な仮説を立てて考察しようとしている。	凝析の実験結果について、仮説を立てて考察しようとしていない。

評価基準AとBの違いは、自身で立てた仮説に対して行う実験の妥当性の有無である。試薬の種類や用いる溶液の濃度、その手順などが適切に示されているかどうかで判断する。しかし、生徒の思考の中で妥当性を判断しにくいものは評価に含まない。例えば、凝析のしやすさは価数によって変化するという仮説を立て、その検証のために Ti^{4+} を用いるという実験を計画するとき、その化合物の中でどれが最も実験に適しているかを生徒が判断することは難しいため、評価には加味しない。

具体的な生徒の提出物を基に評価の例を下に示す。

(4)【個人】(疑問)に対する自分なりの考察を書こう。また、その考察(仮説)を証明するための実験も考えられると良い。

凝析のしやすさは $Al(OH)_3$ の特性と濃度で変化する
と考える。

理由は、泥水=凝析の実験から $AlCl_3(aq)$ の明
確に沈殿が起こったことが確認でき、沈殿している
物質も目に見える大きさの粒子に付いて沈殿していた。
調剤は Al^{3+} と OH^- が反応して $Al(OH)_3$ という
粒子状の物質が生成されること分かった。
他の $NaCl$ や $CaCl_2$ は生成しないため、 $Al(OH)_3$ の
特性の原因は Al^{3+} かと考える。①

泥水=凝析、実験から $NaCl(aq)$ の濃度を
変えて実験したけどどちらも 10mL 以上の範囲の沈殿
は見ることができたが、濃度によって沈殿に差が
出ることがまた確認できたことから濃度も影響して
いる可能性があるかと考える。②

この考察を証明するために、
① $FeCl_2(aq)$ と $FeCl_3(aq)$ と同じ濃度で泥水=凝析の実験
と同様にを行う。
→ どちらも沈殿しない: $Al(OH)_3$ の特性の原因と
分かる。
→ $FeCl_3(aq)$ が沈殿した場合: 何故か
沈殿が起こったと分かる。

② ①の実験結果で分かった原因による溶液の濃度を
変え、同様に実験を行う。
→ 濃度の違う溶液で沈殿のスピードに差が生じた
場合: 濃度も関係しているといえる。

仮説

仮説の根拠

実験内容

この生徒の考察は、大きく「仮説」「仮説の根拠」「実験内容」の三つに分けられる。まず、仮説として $Al(OH)_3$ の物性と濃度を挙げている。また、その根拠も充実している。次に実験内容であるが、 $FeCl_2$ 水溶液と $FeCl_3$ 水溶液での対照実験を提案している。物性による凝析のしやすさの検証として Al^{3+} と同じ価数の Fe^{3+} を含む溶液での実験を計画していることが読み取れる。具体的な濃度の提案はないものの、同じ濃度を用いることで対照実験を想定していることも読み取れる。 Fe^{2+} を含む溶液での実験は、価数による凝析のしやすさの検証であることが示されており、授業内での議論を踏まえた実験であることがわかる。さらに実験を提案するだけでなく、観察する視点や実験結果の予測なども示されており、評価Aの基準を十分満たしていると判断できる。

(別紙資料)

溶液の性質〈コロイド〉

問い：「泥水を浄水にするには、どうすればよいだろう？」

	問いについての考え	新たに学んだことやこれから考えてみたいこと
1		
2		
3		
4		
5		

2年()組()番 氏名()

ウ 指導上及び評価の課題について

本研究では、授業での生徒の思考に広がりをもたせるため、細かい考察項目を設けずに自由度を高めて考察させた。また、生徒の思考の変容を読み取るプリントや、議論の時間を多く設け、生徒が意見を発言しやすくなる環境づくりを行い、生徒の思考の過程を読み取る時間を確保できるよう工夫した。

その成果として、生徒は実験結果を踏まえた上で、柔軟な発想により仮説や検証実験を思考・表現することができた。学習状況の評価として、ワークシートの内容から既習の知識をいかし、自身の考えを適切に表現しようとしている状況を読み取ることができた。生徒の考察例を次に示す。

<p>(4) 観入 (疑問) に対する自分なりの考察を書こう、また、その考察 (仮説) を証明するための実験も考えられると良い。</p> <p>凝析のしやすさは $Al(OH)_3$ の特性と濃度で変化すると考える。</p> <p>理由は、泥水の凝析の実験から $AlCl_3$ の濃度で明確な沈殿が起こることを確認できた。沈殿している物質も目に見える大きさの粒子になって沈殿している。濃度が濃くなると、Al^{3+} と OH^- が反応して $Al(OH)_3$ という粒子の物質が生成されることになる。</p> <p>他の $NaCl$ や $CaCl_2$ は生成されないため、<u>$Al(OH)_3$ の特性の原因ではないかと考える。</u></p> <p>泥水の凝析の実験から、$NaCl$ の濃度を変えて実験したがどちらも 10mL 以上の範囲の沈殿は見ることができなかった。濃度によって沈殿に差が出ることは確認できていることから、<u>濃度も影響しやすそう</u> と思われる。</p> <p>この考察を証明するために、<u>具体的には？ 今の濃度と比べて濃い溶液の方が？</u></p> <p>① $FeCl_2$ と $FeCl_3$ の濃度を変えて泥水の凝析の実験と同様に進行。 → どちらも沈殿はない； $Al(OH)_3$ の特性の原因は分る。</p> <p>② ①の実験結果で分かった原因による溶液の濃度を変えて実験を行う。 → 濃度の違う溶液で沈殿のスピードに差が生じた場合、濃度も関係しているといえる。</p> <p>(+α) 実際の浄水場では「ポリ塩化アルミニウム」を凝集剤として用いている。ポリ塩化アルミニウムよりも優れた凝集剤はあるのだろうか？実験を踏まえながら、「化学」「環境」「コスト」などの様々な観点から考えてみよう。</p> <p>仮説・実験ともに、自分の考えの「仮説」を検証しよう！！</p>	<p>メモ</p> <p>凝析のしやすさ！</p> <p>濃度の関係！！</p> <p>沈殿の速度！！</p> <p>沈殿の量！！</p> <p>沈殿の色！！</p> <p>沈殿の場所！！</p> <p>沈殿の大きさ！！</p> <p>沈殿の時間！！</p> <p>沈殿の匂い！！</p> <p>沈殿の味！！</p> <p>沈殿の触り！！</p> <p>沈殿の見た目！！</p> <p>沈殿の色！！</p> <p>沈殿の場所！！</p> <p>沈殿の大きさ！！</p> <p>沈殿の時間！！</p> <p>沈殿の匂い！！</p> <p>沈殿の味！！</p> <p>沈殿の触り！！</p> <p>沈殿の見た目！！</p>	<p>(4) 観入 (疑問) に対する自分なりの考察を書こう、また、その考察 (仮説) を証明するための実験も考えられると良い。</p> <p>凝析のしやすさは、フラスコイオンの価数によっても変化し、価数が多いほど凝析しやすそうと考える。</p> <p>(理由)</p> <p>まず、泥水の凝析は「凝析コロイド」であり、コロイド粒子の周りにマイクスの電気を帯びている。水中では、それぞれのコロイド粒子のマイクスの電気が互いに反発し合うことで、コロイド粒子は、分散を保っている。(図1)</p> <p>逆に言えば、コロイド粒子の間にプラスの電気を帯びた物質を加えれば、コロイド粒子はくっつき凝析しやすそうと考える。</p> <p>また、コロイド粒子の間に相反するマイクスの電気を帯びさせるためには、少ない量のプラスの電気を多く用いる必要がある。ということは、二価以上のフラスコイオンが最適ということだ。そこで、今回の実験で使われた試薬も考えてみる。</p> <p>① 5.0×10^{-2} mol/L 塩化ナトリウム $NaCl(aq)$ $NaCl \rightarrow Na^+ + Cl^-$ $NaCl$ を電離すると、Na^+ が発生する。Na^+ は 1価のため、2つのコロイド粒子にくっつくことができるが、互いに反発し合うことも少ない、コロイド粒子同士を近づけることは生じない。(図2)</p> <p>② 1.5×10^{-2} mol/L 塩化カルシウム $CaCl_2(aq)$ $CaCl_2 \rightarrow Ca^{2+} + 2Cl^-$ $CaCl_2$ を電離すると Ca^{2+} が発生する。Ca^{2+} は 2価のため、2つのコロイド粒子を近づけることができる。(図3)</p> <p>③ 5.0×10^{-3} mol/L 塩化アルミニウム $AlCl_3(aq)$ $AlCl_3 \rightarrow Al^{3+} + 3Cl^-$ $AlCl_3$ を電離すると Al^{3+} が発生する。Al^{3+} は 3価のため、3つのコロイド粒子を近づけることができる。(図4)</p> <p>この仮説を実験結果に照らし合わせると、コロイド粒子を近づけることが生じたのは、②の結果に変化がなく、一価陽イオンで凝析が起きた①が一変変化があった。</p> <p>以上のことから、フラスコイオンの価数が多いほど凝析しやすそうと考える。</p> <p>(+α) 実際の浄水場では「ポリ塩化アルミニウム」を凝集剤として用いている。ポリ塩化アルミニウムよりも優れた凝集剤はあるのだろうか？実験を踏まえながら、「化学」「環境」「コスト」などの様々な観点から考えてみよう。</p> <p>3価のフラスコイオンを使うと、2価のフラスコイオンよりも凝集剤としてより効果的である。FeOH₃ が凝集剤としてより効果的である。FeOH₃ は水溶性が低く、つまり凝集しやすそうである。FeOH₃ は水溶性が低く、つまり凝集しやすそうである。</p>	<p>メモ</p> <p>凝析のしやすさ！</p> <p>濃度の関係！！</p> <p>沈殿の速度！！</p> <p>沈殿の量！！</p> <p>沈殿の色！！</p> <p>沈殿の場所！！</p> <p>沈殿の大きさ！！</p> <p>沈殿の時間！！</p> <p>沈殿の匂い！！</p> <p>沈殿の味！！</p> <p>沈殿の触り！！</p> <p>沈殿の見た目！！</p> <p>沈殿の色！！</p> <p>沈殿の場所！！</p> <p>沈殿の大きさ！！</p> <p>沈殿の時間！！</p> <p>沈殿の匂い！！</p> <p>沈殿の味！！</p> <p>沈殿の触り！！</p> <p>沈殿の見た目！！</p>
---	---	--	---

その一方で、課題が二点挙げられる。一点目は、本研究での考察方法は生徒の豊かな発想を引き出すことができるメリットがある反面、教員がその考えを読み取り、評価することに時間がかかるというデメリットがある。

二点目は、議論を深めるためには、生徒同士で他者に自身の考えを表現する力の育成が必要であるという点である。本時において、生徒同士で考察内容を議論する際にその意見が相手に伝わりづらい場面があった。生徒の立てた凝析のしやすさに関する仮説には「陽イオンの価数」、「陽イオンの濃度」、「 $AlCl_3$ の特異性」、「イオン化傾向の違い」などがあり、図や言葉を用いて表現していたが、正確に自分の考えを伝えることや表現の方法をさらに工夫させるような働きかけが必要であると感じた。

今後は、評価の際に、課題及び提出物における評価規準 (及び基準) を明確にするだけでなく、日頃の授業から生徒の考えや思考の過程を教員が読み取る時間を確保することをより一層重視し、その方法を検討していきたい。一定程度、生徒の考察内容が理解できている状態であれば、評価の際に生徒の考察を正確に読み取りやすくなると考える。また、自分の考えを表現する力の育成に関しては、考えを議論・表現する場を今後も意識的に授業に取り入れるだけでなく、ICT機器の有効な利活用方法を検討し、自身の考えを適切に他者に伝えることができるような力を醸成したい。

保健体育（保健）

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

意思決定や行動選択する力の向上を目指した保健の授業の実践
～新型コロナウイルス感染症を題材にして～

(2) 研究のねらい

『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説保健体育編体育編』には「我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康課題や健康の考え方が変化するとともに、様々な健康への対策、健康増進の在り方が求められている」と示されている。

これらの問題に対処するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択及び健康的な環境づくりの重要性について理解を深めることが重要である。

また、新型コロナウイルス感染症のまん延は社会全体に大きな影響を与えている。このウイルスの影響により、日々変化する社会情勢下においても生徒自身が健康・安全に関する知識を習得し、それらを活用し意思決定や行動選択する力が一層求められる。

そこで本研究では、「現代の感染症とその予防」において、新型コロナウイルス感染症を題材にし、ブレインストーミングやディスカッション活動を取り入れ、生徒の意思決定や行動選択する力の向上を目指した授業を実践し、主体的・対話的で深い学びを通して、特に生徒の「思考力、判断力、表現力等」を育成することをねらいとする。

2 実践事例

(1) 単元指導計画

ア 科目名：保健（入学年次）

イ 単元名：Ⅰ. 現代社会と健康（イ）現代の感染症とその予防

ウ 単元の目標：

- ・現代の感染症とその予防について、理解することができるようにする。〔知識及び技能〕
- ・現代の感染症とその予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・現代の感染症とその予防について、自他や社会の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。〔学びに向かう力、人間性等〕

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること、その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、腸管出血性大腸菌（O 157 等）感染症、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ②感染症のリスクを軽減し予防するには、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを	①感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。 ②現代の感染症とその予防について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。	①現代の感染症とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

前提とした個人の取組が必要であること、エイズ及び性感染症の原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について、理解したことを言ったり書いたりしている。		
--	--	--

オ 単元の指導と評価の計画

	時間	1	2	3	4
		現代の感染症	感染症の予防	性感染症・エイズとその予防	単元のまとめ
学習の流れ	0	前時の振り返り、本時の目標の確認			
	10	現代の感染症の知識に関する事前確認	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防三原則 ・現代の感染症対策 知識	性感染症の知識に関する事前確認	前時の調査結果の共有
	20	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症とは ・様々な感染症 知識		<ul style="list-style-type: none"> ・性感染症・エイズとは ・性感染症・エイズの予防法 知識	現在のマスクの着脱に関する国の指針を確認
	30	【ブレインストーミング】コロナで変化した事	【ディスカッション】座間高等学校内で新型コロナウイルス感染症を感染拡大させないためにどのような予防・対策ができるだろうか		【ディスカッション】マスクの着脱に関するニュースについて自己の考えを共有する。
	40	ICT活用	思、判、表等		行動選択に関する調査
50	本時の振り返り、次時の確認				
評価機会	観点/時間	1	2	3	4
	知識・技能	①	②	②	
	思考・判断・表現		①		②
	主体的に学習に取り組む態度				①

評価の方法	
知識・技能	学習カード、定期テスト
思考・判断・表現	観察、学習カード
主体的に学習に取り組む態度	観察、学習カード

カ 授業実践例（2時間目／4時間扱い）

本時の目標

- (1) 感染症の予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解できるようにする。
[知識及び技能]
- (2) 現代の感染症とその予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。[思考力、判断力、表現力等]
- (3) 現代の感染症とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
[学びに向かう力、人間性等]

本時の評価

思考・判断・表現①：感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。

学習活動(指導上の留意点を含む) (○：生徒の学習等、●：教員の支援等)	評価の観点 (評価方法)
1 挨拶、出欠確認 2 本時のねらい、前回の復習	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【本時のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な感染症の予防法を理解し、新型コロナウイルス感染症についての予防の在り方について他者と学び合う中で自身の考えを深め発表できるようにする。 </div>	
3 予防三原則と現代の感染症対策	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問1：感染症の予防について、どんな方法を知っていますか？</p> </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>予想される生徒の回答例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗いうがい ・渡航を止める ・手指消毒 ・除菌 ・煮沸消毒 ・加熱 <p>○制限時間内にグループで多く挙げ、プリントに書き出す。</p> <p>●いくつかグループに発表するよう指示をし、多様な考えがあることを理解するよう促す。</p> <p>・予防三原則と現代の感染症対策（知る）</p> <p>○スライドを見ながら教員の説明を聞き、重要事項等をプリントに記載する。</p> </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問2：発問1で出てきた回答のうち、新型コロナウイルス感染症の予防において特に注目されたものは何だと思えますか？また、そう考えた理由はなぜですか？</p> </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>●一般的な感染症の予防対策から、新型コロナウイルス感染症の予防対策に焦点をあて、なぜ、その対策が有効視されたか、生徒が考えを深め、説明できるよう支援をする。</p> </div>	
4 グループ活動【ディスカッション】	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題1：学校生活で行う新型コロナウイルス感染症に対する感染症対策を予防三原則に沿ってあげてみよう。</p> <p>課題2：新型コロナウイルス感染症患者数が減少した場合の感染対策の在り方を検討し、提案しよう。</p> </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>●グループごとに予防三原則の担当を割り振る。（1テーマ2班ずつ）</p> <p>グループ活動【ディスカッション】の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学校生活で行う感染症対策について、具体的な例を挙げる。 ②現時点で重視すべきものを班で話し合い絞る。 ③今後感染者数が減少した場合の感染対策の在り方を班で話し合う。 </div>	
5 全体で共有 <ul style="list-style-type: none"> ○クラス全体でどんな意見が出たかを発表する。 ●ホワイトボードを使い、結果を可視化するよう指示をする。 ●多様な考え方があり、それらを受け入れた上で、健康・安全を向上させるためには、どのような意思決定や行動選択をしていく必要があるか説明し考えさせる。 	

<p>7 自分の考えをまとめる（深める）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○最終的な自分の考えを学習カードに記述する。 ●本時のまとめをスライドで確認させる。 <p>8 挨拶</p>	<p>思考・判断・表現①：感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。 (学習カード)</p>
--	--

研究実施校：神奈川県立座間高等学校(全日制)

実施日：令和4年10月14日(金)

授業担当者：脇 千登勢 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア 主体的な学びについて

授業の導入において、前時に学習した知識と、本時の前半に学習する知識を活用し、展開部で自身の感染症の予防に関する考えを深めるとともに、社会的な対策についても考えるという流れを説明し授業の導入で見通しを持たせた。また、発問1において、現在の生活における感染症の予防を挙げさせ、生徒が主体的に考える時間をつくることで、生徒の頭脳内がアクティブに働くよう促す工夫を行った。

授業のまとめにおいては、授業全体のまとめスライドを使用することで、学びの振り返りができ、次時の授業へも主体的に臨めるよう工夫を図った。併せて、学習カードを活用し、本時の振り返りを行った。

イ 対話的な学び、深い学びについて

展開では、知識を教える時間は短めに設定することで、生徒同士の対話や、ICTを活用し情報収集するといった対話的な活動時間を十分に確保できるよう努めた。さらに、授業で学習した知識やそれらに関連した情報を収集するだけでなく、それらの知識を基にディベート活動を通して、筋道を立て自己の意見を他者に伝え、説明する力の育成を図った。加えて、グループ内での活動に留めず、クラス全体で共有することで表現力のより一層の育成を図った。

ウ 深い学びについて

新興感染症について学習する上で、新型コロナウイルス感染症といった喫緊の健康課題を題材とすることで、授業で学習したことを実社会で結び付けやすくし、より自身の生活や社会生活における健康・安全について深く考えることができるように教材の工夫を図り、生徒の深い学びにつなげた。

エ 学習評価について

本時の評価は「思考・判断・表現①：感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。」であり、評価方法は学習カードを用いた。事前に判断の目安となるルーブリック評価表(表1)を作成し、生徒の学習カードの記載から評価を行った。

表1 判断の目安となるルーブリック評価表（評価方法：学習カード）

実施状況	判断の目安	生徒の回答例
A：十分満足	学習した知識を基に、感染症の予防について、自身の実生活や社会情勢、季節等を踏まえ自らの考えを具体的に記述している。	<ul style="list-style-type: none"> ・部室など狭い空間ではマスクをして感染経路のリスクをあげないようにしている。 ・部活や塾で帰りが遅くなる分、帰宅後は早く寝てしっかり睡眠をとり、感受性者の免疫を高めるようにしている。 ・体調に異変がありそうな仲間がいた際は無理せず先生に相談するよう伝えて、早期発見・早期治療につなげられるようにする。 ・学校や人が多く集まるイベントに参加する時や、電車などの公共交通機関を使用する際は、飛沫感染等を防ぐ意味合いからマスクを着け、そうでない場合や、暑い日や体育の授業で息苦しくなった際はマスクを外すなど、生活に合わせてマスクの着脱を見直していきたい。 ・仲間とコミュニケーションをとる際も、咳エチケットは意識してマナーとして感染経路対策ができるようにする。 ・感染者数が減少したとしても、ワクチン等をうまく活用し、社会経済活動が止まらないようにしていきたい。
B：おおむね満足	学習した知識を基に、感染症の予防について、自らの考えを記述している。	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いうがいをする。 ・黙食をする。 ・授業中は基本マスクをする。 ・感染者数が減少したら、マスクはなるべく外したい。 ・感染者数が減少したら、昼食は仲間と一緒にコミュニケーションをとりながら食べたい。 ・感染者数が減少しても、基本的感染対策は今後も継続するべき。
C：努力を要する	学習した知識を基に、感染症の予防について、自らの考えを記述していない。	<ul style="list-style-type: none"> ・マスクはめんどくさい。 ・とりあえず寝る。

(3) 学習カードについて

単元を通して、生徒が知識の習得だけでなく、思考・判断したことを表現したり、学習の振り返りを手助けするために、学習カードを作成し活用した。実際の授業では「キーワードを記載する」「課題に対する自分の考えをまとめる」「他者の発表を聞いてメモをする」「分かったことを整理する」「単元の学習を振り返り次の学習目標を立てる」などといった学習活動において活用した。

研究授業の時間では、教科書内で取り扱った一般的な感染症対策を基に、生徒が自身の生活でどのように実践できるかを考えた。さらにグループで意見交換をし、考えを深め、自身や社会全体が健康・安全に今後どのように生活できるかといった視点で意思決定や行動選択していく必要があるかというように学習の道筋も分かるよう作成した。

(4) 生徒が記載した学習カードの内容について（生徒の学習カードより一部抜粋。誤字、脱字を除き、原文のまま記載）

生徒A	国が推奨している感染防止対策をテレビのニュースなどを通して把握し、守るということの基本として、激しい運動をするときや登下校で周りに人がいないときにはマスクを着用しないという選択もしていきたいと思いました。
生徒B	私はマスク着用特に嫌悪感を抱えていないのでつけたままでいいかなと考えている。外出した際にマスクをしていない人がいると今は「あの人マスクしてない」と少し嫌な目で見てしまう。今回国のマスク着用規定について改めて知ることができたのでそう思うことは減るのではないかなと思った。時、場所、場面を考える。
生徒C	着用する場面としない場面を自己判断で決める。マスクを外す場面としては、登下校での自転車、外部活動のダンスなどで、周りから注意されたり、その場所でのルールとしてマスクの着用が必要なときは着用するというようにしたい。周りのことを考えてマスクをつけることも大切だが、はずしている人がいたとしてもその人を悪く思ったり責めたりしないようにする。他の人に干渉しても、義務化されていないマスクの着用について対立しても無駄だと思う。

4 / 4 時間目での単元のまとめでは、以上のような、記述が数多く表出された。自分自身の健康だけではなく、他者にも目を向け、さらには社会全体の健康を保持増進するために、自分にできる意思決定・行動選択について考えた記載もあり、本研究の主題でもある生徒の意思決定や行動選択する力の向上に寄与できたと推察できる。

3 まとめ・今後の展望

本研究は、生徒の意思決定や行動選択する力の向上を目指した保健の授業実践であったが、上記で記載したように、単元を通して、その力が向上したと考えられる。また、指導事項にある新興感染症について、教科書の知識の内容だけでなく、喫緊の健康課題である新型コロナウイルス感染症を題材として用いたことで、生徒もより深く自分事として考えられたこともその要因の1つではないかと考えた。

生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するために、単元の各時間にブレインストーミングやディスカッションといった学習活動を計画的かつ積極的に取り入れた。さらには、教員は内容についての説明・解説をする際にも生徒へ積極的に発問をし、短時間（10秒あるいは15秒）のペアミーティングの時間を設けたことで、生徒の頭脳内は常にアクティブに働いていた。

教材の工夫（生徒にとって身近な題材：新型コロナウイルス感染症）や学習活動の工夫、学習カードの工夫等を通じて、生徒が主体的・対話的で深い学びを実現したことにより、「自分事」として捉えていた健康課題が「自分たち事」の健康課題と認識が広がり、個人だけではなく、自分自身を含む社会全体にまでその思考を広げることに繋がった。

最後に、本研究を始めるに当たり、保健部会の推進委員会では「保健の授業で学んだことを生徒の実生活と結び付けたい」、「生徒の意思決定や行動選択する力を向上させたい」、「新型コロナウイルス感染症というタイムリーな題材を教材として活用したい」、「本研究や授業実践が多くの先生方の授業づくりの手助けとなるようなものにしたい」といった想いから、この1年間の研究が発射した。保健という生活に密着した科目の特性を最大限に生かし、教科書に載っている事項だけに留まるのではなく、「現代の感染症とその予防」の単元における知識の指導事項である新興感染症の理解を深めるために教材研究を行った。

教科書は学習指導要領およびその解説を基に作成されているが、その題材におけるタイムリーさは欠けてしまう。本研究のように、学習指導要領及びその解説の指導事項を押さえ、「教員自ら教材を開発するという考え方」や、「本研究が汎用的に他校においても実施されること」、「研究授業の内容を自校の生徒の実態等に合わせ変化させ新たな授業となること」を期待する。そして最終的には、生徒の資質・能力が育成され、その生徒らが次世代を担っていくことを願う。

保健体育(体育)

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

助け合い教え合うなどのグループ活動を通して主体性を育むバドミントンの授業
～体ほぐしの運動と関連させて～

(2) 研究のねらい

本研究は、生徒の「主体性を育む」ことを目指した。そのためにバドミントンの単元において、生徒へ単元が始まる前に事前アンケート調査を行い、バドミントンの理解度や授業への意欲等を把握した。加えて授業の導入では、体ほぐしの運動(仲間と協力して課題を解決するゲーム(以下、「課題解決ゲーム」とする))を取り入れ、生徒がグループ内で他のメンバーと助け合う、教え合う、協力するといった活動を通して「主体性」の育成を図り、展開でのバドミントンの学習においても、そのような姿が生徒から表出されることをねらった。

2 実践事例

(1) 単元指導計画

ア 科目名：体育(入学年次)

イ 単元名：E 球技 ネット型(バドミントン)

ウ 単元の目標：

- ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、(体力の高め方)、(運動観察の方法)などを理解するとともに、作戦に応じた技能でゲームを展開することができるようにする。
イ ネット型：バドミントンでは、役割に応じたシャトル操作や安定した用具の操作によって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。〔知識及び技能〕
- ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・球技に自主的に取り組むとともに、(フェアなプレイを大切にしようとする)、(作戦などについての話し合いに貢献しようとする)、(一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする)、(互いに助け合い教え合おうとする)こと(など)や、(健康・安全を確保すること)ができるようにする。〔学びに向かう力、人間性等〕

エ 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
○知識 ①バドミントンにおいて用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、言ったり書き出したりしている。	○技能 ①サービスでは、シャトルをねらった場所に打つことができる。 ②シャトルを相手側のコートの中に入った場所やねらった場所に打ち返すことができる。	①バドミントンについて、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。	①バドミントンの学習に自主的に取り組もうとしている。 ②互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。

オ 単元の指導と評価の計画

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
学習の流れ	0	オリエンテーション 体調管理、準備運動、前時の振り返り、本時のねらい 等										
	10	課題解決ゲーム 態：協力・責任							団体戦（グループ練習を含む）	団体戦（グループ練習を含む）		
	20	基本技能の習得 （クリアー（アビン））	基本技能の習得 （ドロップサーブ）	基本技能の復習	半面シングルスゲーム	グループ活動 （相手を動かす①）	グループ活動 （相手を動かす②）					
	30							態：協力・責任			態：協力・責任	
	40	ラケット慣れ等	知：技術の名称	技：ねらった場所に打つ	振り返り	半面シングルスゲーム						
50	体調確認、整理運動、本時の振り返り、次時の確認											
評価機会	観点/時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	知識				①							総合的な評価
	技能							②		①		
	思考・判断・表現								①			
主体的に学習に取り組む態度			①					②				

評価の方法	
知識	学習カード(技能ポイントチェックシート)
技能	観察
思考・判断・表現	観察、学習カード
主体的に学習に取り組む態度	観察

カ 授業実践例（7時間目／10時間扱い）

本時の目標

(1) シャトルを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すことができるようにする。

[知識及び技能]

(2) 互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合うことができるようにする。 [学びに向かう力、人間性等]

本時の評価

知識・技能(技能)②： シャトルを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。

学習活動(指導上の留意点を含む) (○：生徒の学習等、●：教員の支援等)	評価の観点 (評価方法)
1 準備	
2 整列、挨拶、出席・体調確認	
3 本時の学習活動・ねらいを確認	
<p><本時のねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> シャトルを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すことができるようにする。 互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合うことができるようにする。 	

<p>4 準備運動</p> <p>5 体ほぐしの運動(課題解決ゲーム)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><シャトルを救え></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で役割分担をし、サーブを打つ人とサーブをキャッチする人の2つに分かれる。 ・前方のコートからサーブを打ち、シャトルを落とさずラケットでキャッチし、決められたかごに入れる。 ・制限時間内にキャッチできたシャトルの数を競う。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ●グループでの話合いを観察し、活発に意見交換できるよう声かけをする。 ●他者の意見を受け入れ、よい雰囲気で行うよう促す。 <p>6 ウォーミングアップ</p> <p>○学習したショットの打ち方のポイントを意識しながら、グループに分かれてラリーを行う。</p>	
<p>7 グループでの課題練習～基本のショットの組合せ(相手コートの空いたスペースに打つ)～</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><クリアー→ドロップ→ヘアピン→ロブ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒(A)のサーブから始まり→生徒(B)クリアー→(A)ドロップ→(B)ヘアピン→(A)ロブを繰り返し、攻防を行う。 ・生徒(A)と生徒(B)で打てるショットが異なるため、時間で区切り役割を交代する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ●初めに見本を見せ、相手の位置に合わせてショットを選択するポイントを説明する。 ●グループ内での教え合いを促す発問、声かけを行う。 ○技能ポイントチェックシートを活用し、グループ内で相互評価を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【「努力を要する」状況(C)の生徒への教員の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロブが上手く上がらない生徒に対し、相手のヘアピンをまずは相手コートに返球するよう助言する。 </div>	<p>技能②：シャトルを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。(観察)</p>
<p>8 簡易ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で半面シングルのゲームを行う。 ●対戦相手やローテーションはグループで決めるよう指示をする。 ●ゲームをしていないグループ内の他の生徒は、技能ポイントチェックシートで他者の技能を観察、評価を行い、試合後にアドバイスを促すよう指示をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【「努力を要する」状況(C)の生徒への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で、「前が空いた」「後ろに打つ」など、どこにショットを打つべきか声かけを行うよう促し、空いているスペースや相手の動きへの意識を持たせ、打つように助言する。 </div>	<p>技能②：シャトルを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。(観察)</p>
<p>9 本時の振り返り・体調確認</p> <p>10 次時の内容の確認</p> <p>11 整理運動、整列、挨拶</p>	

研究実施校：神奈川県立厚木東高等学校(全日制)
 実施日：令和4年11月21日(月)
 授業担当者：竹内 大輔 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア 主体性を育む環境づくり

①グループ活動の充実による関係性構築のための環境づくり

(ア)単元を通してのグループのメンバーを固定化

生徒の活発な言語活動を引き出すためには、生徒同士の関係づくりが非常に重要である。単元を通して同じグループで練習や試合等を経験することで、互いに助け合い、教え合う環境を構築できると考えた。また、リーダー性を持つ生徒、運動に対し不安を抱える生徒など、グループのメンバーに偏りが出ないように調整し、グループ活動を円滑に行うことができるだけでなく、生徒同士で協働して課題解決に向かうことができるよう工夫を行った。

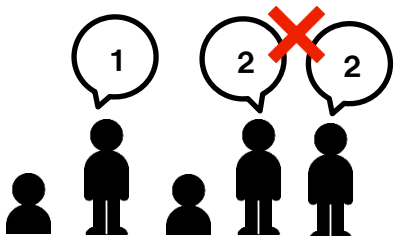
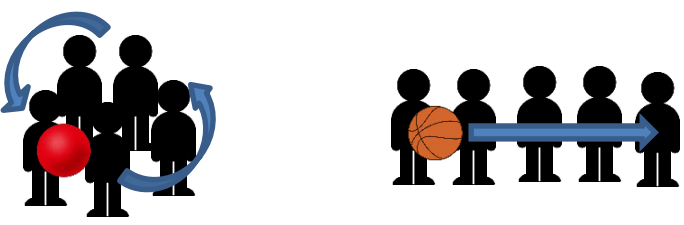
(イ)体ほぐしの運動(課題解決ゲーム)との関連

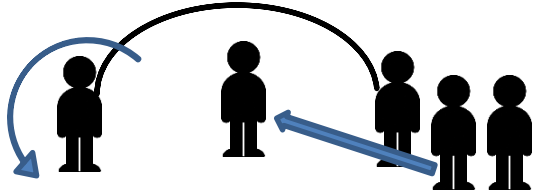
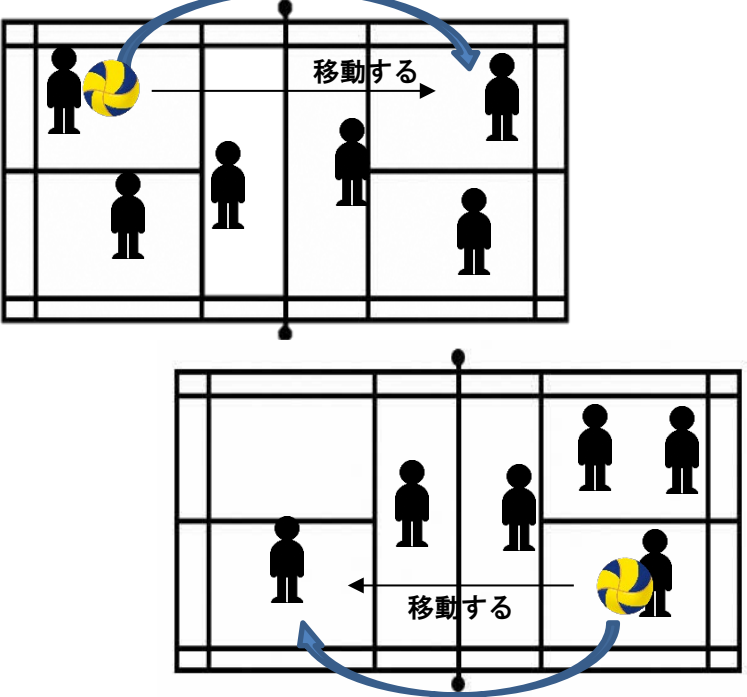
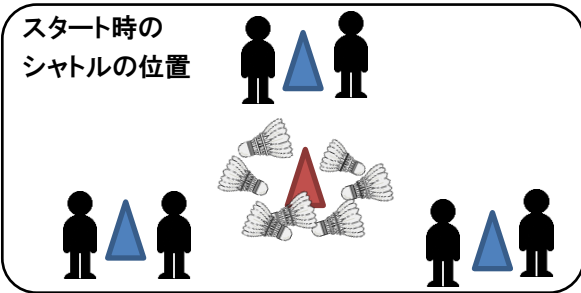
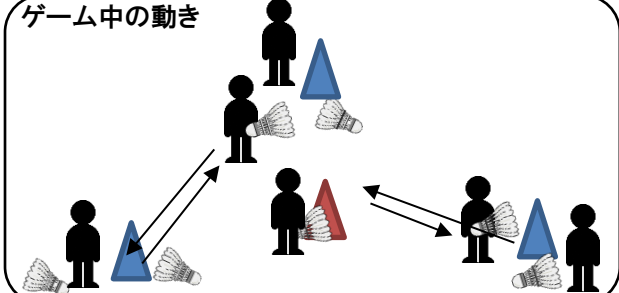
体づくり運動の内容の取扱いにおいて、「『器械運動』から『Gダンス』までの運動に関する領域においても関連を図って指導することができる」としている。その際、『体ほぐしの運動』としての学習と各運動の領域で行われる準備運動、補強運動、整理運動等との関連を図り、指導と評価ができるようにすること(高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説保健体育編体育編 p.54)と示されており、本研究では、年間指導計画において体づくり運動を単元として設定していることに加え、バドミントンの単元においても体ほぐしの運動を設定した。

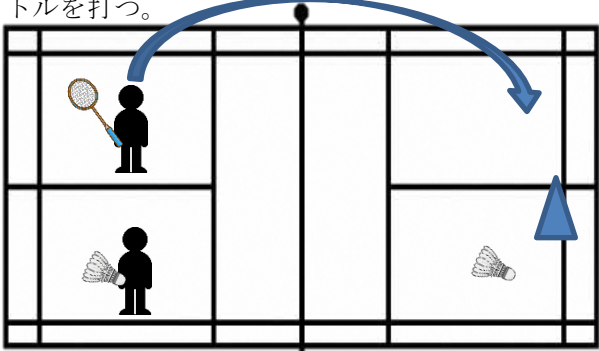
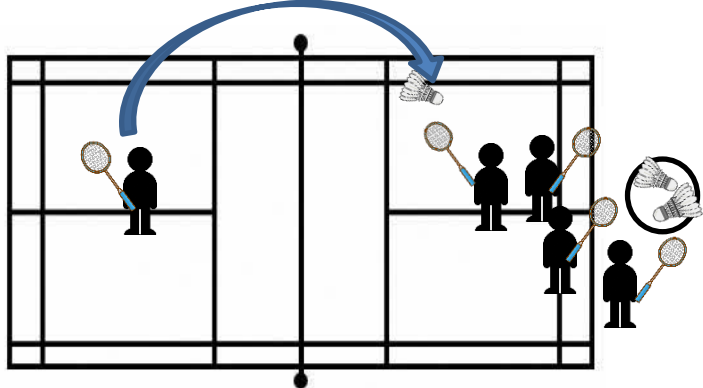
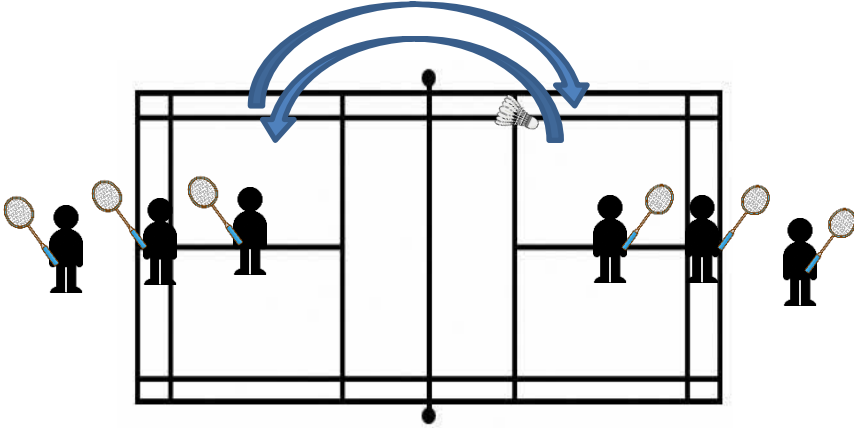
実際の授業では、グループで協力して課題を解決するだけではなく、他のグループと競争するといったゲーム性を取り入れ生徒が取り組みやすいように工夫を図った。それぞれの課題については、「課題解決のルールが簡単なこと」、「短時間で勝敗がつくこと」、「グループ内で作戦を立てることができること」といった三つのポイントを踏まえ学習活動を検討した。課題解決ゲーム(表1)を実施する前に、グループでの作戦会議を行う時間を設定し、「早く終わる」、「回数を多くする」等の共通の目標をもたせ、その目標が達成できるよう意見交換が活発に行われるようにした。

この課題解決ゲームを通して、生徒の言語活動を活発化させ、その後に意図的に助け合いや、教え合い、協力といった活動場面を設定した。グループが一つの目標に向かって意見交換することで、「もっとこうしたい」といった前向きな気持ちを引き出すなど、授業に主体的に取り組む意識が高められると考えた。

表1 課題解決ゲームの概要(1時間目から8時間目の内容)

課題解決ゲーム名	ルールとポイント
<p>1時間目 「空気読みゲーム」 (チーム内でのアイスブレイクも含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数字を数えながら立ち上がる。 全員が立ったら続けて数字を数えながら座る。 同じ数字を複数名が同時に言った場合、最初からやり直す。 
<p>2時間目 「ボール送りゲーム」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1つのボールをグループのメンバーで回していく。 必ず1人2回触球し、最後の人が触球するまでにかかった時間で勝敗を競う。 グループの隊形、ボールの種類、触り方等を話し合い、どうしたら速く回るか工夫する。 

<p>3 時間目 「8の字跳び」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・制限時間内で、縄を跳んだ回数で勝敗を競う。 ・縄の回し手、回す速度、跳ぶ順番等を話し合い、スムーズに跳ぶために工夫する。 
<p>4 時間目 「ラリーで総入れ替え」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で二つに分かれてネットを挟んで対面する。 ・ボールを相手コートに返した人が相手コートに移動する。 ・グループ内のメンバーが全員入れ替わった速さで勝敗を競う。 <p>○ 3回以内で反対コートに返す ○ 落としたり最初からやり直し</p> 
<p>5 時間目 「シャトル集めゲーム」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの陣地にシャトルを集めてくるゲーム。 ・制限時間内で、集めたシャトルの数で勝敗を競う。 ・スタート時は真ん中にシャトルを集めて置き、真ん中からシャトルがなくなった場合は相手の陣地からシャトルを集める。 <p>スタート時のシャトルの位置</p>  <p>ゲーム中の動き</p> 

<p>6 時間目 「ボッチャ風ゲーム」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標物に向かってシャトルを投げるまたは打つ。 ・ シャトルと目標物との距離の近さで勝敗を競う。(グループで一番近いシャトルで勝負) ・ グループの半分のメンバーはシャトルを投げ、残りの半分はラケットでシャトルを打つ。 
<p>7 時間目 「シャトルを救え」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 味方の打つサーブをラケットで落とさずキャッチする。 ・ キャッチしたシャトルは一か所に集めておき、制限時間内にキャッチできたシャトルの数で勝敗を競う。 ・ シャトルを打つ人、キャッチする人の数を工夫する。 
<p>8 時間目 「バドミントンラリー」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制限時間内で、対面でラリーを行う。 ・ シャトルを打ったら列の1番後ろに並ぶ。 ・ ラリーが続いた最高回数または合計回数で勝敗を競う。 

②ポイントの明確化による学習理解の環境づくり

(ア) 技能ポイントチェックシート

ショットを打つ際に、どんなポイントに気を付ければよいかを明確にするために、技能ポイントを確認できるチェックシートを作成し、授業で活用した。同じグループ内の生徒同士で練習や試合の様子を観察し合い、チェックを付けることで、一人ひとりの課題が明確となり、グループ内で協力しながら課題解決に向かうことができると考えた。

(イ)技能のポイントを見える化

技術の習得や技能の向上のための学習活動の際に、ショットで意識すべきポイントを掲示しておくことで、視覚的にポイント理解を深められる環境づくりを行った。生徒全員がポイントをすぐに見ることができることで、ショットの出来ばえや他者観察のポイントの共通性を図った。

③想像力・課題解決力を育む環境づくり

(ア)生徒の考える力を育む発問

生徒が自ら課題の発見やその解決に主体的に取り組むことができるよう、考えさせるための発問の工夫を行った。また、助け合いや教え合いを深めるために何が必要か思考を促す発問を繰り返し行うことで、生徒同士の対話的な学びを実現させた。

(イ)「他者観察」を踏まえた振り返り活動

自己の振り返りについては、技能ポイントチェックシートを活用して、自己の課題を見付けることをねらいとし、振り返りを行うこととした。自身の技能や動き方を客観視することは難しく、自己評価と実際とが違っている生徒も多い。そのため、同じグループ内の生徒からのアドバイスを基に自身の振り返りを行うことで、生徒の実態にあった課題を発見することができる考えた。

イ R-PDCAサイクルを踏まえた学習過程における事前調査(R)の実施

生徒の実態を把握することを目的とし、Google フォームを活用した事前調査(R)を実施した。質問項目は「バドミントンの技能に関すること」、「グループ活動に関すること」、「バドミントンの授業に対する意識に関すること」、「グループ活動に対する意識に関すること」の4点について実態を把握し指導の際の参考とした。また、本研究のねらいにある、「グループ活動において主体性を育む」ために必要となる、言語活動を行いやすい環境づくりができるよう、アンケート結果を基に教員がグループ分けを行った。

さらに、単元終了後にGoogle フォームを活用した事後アンケートを行い、単元開始前と単元終了後とを比較し、技能面やグループ活動への意識に変化があったのかを見取ることとした。

3 結果と考察

研究を通して、生徒の課題にアプローチし、生徒の「主体性を育む」というねらいに合わせた授業を展開することができたと考える。

事前調査(R)では、バドミントンの技能に対する自己評価や、グループ活動に関する考え方など、生徒の意識について知ることができ、その結果を踏まえた授業づくりを行うことができた。特に技能面に対する質問の結果から、ハイクリアーやドロップなどの生徒の苦手なショットに対し丁寧にアプローチすることができ、要点を抑えた内容で授業を進めることに役立った。一方、グループ活動に関する質問では、「グループ活動で意見を言えるか」という質問に対し、「言える」と回答していた生徒が授業の中ではそれほど発言をしていないといった様子も見られ、教員と生徒とでの認識のずれがあることがわかった。

単元を通して行った(2～8時間)課題解決ゲームに関しては、生徒が前向きに取り組む様子が見られた。グループでの話合いの場面では、始めは特定の生徒のみの発言が目立つグループが多かったが、回を重ねるごとにグループへの所属意識が増し、多くの生徒からの発言が見られるようになった。教員が指示を出さなくとも、自然とグループの中で司会進行役が生まれ、リーダーシップを発揮する生徒が出てくるようになった。また生徒からは「グループがだんだんまとまってきた」といった声も上がった。

グループ活動では、技能ポイントチェックシートの活用により、昨年の授業に比べ、半身で打つ生徒やスイング時に手首を使うことを意識している生徒が多く見られ、ポイントの意識化のための有効な手立てとなっていると感じた。しかし、グループ内でポイントを意識した声かけやアドバイスを行うことができた生徒は少数であり、技能面に不安のある生徒に対して、今後どのような手立てを行うことで自信をもって発言することができるのか、更なる研究が必要であると感じた。

4 まとめ

今回の研究では、「助け合ったり教え合ったりする」というねらいを明確にした単元指導計画を作成した。主体性の捉え方は人それぞれ違い、抽象的である。そのためねらいをさらに具体的にすることで、どのような資質・能力を身に付けさせたいのかが、教員と生徒の双方にとって明確となり、的確なアプローチができた。

体育では、今回の「課題解決ゲーム」のような体ほぐしやレクリエーションの要素を兼ねた活動を通し

て、コミュニケーションをとることに慣れていくことによって、体力や技能の程度、性別や障がいの有無等にかかわらず、どの単元においても助け合ったり、教え合ったりすることができるようになって感じた。

R-PDCAサイクルを踏まえた事前調査(R)は生徒の意識や考えなどを知ることができ、それを授業にいかすことができるため有効であると感じた。さらに研究の中で「グループ活動で意見を言える」ことへの認識が、教師と生徒とで違うことに気付いた。このような気付きからより適切なアプローチが行えるのだと感じた。また生徒は質問に答えることで自分の意識を確認することができ、必要であれば不安などを伝えることもできるので、単元における事前調査(R)は効果的であった。

今回の研究は、入学年次を対象に進めてきたが、次の年次以降においても主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえ、将来を見据えた授業、単元を展開していく必要がある。卒業後、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続していくためには、生徒が、自分自身で主体的に活動に参加し、仲間を見付け、円滑なコミュニケーションをとっていく必要があり、保健体育科の担う役割は非常に重要なものであると感じている。この研究をきっかけに、今後更に研究が進み、生徒がより主体的に活動に参加するための多くのアイデアが生まれていくことを期待している。

＜参考資料1＞生徒へのアンケート集計まとめ(小数第2位を四捨五入したため、100%とならない場合がある)

表2【事前】「中学生の頃バドミントンを授業で経験しましたか」の回答

	人数	割合
はい	17名	94.4%
いいえ	1名	5.6%
小計	18名	100.0%

表3【事前】「試合を行うために必要なルールを理解していますか」の回答

	人数	割合
はい	11名	61.1%
いいえ	7名	38.9%
小計	18名	100.0%

表4【事前】「バドミントンは好きですか」の回答

	人数	割合
とても好きである	6名	33.3%
好きである	9名	50.0%
どちらでもない	3名	16.7%
嫌いである	0名	0.0%
とても嫌いである	0名	0.0%
小計	18名	100.0%

表5【事前】「バドミントンの授業の意欲はどのくらいありますか」の回答

	人数	割合
とてもある	9名	50.0%
ある	6名	33.3%
どちらでもない	3名	16.7%
ない	0名	0.0%
まったくない	0名	0.0%
小計	18名	100.0%

表6【事前】「個人やペアで行う活動は好きですか」の回答

	人数	割合
とても好きである	4名	22.2%
好きである	9名	50.0%
どちらでもない	5名	27.8%
あまり好きでない	0名	0.0%
好きでない	0名	0.0%
小計	18名	100.0%

表7【事前】「グループで行う活動は好きですか」の回答

	人数	割合
とても好きである	4名	22.2%
好きである	8名	44.4%
どちらでもない	5名	27.8%
あまり好きでない	1名	5.6%
好きでない	0名	0.0%
小計	18名	100.0%

表8【事前】「グループ活動に不安がありますか」の回答

	人数	割合
全くない	6名	33.3%
あまりない	2名	11.1%
どちらでもない	6名	33.3%
少しある	3名	16.7%
とてもある	1名	5.6%
小計	18名	100.0%

表9【事前】「グループの中で自分の意見を言えますか」の回答

	人数	割合
できる	7名	38.9%
不安だができる	7名	38.9%
どちらでもない	2名	11.1%
あまりでない	2名	11.1%
できない	0名	0.0%
小計	18名	100.0%

表10【事前】「グループの活動で自分の役割を見つけられますか」の回答

	人数	割合
とてもできる	0名	0.0%
できる	10名	55.6%
どちらでもない	7名	38.9%
あまりできない	1名	5.6%
できない	0名	0.0%
小計	18名	100.1%

表11【事後】「事前アンケートは自分の状況を把握する上で良いものだと思いますか」の回答

	人数	割合
とても思う	6名	28.6%
思う	13名	61.9%
どちらでもない	0名	0.0%
あまり思わない	2名	9.5%
全く思わない	0名	0.0%
小計	21名	100.0%

表12【事後】「個人スキルの学習は効果的だと思いますか」の回答

	人数	割合
とても思う	10名	47.6%
思う	11名	52.4%
どちらでもない	0名	0.0%
あまり思わない	0名	0.0%
全く思わない	0名	0.0%
小計	21名	100.0%

表13【事後】「グループの学習は効果的だと思いますか」の回答

	人数	割合
とても思う	10名	47.6%
思う	9名	42.9%
どちらでもない	0名	0.0%
あまり思わない	2名	9.5%
全く思わない	0名	0.0%
小計	21名	100.0%

表14【事後】「グループの学習では、学習のねらいを意識して主体的に授業に参加できましたか」の回答

	人数	割合
とても思う	11名	52.4%
思う	9名	42.9%
どちらでもない	0名	0.0%
あまり思わない	1名	4.8%
全く思わない	0名	0.0%
小計	21名	100.1%

表15【事後】「自分の課題を見つけ、課題が解決するための工夫や取り組みはできましたか」の回答

	人数	割合
とても思う	10名	47.6%
思う	10名	47.6%
どちらでもない	0名	0.0%
あまり思わない	1名	4.8%
全く思わない	0名	0.0%
小計	21名	100.0%

表16【事後】「チームの課題を見つけ、課題が解決するための工夫や取り組みはできましたか」の回答

	人数	割合
とても思う	4名	19.0%
思う	12名	57.1%
どちらでもない	0名	0.0%
あまり思わない	4名	19.0%
全く思わない	0名	0.0%
無回答	1名	4.8%
小計	21名	99.9%

表17【事後】「自分の考えや思いをチームに伝える事ができましたか」の回答

	人数	割合
とても思う	5名	23.8%
思う	11名	52.4%
どちらでもない	0名	0.0%
あまり思わない	4名	19.0%
全く思わない	0名	0.0%
無回答	1名	4.8%
小計	21名	100.0%

表18「ハイクリアーはどのくらいできますか」の回答

	事前		事後		増減(事後-事前)
狙ったところ、狙った高さでショットを打てる	0名	0.0%	7名	33.3%	7名
狙ったところにショットを打てる	2名	11.1%	11名	52.4%	9名
狙った方向にショットを打てる	10名	55.6%	3名	14.3%	-7名
思ったようにショットを打てない	1名	5.6%	0名	0.0%	-1名
ハイクリアーがわからない	5名	27.8%	0名	0.0%	-5名
小計	18名	100.1%	21名	100.0%	

表19「ドロップはどのくらいできますか」の回答

	事前		事後		増減(事後-事前)
狙ったところ、狙った高さでショットを打てる	0名	0.0%	8名	38.1%	8名
狙ったところにショットを打てる	1名	5.6%	10名	47.6%	9名
狙った方向にショットを打てる	9名	50.0%	2名	9.5%	-7名
思ったようにショットを打てない	3名	16.7%	1名	4.8%	-2名
ドロップがわからない	5名	27.8%	0名	0.0%	-5名
小計	18名	100.1%	21名	100.0%	

表20「ヘアピンはどのくらいできますか」の回答


	事前		事後		増減(事後-事前)
狙ったところ、狙った高さでショットを打てる	1名	5.6%	12名	57.1%	11名
狙ったところにショットを打てる	2名	11.1%	6名	28.6%	4名
狙った方向にショットを打てる	9名	50.0%	2名	9.5%	-7名
思ったようにショットを打てない	3名	16.7%	1名	4.8%	-2名
ヘアピンがわからない	3名	16.7%	0名	0.0%	-3名
小計	18名	100.1%	21名	100.0%	

表21「サーブはどのくらいできますか」の回答

	事前		事後		増減(事後-事前)
狙ったところ(前後左右)サーブできる	2名	11.1%	12名	57.1%	10名
狙った方向(左右)にサーブできる	9名	50.0%	6名	28.6%	-3名
相手コートに入れることはできる	7名	38.9%	3名	14.3%	-4名
思ったようにサーブを打てない	0名	0.0%	0名	0.0%	0名
サーブがわからない	0名	0.0%	0名	0.0%	0名
小計	18名	100.0%	21名	100.0%	

<参考資料2> 技能ポイントチェックシート

バドミントンショット
技能ポイントチェックシート
～すべてクリアして正しいショットを身に付けよう～



自分がポイントチェックする人
組 名前 _____

自分のポイントチェックをしてくれる人
組 名前 _____

年 組 番 名前 _____

- ・クリアー
 - 打つ時に体が打つ方向に対して半身(横向き)になっている
 - 肘をしっかり引くことができる
 - シャトルを利き腕頭上の高いポイントでとらえることができる
 - 手首を柔らかく使ってシャトルを打つことができる
 - 打たれたシャトルは高く遠くに飛んでいる
 - 打ち終わった後、利き足が一步前に出ている(体重移動がしっかりできている)
- ・ドロップ
 - 打つ時に体が打つ方向に対して半身(横向き)になっている
 - 肘をしっかり引くことができる
 - シャトルを利き腕頭上の高いポイントでとらえることができる
 - 打たれたシャトルは床と並行に、または下向きに打ち出されている
 - 相手コートの手前に落ちるように打っている
 - 打ち終わった後、利き足が一步前に出ている(体重移動がしっかりできている)
- ・ロブ
 - ラケットを下から手首を柔らかく使いスイングできている
 - 概ね胸の前あたりでシャトルを打つことができる
 - 利き足を踏み出しながら、または踏み出した後スイングできている
 - 打たれたシャトルは前方に高く打ち出されている
 - フォアハンド・バックハンドの使い分けをしながら打つことができる
- ・ヘアピン
 - 概ね胸の前あたりでシャトルを打つことができる
 - 利き足を踏み出しながら、または踏み出した後、打つことができる
 - ラケットをあまり動かさずシャトルを打つことができる
 - 打たれたシャトルはネットの白帯からあまり浮かずに相手のコート手前に打ち出されている
 - フォアハンド・バックハンドの使い分けをしながら打つことができる

芸術（音楽）

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

組織的な授業改善の推進～新学習指導要領の実施を踏まえた音楽科における主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践～

(2) 研究のねらい

近年県内の高校で取り入れる機会の多いヴァイオリンを扱った題材を通して、上記のテーマを踏まえた題材計画と、その効果的な評価方法についての研究を行った。

2 実践事例

(1) 題材指導計画

ア 科目名：音楽Ⅰ

イ 題材名：「ヴァイオリンの音色を探求し、その響きを味わおう！」

ウ 題材の目標：

- ・曲想とヴァイオリンの音色や奏法との関わり及び様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした器楽表現に必要な奏法、身体の使い方などの技能及び他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける。
- ・音楽を形づくっている要素(音色・テクスチュア)を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図を持つ。
- ・ヴァイオリンの音色や奏法との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組むとともに、感性を高め、音楽文化に親しむ。

エ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 曲想とヴァイオリンの音色や奏法との関わり及び様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした器楽表現に必要な奏法、身体の使い方などの技能及び他者との調和を意識して演奏する技能を身につけ、器楽で表している。</p>	<p>・音楽を形づくっている要素(音色、テクスチュア)を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現の意図をもっている。</p>	<p>・ヴァイオリンの音色や奏法との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>

本題材で扱う学習指導要領の内容

音楽Ⅰ A表現 (2)器楽 器楽に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり

(ウ) 様々な表現形態による器楽表現の特徴

ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア) 曲にふさわしい奏法，身体の使い方などの技能

(イ) 他者との調和を意識して演奏する技能

[共通事項] (1)(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：【音色、テクスチャ】)

オ 題材の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知 技	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	<p>*毎時の冒頭に「♪カノン」を流し、曲想のイメージをもたせる。</p> <p>◆「ヴァイオリンの良い音」について考える。</p> <p>○ヴァイオリンの音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な楽器の準備や扱い方を学習し、自分なりに音を出し、その音色について感じたことをワークシート①に記入する。 弓の持ち方、構え方、弓の動かし方などの基本奏法を学び、開放弦を弾く。 音色を意識しながら、範奏を鑑賞する。 それぞれが持っているヴァイオリンのイメージ(構え方、弾き方等)で音を出し、範奏との音色の違いをワークシート②に記入する。 片づけの方法を知る。 				<p>● 態〈観察〉〈ワークシート〉</p> <p>※技能に関して、自分の思いや意図を音楽で表現するためには、ある程度の技能が必要不可欠である。その技能は「学習を成立させるための技能」となるため、毎時間丁寧な指導を行う。</p>
	2	<p>*演奏しながら気が付いたことは、ワークシートP2「すてきな演奏へのアイデアメモ」に記入するよう、毎時間伝える。</p> <p>◆ボウイングと良い音の関わりについて考える。</p> <p>○音色や移弦を意識しながらボウイングについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時のテーマに合った範奏を鑑賞する。 弓を使う量による音色の違いを感じ取る。 <p>○移弦を体験し、何を意識して弓を動かすか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「♪エトピリカ」に合わせながらD線、A線を弾く。 G線→D線、A線→E線がどうすればスムーズにつながるができるか、個人で音を出しながら考える。 上記の内容についてグループで意見を交換しながら新たに気が付いたことを、ワークシート③に追記する。 	知 ●		●	知イ(イ)〈ワークシート〉
2	3	◆美しい音色で演奏するために必要なことについて考える①。				

		<p>○ある程度の音高を意識して左手を押さえる技能を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「♪カノン」Ⅱパートを全員で演奏する。 ・Ⅰパートの運指を確認し弓を使って練習する。 ・ピチカートが効果的に使われている楽曲を鑑賞する。 ・Ⅰパートをピチカートで練習する。 ・グループで聴きあい、左手の運指に関して気が付いたことをワークシート④に記入する。 ・クラス全体で合奏(ピチカートのみ)を行い、楽曲の見通しをもつ。 ・Ⅰパートを弓で演奏する。 			●	※技能において「努力を要する」状況Cと判断されそうな生徒が生まれないう、ワークシート④の設問(こんなことに困っています)を設けた。授業後にチェックをし、何か記載があれば、個別に声をかけ、フォローアップを行う。	
	4	◆美しい音色で演奏するために必要なことについて考える②。					
		<p>○「♪カノン」のⅠパートとⅡパートが、滑らかに演奏できるよう、個人・グループで試行錯誤する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「♪カノン」の範奏を聴き、楽曲の雰囲気や味わいについてイメージを深める。 ・ボウイングと運指を意識しながら、「♪カノン」を3パートで演奏する。 ・合奏を繰り返し、美しい音色で演奏するために必要なことについて気が付いたことをワークシート⑤(マインドマップ)に記入する。 ・グループで三重奏をする際に、大事にしたいことをグループで考える。 ・意識したい音楽の要素を考えながら、弦楽合奏を鑑賞する。 	技 ●	●	●	技イ(イ)〈観察〉 思ア〈ワークシート⑤マインドマップ〉	
3	5	◆「♪カノン」をどのように演奏するかについて考える①。					
		<p>○ヴァイオリンの音色や奏法を生かして、「♪カノン」をアンサンブルで演奏するために必要な奏法の工夫について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カノン形式について知る。 ・形式を知った上で、「♪カノン」をどのように演奏したらよいか、音を出しながら話し合い、ワークシート⑤(マインドマップ)に記入する。 ・次回の公開リハーサルに向けて、グループとして意識したいポイントについて、グループで考える。 			● ●		
	6	◆「♪カノン」をどのように演奏するかについて考える②。					

	公開研究授業	<p>○グループ演奏の聴き所について考え、表現できるようになる。</p> <p>・グループで試行錯誤を繰り返す。その中で新たな表現意図が生まれた場合は、ワークシート⑤(マインドマップ)に追記する。</p> <p>・新たな気付きを得るために、公開リハーサルを行う。</p>			○ ●	<p>思 〈ワークシート⑤マインドマップ下「私たちのグループの演奏の聴きどころはここ」〉</p>
4	7	<p>◆「自分が思う良い音を出すために大切だと思うこと」「アンサンブルの魅力」について考える。</p> <p>○今回の題材を通して、自身が学んだことについて振り返る。</p> <p>・1グループずつ演奏発表を行う。</p> <p>・題材の振り返りをワークシートに記入する。</p>	<p>知 ○</p> <p>技 ○</p>		○	<p>態 〈観察〉 〈ワークシート⑤マインドマップ〉</p> <p>知 イ(ウ) 〈ワークシート「最後に…」の欄〉</p> <p>技 ウ(ア) (イ) 〈発表観察〉</p>

研究実施校：神奈川県立逗葉高等学校(全日制)

実施日：令和4年11月15日(火)

授業担当者：濱田 愛深 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

研究を行うにあたり、本題材における「主体的・対話的で深い学び」について、以下のような具体的な生徒の姿を推進委員会でイメージした(本来はそれぞれ切り離して考えることはしないが、検証のため下記のように整理をした)。

- ・主体的な学び…ヴァイオリンの音色やアンサンブルに興味や関心を持ち、見通しをもって粘り強く取り組んでいる
- ・対話的な学び…グループ内での対話等を通じて自己の考えを広げ深めている
- ・深い学び …音楽的な見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けたり、問題を見い出したりして、より良い音色やアンサンブル方法について考えている

これらの視点をおさえた指導と評価について、ワークシートによる学習の方向付けが有用ではないか、と推進委員会では考え、その具体について会議を重ねた。その後、「初めて触れるヴァイオリンの音色やより良いアンサンブルを探求していく」という今回の題材には、マインドマップが適しているという結論に至り、完成したワークシートをもとに研究授業を行い、個人の取組やグループ活動の様子、また題材終了後の生徒のワークシートの記述から、検証を行った。

【指導の検証】

推進委員会では、上記の視点を意識し、マインドマップ(図1)を作成した。ゴール(ねらい)を「すて

きな演奏」とし、題材の成立基盤である本題材の「音楽を形づくっている要素」である音色・テクスチャをそこに向かう二つの流れのように視覚化することで、学習の方向付けを行った。題材終了後、ワークシートには概ね次のような記述を見ることができた(図1)。

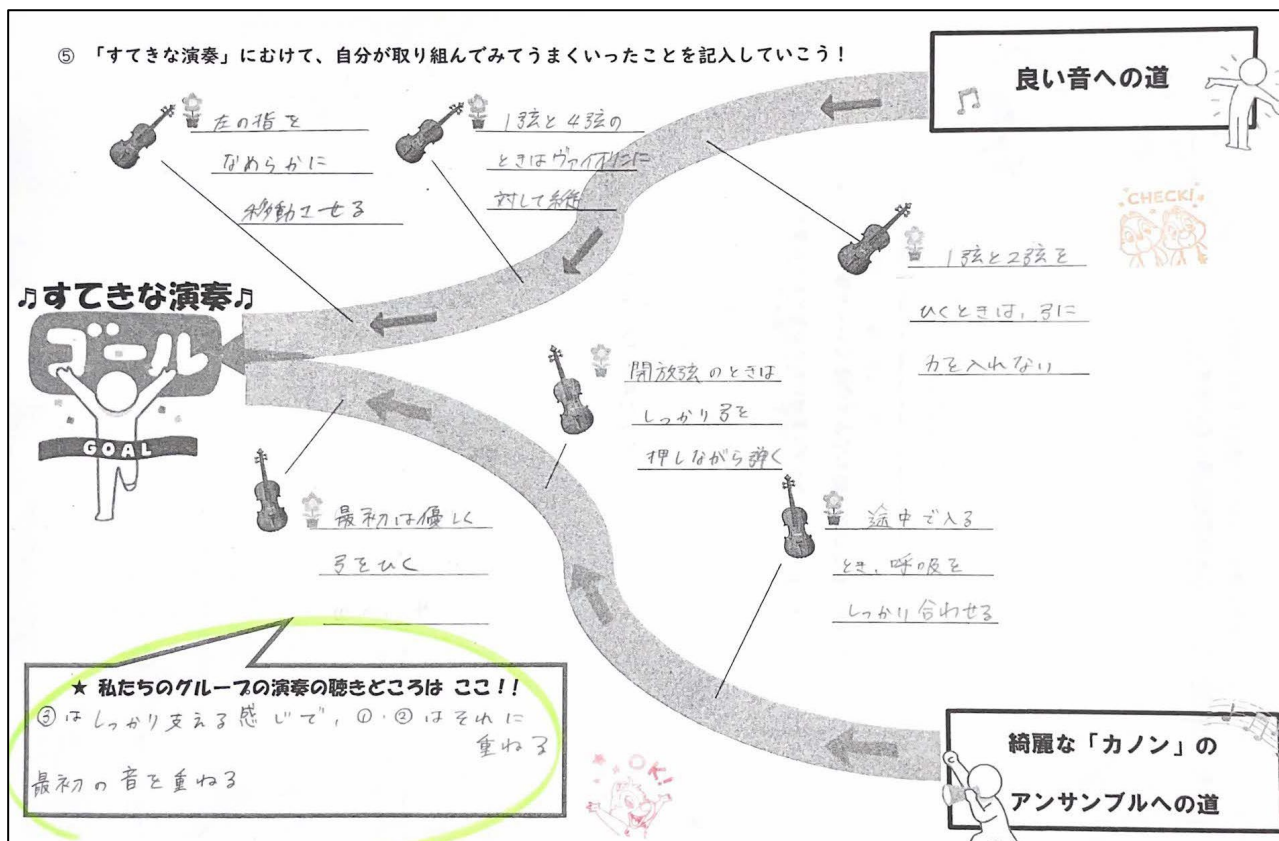


図1 (ワークシート⑤マインドマップ)

この記述からわかるように、音楽的な見方・考え方の支えとなる音色・テクスチャを意識しながら、「すてきな演奏」に向かっていく思考の流れや必要な取組について、生徒自身が記入しながら把握することができた、と判断できる。

グループワークでの発言や個人練習の様子といった取組からも、範奏と自身の音色やアンサンブル力を比較して得た「すてきな演奏」へのイメージ(ワークシート①)に向かって、自身の得た知識(ワークシート③)を生かしながら、見通しをもった学習を行っている、と十分に判断できる状況が確認できた。

さらには、意識すべき音楽的な要素がマインドマップに明示(良い音への道、アンサンブルへの道)されているため、それらの要素を学びの支えとし、グループワークが停滞することなく仲間と音を出しながら試行錯誤していた。マインドマップによる題材の方向付けが、学習内容を焦点化し、本題材における学びの深まりを生んだ、と言える結果となった。



【評価の検証】

今回のマインドマップは、その記述の内容を「主体的に学習に取り組む態度」における「自らの学習を調整しようとする側面」として見取ることができるのではないかと考え、発問を「すてきな演奏に向けて、自分が取り組んでみてうまくいったことを記入していこう」とした。その結果、生徒の記述は図1のような記述が大半を占めた。生徒は授業で得た知識や技能を活用して、今できることを記述して

おり、目的に向かう意思的な側面として見ることができると、推進委員では判断をした。

また、同側面を見取るための設問として「♪すてきな演奏へのアイデアメモ」(ワークシートP2を参考)を設けたが、生徒の記述は極端に少ない結果となった。これらは「メモや下書きといった内容をワークシートに書きこむ習慣がない」「楽器を持っているため、メモが取りづらい」ことが原因として考えられる。生徒の試行錯誤を見取るためには必要な項目であるため、「杵を葉っぱ型にして、木を実らせよう」といった書きたくなる杵組みの工夫、楽器を持ったまま、アイデアを端末の音声メモに残す、といった今後に向けた対策が必要である。

対話的な学びに関しては、グループ活動の際には「そう弾けばいいんだね!」といった学び合いや新たな発見の言葉を多々聞くことがあったが、ワークシート内の【新たな発見】の欄には記述が少ない状況であった。他者の意見を見聞きすることで、広まり深まった自身の考えをマインドマップに書き込んでいることも十分に考えられるが、その見取り方には課題が残った。

※「主体的に学習に取り組む態度」のもう一つの側面である「粘り強い取組を行おうとする側面」については、生徒一人ひとりのヴァイオリンの取組を観察し、二つの側面を補完的に補いながら評価を行った。

(3)まとめ

今回主体的・対話的で深い学びの視点に基づく学習過程の研究の中で、重要なキーワードとして、以下の四つが挙げられた。

・「学習を成立させるための技能」

生徒が実感を伴う知識を得て、思考・判断・表現を行うためには最低限の技術を習得する必要がある。そのためには、適切な題材の設定を行い、題材の前半で指導に生かす評価として、生徒の学習状況を見取りながら、基本的な奏法や歌唱の技能を身に付け、必要な資質・能力の育成につなげられるようにする必要がある。ヴァイオリンの学習においては、「楽器の構え方」「弓の持ち方」「楽譜の読み取り方」「基本的なボウイングやフィンガリング」などがそれにあたる。今回の研究では、題材計画にもあるように、題材の前半ではそれらについて丁寧に指導するとともに、技能について困っていることが記入できる欄(ワークシート④)を設けるなどして、フォローアップを充実させた。また、楽曲の中で持続音やフィンガリングについて段階的に学習できるよう、編曲も行っている。

・「題材を貫く問い」

「単元(音楽では題材)を貫く問い」を生徒に提示することにより、複数時わたる授業の学びに一貫性を持たせることができると考えた。今回ヴァイオリンで「バッヘルベルのカノン」を取り上げるにあたり、「良い音とは何か」を「題材を貫く問い」として中心に据え、題材計画の検討を行い、毎回の授業において、「題材を貫く問い」に関連させた具体的な問いを設定することにより、訓練のようにヴァイオリンを練習する活動のみに陥らないよう留意した。その中で、他者と考える、他者の音楽を聴くことを通して、自身の考えや知識を広げるという学校教育ならではのメリットを生かした授業を計画した。

・「マインドマップの活用」

本題材の中で、ワークシートにマインドマップを取り入れ、「題材を貫く問い」に対し、生徒が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つ育成を目指す資質・能力を育めるようにした。今回はフィッシュボーン型をもとにしたマインドマップを作成し、「すてきな演奏」をゴールとし、「良い音を出すためにどうすればよいか」「良いアンサンブルをするためにどうすればよいか」という2つの視点から、目標に向かうための手立てを生徒自身が考え、ワークシート上に記入させた。今後更にマインドマップを有効に活用するためには、毎回の題材で生徒が自分の考えを記入する活動を習慣化することや、目的によって「ロジックツリー型」や、「放射状マインドマップ」など型式を使い分けることなどが考えられる。

また、マインドマップは、見通しや振り返りシートに代替するツールとしての可能性をもっている。毎回の学習の中で、新しい発見や次回への課題を自分で見付け、気が付いたことを書き足していき、最後のまとめとして「良い音とは～のようなことであると思った」「ヴァイオリン以外にも同じことが生かせると思った」など、ヴァイオリンで得た具体的な学びを一般化し、自分なりのゴールを導き出すことができれば、「主体的に学習に取り組む態度」として評価することが可能であると考えられる。

- ・「実感を伴う知識」

授業中に得た知識を、いつでも視覚的に確認できるよう、ワークシート③のような記入欄を設けた。また、アンサンブル発表に向けた公開リハーサルを行った中で、授業者は生徒の演奏に対し「開放弦の音がよく響いていた」など、良かったことをコメントするだけでなく、「この音が鳴るよう実際に全員で弾いてみよう」と、音を使いその場でフィードバックを行うことで、生徒が「実感を伴う知識」を身に付けることができる場面を作り出した。生徒たちはヴァイオリンの学習を通して、正しい奏法や楽器各部の名称を覚えることだけにとどまらず、楽器の音色と奏法との関わりを体感しながら理解していくことができた。

ここまで述べてきた重要なキーワードは、生徒の資質・能力の育成を念頭においた題材計画を考える中で実際に使われた言葉であるとともに、「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」の要点をおさえるためのポイントでもある。本研究では特にマインドマップに焦点を当てたが、各学校で本研究を活用するためには、題材の内容や各所属校の実態に合わせ、他のキーワードも相互に関連させながら、生徒一人ひとりの学習が充実するように努める必要がある。その際は、「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説音楽編」にあるように、「授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、生徒に題材を通して育む資質・能力の育成に向けた授業改善を進める」ことに留意をして、今後も研究を続けていきたい。



ヴァイオリンの音色を探求し、その響きを味わおう！

ヴァイオリンの【良い音】とは？
～自分の持っているイメージでヴァイオリンを弾いてみよう！～

① 初めに出したヴァイオリンはどんな音色がしたかな？

Q. 範奏の音色はどんな音色だった？



Q. 自分の音色とはココが違う!!



・正しい奏法を意識して弾こう！

② 初めに出した音色と、音にはどんな変化が生まれたかな？

この続きを
1ページ後
に続きます

♪ 素敵な演奏へのアイデアメモ ♪

・ボウイングと良い音との関わりは？

③ さまざまな弓の使い方を試して「良い音」を探っていこう！

キーワード・・・角度・スピード・重さ・圧・幅・広さ

弓の「OO」を「 ▲▲▲ 」する	音はどう変わった？
弓の「 J 」を「 J 」する	
弓の「 J 」を「 J 」する	
弓の「 J 」を「 J 」する	
弓の「 J 」を「 J 」する	
弓の「 J 」を「 J 」する	

・エトヒリカに合わせて弾いてみよう！

『どうしたら2つの音をスムーズにつなげることができるかな？』

【個人の考え】	【グループで出た意見・新たな発見】

- ・さらにスチツアツツ！ 左手を押さえながらの演奏にチャレンジ！
- ④ 左手の動きが追加されて・・・こんなことに困っています🙄



- ⑤ 「すてきな演奏」にむけて、自分を取り組んでみてうまくいった事を記入しよう！

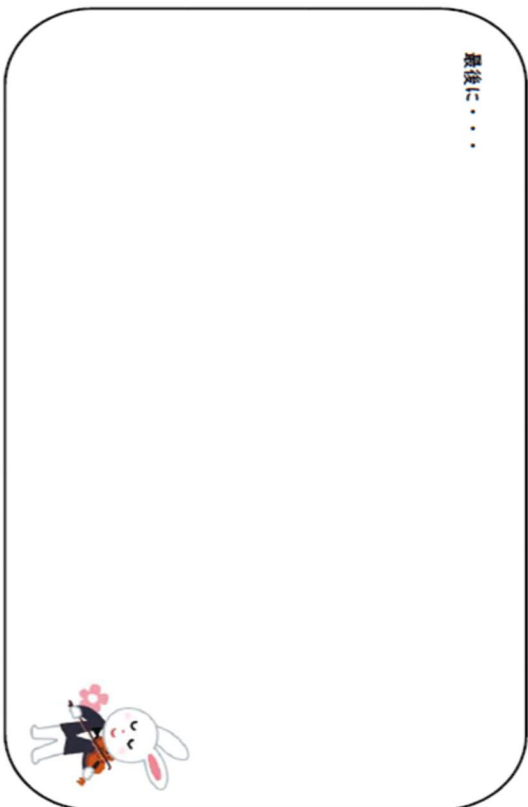
→「すてきな演奏への道！」マインドマップに気付いたことをどんな書き込んでいこう！

- ・各グループの演奏を聴いて

・「素敵だな」と思ったところをコメント・

！題材の最後に「アンサンブルの魅力や、今回学んだことで次回に生かしたいことについて書きましよう」と口頭で指示

最後に・・・



⑤ 「すてきな演奏」にむけて、自分が取り組んでみてうまくいったことを記入していこう！

♪ 良い音への道

♪ すてきな演奏 ♪



★ 私たちのグループの演奏の聴きどころは ここ！！

綺麗な「カノン」のアンサンブルへの道

Score

Canon For Three Viollins

Music by Pachelbel
Arr. by Y.Nishikawa

Violin I: 1-1, 1-0, 2-3, 2-2, 2-1, 2-0, 2-1, 2-2, 2-2

Violin II: 3-0, 2-0, 3-0, 2-0, 3-0, 2-0, 3-0, 2-0, 3-2

Violin III: *pizz.*, 3-0, 4-1, 4-2, 4-1, 4-0, 3-0, 4-0, 4-1, 3-0

グループで、1曲目に入る人 ① ... I → II → III → I → II → 3-2 終

・ 2曲目に入る人 ② ... I → II → III → I → 2-2 3

・ 3曲目に入る人 ③ ... I → II → III → 3-0

芸術(美術・工芸)

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

組織的な授業改善の推進

～新学習指導要領における主体的・対話的で深い学びの視点からの「鑑賞」の学習過程の実践～

(2) 研究のねらい

新学習指導要領では、「A表現」と「B鑑賞」の両領域を関係付けて総合的に働かせて学習を深めること、鑑賞の指導については、十分な授業時数を配当し資質・能力の定着が図られるようにするものとされ、「B鑑賞」の学習過程の改善が急務となった。そこでこれまで取り組んできた主体的・対話的で深い学びの視点による学習過程の改善についての先行研究を基に、鑑賞と表現の学習活動との関連を意識し、生徒が造形的な見方・考え方を働かせて能動的に鑑賞の学習活動に取り組めるよう、各校で実践題材を精査し授業改善を図ることとした。また、各校実態に合わせ、「B鑑賞」を適切に年間指導計画に配当し、資質・能力を効果的に育成する教育過程に改善するために、複数年での改善計画を立て実施していくこととした。

2 実践事例

(1) 題材指導計画

ア 科目名：美術 I（1 学年）

イ 題材名：「うねり」を生み出す～ミクストメディアを使った彫塑作品～

ウ 題材の目標：

「知識及び技能」

- ・形や材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。（〔共通事項〕）
- ・意図に応じてバルサ材や、石粉粘土、芯材などの材料や彫刻刀や木工やすりなどの用具の特性を生かすとともに、木材と粘土によるミクストメディアでの彫塑の表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表す。（「A表現」(1)イ）

「思考力・判断力・表現力等」

- ・モチーフのぼしを持つ動勢を感じ取り、考えたことなどから、主題を生成するとともに、彫塑の表現形式の特性を生かし、モチーフの形体や色彩、空間などの造形要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練る。（「A表現」(1)ア）
- ・彫塑作品や生徒の作品から造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。（「B鑑賞」(1)ア(ア)）

「学びに向かう力、人間性等」

- ・主体的に、写実的な立体表現に関心を持ち、彫塑やミクストメディアの表現について理解すると共に、それらを生かした表現の創造活動に取り組もうとする。
- ・主体的に、彫塑作品や生徒の作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

エ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知色や形、材料などの性質や働き、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>技意図に応じてバルサ材や、石粉粘土、芯材などの材料や彫刻刀や木工やすりなどの用具の特</p>	<p>発モチーフのぼしを持つ動勢を感じ取り、考えたことなどから主題を生成し、彫塑の表現形式の特性を生かし、モチーフの形体や色彩、空間などの造形要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p>	<p>態表 写実的な立体表現に関心を持ち、彫塑やミクストメディアの表現について理解すると共に、それらを生かした表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 彫塑作品や生徒の作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、</p>

性を生かしている。また、彫塑とミクストメディアの表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。	鑑彫塑作品や生徒の作品から造形的なよさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	作者の心情や意図と表現の工夫などについて考え、彫塑の見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
--	---	---

オ 題材の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	作品の鑑賞（1時間） ◆彫塑を中心とした作品鑑賞をする。 ・彫塑作品の見方や感じ方を深めるために、ICTを活用し、注目する造形的な要素を焦点化して彫塑作品などを鑑賞し、感じたことや考えたことを、ワークシートにまとめ、グループで共有を行う。 ・題材の目標や作業の手順などを確認し、制作の見通しを持つ。 ・モチーフのにぼしを選び、アイデアスケッチをする。	●知 ―― ↓	●鑑 ―― ↓	●鑑態 ―― ↓	活動の様子、発言の内容、ワークシート 【指導上のポイント】 この鑑賞の創造活動は、「創造的に表す技能や発想や構想に関する学習を深めるための活動」である。 単に表現のために表面的に作品を鑑賞するのではなく、「作者は、どのような意図を持って表現しているのか」という視点を持てるようにする。そのために、注目する造形的な視点を「動勢を捉えること」に絞って鑑賞し、彫塑作品への見方や感じ方を深める。作品やモチーフの形を造形的な視点でとらえ、制作の意図や工夫について考え発想や構想の活動に生かすことができるよう発問やワークシートを工夫する。 【指導上のポイント】 対話的な学習活動の視点を基に、作品の第一印象などを、ICTを活用してリアルタイムで共有するなどして意見を述べやすい環境を整える。個人の意見をまとめる時間をとり、考えを持たせてから、グループで意見共有を行い、考えを広げる。また、効果的な言語活動にするために、グループワークでの、机の向きや机上の状態などの環境や説明の仕方等の例を示すことも大切である。 【知の評価のポイント】 鑑賞を通して、焦点化した造形の要素の働きを理解できているかは、意図を持って動勢のあるモチーフを選んでいるかを実現状況として見取り評価する。 【鑑の評価のポイント】 ワークシートの記述や発言の内容から、見方や感じ方を深めているかどうかを評価する。 【鑑態の評価のポイント】 生徒が動勢を捉えるために造形の要素に着目して、主体的に見方・感じ方を深めようとする意欲や態度を高められるように、作品や関連の写真資料の提示の順番など鑑賞活動の内容を工夫し、その姿を活動の様子や発言の内容、ワークシートから見取り評価する。
2	2 3	発想や構想（2時間） ◆モチーフを観察し、動勢を捉え感じ取ったことなどから主題を生成する。 ・アイデアスケッチを通して、生成した主題を基に、スケッチを行い、ミクストメディアを用いる箇所を検討する。	●知 ―― ↓	●発 ―― ↓	●鑑態 ―― ↓	活動の様子、ワークシート、アイデアスケッチ 【指導上のポイント】 生徒が主体的に主題を生成しやすくするため、題材の終了後に自身の考えなど変容を読み取ることができるよう、ワークシートの内容や構成を工夫する。 【指導上のポイント】 ミクストメディアを用いる箇所は、モチーフの形の変化が複雑で、うねりやねじれが生じて動勢を

			<p>—— ○表</p> <p>—— ○表態</p>	<p>表現するために重要な箇所である。粘り強く造形を追求するために、削ったり付け足したりすることの自由度が比較的高い粘土の可塑性を生かし動勢の表現をすることも意識させる。</p> <p>【指導上のポイント】 アイデアスケッチでモチーフの形をとらえきれない生徒には、粘土で大まかにとらえる作業などの手立ても工夫する。</p> <p>【発】の評価のポイント 前時に着目した動勢を捉える視点で、モチーフを観察し、造形的な美しさや、木彫やミクストメディアの技法の特性を生かして、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているか、アイデアスケッチや活動の様子から評価する。</p>
3	4 5 12	<p>制作（8時間） ◆発想や構想したことを基に、創造的に表す。 ・アイデアスケッチを基にバルサ材の特性やミクストメディアの技法を生かして、彫塑の表現方法を工夫し、主題を追求して作品を完成させる。 ・制作の途中で中間鑑賞を行う。主題に迫ることができているかという視点で、作品を相互鑑賞し、客観的な視点やアドバイスを参考にして、制作に生かす。</p>	<p>●技 —— ↓</p> <p>—— ○技</p>	<p>●表態 —— ↓</p> <p>—— ○表態</p> <p>活動の様子、制作途中の作品、ワークシート</p> <p>【指導上のポイント】 見通しを持って制作を行うことができるように、導入時に、バルサ材や石粉粘土の特性や木目による彫り方の違い、材料による技法の違いや、用具類の特徴や使い方や手順を丁寧に説明する。また事故防止の観点からも用具の配置等の環境整備を行う。</p> <p>【指導上のポイント】 制作の途中で作品の相互鑑賞を行い、主題が追求できているか確認をさせる。</p> <p>【技】の評価のポイント 作品制作での技術の有無ではなく、モデリングとカービングの技法の違いを理解し、制作の見通しを持って手順を考え、意図に応じて道具や材料の特徴を生かして表現方法を工夫して主題を追求して創造的に表現しているか、制作途中の作品やワークシート、活動の様子から見取る。</p> <p>【態】の評価のポイント 生徒が主体的に制作に取り組み、造形的な視点を意識しながらより良い表現を目指して試行錯誤している姿や、技能を身に付けようとする意欲を発揮している姿をワークシートや毎時間の振り返り、記録した活動の様子から見取る。</p>
4	13	<p>鑑賞（2時間） ◆完成したお互いの作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことなどから根拠を持って批評し合う。</p>	<p>●知 —— ↓</p> <p>●鑑 —— ↓</p> <p>●鑑態 —— ↓</p> <p>—— ○鑑態</p>	<p>活動の様子、ワークシート</p> <p>【指導上のポイント】 題材を通して造形的な見方・考え方を働かせ、他者の作品からだけでなく、彫刻作品や身の周りのもののよさや美しさ、最初に着目した動勢をどのような意図を持って表現しようとしているか考え、見方や感じ方を深められるよう鑑賞の活動やワークシートを工夫する。</p> <p>【指導上のポイント】 本題材で着目した動勢は、次の題材の表現でも活用する造形的な視点になる事を示しておく。</p>
		<p>授業外：題材の終了後</p>	<p>○知 技</p> <p>○発 ○鑑</p>	<p>ワークシート、アイデアスケッチ、完成作品、制作経過の写真、活動の様子の記録</p> <p>【技】の評価のポイント 技能は、制作が進む中で少しずつ作品に形となって現れるものであるため、完成作品とともに制作途中の作品から、創造的に表す技術の高まりを讀</p>

				<p>み取る。制作途中の作品に関しては、毎授業の振り返りとしてGoogle Classroomに提出された制作経過の写真を参考に行う。</p> <p>【鑑の評価のポイント】 発想や構想は、制作が進む中で更に深まることが多いので制作途中の作品や完成作品からも、形体や色彩、動きなどの造形要素の働きについて考えが深まり、主題や表現の意図など発想や構想が変化していく過程や高まりをワークシート、アイデアスケッチから読み取り評価する。</p> <p>【鑑の評価のポイント】 生徒自身がミクストメディアの彫塑制作の表現の経験を生かしながら他者の作品を鑑賞し、作者の意図や創造的な表現の工夫などについて表現の創造活動で学んだことを関連させて考え、見方や感じ方を深めているかどうかをワークシートで見取る。</p> <p>【知の評価のポイント】 本題材では、共通事項の造形的な視点から主題を生成することから、〔共通事項〕の内容を理解しているかモチーフ選びの意図を中心に、完成作品やアイデアスケッチ等から実現状況を見取って評価する。</p>
--	--	--	--	--

カ 授業実践例 (1時間目/12時間)

学習活動 (指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>本時のねらい 作品鑑賞やグループ活動を通じて、彫塑作品の造形要素の一つである動勢に注目し、見方や感じ方を深め、創造的に表す技能や発想や構想に関する学習を深めるための鑑賞の創造活動に取り組む。</p> <p>学習活動 導入 本時の学習の流れと、目標を確認する。彫塑作品を中心とした鑑賞をする。彫塑や絵画作品から動勢を捉えるために「うねり」を意識する。</p> <p>展開 <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞作品から感じ取ったことや、想像したことについて個人の意見をまとめる。彫塑作品や絵画、生き物の写真などから動勢を感じるポイントが、どのように表現につながるかを考えるためにワークシートに取り組む。 グループワークでは、自分と他の生徒の意見を比較して共通点等を見出して自分の考えを持ち、新しい見方や視点に気付き自分の考えを広げる言語活動をする。 モチーフは、にぼしの動勢に注目して選ぶ。 主題を生成するために、造形的な視点を働かせて、様々な角度かモチーフを観察し、アイデアスケッチをして、モチーフの良さや美しさを感じ取る。また、ワークシートの記述を基に生成する。 モチーフの片付けは、壊れやすいので扱いに注意して保管する。 </p> <p>まとめ <ul style="list-style-type: none"> 次回以降の流れを確認して、本時の活動内容、授業で気付いたこと・感じたことについて振り返りをする。 </p>	<p>【鑑】思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> 発言の内容 ワークシート <p>【鑑態】主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> 活動の様子 <p>【鑑】思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> 選択したモチーフ <p>【鑑態】主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> 振り返り </p></p></p></p>

研究実施校：神奈川県立横浜南陵高等学校(全日制)
 実施日：令和4年11月17日(木)
 授業担当者：井關 麻恵 教諭

学習過程の工夫・改善のポイント、生徒の様子

本研究は、鑑賞の創造活動を工夫し、新設された〔共通事項〕に示された知識を生徒に実感的に理解させることが、主体的な鑑賞の活動の取組につながると仮説を立て学習過程の実践を行った。

また、その鑑賞の創造活動を生かして表現の創造活動に主体的に取り組めるよう題材の指導と評価の計画の改善も行った。さらに、研究授業では、生徒の学習環境の整備をICTの活用も行い以下の視点で授業改善に取り組んだ。

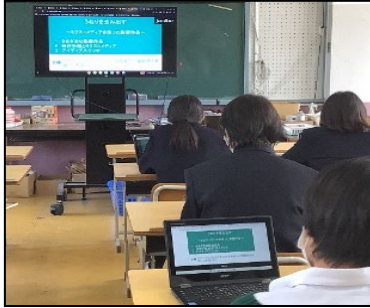


図1 目標確認の様子



図2 リアルタイム共有の様子



図3 マークをつけている様子

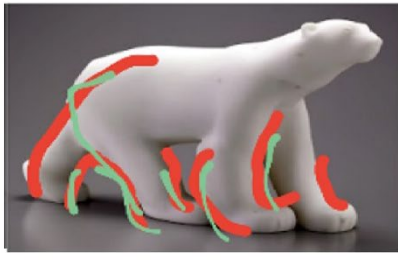


・主体的な鑑賞の創造活動にするための取組

本時に何をするか、目標は何かを明確にするためスライド画面を共有し生徒と確認をした(図1)。鑑賞では、感じたことや考えたことをまとめる個人の活動と、一斉に鑑賞し意見等を共有する活動それぞれを充実させるために、教室内の大型モニターで鑑賞する場面と、1人1台端末を使用し集中して鑑賞する場面と使い分ける等、活動にメリハリをつけた。研究授業では、生徒端末と共有しているGoogle スライドを教員主導で次のスライドに送ること等のコントロールできるGoogle スライド用のアドオン機能の「Pear Deck」を活用した。結果は、机上には生徒端末と教科書のみとなることも併せて、生徒が作品鑑賞に集中する学習環境を整備することができた。この機能は、アプリケーションを切り替えずに簡易的な質問への回答やリアルタイムでの回答の全体共有が可能になり、アイスブレイクに活用した(図2)。

・造形的な視点を持つことを意識させる学習活動の工夫

「うねり」ポイントを探そう!

自分が感じた「うねり」ポイントは **赤**、友達を感じた「うねり」ポイントは **緑** でなぞってみよう!

①

上の吹き出しにはなぞった部分に感じた「うねり」はどんなうねりなのかを書いてみよう!
(例: ゆるいうねり、ぐっと大きく曲がっているうねり…など)
 下の四角には感じたうねりがどのような動きや表情を生み出しているかを書いてみよう!
(例: のたのたゆっくりした足取りの動き…など)

②

ゆるい曲がり方

ゆるい曲がり方

③

ずるどい曲がり方

な動き

な動き

③

狩りをしているような動き

な動き

【生徒の記入内容一例】

- ① 『うねりを感じるポイントを探しなぞってみよう』…しっぽや足部分の曲線をマークしている
 - ② 『そのうねりはどんな様子ですか?』…「ずるどい曲がり方」
 - ③ 『そのうねりはどんな動きを感じさせますか?』…「狩りをしているような動き」
- ※他の生徒の回答…「警戒しながら狙っている」「はやくてしずか」など

図4 ワークシートの記述

対象の動勢を捉えることができるようになるために、彫塑作品や生き物の写真などからうねりを感じる造形のポイントを確認させて、それがどのような動勢の表現につながるかを考えさせるために、ワークシートに取り組みさせた。加筆や修正が容易にできるコンピューターのよさを生かして、描画が手軽にできるアプリケーション(Chrome描画キャンバス)を活用し、配信されたワークシートに色付き描線でマークや記述をさせた。造形の要素に意識をさせ、造形の要素の特徴に注目し、造形の要素が感情にもたらす効果を意識するなど段階を踏んで理解していくためにワークシートの設問を工夫した(図4)。

- ・対話を通して、作品の表現意図や思いについて考えを広げ、深める活動の取組

グループごとにマークを付けたポイント、感じた動勢を班ごとに意見の共有をするために、端末画像を自分の意見を述べる際の補助的な資料として利用した(図5)。全体の意見を集約し、彫塑作品の表現には動きが重要な造形の要素の一つであることを確認し、その視点を基に主題の生成や、表現の意図について考えていくことを共有した。スライド画面では意識することが難しい作品の奥行などに注意することを他の角度から撮影した写真で確認させる予定だったが、生徒の状況から判断し、次回以降の授業で行うことにした。

- ・制作の見通しを持つ活動

題材の制作手順をスライド画面で確認する(図6)。

- ・主題を生成しやすくし理解を確認する為の取組

モチーフの動勢に注目し、自分をもっとも動勢を感じるにぼしを探すよう指示し、主題を生成させる。動きへの意識を持たせたかを選んだモチーフの動勢などから判断し評価する(図7)。



図5 共有の様子

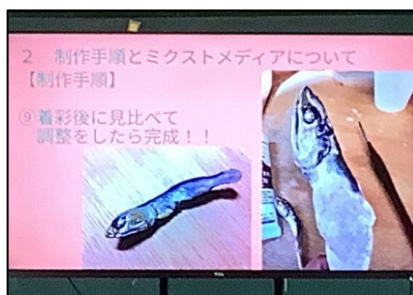


図6 制作手順を確認する



図7 モチーフ選出の様子

- ・振り返りを学習評価に生かすための生徒への問いかけの工夫

Googleフォームで本時の活動内容、授業で気付いたこと・感じたことの2点について振り返り、記入させる際に、次の授業につながることを記入しようと呼び、振り返りの視点を示す工夫をした。結果は、前の題材の同様の問いかけと比較しても、自身が感じたことや気付いたことを具体的に記述できるようになり、造形的な視点を意識させることで、目的に向かう意志的な側面が多くの子に見られた。教員も具体的な記述により学習のねらいが達成できたか評価して指導に生かしやすくなった。また、生徒にとっては、自らの学びを自覚できるような振り返りとなり、今後の学習活動の見通しが付きやすくなったといえる。

表1 生徒の振り返り内容の比較(活動を通じて気付いたこと感じたことという問いに対して)

活動を通じて気付いたこと感じたこと振り返り		Google Classroomの投稿より
前題材：『マチエールを探る』 ～4種の絵具を使った絵画表現～		本時
生徒A	卵黄を使って絵の具みたいな感じを作れるということを初めて知りました。卵黄を使って他の作品を作りたいと思いました。	自分の煮干しは結構縦にうねりがあるので、高い波みたいな感じで削っていきたくいです。煮干しは直線的な動きではなく、うねうねしているので、その特徴がつかめるようによく観察していこうと思いました。
生徒B	材質によって色が変わっていくのだなと気付いた。ジュッソのあの柔らかい感触が心地よかった。あれをうまく使いこなせばショートケーキを作れそうだと思う。 油絵と卵テンペラも作って塗ったりしました。	彫塑や絵画を見て、生きているという感じを作品に宿すにはうねりという曲線の大きさというか、いかにうねりがあるかという部分が重要なのだと気付いた。自分が選んだ煮干しは大きくうねっているの、実際に作る際には大きくカーブをしているにぼしを作れると良いなと感じた。

生徒Aは、前時では活動の内容の記録と感想の記述のみにとどまっていたものが、本題材では、自身の視点を持って感じたことや気付いたこと、授業内で身に付けた知識を生かし表現の意図を持つようとした姿が読み取れる。現時点での技能に関する知識を活用して、目的に向かう意志的な側面がみえる記述内容に変容した。

生徒Bも、本題材では、気付いた項目が増え、活動から学んだことを具体的に記述し、自身で学びの内容を整理し重点化することもできており、自分の視点を持って制作意図を持ち自己の学びへの調整をする側面もみられる(表1)。

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

研究授業では、生徒が学習内容を深く理解し、資質・能力が効果的に身に付くように以下の様な主体的・対話的な深い学びの視点を基にした過程の改善・工夫を協議した。

主体的な学びの視点では、生徒が見通しを持って題材に取り組めるように、その題材で、何を学び、何ができるようになるのか、その達成度を見るために、どのようなことをどのように評価するのか生徒自身が理解できるよう共有の仕方なども工夫する。また、振り返りなどの記述の記録やアイデアスケッチ、ワークシートを、実物に手描き等で行うのかGoogle Classroomなどを利用するのか活動の内容や場面、成果物の保管の方法を、「学びの蓄積」の見える化視点で精査し、生徒自身が振り返りやすくする改善も必要である。

対話的な学びの視点では、主に鑑賞の創造活動で、自分の考えを明確にして、広げられるような活動を生徒の実態に合わせて工夫する。そのためには、生徒が安心安全に自分の意見や他の生徒の意見を受け止める姿勢を作るため、対話をするための技術やマナーの指導も必要だが、活動が目的にならないように、言語活動を通して何を身に付けるのか明確にすることが重要である。

深い学びの視点では、主体的で対話的な活動を通して、表現と鑑賞の資質・能力を相互に関連させながら生徒が自ら学習し、自分としての意味や価値を作り出せるように、造形的な見方・考え方を意識することができる生徒を育てていく必要がある。それらをバランスよく学習過程に取り入れ、授業後の生徒にはどの資質・能力がどれくらい身に付き、育てたい生徒像にどれくらい近づいたのか、指導の効果を確認していくためには、指導と同時に評価の場面や方法を計画していくことが重要であり、更に根拠を持った改善の実施を続けていく必要がある。

3 その他の実践事例

以下、研究授業は未実施だが、推進委員の所属校での授業実践例として掲載する。4観点の目標、評価規準と3観点の目標の変容も比較していただきたい。

(1) 白山高等学校(全日制) 実施(8月~10月)

ア 科目名：美術I (普通科1年次)

イ 題材名：生き物を表現する~木版画~ 「A表現」(1)、「B鑑賞」(1)ア(7)、〔共通事項〕

ウ 生徒に身に付けさせたい力

鑑賞を通して、自分の感想や意見を持つこと、造形的なよさや美しさを感じ取り、他者の表現の工夫などについて考え、その意見や気付きなどを自らの表現に生かそうとし、主題を生成していく力を養っていききたい。

エ 学習過程の工夫と授業改善の手立て

アイデアスケッチや実際に制作に入った段階などで、互いの制作の状況を確認出来るよう、定期的に授業冒頭で全員の作品を鑑賞し、対話的な活動の時間を設定する。他者の作品を観ること、他者に作品を観てもらった活動の習慣付けをする。鑑賞後、自身の作品についても振り返り、今後の主題の確認や制作活動について目標を設定させるなどの見通しを持たせ、主体的に制作に取り組めるようにする。

オ 題材の概要…(鑑賞の場面：表現の工夫について考えるための鑑賞)

生き物の写真を基に単色刷りの木版画の制作を行う。グレースケール加工を施した写真を参考に明暗分割を行い、彫り目を工夫しながら陰影や濃淡の表現を追求していく。また、題材途中に鑑賞活動を行い、他者の制作の様子を確認すると共に、自らの作品について振り返り、制作の見通しを持って制作する。最後に完成した作品の相互鑑賞と振り返りを行う。

カ 授業の概要

鑑賞活動は、④、⑤の展開の導入部分に設ける。

- ① 導入 木版画についての説明、生徒の版画作品等を確認し、イメージを持つ。
- ② 発想・構想（1時間）用意されたグレースケール加工を施した生き物の写真資料から、作品の完成イメージを持ち参考にする写真を選ぶ。
- ③ 制作（2時間）写真に直接描き込む形で明暗分割を行い、版木にトレースを行う。
- ④ 鑑賞、制作（6時間）トレースした下絵を基に、生き物の特徴（毛並み、模様等）や全体の陰影・濃淡を彫刻刀で彫り出していく。**※導入で鑑賞を行う**
- ⑤ 鑑賞、制作:試し刷り（4時間）試し刷りし、再度彫る作業を繰り返す。**※導入で鑑賞を行う**
- ⑥ 制作:本刷り（2時間）本番の刷りをする。時間に余裕があれば、裏彩色も行う。
- ⑦ 振り返り、相互鑑賞をする。（2時間）

【鑑賞活動の内容】

- 1 全員の作品を鑑賞（作品は机の上に置き、自由に見て回れる形にする）
- 2 良いと感じた表現、参考にしたいと感じたことを各自メモする
- 3 2を通して、今日の目標を設定する

キ 実践の評価（成果と課題）

成果：

- ・題材途中に鑑賞の活動を設けることで、生徒一人ひとりが制作のヒントを見だし取り組むことが出来ていた。
- ・他者と作品を共有する時間を設けることで、鑑賞してもらおうという意識も含め、より良い作品にしようという意欲の向上が見られた。

課題：

- ・木版画の特性上、制作進度に差が出来るため、生徒によっては鑑賞の活動が制作のアプローチとして後手に回る様子も見られた。題材に合わせ、より適切な鑑賞の方法や指導方法、タイミングを検討していく必要がある。
- ・一人ひとりしっかり鑑賞に取り組む様子が見られたため、数名取り上げて発表を促すなど、全体で意見共有する場を設けてもよかった。

ク 今後に向けて（次年度の授業改善案・成果課題及び協議の内容を踏まえた改善案について）

- ・今回は短時間での鑑賞の実践であったが、生徒の様子や成果なども踏まえ活動の有用性を実感した。また、題材に合わせた鑑賞の方法や指導方法の検討など課題も見られたため、次年度以降はICTの活用も検討しつつ授業改善を行い、指導計画を練っていく。



図8 トレース後ペンで
塗り分け明暗を区別



図9 途中鑑賞の様子



図10 完成した作品

(2) 横浜桜陽高等学校（全日制） 実施（9月～10月）

ア 科目名：美術Ⅰ（1年次）

イ 題材名：音鳴る貯金箱～陶土による塑造～「A表現」(1)、「B鑑賞」(1)イ(ア)、〔共通事項〕

ウ 生徒に身に付けさせたい力

自己の考えや意見を述べることや、他者との対話を通して自分の考えを深めようと鑑賞活動に主体的に取り組もうとする態度、他者との対話を通して多様な視点で、見方・考え方を深め、造形的な視点で考える力を身に付けさせたい。

エ 鑑賞の資質・能力が身に付いたと思われる生徒の姿

- ・ 作品を何となく作るのではなくテーマや思いを持ち、それらを追求して制作活動をしている。
- ・ 鑑賞作品について自分の意見や感想を言える、他者の意見も受け入れ共有し考えを広められる。
- ・ 色々な作品に興味を持ち、本物の作品を鑑賞したいという姿勢を持つ。

オ 学習過程の工夫と授業改善の手立て

- ・ 制作手順が分かりやすい導入の工夫。
- ・ 生徒の制作意識を高めていくための鑑賞授業の充実。
- ・ 相互鑑賞では書画カメラなどで作品をモニターに映すなど、見せる工夫を行う。

カ 題材の概要…（鑑賞の場面：導入の鑑賞と相互鑑賞）

貯金箱を作陶する。作る楽しさを味わうだけではなく、主体的・対話的な鑑賞（3段階）を取り入れ美術作品について自分の考えを持ち、意見を述べ、周りの様々な意見に触れて自身の発想を広げ、美術文化について考える。導入では、表現の工夫を考えるための彫刻の鑑賞を行い、作品に対する作者の思いや工夫、彫刻の技法について学んでから制作を始める。完成後は、相互鑑賞として、生徒の作品を1点ずつ書画カメラでモニターに映し、形の説明、作品に込めた思いや考え、頑張った点を発表する。発表を終えてから自然乾燥させ、窯（800度）で焼成する。

キ 授業の概要

- ① 導入（2時間）彫刻の鑑賞と彫刻の技法についての学習をする。
- ② 発想・構想（1時間）生成した主題を基に、構想を練る。
- ③ 制作（5時間）構想を基に制作する。
- ④ 相互鑑賞（2時間）一人ずつ作品について発表する。
- ⑤ 焼成 じっくり乾燥（約1ヵ月）させてから約800度で素焼きして完成。

ク 実践の評価（成果と課題）

成果：

生徒が記入する振り返りの意見や感想から、授業導入の鑑賞の授業を充実させることが、より主体的・対話的で深い学びになるということが分かった。また、ろくろの上でくるくと回転する作品を見ながら生徒が自身の作品を解説し、鑑賞する側の生徒たちも映し出された作品に驚いたり歓声をあげたりして、それぞれ作品に興味を持ち両者が楽しむことができ、今までにない積極的な鑑賞会となった。発表方法の工夫も大切だと改めて感じる事ができた。

課題：

授業が主体的・対話的で深い学びになるように、また、生徒の制作意識を高めるために、鑑賞に力を入れる必要があると今回の授業で強く感じる事ができた。課題は、授業での鑑賞の取り入れ方はまだまだこれから研究の必要があるということである。

ケ 今後に向けて（次年度の授業改善案・成果課題及び協議の内容を踏まえた改善案について）

生徒が興味を持つテーマや課題、分かりやすい制作手順を示していく授業も大切ではあるが、鑑賞の授業を充実させることでより主体的・対話的で深い学びとなることを実感した。今後も生徒にとってより深い学びになるように鑑賞と制作両方充実した授業に取り組んでいく。



図11 焼成前の作品



図12 相互鑑賞のセッティング



図13 焼成後の作品

(3) 伊志田高等学校（全日制） 実施（11月～12月）

ア 科目名：美術Ⅱ（2年次）

イ 題材名：深いVTS（対話型鑑賞）の実践をしよう～鑑賞～

旧：「A表現」(2)イウ、「B鑑賞」アウ

新：「A表現」(2)ア、「B鑑賞」（1）ア(ア)イ(イ)、「共通事項」

ウ 生徒に身に付けさせたい力

自己の考えや意見を主張し、他者と対話を通して自分の考えを深めようとする鑑賞活動に主体的に取り組もうとする態度。そのために、美術史や美術作品に関する限定的・断片的な視点を、美術史や美術文化、作品などについて広く触れ、作品の表現の特徴やテーマ、工夫などの多様な視点から捉え、自己の意見や考えを持ち、他者との対話を通して考えを広げ、見方・考え方を深め、造形的な視点で考える力を身に付けさせたい。

エ 鑑賞の資質・能力が身に付いたと思われる生徒の姿

- ・ 作品や作者の個性に関心を持ち、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、分析し、自分の見方や感じ方を深めている。
- ・ 西洋美術における様々な作品が生まれた時代や民族、風土、宗教などによる表現の違いや共通性等に気づき、そこから考察し、西洋美術の文化について理解しようとしている。

オ 学習過程の工夫

- ・ VTS（Visual Thinking Strategy:対話型鑑賞）の実践によって、作品のよさを感じ取り、多様な視点から考え見方・感じ方を深めることができる資質・能力を着実に育むために、スモールステップで授業を配置した。
- ・ 最終的に、生徒が自然と様々な美術の分野に触れることができる機会となるよう学習過程を工夫し、作品等に興味や親しみを感じられるようなICTの活用も工夫した。
- ・ 主体的な学びとなるよう、作品や作者に関心を持てるように各時代の西洋の美術作品を生徒一人につき1作品担当をさせて、調べ学習を行った。その作品についてのプレゼンテーションや、クイズの作問を行い、目的意識を持って学習に取り組めるようにした。聞き手が作品鑑賞や他の生徒の意見や考えを能動的に受け止められるように、プレゼンテーション発表者は、聞き手の印象に残るようスライドや発表方法の工夫を指導することや、聞き手が相互鑑賞後、内容に関係するクイズに回答する場面を設定する工夫をした。
- ・ 作品から様々なことを感じたり、考えたりする力を高めるために、他教科の学習活動を例とした体験を行い、美術史の知識の有無に関わらず作品から読み取ることの大切さを学ぶようにした。表現の特徴やテーマ・工夫などを、多様な視点から捉え、自己の意見や考えを持ち、他者との対話を通して視野を広げ、更に学びを深めるために、対話型鑑賞を行う。

カ 題材の概要

対話的な鑑賞活動を行うために、生徒が美術作品に対して見方や感じ方を持つ機会として、西洋美術史のアルカイック期～シュールレアリスムまでを対象に25作品の鑑賞を行う。一人1作品について、調べた内容を中心に、4分間程度のプレゼンテーションを行う。相互鑑賞を通して、クラスの生徒の人数分、計25作品を鑑賞する。社会科での写真資料を読み取る学習活動では、交差点の写真をもとまった時間観察し、事故防止のために工夫されていることについて考え、発表したり、国語科の鑑賞活動では童謡『七つの子』の歌詞を取り上げ、見えない部分を想像させる発問や、二者択一の発問をして自己の考えを持たせ、意見交換をする学習活動を行い、それらの取組を応用し、VTS(対話型鑑賞)で主体的に対話的な深い鑑賞活動を実践する。教員がファシリテーターとなり他の生徒と感想や意見を共有させる。生徒が、作品について、どうしてそのように感じたのか、そこからどのように考えたのか自己との対話を通して、考えを整理し広げ深めることができる。

キ 授業の概要（10時間）

- ① 導入（4時間） 担当作品の解説のプレゼンテーション資料と、クイズを作成する。
- ② 鑑賞（3時間） スライドや発表方法を工夫し、プレゼンテーションによる相互鑑賞を行う。
- ③ 展開1（1時間）クイズアプリKahoot!を用い、全員が回答者としてクイズを体験する
- ④ 展開2（1時間）写真資料の読み取りと詩の鑑賞の体験をする。
- ⑤ 鑑賞（1時間） VTSを実践する。対象の作品を10～15分間程度鑑賞し、ファシリテーターの教員とともに他の生徒と感想や意見を共有する。

ク 実践の評価（成果と課題）

成果：

導入の鑑賞では、他の生徒に向けて印象に残るように、調べた内容を精選する活動を通して、作品研究や鑑賞の創造活動に自分事として取り組むことができ、見方や感じ方を主体的に深めることができた。作品や作者の意図や工夫を調べた内容と自分なりに結び付けたりし、深めた見方や考え方を他の生徒に生き生きと発表したりする姿がみられた。さらにこれまでの「デザイン」の領域での既習事項を活用し、造形的な視点を持ったスライド資料の作成をすることができた。

課題：

現時点では、対話的な鑑賞を行うためのスモールステップを踏んでいる段階なので、各活動に対して指導に生かす評価を基に対話的な鑑賞の実践にむけ改善しながら準備をしている。実践後に、自己の考えや意見を主張し、他者と対話をして考えを深めようとする等の主体的に学ぶ姿勢が身に付いたか、最終的に評価していきたい。

ケ 今後に向けて（次年度の授業改善案・成果課題及び協議の内容を踏まえた改善案について）

また、次年度に向けた指導に生かす評価は、生徒との対話の場面も活用し、評価場面の設定についても検討していく。

作品分担	出席順に時代順で割り当て
17.新古典主義	ダヴィッド 「サン＝ベルナルド峠を越えるゴナバルト」
18.ロマン主義	ジェリコー「メデューズ号の筏」
19.レアリズム	クールベ「画家のアトリエ」
20.バルビゾン派	ジャン＝フランソワ・ミレー「晩鐘」
21.印象派	クロード・モネ「印象・日の出」
22.キュビズム	ピカソ「アビニョンの娘たち」
23.ダダイズム	マルセル・デュシャン「泉」
24.シュルレアリスム	マグリット「イメージの裏切り」
25.抽象表現主義	カンディンスキー「コンポジションVIII」

図14 時代ごとの作品一覧



図15 生徒の説明スライド

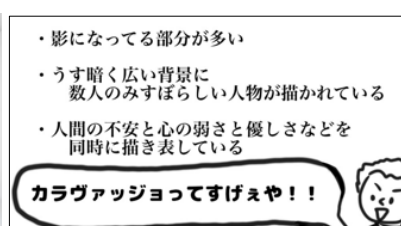


図16 生徒の説明スライド

(4) 鶴嶺高等学校（全日制） 実施（9月～10月）

ア 科目名：美術Ⅰ（1年次）

イ 題材名：マイデザインエコバッグ～ステンシルプリント～

「A表現」(2)、B「鑑賞」(1)ア(イ)、〔共通事項〕

ウ 生徒に身に付けさせたい力

鑑賞を通して色の特性や孔版画表現における材料の特質や技法について知り、造形の要素などに着目し多様な視点を獲得させることで、より説得力のある表現活動へつなげ、基礎・基本的な技能の向上を目指す。

エ 鑑賞の資質・能力が身に付いたと思われる生徒の姿

好き嫌いなどの感情や印象だけに左右されずに、作品の情報に基づいて客観的に鑑賞することができる。またそれを踏まえて自分なりに作品の解釈ができる。

オ 学習過程の工夫と授業改善の手立て

- ・題材の始まりに、技法等が関連する美術作品（バンクシーなど）を鑑賞させる。鑑賞では作品を観るだけでなく、本題材で取り扱うステンシル（孔版画）の表現の特徴や技法、インク等の材料の特質などについて同時に伝えることで、今後の表現活動を俯瞰し見通しを立てながらアイデアを発展させていくよう働きかける。
- ・作品完成後、自分の作品について発表を行い、作品を相互鑑賞する時間を設定する。自分の作品について他者に分かりやすく情報を伝え、発表を基に他者の作品を自分なりに解釈していく活動を通して、根拠を持って美術の表現・鑑賞活動を行う力を養う。

カ 題材の概要…（鑑賞の場面：題材途中の鑑賞）

「自分」を表現するためのシンボルマークをデザインする。そのシンボルマークを、ステンシルの技法を活用して布バッグにプリントし、オリジナルのエコバックを作成する。完成した作品について、グループで鑑賞する。

キ 授業の概要

- ① 導入(1時間) 題材に関連する作品の鑑賞、技法についての学習する。
- ② 発想・構想(3時間) シンボルマークをデザインし、色鉛筆で着色する。
- ③ 制作(1時間) 印刷の構成を考え、ステンシル用シートにマークをトレースする。
- ④ 制作(3時間) シートをデザインナイフで切り抜き版を制作する。
- ⑤ 制作(2時間) 色の重なり注意到しながら布バッグに印刷をする。
- ⑥ 鑑賞(1時間) 班内で一人ずつ発表を行い鑑賞する。鑑賞者は感想用紙を発表者に手渡す。

ク 実践の評価(成果と課題)

成果：

今までの題材でも班内での発表・鑑賞を行っていたが、感想用紙を発表者に手渡すのは初めての試みであった。各クラスの親交が深まり、生徒が不安なく活動を行える時期と判断してのことである。結果として、そうした空気感と、相手に感想を渡す意識を持ったことで、発表後、感想用紙を手渡すだけに留まらず、感想を直接伝えたり、発表者に作品について質問をしたりするなど、こちらが意図した以上に鑑賞活動が深まった様子であった。

課題：

40人クラスのため時間の関係上、一人ずつの発表が難しく班内での鑑賞活動に陥りがちな点があげられる。今後はGoogle Classroomなどを活用しながらクラス内全員分の作品を鑑賞したり、他クラスの生徒作品の鑑賞をしたりするなど、より多くの作品を鑑賞し、多様な価値に触れる機会を与えたい。

ケ 今後に向けて(次年度の授業改善案・成果課題及び協議の内容を踏まえた改善案について)

題材のまとめとしての鑑賞では、生徒に共通した実体験があるからか、他者の作品への関心がより高まる様子が見受けられた。こうしたタイミングと環境を生かしながら、より効果的な鑑賞活動を模索し授業改善していきたい。



図17 生徒作品表面

図18 図17の裏面

図19 生徒作品表面

図20 図19の裏面

(5) 寒川高等学校(全日制) 実施(10月~11月)

ア 科目名：美術Ⅱ(2学年)

イ 題材名：パブリックアート～抽象彫刻～「A表現」(1)(3)、「B鑑賞」(1)イ、〔共通事項〕

ウ 生徒に身に付けさせたい力

課題の目的や見通しを明確化させる必要がある。ICTの利活用については、2学年は共用の1人1台端末があり、これを活用した授業を進めている。課題の目的や見通しを明確化させる造形的な見方・考え方を働かせ、表現や鑑賞活動に取り組み、多様な価値観についての理解を深めることを身に付けさせたいと考えている。

エ 鑑賞の資質・能力が身に付いたと思われる生徒の姿

意図に応じて制作に臨み、自身や他者の作品の良さを捉え、見方・考え方に基き根拠を持って相手に伝えたり、多様な価値観についての理解を深めたりする姿。

オ 学習過程の工夫と授業改善の手立て

- ・抽象彫刻(木材のカービング)の制作を通じて「抽象」という言葉の本来意味している視点を持たせるとともに、素材や工具などの特性を生かし、意図に応じて発想や構想を具現化することを促す。
- ・単なる彫刻作品の制作とせず「パブリックアート」の想定とし、完成作品の画像加工を通じて、作品のスケールや設置する場所等も設定し、他者や環境も踏まえた表現を考えさせる。

カ 題材の概要…(鑑賞の場面：導入の鑑賞と相互鑑賞)

「抽象彫刻」として制作した作品と、任意で選んだ背景画像を合成する。どのようなコンセプト(テーマや目的)で、どのようなところに作品を設置するのかを再度確認しながら、合成した画像を通じて発表を行う。他者の意見や感想をフィードバックし、振り返りを行う。

キ 授業の概要

- ① 導入（1時間）「抽象」という言葉の意味や使われ方、対義語等について調べる。
- ② 導入（1時間）調べたことを手掛かりに、彫刻作品について、「抽象-具象」の尺度、度合について、理由も含めて自分なりに分類する。
- ③ 展開（1時間）コンセプト（テーマ・目的）や作品の設置場所も含め、アイデアスケッチとして制作の構想を練る。
- ④ 制作（8時間）彫刻作品を制作する。
- ⑤ 制作（3時間）Chromebookで彫刻作品の写真と背景画像を合成する。
（ソフトはibisPaintを使用）
- ⑥ 鑑賞（2時間）発表・フィードバック・振り返りを行う。

ク 実践の評価（成果と課題）

成果：

「抽象」ということばを手掛かりに、テーマと形体の関係や、素材の性質を踏まえた形の検討を行うことができた。また、パブリックアートと想定し、作品のスケール感や設置場所も含めて構想することで、鑑賞者を想定し、作品と環境の関わりについても考え、制作・鑑賞に臨むことができた。作品写真を背景画像と合成することで、作者の構想を視覚化することができ、鑑賞時の発表（説明）や振り返りにおいてイメージの共有がスムーズになった。併せて、評価においてもスムーズに目的達成の度合いを見取ることができた。

課題：

「抽象彫刻」や「パブリックアート」を身近なものとして認識していない生徒も見られた。発想や構想段階で判断に迷う生徒も見られた。使い慣れないソフトを操作することに苦労していた。操作上の不具合もあった。Google Classroomを介して完成画像を提出させたが、データの保存やアップロードなども含め、詳細な説明を要した。

ケ 今後に向けて（次年度の授業改善案・成果課題及び協議の内容を踏まえた改善案について）

画像加工（背景をつけること）は、作品単体では伝わりにくい作者のテーマやコンセプトを鑑賞者に視覚的に伝えることに対して効果的であった。鑑賞とそのフィードバックは、主観と客観の見方・考え方の違いや歩み寄りの表出が見られるので、今後もそうした場面を継続して設定していきたい。



図21 抽象彫刻



図22 画像加工の例



図23 画像加工作業

芸術（書道）

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

意図に基づいて作品を構想し、主体的に表現を工夫する学習過程の実践

(2) 研究のねらい

臨書学習で身に付けた行書の運筆、用筆や多様な字形などの知識と技能を生かして創作活動を行う。生徒個々が制作意図を明確にし、その意図に基づいた表現方法を工夫する。そのために、効果的なワークシート（制作プリント）の作成やICTの効果的な活用方法について検討する。併せて指導と評価の在り方について考える。

2 実践事例

(1) 単元指導計画

ア 科目名：書道 I

イ 単元名：漢字の書（行書） 四字熟語を色紙に書く

ウ 単元の目標：制作意図を明確にし、その意図に基づいた表現方法を工夫する。

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【A表現】 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと行書を関わらせて理解している。(知識) ・古典の線質、字形や構成を生かした行書の表現の技能を身に付けている。(技能) 【B鑑賞】 線質、字形、構成等の要素と表現効果について理解している。	【A表現】 意図に基づいた表現について構想し工夫している。 【B鑑賞】 古典や創作作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	【A表現】 意図に基づく表現、行書の特質に基づく表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 【B鑑賞】 書のよさや美しさを味わい、作品の価値とその根拠について考えながら、鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。

オ 単元（題材）の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	○行書の特徴を確認する。 ○選文：四字熟語を決定する。 ・重点項目：言葉の意味と色紙形式に合う字形を考えて選文する。 ○「表現したいイメージ」を選択し制作意図を明確にする。 ○字典を用いて、鉛筆で行書の字を写す。	●			【知識（表現）：評価のポイント】 行書特有の字形や用筆・運筆の特徴を理解している。
	2	○制作意図に基づいた表現を工夫し草稿を作る。 ○行書の特徴を確認しながら毛筆で練習する。 ○「途中経過の振り返り」を制作プリントに記入する。 ○制作プリントと途中経過の作品を提出する。			●	

2	本時	3	○制作意図に基づき、前時の作品を自己 批正する。 ○自己批正した内容に基づき色紙サイ ズの紙に練習する。				
		4	○作品の意図を説明し、相互鑑賞する。 ○相互鑑賞した内容に基づき作品を見直 す。 ○練習を重ねる。 ○色紙に清書する。落款・押印。	○	○	●	【思（表現）：評価のポイント】書の表現効果について工夫しているかを制作プリントから評価する。 【主（表現）：評価のポイント】制作意図に基づいて表現を工夫しているかを制作プリントから評価する。 【主（表現）：評価のポイント】途中経過の作品と清書から作品の変容を見取り、更に制作プリントから、粘り強く練習したり、作品を改善していこうとしたりする態度を読み取り評価する。 【技能（表現）：評価のポイント】行書特有の字形や用筆・運筆など創造的な表現技能を身に付けているかを清書作品から評価する。
3		5	○清書作品を鑑賞し、Google Classroom のGoogle フォームに各作品から感じる イメージを回答する。 ○制作プリントに振り返りを書く。	○	○	○	【知識（鑑賞）：評価のポイント】鑑賞の回答により、表現効果について理解しているかを評価する。 【思（鑑賞）：評価のポイント】鑑賞の回答により、創作した作品の価値と根拠について理解しているかを評価する。 【主（鑑賞）：評価のポイント】鑑賞の回答により主体的に鑑賞活動に取り組む態度を読み取り評価する。

カ 授業実践例（3・4時間目／5時間）

学習活動（指導上の留意点を含む）		評価の観点 （評価方法）
導入	・本時のねらいを伝える。	
展開1	・前時の作品とプリントを見て、制作意図を確認する。 ・制作意図に基づき、前時の作品を自己批正する。 ・自己批正した内容に基づき、色紙サイズの紙に練習する。	制作意図に基づいて表現を工夫しているか（観察）
展開2	・3名で相互鑑賞する。（制作者は制作意図と表現の工夫を説明する。鑑賞者は作品を見ながら改善点を伝える。） ・相互鑑賞後の見直しを作品と制作プリントに記入する。	相互鑑賞した内容を生かし作品を見直そうとしているか（観察）
展開3	・相互鑑賞を生かし作品を見直す。 ・練習を重ねる。 ・色紙に清書する。落款・押印。	制作意図に基づいて表現を工夫しているか（清書作品）

まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 制作プリントに振り返りを書く。 次時（作品鑑賞）の説明をする。（Google フォームに各作品から感じるイメージを回答する。） 	意欲的に制作活動に取り組んだか（制作プリント）
-----	--	-------------------------

研究実施校：神奈川県立港北高等学校(全日制)
 実施日：令和4年11月4日(金)
 授業担当者：関口 奈緒美 総括教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア 主体的・対話的で深い学びの工夫

本単元は、「生徒個々が制作意図を明確にし、その意図に基づいた表現方法を工夫する」ことを、主たるねらいとしている。

「制作プリント」（図1）により、学習の流れを把握させ、「表現したいイメージ」を提示し生徒に選択させることで制作意図を明確にさせた。さらに、「相互鑑賞」を取り入れることで他者との対話により途中経過の作品の見直しをさせ、学びを深めさせていった。

本単元の学習の流れは次のとおりである。（以下の説明の○番号は、学習の流れの番号を示す。）

- ①行書の特徴を確認する。
- ②四字熟語を決める。行書の特徴を確認する。
- ③「表現したいイメージ」を選択し制作意図を明確にする。
- ④辞典を使って行書にする。
- ⑤制作意図に基づき、表現を工夫する。
- ⑥途中経過の振り返りをする。
- ⑦制作意図に基づき、前時の作品を自己批正する。
- ⑧作品の意図を説明し、相互鑑賞する。
- ⑨相互鑑賞により作品を見直す。
- ⑩色紙に清書する。制作の振り返りをする。
- ⑪Google フォームを使って作品を鑑賞する。

図1 使用した制作プリント及び生徒が記述した例

※生徒の創作意欲を高める工夫

- ②行書の学習（臨書）を始める時に、「創作において色紙に四字熟語を書く」と予告しておく（図2）。
- ④行書の学習（臨書）で身に付けた力を認識させる。「楷書との違いを見つけよう」
- ⑤1学期の学習（唐の四大家の楷書による倣書）で身に付けた力を認識させる。「線や字形によって、作品のイメージは変わるね」
- ⑩創作には、色紙やウチワ、画仙紙など、半紙以外の用材を使用する。

宿題「四字熟語選文候補」

行書制作 四字熟語 選文候補				
四字熟語	意味	制作意図	制作材料	制作日時
衝意天氣	意気、衝動、天を空とあけるほど、意気が盛んなこと。	天を空とあけるほど、意気が盛んなこと。	色紙	
晴電雷風天	晴れ、電光石火、雷、風、天。	雷、風、天。	色紙	
晴電雷風天	晴れ、電光石火、雷、風、天。	雷、風、天。	色紙	

図2 四字熟語を決める際に使用した制作プリント及び生徒が記述した例

⑦自己批評（図3）の意義

③表現したいイメージ（制作意図）、⑤制作意図に基づいた表現の工夫が作品に現れているか確認することができる。



図3 自己批評の様子と一例

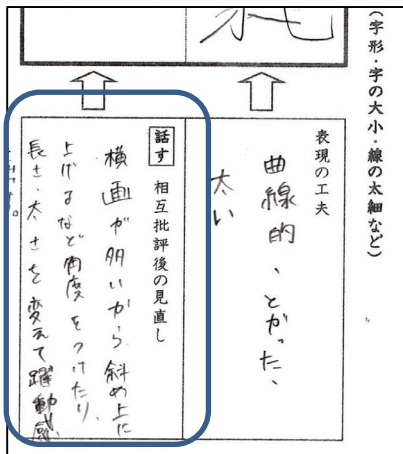
⑧相互鑑賞（図4）の意義

制作意図を鑑賞者に説明することで、制作意図に基づいた表現の工夫がどの程度達成されているかを制作者が再確認することができる。

鑑賞者からの意見を聞くことで、制作者が気付かない表現方法を見つけることができる（図5）。



図4 相互鑑賞の様子と一例



制作プリントの一部

「清書後の振り返り」（生徒の記述）から

自分で評価し、グループで話し合うことで、自分では気づけなかったところに気づけた。

図5 生徒の相互鑑賞後の見直しの一例

イ ①鑑賞におけるICTの活用

清書を終わったら、各自マグネットクリップを使い、壁面に展示した。清書後すぐに全員の作品を見ることにより、生徒たちに達成感が見られた。

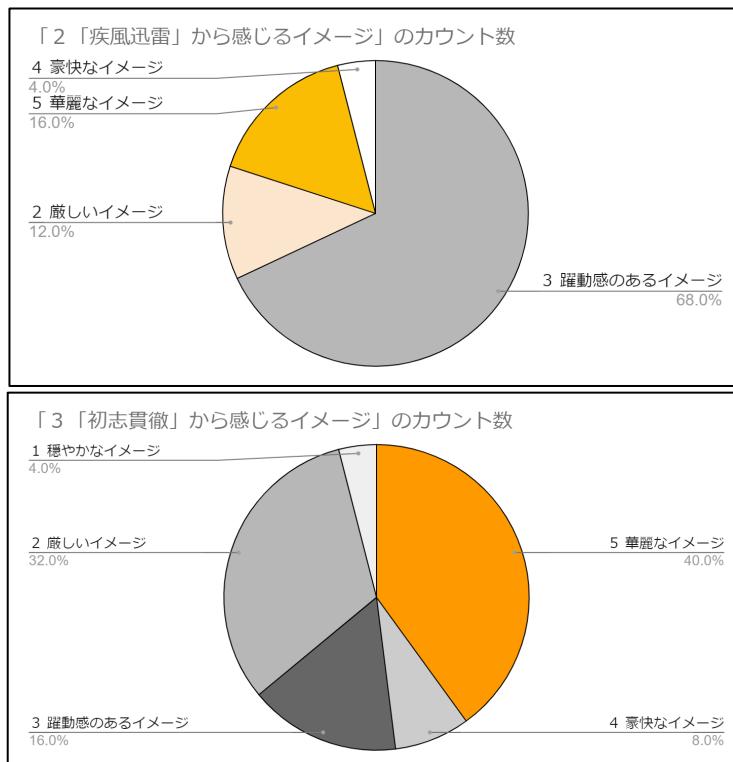
次時鑑賞の時間を設けて、全員が全作品について Google フォームに回答した。

鑑賞のポイントを「作品から感じるイメージを選択する」と「名品を三つ選び理由を述べる」の二つに絞り、一つ一つの作品をじっくりと鑑賞できるよう配慮した。回答は次の三つの方法で活用した。

- ①回答後、「作品から感じるイメージ」をグラフ化して示した(図6)。
- ②自分の作品から他者が感じたイメージを、個人票にして配付した。
- ③「名品」の投票結果を、投票した生徒が挙げた理由とともに、Google Classroomに掲載した(図7)。

Google フォームを使うことで、鑑賞の活動を他者と共有することができた。グラフや個人票から、「厳しく、豪快なイメージ」や「華麗で躍動感のあるイメージ」など、鑑賞者は創作作品に複数のイメージを感じることや表現の方法からだけでなく語句の持つイメージも鑑賞に大きく作用することなどの気づきがあった。

Google フォームを活用することにより、鑑賞学習の中で作品に対する他者の感じ方を知り、自己との対話を深め、今後の創作活動に繋げることができた。



制作者が選択したイメージ

2 「一蓮托生」から感じるイメージ	
厳しいイメージ	
厳しいイメージ	
厳しいイメージ	
厳しいイメージ	
躍動感のあるイメージ	
躍動感のあるイメージ	
躍動感のあるイメージ	
豪快なイメージ	
豪快なイメージ	
豪快なイメージ	
豪快なイメージ	
豪快なイメージ	
豪快なイメージ	
豪快なイメージ	
豪快なイメージ	
豪快なイメージ	
豪快なイメージ	
豪快なイメージ	
華麗なイメージ	
華麗なイメージ	
華麗なイメージ	

他者が感じたイメージ

図6 「作品から感じるイメージ」のグラフと個人票の一例

② 「一蓮托生」 厳しいイメージ	2
	2 はらいや字の太さで豪快な感じを表現しているから。堂々とした雰囲気を感じる。
	2 4つの字の雰囲気が統一していたから。
	2 一蓮托生 一画一画がしっかり太く書かれていた
	2 線が太くかっこいいから
	2 線のつながりと太さがイキイキとしているから
	2 太字で豪快な感じが伝わってきたから。
	14 2 文字に迫力があり止め払いなどがしっかりしていたため
	2 力強く華麗なイメージで意味とリンクすると思ったから。
	2 一蓮托生 / 「一」の字が小さく、「蓮」「托」の字が大きくなる所を、色紙サイズに上手く合わせていて、作品としての見栄えが良かったから。
	2 筆使いが上手くて豪快なイメージを忠実に表しているから。
	2番 全体的に力強いのにバランスがいいから
	2 墨が薄くなっていることもなく、強弱がある
	一蓮托生 2 全体的なバランスが良くパッと見た時に綺麗な感じが伝わってきたから。



図7 「名品」としての投票結果と「名品」に選ばれた作品の一例

ウ 評価のポイント

清書作品と制作プリントにより、行書の特徴に対する理解や表現技能の習得などを読み取り「知識・技能」を評価する。制作プリントと途中経過の作品により、制作意図に基づいた表現の工夫などを読み取り「思考・判断・表現」を評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」は、途中経過の作品と清書から作品の変容を見取り、さらに制作プリントから、粘り強く練習し、途中経過の作品を見直していこうとする態度を読み取り評価する。

(3) 研究協議（ア、イをテーマとして研究協議を行った。授業改善の方法などの意見を紹介する。）

ア 「制作プリント」による指導について

- ・前時から本時までの間に、指導者のコメントを入れる欄を設けることで、誤字を正し、行書以外の書体が用いられている草稿に対する指導をすることができる。→改善①
- ・プリントに記入された「表現の工夫」を集約して紹介することで表現方法の共有ができる。→改善②
- ・草稿、作品、プリントをポートフォリオにすると生徒が見直すことができる。
- ・生徒に声掛けをすることで、「表現の工夫」、「相互鑑賞後の見直し」などの欄への記入漏れを防ぐことができる。→改善③

イ 途中経過の作品を見直し、制作意図に基づいて表現を更に工夫するための「相互鑑賞」について

- ・相互鑑賞の流れを可視化して伝え、スムーズに意見を述べられるようにする。
- ・相互鑑賞する上でのポイントは「作品を制作者が表現したいイメージに近づけるためのアドバイス」であることを伝え、どのように発言するか文型を示すと話しやすくなる。→改善④

(4) 研究協議を踏まえた改善について

今年度「書道Ⅰ」の講座は5講座ある。研究授業の講座は本単元を実施した最初の講座であったので、他の4講座において、研究協議で挙げられた授業改善の方法を実施した。

ア 「制作プリント」による指導について

改善① 提出された制作プリントの「辞典を使用して行書にする」の欄に指導者が補正・助言を書き入れることで、辞典から生徒が選択した楷書や特殊な字形の行書を排除し、多様な行書の形を示すことができた。また、「自己修正」時に各文字を一筆書きでなぞらせることで、筆脈を意識させることができた。

改善② 「表現の工夫」について、点画・用筆・字形・傾きに分けてそれぞれ例を示し、どのような工夫が効果的かを考えさせた。

改善③ 「表現の工夫」、「相互鑑賞後の見直し」の欄を記入する声掛けを行った。

イ 途中経過の作品を見直し、制作意図に基づいて表現を更に工夫するための「相互鑑賞」について

改善④ 助言をする生徒が話し始めやすくするために、最初に「色紙への文字の配置、落款の位置」を指摘し、次に「制作者が意図した表現の工夫が効果を挙げているか」という視点で助言をする、というように話す順番を示した。

(5) 教材研究の在り方の展望

行書学習の仕上げとして、創作「四字熟語を行書で色紙に書く」という単元を設定し自主教材を作り、長年扱ってきた。今回研究授業を実施するにあたり、指導主事の方々をはじめ、教育課程推進員の先生方、参観して下さった先生方の助言をいただき、この教材をあらためて丁寧に見直し、多くの改善点を見いだすことができた。また、今回「表現したいイメージ」を作品化することの難しさを生徒と一緒に体験し、生徒たちが創作に興味をもって取り組み、創作の楽しさや喜びを実感できるように教材を工夫する必要性を感じた。

芸術科目の指導者は学校に1名のみであることが多い。教材研究や授業改善に関する意見交換の場を設け活用していきたい。

外 国 語

1 研究テーマの設定

新学習指導要領においては、教育目標や内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱に基づき再整理された。したがって、「目標に準拠した評価」の確実な実施に向け、観点別学習状況の評価についても、資質・能力に関わる「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点に整理されることとなった。

このような背景の下、外国語部門では、これら育成すべき資質・能力のうち、学びを人生や社会にいかそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養に向けた指導と学習活動の在り方、加えて、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方を考え、実践することで、そのアプローチが言語学習にもたらす効果について分析し考察した。

「ゴールタスクを中心に据えた『主体的・対話的で深い学び』を促進する学習プロセスの工夫」と「自己調整学習を促進するポートフォリオの活用」の二つを研究テーマとして設定した。

2 各テーマの研究内容

(1) ゴールタスクを中心に据えた学習プロセスの工夫

「単元の目標」（「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の観点における単元の評価規準）の達成を見取るためのゴールタスクを単元指導計画の最後に設定し、「主体的・対話的で深い学び」を促す指導の工夫と学習活動を通して、どのように学習者の「自己調整学習」を促し、学習効果を高めることができるかを研究した。

(2) ポートフォリオの活用

言語学習の履歴を記録するポートフォリオがどのように「自己調整学習」を促し、どのように学習効果を高めるかという点を中心に研究した。ワークシートに従って、学習者は、自身の学習目標を設定した上で学習に取り組み、学習の過程を自己の観察に基づきポートフォリオとして記録し、自己評価・振り返りを行った後に新たな目標を設定していくという学習プロセスの構築を図った。

■ゴールタスクを中心に据えた学習プロセスの工夫

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

英語授業における「主体的に学習に取り組む態度」を育成する指導と学習活動

(2) 研究のねらい

「単元の目標」の達成を見取るタスクを単元指導計画の最後に設定し、「主体的・対話的で深い学び」を促す指導と学習活動を通して、どのように「自己調整学習」を促し、学習効果を高めることができるかを中心に考察する。

2 実践事例

(1) 単元指導計画

ア 科目名：英語コミュニケーション I

イ 単元名：Lesson 4 Changing Behavior in Unique Ways

(BLUE MARBLE English Communication I 数研出版)

ウ 単元の目標：

人々の行動を変える「仕掛け」やソーシャルデザインについて、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝え合うことができる。

エ 単元の評価規準 a：知識・技能 b：思考・判断・表現 c：主体的に学習に取り組む態度

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><知識></p> <p>・情報や考え、気持ちなどを理由とともに話して伝えるために必要となる語句や文を理解している。</p> <p><技能></p> <p>・身の回りや社会全体で起こる問題を解決する「仕掛け」やアイデアについて、情報や考え、気持ちなどを理由とともに話して伝える技能を身に付けている。</p>	<p>高校生が考える「仕掛け」アイデアコンテストで発表するために、「身の回りや社会全体で起こる問題を解決する『仕掛け』についての自分のアイデア」について、聞いたり読んだりしたことを基に話して伝えている。</p>	<p>高校生が考える「仕掛け」アイデアコンテストで発表するために、「身の回りや社会全体で起こる問題を解決する『仕掛け』についての自分のアイデア」について、聞いたり読んだりしたことを基に話して伝えようとしている。</p>

オ 単元の指導と評価の計画 ●指導に生かす評価 ○記録に残す評価

次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点			評価のポイント 指導上のポイント
			a	b	c	
1	1	<p>単元を通じた学習内容を把握する。</p> <p>単元の目標と学習計画をリフレクションシートに記入する。</p> <p>本文のテーマ(身の回りや社会全体において、人々の意識や行動が原因で起こっている問題とその解決策)について理解する。</p>				生徒が単元の目標を理解し、自らの学習過程を自覚的に捉えられるよう指導する。

2	2	Part 1のINPUT (本文の概要や要点の把握) ① Task 1…Q&Aにより本文概要を理解する。 (Listening→Reading) ② Words & Expressions Quiz…新出語の定義 (英文)を用いたクイズを行う。 ③ LOGIC FLOW…キーワードの穴埋めにより本 文の概要や論理の流れを把握する。 ④ 本文の音読練習を行う。	●		複数の学習活動を通して、本文の内 容について概要の把握から要点の 把握へと段階的に行うことで、本文 の理解を深めさせる指導を行うと ともに、その取組状況を観察する。
3	3	Part 1のOUTPUT (本文のリテリング活動) ⑤ リテリング準備メモの作成…要点やリテリ ングに必要なキーワードのメモを作成す る。 ⑥ Task 2…絵とキーワードを手掛かりに1文 リテリング活動を行う。 ⑦ ペアでのリテリングと相互評価を行う。 ⑧ リテリング録画映像の自己評価を行う。	●		Task 2では、文の暗唱とならないよ う指導するとともに、活動シートに 目標段階を示し、目標を持って取り 組ませる。 活動の様子の観察や、ワークシート の記述から取組状況を見取る。
4	4 5 9	第4、5時、第6、7時、第8、9時は、それぞれ本文のPart 2、3、4を第2、3時と同じ流れで行う。			
5	10	単元のゴールタスクの発表準備 【ゴールタスク】 「高校生が考える『仕掛け』アイデアコンテ スト」で発表するために、身の回りや社会全体で起 こる問題を解決する「仕掛け」についての自分の アイデアについて、聞いたり読んだりしたことを 基に話して伝える。 第3時(第5時、第7時)と同様の流れで、活動シ ートを用いて発表の準備メモを作成する。 録画に使用するパワーポイントに発表に必要な キーワードを記入する。			各 Part のリテリング活動と同じ流 れで行うことで、リテリング活動で 身に付けた知識や技能をゴールタ スクにおいて効果的に活用するこ とを意識させる。
6	11 本時	単元のゴールタスクの発表リハーサル 第3時(第5時、第7時)と同様の流れで行う。 ゴールタスク活動シートを用い、ペアによる相互 評価を行った後に、録画映像を用いた自己評価を 行う。	●	●	相互評価や自己評価を通して、改善 点等を分析させ、よりよい発表が行 えるよう指導する。 更に練習を積み重ねることを促す ため、自身の発表をパワーポイント で録画したものを後日提出させ評 価を行う。 授業内で録画したものは周囲の音 を拾ってしまうため、できるだけ静 かな環境で録画したものを提出す るよう指示する。
7	12	単元のまとめと振り返り リフレクションシートに記入する。			リフレクションシートの記述から、 単元全体の取組状況を見取る。 ポートフォリオの記述から、学習に 粘り強く取り組もうとする中で、自 らの学習を調整しようとする側面 を評価する。

カ 授業実践例 (11 時間目/12 時間)

学習活動 (指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
1. ゴールタスクの確認と本時の目標設定 (5分) 2. ゴールタスクの発表リハーサル (15分) 前時で作成した発表準備メモ(本文の概要や要点と本文のテーマに即した自分のアイデアの発表)を見ながら発表の練習をする。 3. ペアでの発表と相互評価 (10分) ペアでお互いに発表し、評価シートを用いて相互評価する。 4. 相互評価やコメントを参考に修正や発表の練習を行う。(5分) 5. 映像録画による自己評価 (10分) 自身の発表をパワーポイントで録画し、録画した映像を用いて自己評価を行う。 6. パワーポイント録画の提出方法を確認し、本時の振り返りを行う。(5分)	記録に残す評価は行わない。 b 高校生が考える「仕掛け」アイデアコンテストで発表するために、「身の回りや社会全体で起こる問題を解決する『仕掛け』についての自分のアイデア」について、聞いたり読んだりしたことを基に話して伝えている。(発表内容) c 高校生が考える「仕掛け」アイデアコンテストで発表するために、「身の回りや社会全体で起こる問題を解決する『仕掛け』についての自分のアイデア」について、聞いたり読んだりしたことを基に話して伝えてようとしていく。(発表内容)

研究実施校：横須賀市立横須賀総合高等学校 (全日制)

実施日：令和4年10月12日(水)

授業担当者：小坂 はつ実 教諭

(2) 11 時間目の授業にて使用したワークシート

ア ゴールタスクの実施要項

より具体的にコミュニケーションの場面を設定することで、生徒が自身のことと結びつけて考えやすく、主体的にアイデアを考えることが期待できる。

Lesson 4 Changing Behavior in Unique Ways

After Reading

1 年次生が「世の中をより良くするための仕掛けづくり」について学習したことを聞いた FLT の ■■■ 先生の声掛けて、来年アメリカで行われる「高校生が考える“仕掛け”アイデアコンテスト」に横須賀総合高校が出場することになりました。あなたは、その校内選考に参加します。審査員は FLT の ■■■ 先生です。

以下の実施要項をよく読み、あなたのアイデアを発表しましょう。

「高校生が考える“仕掛け”アイデアコンテスト」校内選考 実施要項

～ 身の回りや社会全体で起こる問題を解決する“仕掛け”について、あなたのアイデアを発表しましょう! ～

1. 発表内容

Lesson 4 の内容を簡潔に説明したあと、自分のアイデアを紹介する。以下の Step ①～④に従う。

※自分のアイデアに説得力を持たせるため、本文を読んでいない ■■■ 先生にも“仕掛け”の効果が分かりやすく伝わるように、各 Part で行ってきたリテリング活動を十分生かしましょう!

イ 本時の目標設定

目標達成リストを見ながら、リテリング、自分の意見、アイデアの各項目について A、B どちらの段階を目指すか目標設定をさせた。A 段階の表記にあるように、自分の言葉でまとめてリテリングしたり、自分の意見とその理由を具体的に表現したりできるように、各 Part のリテリングでも、同様の段階リストを示し、毎時間目標を設定させた。

★★★ Lesson 4 ゴールタスク活動シート ★★★

Goal: キーワードや絵・写真などの手がかりを元に、Lesson 4 の要点を第3者にも分かるように簡潔に話して伝えることができる。身の回りや社会全体で起こる問題を解決する“仕掛け”について自分のアイデアを話して伝えることができる。

【目標達成リスト】 練習を重ねて、A段階を目指しましょう!!

項目 \ 評価	A	B
リテリング	自分のアイデアを説明するために適切な具体例を挙げ、要点を過不足なく自分の言葉でまとめて伝えている。	自分のアイデアを説明するために具体例を挙げ、要点を過不足なくまとめて伝えている。
自分の意見	「仕掛け」に対する意見や考えとその理由を具体的に表現している。	「仕掛け」に対する意見や考えを具体的に表現している。
アイデア	アイデアが本文の内容を十分理解したのようになっており、アイデアの中身や効果を具体的に表現している。	アイデアが本文の内容を概ね理解したのようになっており、アイデアの中身や効果を表現している。

ウ ゴールタスクの相互評価・自己評価記入

ペアでの相互評価の際は、目標設定リストを参照しながら相手の発表を聞き、各項目でどの段階を達成できたか、相互に評価をする。何がよかった、もっとこうするとよいなど、具体的なコメントやアドバイスも書かせた。録画映像の自己評価の際は、相互評価での評価やコメントを参考に、よりよい発表ができるよう準備してから、パワーポイントで録画をさせた。その後、録画した映像を見て、ペアでの発表からの自身の変化を分析し振り返りを記述させた。

【Speaking Task 1】				
項目ごとでの評価を目指すか目標を立てた後、ペアで発表してみましょう！（1分半程度）				
Evaluation by your partner			Partner's name	Partner's comment
①リテリング（本文にある「仕掛け」の内容）	②自分の意見	③アイディア（自分の「仕掛け」のアイディア）		
1				
2				
3				

【Speaking Task 2】				
Speaking Task 1での Evaluation や comment を参考に、発表を録画して、録画したものを自己分析してみましょう！				
Evaluation by your partner			Partner's name	Partner's comment（何ができていた、できていなかった、次回の目標等を具体的に）
①リテリング（本文にある「仕掛け」の内容）	②自分の意見	③アイディア（自分の「仕掛け」のアイディア）		
1				
2				
3				

ペアでの相互評価、録画映像の自己評価は各 Part でも行ったので、生徒は計4回同様の活動をしてから、ゴールタスクに臨んだ。回数を重ね、活動の流れに慣れることで、より取り組みやすくなり、目標を達成することに集中できると考える。また、目標設定リストを用いて自己の目標を設定してからリテリング活動を行い、それが達成できたかについて相互評価と自己評価を繰り返す中で、自身の弱点を発見し克服しようという「自己調整する力」を養うことが期待でき、これらのことが、学習効果を高めることに繋がると考える。

エ ゴールタスクで提出するパワーポイント録画のスライド

授業中や自宅で発表練習を繰り返した後、パワーポイントの記録機能を使って自分の発表を録画し提出させた。スライド枠を与え、「I learned about *shikake* …」の下の欄と「My idea of *shikake* …」の下の欄に、各自必要なキーワードを記入し使用させた。生徒は、マイクとビデオを ON の状態で録画することで、自分の発話を聞き、発表しているときの表情や視線を見て、自身の達成度や弱点を客観的に知ることができる。

②

I learned about *shikake* ...

shikake = flexible approach
→change people's behavior
solve social problems
example: toy box with a basket ball hoop

リテリングの内容を表すイラスト

My idea of *shikake* ...

stars on the ceiling
→children go to bed early
= fun and enjoyable *shikake*

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と学習活動のポイント

この単元は、人々の行動を変える「仕掛け」やソーシャルデザインといった生徒にとっても身近な内容を扱っている。各 Part の導入時には、具体例を示して、何のために作られた「仕掛け」なのか予想させることで、テーマに対する興味を引き出す工夫をした。また、単元のゴールタスクとしてリテリングだけでなく、生徒自身に「仕掛け」のアイディアを考えさせることで、学びを深める工夫をした。主体的な学び、対話的な学び、深い学びを実現させるための具体的な場面や活動をア～ウのように設定した。

ア 主体的な学び

リフレクション

単元の最初に、前単元の振り返りをもとに今回の単元の目標とそれを達成するための学習計画を立てさせた。単元の終わりに、目標と計画の達成度を自己評価し、自己の学習を振り返って課題だと思ったことや、それを解決するために具体的に取り組むことを考えさせた。また、この振り返りを次の単元の目標設定に活用するよう指導した。

自己評価

各Partのリテリングで、目標設定リストを用いて設定した自身の目標に到達できたかを自己評価させ、単元の指導計画の最後に設定したゴールタスクのリテリングにおいて、単元の目標の達成に向け自身の課題を確認させた。Partごとに、リテリングの目標を立てさせ、自身のリテリングを録画し、自己評価を行う活動を行った。この録画による自己評価は、各Partのリテリングとゴールタスクで計5回行った。

イ 対話的な学び

相互評価

各Partのリテリングでペアで相互評価させた。お互いの発表から新たな表現を学び、表現の幅を広げるよう促した。また、自分とは異なる考えに触れることで、自身の考えをより深められるよう促した。

ウ 深い学び

自分の意見を伝える活動

身近な問題を解決する「仕掛け」について、自分のアイデアを話して伝える活動に取り組みせ、聞いたり読んだりした内容について、自身のことと結び付けて考えるよう促した。

(3) 結果の検証

ア 生徒の反応

① 実施方法：アンケート（4件法及び自由記述式）

「主体的・対話的で深い学び」を通して育成された力を、ゴールタスクで効果的に発揮することができたと生徒が実感しているかどうかを検証するため、10個の質問項目に答えてもらった。

② 調査人数：27名（英語コミュニケーションⅠ）

③ 調査時期：10月（本単元第12時）

④ 質問内容：質問項目1～8

「次の①～⑧の各活動は、今回のゴールタスクにどの程度役に立ったと感じましたか。」

①Task 1…Q and Aによる本文概要理解（Listening→Reading）

②Words & Expressions Quiz…新出語の英語で書かれた定義を用いたクイズ

③LOGIC FLOW…本文の概要や論理の流れを把握する穴埋め

④本文の音読練習…Repeating/Over Rapping/Shadowingなど様々な音読方法で練習

⑤リテリング準備メモの作成…Partごとの要点やリテリングに必要なキーワードのメモ作成

⑥Task 2…絵とキーワードを手掛かりに1文リテリング

⑦ペアでのリテリングと相互評価

⑧リテリング録画の自己評価

質問項目9 「今までの単元のリテリング(※)と比べて、より主体的に取り組めたと思う。」

質問項目10 「今までの単元のリテリングと比べて、リテリング力が伸びたと感じる。」

※今までの単元(Lesson 1～3)のリテリングでは、Partごとのリテリングを原稿にまとめ、ペアでお互いにそれらを読み合っていた。今回の単元のように、Partごとの活動の段階から目標設定リストを用いて目標を設定したり、リテリング準備メモを作成したり、相互評価や自己評価のような活動は行わなかった。

⑤ 結果

項目	質問 次の①～⑧の各活動は、今回のゴールタスクにどの程度役に立ったと感じましたか。	とても役に立った	役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった
1	①Task 1	7名(25.9%)	19名(70.4%)	1名(3.7%)	0名(0.0%)
2	②Words & Expressions Quiz	11名(40.7%)	13名(48.1%)	3名(11.1%)	0名(0.0%)
3	③LOGIC FLOW	10名(37.0%)	17名(63.0%)	0名(0.0%)	0名(0.0%)
4	④本文の音読練習	8名(29.6%)	16名(59.3%)	2名(7.4%)	1名(3.7%)
5	⑤リテリング準備メモの作成	7名(25.9%)	15名(55.6%)	4名(14.8%)	1名(3.7%)

6	⑥Task 2	9名(33.3%)	13名(48.1%)	5名(18.5%)	0名(0.0%)
7	⑦ペアでのリテリングと相互評価	11名(40.7%)	9名(33.3%)	5名(18.5%)	2名(7.4%)
8	⑧リテリング録画の自己評価	6名(22.2%)	16名(59.3%)	4名(14.8%)	1名(3.7%)

項目	質問	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
9	今までの単元のリテリングと比べて、より主体的に取り組めたと思う。	10名(37.0%)	12名(44.4%)	4名(14.8%)	1名(3.7%)
10	今までの単元のリテリングと比べて、リテリング力が伸びたと感じる。	8名(29.6%)	15名(55.6%)	3名(11.1%)	1名(3.7%)

(N=27 小数第2位を四捨五入)

○自由記述式回答（生徒の回答をそのまま記述）

質問項目7(⑦Speaking Task 1: ペアでのリテリングと相互評価)の回答の理由

「とても役に立った」「役に立った」の理由

- ・自分が思いつかなかった表現を知ることができた。
- ・ペアの助言や褒めが、自信につながったから。
- ・自分の言葉で情報を発信していく力がついたと思うから。
- ・人に評価してもらうことで自分では気づかなかったことに気づくことができたから。
- ・言い換え表現などをペアの人と確認して用いたりすることが出来たから。

「あまり役に立たなかった」「役に立たなかった」の理由

- ▲英語が苦手だからキーワードや絵だけじゃ英語が出てこなくて何を言ったらいいかわからず難しかった。
- ▲相手の人に任せてしまうことが多かったから。
- ▲難しくあまりできなかった。

質問項目8(⑧Speaking Task 2: リテリング録画の自己評価)の回答の理由

「とても役に立った」「役に立った」の理由

- ・自分の英語が他人から見たらどう見えるかがわかる。
- ・ゴールタスクと直結してくる内容で毎回話す練習にもなりとても効果があったから。
- ・活動の内容については良いと思ったけど授業内でのみの使用だったので自己学習でも用いたほうがより成長できるなど感じた。
- ・自己分析や振り返りを行うことで、次回への具体的な目標が立てられるし、自分のできない部分が分かると思った。
- ・録画を見てみると発音や目線といった課題を発見でき、何度も見直すことが出来るので過去の自分との比較が可能だから。

「あまり役に立たなかった」「役に立たなかった」の理由

- ▲最後のほうの声が小さくなっていたり、プレッシャーに押し負けていたりしていた。
- ▲教室ではどうしても声が出しづらく、本来の力が発揮できないと考えた。
- ▲キーワードからの文章の構成がスムーズにいかず準備できる時間が少なかったように感じたから。

質問項目9の回答の理由

「とてもそう思う」「そう思う」の理由

- ・リテリングの準備が十分にできていたから。
- ・ペアと相談したり、話したりすることが多かったから。
- ・しっかりと文章を組み立てていくことが以前よりまともにできていると思ったから。
- ・どんなことを意識して授業に取り組むか決めてから授業を受けたことで、より意識して取り組むことが出来た。

- ・さまざまな活動を通してゴールタスクに生かして行けたから。
- ・より本文の内容について詳しく取り組めたと思うから。

「あまりそう思わない」「そう思わない」の理由

- ▲急に難しくなりすぎて何も言えないことなどがあったから。
- ▲しっかりと理解しないと活動できなかったから。
- ▲今までの単元の活動と比べて難しいことが多く、あまり集中できなかったから。

質問項目 10 の回答の理由

「とてもそう思う」「そう思う」の理由

- ・研究授業の時に来て下さった先生が私の発表に感動してくれた。
- ・以前より本文の理解力と表現力が上がった気がした。
- ・回数重ねるごとに前よりも伝わりやすくしていくことができたから。
- ・いろいろなところで要約してきたから、以前より力がついたと思う。
- ・自分の言葉で話す活動が多くあり、活用できたから。
- ・教科書に書いてあることをそのまま読むのではなく、しっかり自分の言葉で言おうとする意識を強く持てたから。
- ・ペアワークを通し、よりすらすらと伝えられるようになったから。
- ・自己分析する機会や練習することが今までよりも多かったのでさらに力が伸びたなど感じたと思ったから。

「あまりそう思わない」「そう思わない」の理由

- ▲まだ自分の言葉で表現するのが難しいと感じている。
- ▲Lesson 3 の時のように本文を見ながら自分で必要なところをまとめるほうが理解して取り組めた。
- ▲難しく力が伸びたようには思えなかったから。

イ 生徒の反応についての考察

アンケート調査の結果から、質問項目 7 では、74.0%の生徒がペアでのリテリングと相互評価の活動がゴールタスクに「とても役に立った」、「役に立った」と感じており、ペアでのリテリングでは自分が思いつかなかった表現を知ることができたり、相互評価での相手からの良い評価が自信に繋がったりと、自身の学びにプラスになったと感じている生徒が多かった。また、質問項目 8 では、81.5%の生徒がリテリング録画と自己評価の活動がゴールタスクに「とても役に立った」、「役に立った」と感じており、自分を客観視できることで自身の課題を発見でき、それにより次回への目標設定が明確になるなど、自ら学習を調整しようとする姿が見られた。質問項目 9 では、81.5%の生徒が今までより主体的にリテリングに取り組めたと感じており、質問項目 10 では、85.2%の生徒が今までよりリテリング力が伸びたと感じていることから、各 Part で目標設定リストを用いて目標設定を行い、相互評価と自己評価を繰り返し行う活動に主体的に取り組んだことがゴールタスクに効果的に繋がり、リテリング力の伸びを実感できた生徒が多くいたことが分かる。生徒が活動自体に慣れて、何に意識を向けて取り組めばよいかをより明確に自覚しゴールタスクで力を発揮することができたと考える。しかし一方で、リテリングの活動自体が難しく感じてしまった生徒にとっては、主体的に取り組むことができなかつたり、自身の伸びを実感できるような活動にならなかつたりしたことは残念である。生徒自身が目的意識を持って、一つ一つの言語活動に取り組めるように、事前の説明や取り組みせ方に、より工夫が必要だと感じた。また、「目標を達成できた」と生徒が実感するために必要な支援の量やタイミングについて、生徒の状況をよく見取って判断しなければいけないと感じた。

ウ ゴールタスクの発表における生徒の姿とその考察

提出された生徒のパワーポイント録画から、本文のリテリングの部分はスムーズにできている生徒が多いことが分かった。各 Part でのリテリングの積み重ねがいかされたと考えられる。自分のアイデアについては、適切な内容を伝えられていない生徒がいた。本文で述べられていた「仕掛け」の趣旨を完全には理解できていない生徒がおり、本文のテーマに関連して自分のアイデアを生み出すための指導が十分でなかつたと考えられる。パワーポイントで録画したものを後日提出としたが、第 11 時の授業で行った発表リハーサルでの様子と比べると、よりスラスラと自信を持って発表できている生徒が多く見られた。何度でも撮り直しができるので、練習を重ねて発表に臨んだことが推察される。目標を達成しようとする主体的な取組を

促すこともできたと考えられる。

3 まとめ

10月12日(水)に行った公開授業の後に行った研究協議では、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で他の委員や指導主事と意見交換を行った。「主体的な学び」の視点では、目標段階をしっかりと設定した上で行った活動に対する自己評価は学習効果を高めると考えられるが、生徒がその意義を理解するような説明の工夫が必要であると意見があった。具体的には、「評価」ということだけでなく、それを行うことによって生徒自身にどのような力がつくのかといった、生徒がより納得するような説明を更に工夫が必要である。「対話的な学び」の視点では、相互評価の方法に工夫が必要との意見が出た。目標段階の到達度を「評価」という形式的な方法だけではなく、言いたいことがお互いに伝わっていたかどうか、良かった点や改善点などを口頭でやり取りした方が、学びがより深まったかもしれないと感じた。「深い学び」の視点では、生徒が「仕掛け」のアイデアを考える際に、地域や学校など身近な問題に絞って考えさせた方が、自身のことと結びつけて考えやすく、よりアイデアが出やすかったのではないかという意見が出て、生徒がより実感を持って考えられるような設定づくりに工夫が必要だったと感じた。

今後の展望としては、より生徒が主体的に取り組み、効果的な対話を通して、深い学びに繋がっていくような言語活動を行っていきたいと思う。そして、生徒が自身の課題を発見し、自身の学びを調整し、学習効果を高めたいけるような授業デザインを考え、実践していきたい。

■ポートフォリオの活用

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

英語の授業における「主体的に学習に取り組む態度」を育成する指導と学習活動

(2) 研究のねらい

言語学習の履歴を記録するポートフォリオが、どのように「自己調整学習」を促し、学習効果を高めることができるかを中心に考察する。

2 実践事例

(1) 作成したポートフォリオの構成

ア 単元目標の確認と自身の目標設定（単元の始めに）

単元の始めに、教員が単元の目標、教材観、学習の進め方、評価の仕方等について説明する。それらを踏まえ、生徒は本単元を通して、自分が一番伸ばしたい技能（4技能五つの領域）を選び、その技能の評価規準を参考に、身に付けたい力を具体的な目標として記す。また、その目標達成に向けてどのように学びを進めていくべきかについても具体的に記入する。

Part 1 単元目標の確認
単元名: Lesson 5 A Journey to Peace

各技能の、思・判・表の評価規準

① Listening ② Reading	③ Speaking (Interaction)	④ Speaking (Speech)	⑤ Writing
発展途上国と先進国のどちらで留学するほうが良いかについて議論するために、日本とルワンダを行き来したルワンダ人について書かれた説明文を讀んだり聞いたりして、概要や要点を捉えることができる。	相手を説得するために、発展途上国と先進国のどちらで留学するほうが良いかについて、相手の考えに対し、情報や考え、気持ちなどを具体的に伝えながら、効果的に反論することができる。	相手を説得するために、発展途上国と先進国のどちらで留学するほうが良いかについて、メモの助けがあれば、聞き手を混乱させないように、自分の立場からの意見を論理的に話すことができる。	相手を説得するために、発展途上国と先進国のどちらで留学するほうが良いかについて、情報や考え、気持ちなどを理由や例とともに、比較しながら書いて伝えている。

Part 2 My GOAL の設定

目標は、「～できるようにになりたい」という形で、具体的に書くと良いマルよ。目標は高く持とう！ You can do it !!

今回自分が一番伸ばしたい技能は、() ですよ！
今回の Lesson が終わるまでの My Goal は、...

学び方は、どう工夫してみる？(必要があれば学び方について聞いたり調べたりしよう！)

☆友達と共有してみよう！

イ 授業毎の目標設定と振り返り

授業の始めに、教員は、本時の目標、授業の流れ、授業で意識してほしいこと等を説明する。その上で生徒は、①に本時の自分の目標を記入する。そして授業の終わりに、②に目標の達成率、③にその理由、④に次回までの家庭学習計画を書き込む。次の授業では、生徒は、前時に記入した④の家庭学習を実行できたかを振り返り、記入した上で①に授業での目標を書く、という流れを繰り返していく。

Part 3 目標達成へ向かおう！！[主体的な学び・自己調整力]

Day 1 [Date /]

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う？	
④ 次回までに何にどのように取り組む？	

↓ 前回の④は実施 (できた ・ できなかった)

Day 2 [Date /]

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う？	
④ 次回までに何にどのように取り組む？	

↓

ウ 他から学んだことの記録

生徒が、授業内外で調べたり、教員やクラスメートから学んだりした「英語表現、勉強の仕方、コミュニケーションの取り方、授業に臨む姿勢等」について、自分のタイミングで書き込んでいく。また、実際に活用した日を記入することで、自身の学びにいかせられるようにする。

Part 4: [対話的な学び] の記録
Part 2 の目標達成に向けて、他の人(友達・家族・先生など)、本、インターネットなどから学んだことや表現を記録しよう！

日にち	誰・何から？	学んだこと・マネしたいこと・使ってみたい表現	活用した日

エ 自己評価と振り返り

生徒が、自身で設定した、本単元を通して一番伸ばしたい技能に関する目標の達成率を記入する。また、粘り強く取り組めたかどうか自己評価するとともに、単元の学習を通しての自身の成長、学習方法についての振り返り、次の単元や今後の英語学習に向けた目標設定を行う。

<p>Part 5: 自己評価と振り返り</p> <p>① Part 2 の My Goal の達成率は [] %</p> <p>② あなたは、Step 2 の目標に向けて、日々粘り強く取り組み続けられましたか？ (とてもできた / まあまあできた / あまりできなかった / できなかった)</p> <p>③ 自分の成長(良い変化)と、学び方についての振り返り、次の単元への決意を英語で書こう！</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>
--

(2) 単元の指導と評価の計画

ア 科目名：英語コミュニケーション I

イ 単元名：Lesson 6 Humans Evolve with Measurements ～BLUE MARBLE English Communication I (数研出版)

ウ 単元の目標：単元が生まれた歴史について、その概要と個々の具体例を正確に読み取ることができる。また、本文で用いられた英語表現、関係詞等を積極的に活用し、「日本の学校における外見に関する校則の是非」に関し、英語で議論することができる。

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 情報や考え、気持ちなどを理由や例とともに書いて伝えるために必要となる語句や文を理解している。 関係詞を使って、名詞に情報を加えながら話す技能を身に付けている。 	<p>外見に関する校則など、物事を特定の基準や規格に当てはめることの是非について、必要な情報を調べ、理由や例、比較考察などを示しながら議論している。</p>	<p>外見に関する校則など、物事を特定の基準や規格に当てはめることの是非について、必要な情報を調べ、理由や例、比較考察などを示しながら議論しようとしている。</p>

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	<p>【ディベート学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前の単元で行った、ディベート活動を振り返り、改善点を話し合う。本単元の最後に行うディベート活動の論題を確認する。 <p>【本単元の自己目標設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオに本単元における自分の目標とそのための学習方法や意識を記述する。 				<ul style="list-style-type: none"> 本単元のディベート活動の論題を発表する。 単元の目標や評価規準、生徒に期待することなどを明確に説明してから、ポートフォリオに生徒の自己目標を書かせる。
2	2	<p>【教科書学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文を読んだり聞いたりして、概要や要点の理解に係る問題を解く。 本文の内容について、自分の意見や感想を理由や例とともに伝え合う。 	●			<ul style="list-style-type: none"> 授業の始めに、本時の目標と流れを説明してから、ポートフォリオに生徒の自己目標を書かせる。
3	3	<p>【文法学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことについて、関係詞を用いて表現する。 ディベート立論のモデル原稿を読み、関係詞が用いられている文を正確に理解する。 	●			<ul style="list-style-type: none"> 授業の始めに、本時の目標と流れを説明してから、ポートフォリオに生徒の自己目標を書かせる。

4	4 5 6	<p>【ディベート学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディベート立論のモデル原稿を読み、立論スピーチの作り方を理解する。 ・即興的なディベートを通して、論題について議論する。(2回実施) <p>論題：“High schools in Japan should abolish their school rules regarding students’ appearances.”</p> <p>【本単元の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオに、単元の自己目標の達成状況と次の単元に向けての決意をまとめる。 	●	○ ※1	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに、本時の目標と流れを説明してから、ポートフォリオに生徒の自己目標を書かせる。 ・同じ論題でディベートを2回行うことで、1回目の反省を2回目にかさねる機会を与える。 <p>※1 単元のゴールタスクにおける取組から、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面を評価する。</p>
5	—	<p>【自己調整学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の学習目標を設定した上で学習に取り組む、学習の過程を自己の観察に基づきポートフォリオとして記録し、自己評価・振り返りを行った後に新たな目標を設定していく。 		○ ※2	<p>※2 ポートフォリオの記述から、学習に粘り強く取り組もうとする中で、自らの学習を調整しようとする側面を評価する。</p>

カ 授業実践例 (6時間目/6時間)

学習活動 (指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>1. 導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ポートフォリオの記入 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の自己目標を記入する。 ○活動の準備 <ul style="list-style-type: none"> ・ディベート活動の心構えや注意点を確認し、グループで最終打合せを行う。 <p>2. 展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ディベート活動 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で分担された役割に応じて「立論」、「反論」、「議論のまとめ」を行う。 ○ディベートの振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・ジャッジ担当の生徒が、勝敗とその理由、各グループのベストスピーカーとその理由、改善すべき点を発表する。 ・グループ内で自由に、良かった点、改善すべき点を話し合う。 <p>3. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ポートフォリオの記入 <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオに本時の学習の振り返りと、単元の学習の振り返りを記入する。 	<p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>スピーキングテスト (定期テスト期間)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>ポートフォリオ (単元の終了時に回収)</p>

研究実施校：神奈川県立柏陽高等学校(全日制)

実施日：令和4年10月27日(木)

授業担当者：佐藤 亮介 教諭

3 生徒のポートフォリオ記入例
 (1) 単元目標の確認と自身の目標設定

Part 2 My GOAL の設定

目標は、「～できるようになりたい」という形で、具体的に書く
 と良いマルよ。目標は高く持とう！ You can do it !!



今回自分が一番伸ばしたい技能は、(① Listening (デバート中に相手の意見をきくこと)) です！
 今回の Lesson が終わるまでの My Goal は、..

聞き取るべきところをおさえて、全体の概要をつかめるようにしたい

学び方は、どう工夫してみる？(必要があれば学び方について聞いたり調べたりしよう！)

- ・授業での音声で気になるところがあったら、家がQRコードを読み取って聞く。
- ・デバート中に相手がどこの単語を強めに言っているのか聞き取ってほしいことを理解する
- ・there are のようにつかえる熟語的のものもしっかりと覚えて分かるようにしていく。

☆友達と共有してみよう！

学び方に関して、しっかりと具体性を持たせて書けている例。

(2) 授業毎の目標設定と振り返り

Day 3 [Date 9/30]

前回の④は実施 (できた ・ できなかった)

① 今日がんばること	相手の意見をききとる。Listening で 大事な流れをつかむ
② 達成率	[50] %
③ なぜそう思う？	ノートワークは、相手の言葉をしっかり聴いて内容を理解することができたから。Listening では、途中で相手の話を聞き取れず、一旦あきらめたところから後戻りしてしまっ
④ 次回までに何にどのように取り組む？	本文を見比べて自分が聞き取れなかったところをどうにか聞き取るように把握する

次回までに取り組む内容が明確で、実際に取り組んだことが確認できる例。

Day 4 [Date 10/3]

前回の④は実施 (できた ・ できなかった)

① 今日がんばること	ボキャブリーのチェックの時に、それぞれの単語の発音をしっかりきく (正しい発音する)
② 達成率	[70] %
③ なぜそう思う？	先生の発音を丁寧にきいて、カタカナで表していないのは、独特の発音も真似てきくと、アクセントがきた時に、ききとれなかったものがあったから
④ 次回までに何にどのように取り組む？	ボキャブリーの発音と単語の意味をセットで覚える (単語は発音と意味はセットで覚える！)

Day 8 [Date 10/17]

前回の④は実施 (できた ・ できなかった)

① 今日がんばること	意見を翻かききながら、聞き逃したら、切り替えて少しでも全体の内容を理解できるようにする
② 達成率	[55] % = good
③ なぜそう思う？	分からない単語はカタカナでメモだけして置いて、次の言葉にうつりかかるときから、何となくは全体で聞きたいことを理解できた。
④ 次回までに何にどのように取り組む？	分からなかったところをメモすることが多くなったから、単語力を身に付けていきたい

リスニングにおける、ストラテジーの変化の例 (Day 3 の③と Day 8 の③を比較すると、Day 8 では、聞き取れない部分が出てきたときに、混乱せずに「次の言葉」に集中して聞くようになっている。)

(3) 他から学んだことの記録

Part 4: [対話的な学び] の記録

Step 2 の目標達成に向けて、他の人(友達・家族・先生など)、本、インターネットなどから学んだことや表現を記録しよう!

日にち	誰・何から?	学んだこと・マネしたいこと・使ってみたい表現	活用した日
9/16	先生	具体的、身近なものを例に挙げること ↑ ティンバートの選考の義務化を私たちの身近な 宿題に例入っていたこと。+ 知っている単語を多めにしていた (身近なことで知っている単語でも聴く例として抵抗が少い...) (内容を耳と入。アまた)	10/13
10/16	ネット <i>good!</i>	リスニングのコツ ① 短文リスニングからする。 → コーパスのチャンク70と例文くらい長さのもの で英語を聞くことに慣れる ② 代表的な単語を消去 知る → 熟語として音声を聴く ③ 音声に合わせて自分で発音してみる → 追いかける & 重ねる。& リピート ④ さきとや70がたにセテンスは読めて。 深いレベルでいい。 ⑤ ティンクテーション → コーパスの Final じゃ7011 stagesの時のように 聞か取ったものを書く。	今後 活用したい
10/17	ティンバートの 相手	相手の反応を見て話をすすめていくこと。身近な例。	

ティンバートのチャンク70 さすがに知らなかったらいくつか単語は「〜 in Japanese」で補うこと。

様々な場面で、他から学ぼうとする意識の高さがみられる例。

(4) 自己評価と振り返り

Part 5: 自己評価と振り返り

- Step 2 の My Goal の達成率は [50] %
- あなたは、Step 2 の目標に向けて、日々粘り強く取り組み続けられましたか?
(とてもできた / まあまあできた / あまりできなかった / できなかった)
- 自分の成長(良い変化)と、学び方についての振り返り、次の単元への決意を英語で書こう!

I realize that even if I can answer the question on the test, I can't understand some parts. So, I start to check not only if I answer the question correctly, but also didn't I understand anything. Then I reviewed what and why I didn't understand by using the script. Next, I want to be able to understand the pronunciation better by pronouncing it after the sound. I want to do my best with listening to the test of corpus that will be held again.

リスニングの問題に取り組む際の習慣が変化したことが分かる例(問題が解けたかどうかだけではなく、台本を使って何がどう分からなかったのかを復習するようになっていることが伺える。)

* the test of corpus は
単語の小テストのこと

4 結果の検証

(1) 学習を自己調整する力についての自己評価の変化（事前・事後のアンケート調査）

ア 調査対象

研究担当者3名が勤務する上溝南高等学校・柏陽高等学校・大磯高等学校の生徒432名を対象とした（コミュニケーション英語Ⅲ78名・英語コミュニケーションⅠ80名・英語コミュニケーションⅠ274名）。

イ 調査期間

2022年9月から2022年11月

ウ 分析方法

Google フォームを使って、授業中に実施した。質問は全部で37項目で内訳は(A)国際理解に関する4項目、(B)英語学習全般に関する10項目、(C)英語に対しての自信と抵抗感に関する8項目、(D)学習を自己調整する力に関する11項目、(E)対話的な学習に関する4項目である。本調査では、学習を自己調整する力についての自己評価の変化についてみるため、(D)自己調整する力に関する項目のみ、分析対象とする。なお、質問項目は日本人英語学習者を対象としたメタ認知尺度(安田 2016)を参考とした。回答の方法は、6件法(6. とてもよくあてはまる、5. だいたいあてはまる、4. ややあてはまる、3. ややあてはまらない、2. あまりあてはまらない、1. 全くあてはまらない)を採用した。

エ 分析結果

事前・事後(N=287)の自己評価を比較し、Wilcoxonの符号付き順位検定により有意差検定を行った。検定にはBellCurve for Excelを使用した。学習を自己調整する力に関する質問に対する回答(6件法)は、「24. 過去に上手くいったやり方を繰り返し試みている」、「26. 学習を始める前に、目的達成のために何を学ぶ必要があるかを考えている」、「28. 学習を始める前に、具体的な目標を設定している」、「29. 学習をより細かいステップに分けている」、「30. 学習が終わった時点で、自分の立てた目標の達成度を評価している」の項目において有意な差が見られた(表1)。

表1 学習を自己調整する力についての自己評価の変化

No.	質問項目	事前	事後	差
23	学習するとき、何が得意で何が不得意かを分かっている	4.50	4.57	0.07
24	過去に上手くいったやり方を繰り返し試みている	4.21	4.39	0.18 **
25	学ぶとき、自分がどんな方法を使うべきかを意識している	4.16	4.27	0.11
26	学習を始める前に、目的達成のために何を学ぶ必要があるかを考えている	3.76	3.97	0.21 **
27	目標を十分に達成するために、段取りや時間を配分している	3.52	3.66	0.14
28	学習を始める前に、具体的な目標を設定している	3.44	3.76	0.32 **
29	学習をより細かいステップに分けている	3.09	3.35	0.26 **
30	学習が終わった時点で、自分の立てた目標の達成度を評価している	3.04	3.25	0.21 *
31	学習に取り組んでいるときに、目標に向かっていくかどうか、定期的に自分でチェックしている	3.09	3.24	0.15
32	目的に合わせて様々な学習方法を使っている	3.86	3.99	0.13
33	理解できないときには、やり方を変えてみる	4.23	4.30	0.07

* : $p < 0.05$ ** : $p < 0.01$

オ 考察

本調査で対象生徒について、学習計画を立て、学習の進み具合を確認し、その結果を評価することで、メタ認知能力の向上がみられた。ポートフォリオを活用し、学習を始める前に学習者自身が何を学ぶ必要があるかを考え、目標設定、計画遂行、評価修正のプロセスを繰り返したことが、一つの要因であると考えられる。結果として、学習者に対して学びの責任を持たせることに繋がり、学習を自己調整する力を育成したと考えてよいかもしれない。

(2) ポートフォリオを使用した生徒の反応

ア 調査対象

研究担当者3名が勤務する3校のポートフォリオを使用した生徒16名を対象とした。抽出方法は、有意抽出法を採用した。

イ 調査方法：アンケート（自由記述式）

ウ 調査時期：11月

エ 質問内容

質問1. 「ポートフォリオを使用した感想を教えてください。」

質問2. 「ポートフォリオを活用したことによる変化があれば教えてください。」

オ 結果（16名のうち3名の回答を記載した）

質問項目1	記述式回答（原文のまま）
	<p>・小さな目標を毎授業で立てることで、授業を取り組んでいて、<u>目標を意識しやすいし、自分で目標を立てるから、達成したいなど、より意欲が出て、以前より英語の授業に自分が真剣に取り組んでいると感じた</u>からです。また、いいと思った表現をメモし忘れて、それを忘れちゃうことが多いし、更にプリントに書くために、周りの表現や単語により注意が向くようにもなりました。また最後に、その単元のまとめを英語で書くので、自分が今までに習った文法や単語を試せるチャンスになっているからです。</p> <p>・自分に足りない力を確認し、どうすればその力を伸ばすことができるのかを考える機会となったから。また、日々の学習にダラダラと取り組むのではなく、<u>目標を持って取り組む</u>ことができたから。</p> <p>・次の授業までにやる事を毎日書いたので、自然とコミュニケーション英語がある前の日には何を書いたのか思い出して、できる事はやるようにする習慣がついた。<u>毎回の授業の前に目標を立てて、書いていたので、前よりも授業の受け方が変わった。</u>前まではなんとなく受けていたけど、授業の最後でどのくらいできたかを確認するので、その時にできたことを増やそうと意識できるようになった。同じ目標を立てても、レッスンやパート、リスニングのワークのページごとに達成度やできた事は違っているということもよくわかった。さらにレッスンの最後にやること（プレゼンテーションなど）がわかっていて、それに向けた授業になっているということがよくわかった。だから、その発表でどこに注意、注目すればいいのかが自然と理解できた。他の人から学んだことも、今までは自分の中だけで終わらせてしまっていたけど、文で書くことで、記憶に残ることでいつでも思い出すことができたので、<u>自分の成長を感じる</u>ことができた。</p>
質問項目2	記述式回答（原文のまま）
	<p>・大きな目標を立ててそれを達成するために、小さな目標を立てて、それを達成出来たり、出来なかったとしても、<u>振り返って、また次の機会までにやっておくことを決める、という学習の流れを、部活やほかの教科などにも応用するようになりました。</u>振り返りが大事ななということに気づいて、一日を振り返る時間を作るようになりました。その方が、自分の課題やいい所を、思い出しやすくなったり、成長をより感じられるなと思いました。</p> <p>・ポートフォリオのステップ4の枠を埋めるのが楽しくて、以前より積極的に新しい単語や表現を見つけられるようになった。また、学んだ単語をどのような場面で使えるのかも考えられるようになった。</p> <p>・授業の受け方もそうだし、一番変わった(できるようになった)事は、<u>見通しを持って学習をする</u>ということ。今までは、先生に言われていただけで意味がわからなかったのでやろうとしていなかった。でも、その日の目標と単元の最後の目標があるから、そのために今日の授業で気をつけなければいけないことが、最初から見えてきて、できるようになった。あと、自分ができていないところを通して、それがどうしてなのか、どうすればできるようになるのかを考えられるようになった。<u>今までは、自分のできないことに対して、誰もが言えるような大きな解決策しか出せていなかった。</u>でも、「～ができないから・・・しよう」と自分だからわかる原因、解決方法を考えることができるようになった。他の科目でもこの考え方はすごく役に立った。</p>

*なお、下線部は筆者。

カ 考察

自由記述から、生徒は、努力すれば手が届くような目標を設定し、その達成に向けて粘り強く取り組んでいることが分かった。質問1の自由記述には、「目標を立てる、持つ」という言葉が繰り返し使われていることから、学習者が見通しを持って学習に取り組んだことがうかがえる。自ら授業に対する目標を設定することで、やるべきことが明確となり、自分自身の成長を実感するに至ったのであろう。また、ポートフォリオを活用した英語学習で身に付けた自己調整する力を、他の教科や教科外の取組に適用させようとしていることが分かった。以上のことから、自己調整する力を育成することを目的としたポートフォリオ

の使用を教科学習に限定することなく、他の教育活動においても活用する方策を教員が検討していくべきであると考え。

5 まとめ

「目標を持って取り組もう」「振り返って、復習をしておこう」「粘り強く取り組もう」という声掛けは、すでに学習への動機付けが強く、学習を自己調整できる一部の生徒には有効であるが、多くの学習者にとっては、単元の目標が何であったか思い出せなかったり、振り返りが単なる感想になり次の行動につながらなかったり、具体的な復習の方法が分からなかったり、粘り強くやるべきだと頭では分かっているにもかかわらず具体的な行動につながらなかったりすることが多い。より多くの生徒が、主体的に学習に取り組む態度を身に付けるにはどうしたらよいか。今回の研究では、一つの方法として、ポートフォリオを活用することで学習を自己調整する力を育成できることが示唆された。

ポートフォリオが効果を発揮するポイントの一つは、その設計である。本ポートフォリオでは、単元の目標やストーリーディング活動との関連の中で自らの目標を設定して見直しを持ち（「MY GOALの設定」）、それを達成するための学習方略を考え、毎授業で自らの学習をモニターし、課題を発見して家庭学習でその課題を解決し、さらにその取組を自己省察し、次の行動につなげるというサイクルが回るよう、生徒の記述欄が設けられている。また、「対話的な学びの記録」を行う中で、他者の行動を通じて知識・技能の向上に向けての取組意欲が増し、新たな学習方略への気付きなどが促される。このように設計することでポートフォリオは、自らの学習過程に能動的に関与するという、これまでのポートフォリオを活用していない授業において一部の成功した学習者（生徒）が持っていたメタ認知能力を、より多くの生徒が獲得することを促すツールとして機能しうる。

もう一つのポイントは、生徒が目標や学習過程での気付きを言語化し、具体的な記述に落とし込んでいる点である。言語化し、本ポートフォリオに記述し「見える化」することで、生徒が自分自身の目標を毎回意識しながらモチベーションを高め、振り返りを次の具体的な行動に移し、学習を自己調整することができる。

今後の課題としては、より内発的な動機付けをどう喚起するか（単元の目標と自分自身の目標との関連性を高めるようどう方向付けられるか）、妥当で達成可能な目標の立て方をどう指導するか、多くの学び方や学習方略にどう触れさせるか、根気よく取り組んではいるが効果の上まらない学習を続けている生徒に対して、それぞれに合ったより効果的な学習方法をどう提案するか、提出されたポートフォリオを教員が段階別に評価する際にどのような基準を設定することが記録に残す評価として、そして生徒へのフィードバックとしてふさわしいのか、他のパフォーマンステスト計画や評価・採点、教材研究、他の学校運営業務や生徒の個別対応をしながら、どこまでポートフォリオの評価や生徒へのコメント記入ができるのかといった点が挙げられ、その答えを模索する必要があると思われる。

こうした課題を教員間、学校間で共有し改善しながら、各校がそれぞれの状況に合わせてポートフォリオを活用することで、生徒の学習を調整する力や、主体的に学習に取り組む態度を育成することが期待される。

参考文献

- ・安田利典 2016 「日本人英語学習者を対象としたメタ認知尺度の作成」(『関東甲信越英語教育学会誌』30巻) pp. 57-70
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/katejournal/30/0/_contents/-char/en (2023年2月15日 閲覧)

<参考1>ポートフォリオの全体像

表紙

柏陽高等学校 後期中間

英語コミュニケーション I Portfolio

Lesson 5

(評価項目:主体的に学習に取り組む態度)

主体性は大きく

- 他から吸収して自己の学習を調整する力
- 目標に向かって粘り強く取り組む力

の2つに分かれるマルよ!



経済産業省が示した、これからの社会に必要な「社会人基礎力」
その中の1つが、「前に踏み出す力」

「前に踏み出す力」とは

- ・物事に進んで取り組む**主体性**
- ・他人に働きかけ巻き込む**働きかけ力**
- ・目標を設定し、確実に行動する**実行力**

授業に落とし込むと、

- ・授業に**能動的**に取り組み、**挑戦**を恐れず、
- ・クラスメイトと互いに**高め合い**ながら、
- ・毎時間**目的意識**を持ち、**粘り強く達成に向けて行動**していくこと。

Class. 1-() No. () Name: ()

①単元の始めに

Part 1 単元目標の確認
単元名: Lesson 5 A Journey to Peace

各技能の、思・判・表の評価規準

① Listening Reading	③ Speaking (Interaction)	④ Speaking (Speech)	⑤ Writing
発展途上国と先進国のどちらで留学するほうが良いかについて議論するために、日本とルワンダを行き来したルワンダ人について書かれた説明文を読んだり聞いたりして、概要や要点を捉えることができる。	相手を説得するために、発展途上国と先進国のどちらで留学するほうが良いかについて、相手の考えに対し、情報や考え、気持ちなどを具体的に伝えながら、効果的に反論することができる。	相手を説得するために、発展途上国と先進国のどちらで留学するほうが良いかについて、メモの助けがあれば、聞き手を混乱させないように、自分の立場からの意見を論理的に話すことができる。	相手を説得するために、発展途上国と先進国のどちらで留学するほうが良いかについて、情報や考え、気持ちなどを理由や例とともに、比較しながら書いて伝えている。

Part 2 My GOAL の設定

目標は、「～できるようにになりたい」という形で、具体的に書くと良いマルよ。目標は高く持とう! You can do it!!

今回自分が一番伸ばしたい技能は、() です!
今回の Lesson が終わるまでの My Goal は、...

学び方は、どう工夫してみる? (必要があれば学び方について聞いたり調べたりしよう!)

☆友達と共有してみよう!

②授業毎に

Part 3 目標達成へ向かおう!! [主体的な学び・自己調整力]

Day 1 [Date /]

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う?	
④ 次回までに何にどのように取り組む?	

↓ 前回の④は実施 (できた・できなかった)

Day 2 [Date /]

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う?	
④ 次回までに何にどのように取り組む?	

↓

Day 3 [Date /] 前回の④は実施 (できた・できなかった)

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う?	
④ 次回までに何にどのように取り組む?	

↓ 前回の④は実施 (できた・できなかった)

Day 4 [Date /]

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う?	
④ 次回までに何にどのように取り組む?	

↓ 前回の④は実施 (できた・できなかった)

Day 5 [Date /]

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う?	
④ 次回までに何にどのように取り組む?	

↓ 前回の④は実施 (できた・できなかった)

Day 6 [Date /]

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う?	
④ 次回までに何にどのように取り組む?	

↓ 前回の④は実施 (できた・できなかった)

Day 7 [Date /]

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う?	
④ 次回までに何にどのように取り組む?	

↓ 前回の④は実施 (できた・できなかった)

Day 8 [Date /]

① 今日がんばること	
② 達成率	[] %
③ なぜそう思う?	
④ 次回までに何にどのように取り組む?	

Part 4: [対話的な学び] の記録
Part 2 の目標達成に向けて、他の人(友達・家族・先生など)、本、インターネットなどから学んだことや表現を記録しよう!

日にち	誰・何から?	学んだこと・マネしたいこと・使った表現	活用した日

③生徒の好きなタイミングで

Part 5: 自己評価と振り返り

① Part 2 の My Goal の達成率は [] %
② あなたは、Step 2 の目標に向けて、日々粘り強く取り組み続けられましたか?
(とてもできた / まあまあできた / あまりできなかった / できなかった)
③ 自分の成長(良い変化)と、学び方についての振り返り、次の単元への決意を英語で書こう!

☆教員使用欄★

	書いていない	→	→	たくさん具体的に書けている	
「主体的」	学習方法の改善	C	B	A	A*
「対話的」	周りに学ぶ姿勢	C	B	A	A*
「深い学び」	自己の変容と前向きさ	C	B	A	A*

コメント

④単元の終わりに

家 庭

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

「持続可能な消費生活・環境」の単元における主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践と適切な学習評価

(2) 研究のねらい

高等学校学習指導要領では、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を検討し、計画・実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視している。本研究では、「持続可能な消費生活・環境」の単元における生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性に焦点を当て、「持続可能な消費生活・環境」の単元の指導計画の作成、授業展開の工夫等を行うとともに、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践と適切な学習評価について検討することとした。

2 実践事例

(1) 単元指導計画

ア 科目名：家庭基礎

イ 単元名：消費行動を考える

ウ 単元の目標

- (ア) 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組み、生活と環境との関わりや持続可能な消費、持続可能な社会へ参画することの意義について理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。
- (イ) 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費、持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (ウ) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理、消費行動と意思決定、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

エ 単元の評価規準


知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。・生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。	<ul style="list-style-type: none">・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費、持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none">・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理、消費行動と意思決定、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	<p>【単元を貫く問い】成人として適切な意思決定をし、持続可能な消費生活を実現するためには何が必要か</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の目標を確認し、【単元を貫く問い】について自分の考えを記入する。 消費行動と意思決定 主体的な消費行動について多角的に考える。 情報社会における生活情報について知り、その適切な活用方法について考える。 	○	●		<p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「主体的に学習に取り組む態度」が単元を通じてどのように変容したか見取るためにワークシートを継続的に使用する形式にするなど工夫する。 消費行動における意思決定の過程とその重要性について、身近な例などを示し自分と結び付けて考え理解できるようにする。 <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 問いに対しての考えを自分なりに考えようとしている。(態) (観察、ワークシート) 消費行動と意思決定について理解するとともに、様々な情報を収集・整理しながら自分の消費行動について検証できるようにする。(知) (ワークシート、定期テスト) 自分が一消費者であることを自覚し、物・サービスの購入のあり方や、消費行動、消費と環境とのかかわりについて課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(態) (観察、ワークシート)
		<p>＜消費生活の現状と課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 契約、多様な販売方法や支払い方法について学ぶ。 問題商法による被害を未然に防ぎ、早期解決する方法を考える。 	○	○		<p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 契約の重要性や未成年・成年の法律上の責任の違いについて、理解できるようにする。 消費者被害を未然に防止するための具体的な方法について考えさせる。 <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様化する販売方法や支払い方法について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(態) (観察、ワークシート、定期テスト)
2	3	<p>＜消費者の権利と責任＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費者被害の事例を調べ、消費者の権利と責任を考える。 これからの社会に求められる消費者の自覚と、行動のあり方を検討する。 	○	●		<p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費者の権利と責任は表裏一体であり、権利の行使は責任が伴うことについて理解できるようにする。 <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費者の権利と責任や現代の消費生活の課題について理解している。(知) 消費者としての自覚を持ち、消費者の権利と責任、行動のあり方について考え、工夫している。(思) (ワークシート、定期テスト)
		<p>＜ライフスタイルと環境＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活が地球環境やグローバル社会に与える影響について考える。 持続可能な社会の実現に向けた消費行動について考える。 	○	●		<p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会とは、安全で安心な生活と消費とはどのようなものであるか多面的・多角的に考察するとともに、どのような工夫ができるか具体的に考察し、実践に結び付けることができるようにする。 <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費行動と環境との関わりについて、生活と関連させながら問題を見いだして課題を設定し、課題解決に向けて考え、工夫している。(思) (観察、ワークシート)
3	4					

4	5	<p><暮らしと経済></p> <ul style="list-style-type: none"> 生活における経済と社会の関わりについて学ぶ。 収入と支出にはどのような項目があるのか学ぶ。 適切な家計管理について考える。 	○	○	<p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活の基盤としての家計管理の重要性や家計と経済の関わりについて理解できるようにする。 <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭経済・国民経済などのしくみ、短期・長期的経済計画の重要性について理解している。(知) 現在の経済社会と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて考え、工夫している。(思)(ワークシート)
	6	<p><リスク管理と資産形成></p> <ul style="list-style-type: none"> ジグソー法により、金融商品の特徴と選択基準を学び、自分自身の性格にあった金融商品を考える。 	○	●	<p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> リスク管理の必要性を踏まえ将来にわたる不測の事態に備えた経済計画について考察できるようにする。 <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な資産形成から、自分に合った方法について考え、選択し、考察したことを論理的に表現している。(思)(観察、ワークシート)
5	7	<p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> 単元のまとめとして、【単元を貫く問い】に対して、自らの考えを記入する。 		○	<p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の前後や過程を振り返り、自分の考えや行動などがどのように変化したか、今後どのように行動していこうと考えているかなどについて記入させる。 <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立した消費者として生活における経済の管理、消費行動と意思決定、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。(態)(ワークシート)

カ 授業実践例 (6時間目/7時間)

学習活動 (指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>1. 本時の学習内容の説明と目標の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の内容を知る *事前に行ったアンケート結果とライフイベントにかかる費用を提示し、生涯に必要なお金について意識させる。 *本時は、資産形成の特徴を学び、将来に備えた長期的な経済計画について考えることを伝える。 <p>2. 「人生の中で経験したいライフイベント」を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ライフイベントとお金の関係(収入と支出、時期等)について問いかける。 <p>3. 4種類の資産形成の方法のうち1種類について理解する。(参考1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自で資料をよく読み、大切だと思うところに線を引く。 同じ資料の生徒4人1グループになり、それぞれが大切だと思ったことを共有し、理解を深める。 *より深い理解のために、自分が気付かなかった情報に線を引いたりメモをしたりするように伝える。 <p>4. 4種類の資産形成について学ぶ。(参考1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4種類の資料が1班に集まるように班を作り、それぞれの資産形成の要点を教え合い、ワークシートにまとめる。 *グループの座席表を示し、移動がスムーズにできるようにする。 	

(ワークシート (参考2-1))

(2)各担当の説明を聞き、資産形成の要点について「安全性」「収益性」「流動性」項目を○△、おすすめ度を1~4でまとめよう。(班で話し合っって同じにする必要性はなし、自分の考えを記入)

	安全性	収益性	流動性	おすすめ度		安全性	収益性	流動性	おすすめ度
①株式					③投資信託				
②債券					④預貯金				

5. A教諭に合う資産形成を考える。

・A教諭に合う資産形成の結論を出し、理由とともにワークシートにまとめる。

*A教諭のライフスタイルを見直しながら班で話し合い考えるように伝える。

(ワークシート (参考2-1))

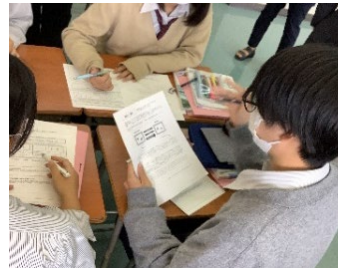
(3)Aさんに合った資産形成を班で話し合っって結論を出そう。

結論 私たちが選んだAさんにおすすめの資産形成は、

(①株式 ・ ②債券 ・ ③投資信託 ・ ④預貯金)です。

理由は、

です。



6. 各班で選んだ方法と理由について発表する。

7. 自分に合った資産形成を考える。

*年度当初に考えた生涯の生活設計に関連して考えさせる。

(ワークシート (参考2-1))

<Work 2> 今日の授業をふまえて考えよう

(1)自分が将来のリスクに備えるために選びたい資産形成とその理由を考えよう。(思・判・表)

わたしが選んだ資産形成の方法は、(①株式 ・ ②債券 ・ ③投資信託 ・ ④預貯金)です。

理由は、

8. グループでの活動について、自己評価と相互評価を行う。

(ワークシート (参考2-2))

(2)今日の話し合いを評価しよう。

A	他者の意見を引き出したり、補ったりして話し合うことができる。
B	自分の意見を出し、その根拠とともに話を深めたり、広げたりしている。
C	自分の意見を出すことができる。
D	自分の意見が出せない。

話し合いの自己 相互評価	自分	グループメンバー			
		()	()	()	()
<Work1>(1)					

話し合いの自己 相互評価	自分	グループメンバー			
		()	()	()	()
<Work1>(2)(3)					



(ワークシート)

【思考・判断・表現】

○記録に残す評価

(ワークシート)

【主体的に学習に取り組む態度】

●指導に活かす評価

研究実施校：神奈川県立大和西高等学校(全日制)

実施日：令和4年10月14日(金)

授業担当者：岡田 寛未 教諭

キ 本時の評価規準Aと判断される具体的な例とCと評価する生徒への手立ての例

【思考・判断・表現】 学習活動における具体的評価規準

「概ね満足できる（B）」と判断できる状況	様々な資産形成から、自分に合った方法について考え、選択し、考察したことを論理的に表現している。
「十分満足できる（A）」と判断される状況例	これまでに学んだ消費生活の内容についての知識と技能をいかし、それぞれの資産形成の方法を理解した上で、自分の性格や将来のライフスタイルなどと照らし合わせ、自分に合った方法を客観的に分析して選択し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。
「努力を要する（C）」と評価した生徒への手立て	資産形成の資料や学習内容、ワークシートの事例を振り返り、他の生徒の記述内容等を参考に自分の考えをまとめることができるようにする。

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

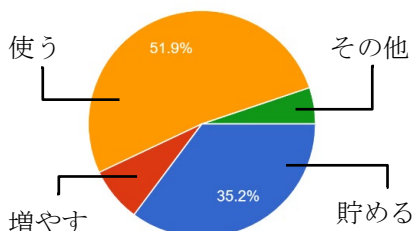
ア 単元における主体的・対話的で深い学びについて

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説家庭編』（以下、『解説』という）に、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるための留意点が示されている。その留意点の一つに「1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、生徒が考える場面と教師が教える場面とをどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること。」（『解説』p. 4）と示されている。本研究では、基礎的・基本的な知識及び技能を習得して、生徒が生活の中から問題を見だし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画・実践、評価・改善するという一連の学習過程から主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、単元計画と授業展開を作成する。単元については、「生涯を見通した経済計画を立てるには、教育資金、住宅取得、老後の備えの他にも、事故や病気、失業などリスクへの対応が必要であることを取り上げ、預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴（メリット、デメリット）、資産形成の視点にも触れるようにする。」（『解説』p. 39）と示されている。本研究では、持続可能な消費生活・環境の預貯金、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴（メリット・デメリット）について授業実践を行った。

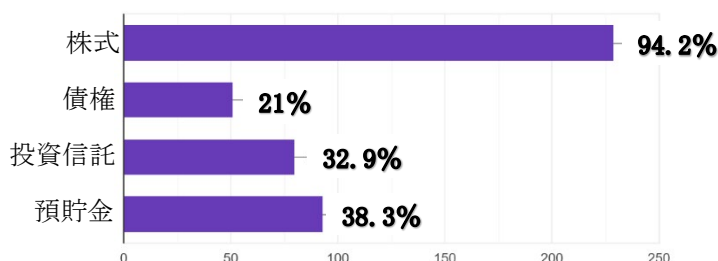
単元の導入として、Googleフォームによる事前アンケート調査を実施した。（資料1）「あなたにとってお金とはどのようなものですか？」の問いでは、「使う」と回答した生徒が51.9%、「貯める」と回答した生徒が35.2%、「増やす」と回答した生徒が7.8%であった。次に「お金を増やす方法を知っていますか？」の問いでは、「株式」と回答した生徒が94.2%、「債券」と回答した生徒が21%、「投資信託」と回答した生徒が32.9%、「預貯金」と回答した生徒が38.3%であった。

(資料1) 事前アンケート

・「あなたにとってお金とはどのようなものですか？」



・「お金を増やす方法を知っていますか？知っているものを教えてください」



授業実践の工夫として、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、「ジグソー法」を用いた。

授業の導入に、経験したいライフイベントとその費用について提示し、生涯を見通した経済計画を立てるために必要な資金やリスクの対応について考えさせた。次に、当該学年A教諭をモデルとして資産形成を考えさせることにより、主体的な学びにつなげていく環境づくりを行った。「ジグソー法」を用いたエキスパート活動では、担当する株式、債券、投資信託、預貯金のグループに分かれて資料

を読み、大事なところには下線を引きながら要点等を確認するという作業を行った。担当グループの生徒同士で、資料の内容や重要だと思われる点等を、対話を通して確認していた。確認終了後、ジグソー活動でグループとなり、株式、債券、投資信託、預貯金の担当生徒が資料の内容を説明した。説明を聞いた生徒は、資産形成の要点である「安全性」「収益性」「流動性」の項目について、おすすめ度を表す◎、○、△を用いてワークシートに評価を記入した。ここでも生徒同士、各エキスパートの説明について質問をしたり、意見交換をしたりしながら評価を導き出す姿があった。その後、A教諭のモデルに適した資産形成をグループで話し合った。エキスパート活動の資料を活用しながら、それぞれの担当が学んだ知識・技能をいかして、課題を解決できるような話し合いが行われていた。これらの「ジグソー法」による活動により、対話的な学びができたといえる。最後に、学習を見通して振り返る場面として、自らが将来のリスクに備えるために選びたい資産形成とその理由について個人で考えてワークシートに記入した。(資料2)

(資料2) 自らが選ぶ資産形成について(生徒の記述より)

選択した資産形成	理由
株式	最近話題になっているし、親がやっているから学んでやってみたい。リスクはたしかに大きいけれど、長く生きているうちに、儲かるチャンスがあるかもしれないし、自分の意志で好きなだけお金をかけられるから。将来結婚したいとか、今はないし、自分や親だけのために生きる生活になったら、楽しみながらやってみたいし、株式をやったら、政治や社会にもっと興味を持って生きていけると思ったから。
	もうかると信じられる会社の株式を買うことができれば、収益が2倍3倍になることができるから。さらに株主優待をもらえるため、子どもや暮らしを豊かにすることができるから(例:ディズニーや食品の会社、おもちゃの会社など)売り上げが上がる程、会社と自分がもうかるからwinwinになることができる。
債券	債券はほぼ確実に貸したお金が減ってかえってくることはないので安全性がとても高いし、国に貸すので信頼度はとても高いからです。ほかの資産形成だと失敗してお金が減ってしまう可能性があるから。
	債券が一番安全にできるので私は株とかの上がり下がりを見てやったりするのは不向きだと思ったので債券にしました。債券は収益性が低いけど、ちりも積もれば山となるという言葉信じてゆっくり安全に貯められればいいと思います。将来、自分の好きな服とかたくさん買いたいので少しでも安全に貯めることができるようならそうしたいと思ったからです。
投資信託	株式だと収益性は高く1度にたくさんお金が入るけど、そのぶん損する可能性もあるし、預貯金だと安全性が高く損をするリスクが低いけど利益はほとんど見込めないけど投資信託だとプロに任せるから安全性も高く、利益もそれなりに見込めてしかも1ヵ月1万から始められて流動性も高いから簡単に始められる投資信託にした。
	自分が投資した企業の株価をチェックすることがめんどくさいし、勉強しないと株の売り時、買い時がわからない株式より、お金を出してプロがやってくれるほうが楽、分散投資でリスクの小さい投資信託が自分には合っていると思いました。また債券よりも細かい金額設定ができるのもいいところだと思います。
預貯金	株式と迷ったのですが、株式はしくみがとても複雑でいろいろと勉強しないとイケませんし、損をするリスクがとても高いため、私には向いていないかなと思います。それよりもきちんと減らずにお金を管理してくれる預貯金や、利子がちょっとつく債券の方が、よっぽど良いかなと思います。欲張りにならず、なんとか自分が働いてかせいだ給料だけでやりくりしたいです。
	安全性が高いというので、そこまで大きな額でなければ、銀行がなくなっても返ってくるのが良いのと、流動性という部分で、私は気分がころころと変わるので、自分の意思により取り出すことができるのは大きいと思いました。収益性は良くありませんが、その分、自分が節約したり、仕事をする時間や日数を増やすなど取り組んでいけばいいと思いました。全てをもち合わせているものはないので、妥協は必然だと思います。

生活の営みに係る見方・考え方については、「ジグソー法」による学習過程でA教諭のモデルから問題を見だし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画・実践、評価・改善する活動ができたといえる。その中で生徒が自分の将来の資産形成について多角的に捉えることができたことから、この学習過程から生徒の深い学びができたと考える。（資料3）

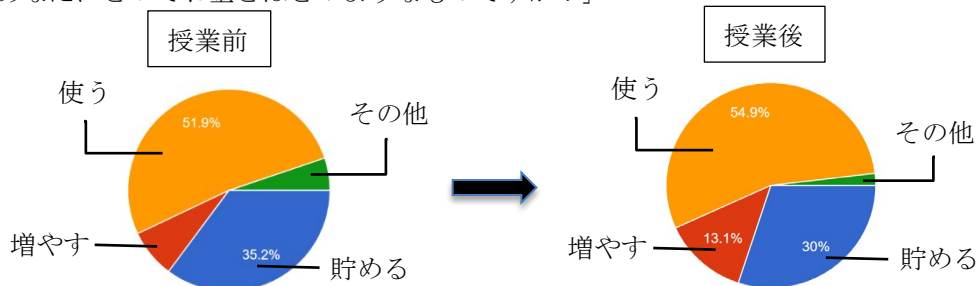
（資料3） モデルAさんに適した資産形成について（生徒の記述より）

選択した資産形成	理由
株式	Aさんの人生計画ではお金がたくさん必要なので、収益性の高い株式が良いと思ったから
	Aさんはたくさんお金が必要だから、収益性の高い株式がいいと思ったのと、農業をするならゆっくりできる時間ができると思うから株の上がり下がりもちゃんと見れると思うから
債券	ほぼ確実に利益が回収でき、安全性が高く、マイナスになることはないから
	今すぐではないなら、満期になれば必ず元本は必ず戻ってこれるし、利息をプラスにもらえるから
投資信託	農業や教師の仕事をしながらプロに任せてできて、お金も比較的たくさん入ってくると思うから
	お金はかかるが、プロに任せるので安全性は高く、分散投資もできて、ダメージもあまり大きくなくて済むから
預貯金	流動性がよく、すごく安全。子供がふたり欲しかったら、子供はお金がかかるから安全なお金がある預貯金がいいと思うから
	安全性がとても高いし、流動性もよく自分のタイミングでできるから結婚生活や子育てがあったので、安全性を一番に大切にしたいほうがよいかと思った

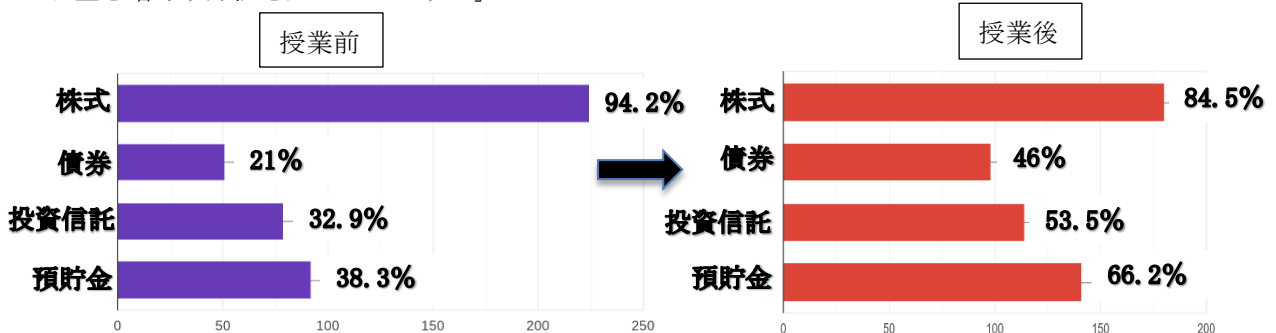
単元の終わりに、Googleフォームによる事後アンケート調査を実施した。（資料4）「あなたにとってお金とはどのようなものですか？」の問いでは、「増やす」と回答した生徒が7.8%から13.1%へとほぼ倍増した。「お金を増やす方法を知っていますか？」の問いについても「株式」「預貯金」に偏っていた事前アンケートから、「債権」が21%から46%へ、「投資信託」が32.9%から53.5%へと大きく増加した。授業実践により、預貯金だけではなく、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴（メリット、デメリット）について多角的に捉えることができるようになった結果だと思われる。

（資料4）事後アンケート

- ・「あなたにとってお金とはどのようなものですか？」



- ・「お金を増やす方法を知っていますか？」



イ 単元における適切な学習評価の工夫について

研究のテーマである「適切な評価」については、記録に残す評価と指導に生かす評価を整理し検討した。記録に残す評価（思考・判断・表現）として、本時の授業の内容についてだけではなく、それぞれの資産運用の方法を理解したうえで、自分の性格や将来のライフスタイルなどと照らし合わせて考えられているかを評価することとした。指導に生かす評価としては、それぞれの班での話し合いがどの程度主体的・対話的におこなわれたのかを「見える化」するために、ワークシートに、グループでの活動ごとの自己評価と相互評価の項目を作成した。評価は、「他者の意見を引き出したり、補ったりして話し合うことができる」、「自分の意見を出し、その根拠とともに話を深めたり、広げたりしている」、「自分の意見を出すことができる」、「自分の意見が出せない」の4段階とした。ワークシートには、生徒の学習評価の理解が深まるように単元の評価規準を記載した。さらに各学習過程における思考を深めるために、タイムマネジメント及び学習活動をより効果的にする視点をスライドの提示や口頭での詳細な解説を加えるなどの工夫をした。

今回のジグソー法を用いた授業では、4種類の資料を使用したが生徒は自分が担当した資料以外を活動の中で目にする機会がないため、それぞれの資料の内容を理解しきれなかった生徒に対して、授業後に4種類の資料の内容を共有する等の工夫が必要であることを付け加えておく。

単元を貫く問いについては、「成人として適切な意思決定をし、持続可能な消費生活を実現するためには何が必要か？」と設定した。「資産形成」というキーワードを用いて考えさせ、授業後にGoogleフォームによる回答をさせた。

ウ 成果

今回用いたジグソー法は、学習者同士の協力や教え合いを促進し、それを通して学びを深める共同学習である。他者に教えることで内容についての理解度も上がり、自らの問題意識も深まるため、個々が考え、活発に言語活動が行われていたことは、大きな成果としてあげられる。例えば、導入部分では自らのライフプランを考えさせ、進学や結婚、老後にかかる費用を提示し、将来必要になる費用を具体的にイメージさせることで、本時の内容に入りやすくなった。これは、個々が自分事としてとらえ、他者と活発に話し合いができるような工夫を盛り込めたからだと考える。また、自分に合った資産形成を考える前に、身近な人物をモデルにして資産形成について考えたことが、学習活動に対するモチベーションにつながったと考えられる。評価に関しても、要点を◎、○、△で判断することで、話し合いがスムーズに進んだ。他者の意見を多く聞いたことも今後の自らの人生を考えるうえで大きく役立ったと思われる。

エ 課題・今後に向けて

ジグソー法を用いての授業は、エキスパート活動とジグソー活動の2つのグループでの活動を行うため、タイムマネジメントが重要となる。今回はICTを活用し、全体に時間を示すことでタイムマネジメントをうまく行うことができた。これも成果の一つと言えるが、エキスパート活動に用いる資料に関しては、内容を分かりやすく整理し、統一感のある資料を準備することが生徒の活動をより円滑にさせることにつながると感じた。また、今回は実施しなかったが、進行役やファシリテータを置くことも、グループ活動での話し合いをより活発にスムーズに進めるために必要であると感じた。

ジグソー活動では4種類の資料を用いて行うが、活動のなかではすべての資料を目にする機会がないため、自分の資料以外の理解度は生徒によって様々である。そのため、使用した資料の共有方法を工夫する必要がある。使用したすべての資料の共有を行うことで、ジグソー活動で理解ができなかった生徒だけではなく、全体の理解度も上がっていくのではないかと考える。また、資料の共有については、その方法とともにどのタイミングで共有するのかについても工夫する必要がある。

今回の授業を通して、生徒は、将来の資産形成について人任せにすることなく考えたことで、自らの人生を自らの力で歩いていくための最初の一步を踏み出すことができたと思う。今後も持続可能な消費生活を実現するための学習活動を追求していきたい。

資料① 「株式」

班で話し合っで大切だと思うところに線を引き、自分で説明できるようにしよう。

株式とは、「この会社・お店を応援しよう!とお金を渡して、その代わりにもらえるメンバーズカード」です。

お金を渡すことを「出資(しゅっし)」、メンバーズカードのことを「株券(かぶけん)」、出資したメンバーのことを「株主(かぶぬし)」といいます。

例えば、ある街で「ハンバーガー屋を始めるぞ!たくさんの人に僕の美味しいハンバーガーを食べてもらおうだ!」と考える「起業家」がいました。お店を始める時は、いろいろとお金がかかるようで、起業家は、「お金を貸してくれる人」を募集していました。

その起業家を「応援したい」と思っでお店を始めるためのお金を渡すことを「出資」といい、出資すると、起業家は代わりに「特別なメンバーズカード」=「株券」を渡してくれます。出資した金額に応じて、もらえる株券の枚数は変わります。

無事にお金が集まると、いよいよ新しいハンバーガー屋がオープンします。お店の人気は順調で、だいが「売上」もあがっている様子。その時、「出資してくれた人へのお礼で、利益の一部を渡しますね」と言われ、それなりのお金を受け取りました。これが、「配当金」です。また、半年に一回もらえる優待チケット(=「株主優待」)も受け取りました。

月日は流れ、いつの間にか「行列ができる繁盛店」に成長していき、株券の「人気」や「希少価値」も上がっていききました。このように、お店が儲かることによって、株券の価値も上がります。

お店も軌道に乗ったようだし、自分も「将来のための勉強」や「大事な家族旅行」にお金を使う予定があるので、もらった株券2枚のうち1枚を、「お金を払ってでもほしい」という人に譲っでお金をもらっ(一売)ことにしました。株券を譲った代りに受け取ったお金は、なんと、最初に起業家に渡した時の3倍以上の金額になりました。

しかし、株式は「絶対に儲かる」とは限りません。思っただい人気が出なかつたり、売れすぎて「利益」が出なかつたり、食中毒が発生しお客さんが来なくなつたり、近くに競合店がきたり、理由は様々です。

お店が儲からなかつたら、先ほどの「配当金」はもらえませんが、特別メンバーズカード=「株券」の価値も上がりません。

配当金ももらえず、株券の価値も下がった状態で譲る(売る)ことになつたら、だいが損することになりますね。

それどころか、お店の売上・利益が上がらず、閉店することになつたら、「出資を受けとった側」に返す義務はないので、「出資した人=株主」には1円も返つてこない。つまり、全部パーになる可能性すらあります。

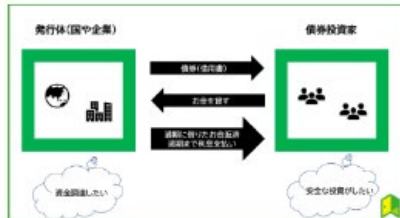
出典:FPオフィス「あしたば」HP <https://ashitaba-mirai.jp/>

資料② 「債券」

班で話し合っで大切だと思うところに線を引き、自分で説明できるようにしよう。

債券投資とは、「発行体である企業や国にお金を貸すこと」で、お金を貸したという証明書が「債券」にあたります。種類は、国が発行する「国債」、自治体が発行する「地方債」、そして企業によって発行される「社債」などに分けられます。

投資家は、満期日に発行体(企業や国)から貸したお金と利息を受け取るということになります。



今回は、高い信用力のある「日本国債」を購入することにしました。日本国債とは名前の通り、日本政府が国家予算を作成したときに不足分の財源確保を担いとして発行する債券です。日本で発行される債券の9割はこの国債に当たります。元本割れがなく(マイナスにはならないということ)、1万円から購入できるという手軽さも魅力です。

例えば、計算がしやすいので満期5年、1年間で5%の利息の債券を100万円分購入します。その場合、毎年5万円を受け取ることができ、5年後には投資元本の100万円も返済してもらえます。合計で125万円受け取れるから、25万円多く受け取ることになります(税金除く)。「日本国債」は確率リスクが低いため、ほぼ確実に利益が回収できるから、安全性が高いといえます。しかし、その分収益性が低く、預貯金とあまり変わらないということも言えます。

それでは、今の利率はどうでしょう。2022年9月現在の利率は0.05%のため、上記の例と同じ100万円を購入した場合、毎年500円を受け取ることができ、5年後には投資元本の100万円も返済してもらえます。合計で100万2,500円受け取れるから、元よりも2,500円多く受け取ることになるわけです。

出典: いろはに投資HP <https://www.bridge-saknu.jp/toushi/>

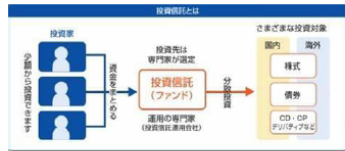
資料③ 「投資信託」

班で話し合っで大切だと思うところに線を引き、自分で説明できるようにしよう。

投資したい人が投資する金額に特段の制約はなく、「月1万円」でも「一括で100万円」でもOK!金額の下限は窓口の金融機関によって異なりますが、だいたい数千円~1万円が一般的です。逆に、上限はほぼありませんので、数千万円単位で投資する方もいます。

タイミングは「月々」か「まとまったお金を一括」が基本ですが、金融機関によっては「毎日」「ボーナス時」「毎年」など柔軟に対応してくれるところもあります。そのため、最近では「お釣りに投資」や「毎月100円」みたいな超少額の投資方法も登場しているのです。

「プロ・専門家に任せる」点が投資信託の最大のポイント。そもそも、文字通り「信じて託す投資方法」だからこそ、投資信託という名前が付いています。プロに運用を任せるため、自分で細かく調べて投資する企業を選んだり、株価等の変動を見ながら「売ったり買ったり」する必要もありません。投資先の企業等の情報は「アナリスト」といわれる専門家が調査してくれますし、実際に売ったり買ったりするトレーディングは「ファンドマネージャー」という専門家が実行してくれます。餅は餅屋に任せましょう!ということですね。ただし、別途プロに任せることへの対価として、一定の「手数料」を支払うことにはなります。



「分散投資」ができるのも、非常に重要なポイントです。
 ・投資した企業が倒産する可能性もあるが、数十~数百の企業に分散して投資するため、仮に1社が倒産してもダメージは軽くて済む
 ・その分散投資を実現するには大きな資金が必要だが、多くの投資家から資金を募っているため、十分な分散投資が可能(最小数十~数百億円の資金で運用しています)

投資において「分散」は必須ですが、「少額の投資資金しか持っていない一般生活者」にとって、自分でそれを実行するのは難しいもの。

このように、だれでも気軽に投資を始められる投資信託ですが、当然ながら「投資リスク(元本割れリスク)」があります。プロに任せたらといて「必ず利益が出る(ふえる)」ものではなく、利益が出るかもしれませんが、損失が出るかもしれません。あくまでも投資・運用の成果に対する責任は、投資家自身が負うことになります。

出典:FPオフィス「あしたば」HP <https://ashitaba-mirai.jp/>

資料④ 「預貯金」

班で話し合っで大切だと思うところに線を引き、自分で説明できるようにしよう。

○預貯金について
 預貯金という言葉でいう以下のような金融商品です。

- 【預貯金の特徴】
- ・銀行等にお金を預けること
 - ・給付の受け取り、公共料金の引き落としなどにも利用
 - ・お金の引き出しが簡単(銀行やコンビニのATMなど)
 - ・元本保証あり(元本1000万円までとその利息)
 ⇒元本保証とは、金融商品の購入・投資に充てた資金が減ることはない

【利息と金利】
 ○利息(利率)~借りたり、貸したりしたお金に、一定の割合で支払われる対価(金額)

○金利(利率)~借りたり、貸したりした資金に対する対価の利率(%)
 (例)金利0.01%で100万円を預けると1年後は100万10円
 ※10円が利息となる!

【預貯金で金利を実感してみよう!(72の法則!)]

$$72 \div \text{金利}(\%) = \text{お金が2倍になる期間}$$

(例)銀行に預けた10,000円(元本)が20,000円になるのに必要な年数

- 祖父母世代(預金金利8%) $72 \div 8 = \text{約} 9 \text{年}$
- 親世代(預金金利6%) $72 \div 6 = \text{約} 11.9 \text{年}$
- 現在(預金金利0.01%) $72 \div 0.01 = \text{約} 6,932 \text{年}$

※現在の金利はほぼ、ゼロ。預貯金は金庫に安全に保管してもらう。

出典: 金融庁HP <https://www.fsa.go.jp/news/r3/sonota/20220317/04-2.pdf>
 一般社団法人 全国銀行協会HP <https://diamond.jp/articles/-/286493>
 DIAMOND online <https://www.zengkyo.or.jp/article/tag-c/5204/>

2022年 月 日

家庭基礎 No.16	第3編 第1章 消費行動を考える 『 将来のライフプランニング 』	年 組 番 氏名
---------------	--------------------------------------	-------------

目標

<Warm-up> 人生のなかで絶対に経験したいライフイベントに○をつけよう

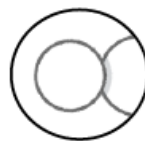
進学 ・ 資格取得 ・ 就職 ・ 一人暮らし ・ 結婚 ・ 育児 ・ マイホームを購入
車を購入 ・ 親の介護 ・ お墓を購入 ・ その他 ()

<Work 1> 老後の不安にどう備える？

Aさんは最近結婚しました。最近のパートナーとの話題は、もっぱらこれからの結婚生活や子育てについてです。最初は楽しいことばかり考えて、楽しかったのですが、マイホームや子どものこと、お互いの親の介護のこと、自分たちの健康面、退職後の暮らし方について話しているうちに、だんだん経済的なことが不安になっていきます。
毎月給料から一応貯金はしているのですが、このまま貯金をしていくだけで、これからの生活や老後は安心してすごせるのか悩むばかりです。
Aさんに一番びっぴりな資産形成の仕方を教えてあげましょう！

Aさんのプロフィールとライフスタイル

- 年齢：29歳
- 性別：男性
- 職業：高校の国語科の先生
- 家族構成：パートナーとふたり
- 子どもの人数：2人希望
- 実家の家族：(Aさん)両親、妹 (パートナー)両親



- 住居はどうする？…ゆくゆくは購入したい。
できれば大災害後(南海トラフ地震など)に購入したい。
- 老後の過ごし方は？
退職したら仕事はせず、親の実家がある九州で農業をして過ごしたい。パートナーも一緒に行く予定。そのための移住の準備や農機具などの購入を退職までに済ませておきたい。

(1)資料を読んで、大切だと思うところに線を引き、自分で説明できるようにしよう。(別紙)

自分の担当に○をつけよう

私の担当は、(①株式 ・ ②債券 ・ ③投資信託 ・ ④預貯金)です。

(2)各担当の説明を聞き、資産形成の要点について「安全性」「収益性」「流動性」「リスク」項目を◎△、おすすめ度を1～4でまとめよう。(班で話し合ってから話し合っている必要はない、自分の考えを記入)

	安全性	収益性	流動性	おすすめ度	安全性	収益性	流動性	おすすめ度
①株式					③投資信託			
②債券					④預貯金			

(3)Aさんに合った資産形成を班で話し合ってから結論を出そう。

結論 私たちが選んだAさんにおすすめの資産形成は、

(①株式 ・ ②債券 ・ ③投資信託 ・ ④預貯金)です。

理由は、

です。

(4)各班で話し合った結論を発表しよう。

他の班の発表を聞きながら、自分たちにはなかった意見や、なるほどと思ったことをメモしよう。

メモ

<Work 2> 今日の授業をふまえて考えよう

(1)自分が将来のリスクに備えるために選びたい資産形成とその理由を考えよう。(思・判・表)
わたしが選んだ資産形成は、(①株式 ・ ②債券 ・ ③投資信託 ・ ④預貯金)です。

理由は、

＜発展＞今日の授業に興味をもったひとは・・・

- 書籍(大和西高校図書館にあるもの)



給与明細から読み解く
お金のしくみ
監修者 高橋剛
編纂者 宮田玲子
発行人 廣瀬和二
発行所 図書印刷株式会社



マンガでわかる
高校生からのお金の教科書
監修者 高橋剛
編纂者 宮田玲子
発行人 廣瀬和二
発行所 図書印刷株式会社



14歳からのお金の話
著者 池上彰
発行人 石崎五
発行所 株式会社マガジンハウス



経済ってなんだ?
世界一たのしい経済の教科書
著者 山本御陰
発行人 小川淳
発行所 SBクリエイティブ株式会社

(2)今日の話し合いを評価しよう。

A	他者の意見を引き出し、補ったりして話し合うことができる。
B	自分の意見を出し、その根拠とともに話を深めたり、広げたりしている。
C	自分の意見を出すことができる。
D	自分の意見が出せない。

話し合いの自己相互評価	自分	グループメンバー
<Work1>(1)	()	()

話し合いの自己相互評価	自分	グループメンバー
<Work1>(2)(3)	()	()

今日の授業の感想・質問など(何もなければ記入しないで大丈夫です)

- (3)フオームで回答しよう。
- ①単元を責く問い「成人として適切な意思決定をし、持続可能な消費生活を実現するために自分ができることは何か考えてみよう。」の答えを「資産形成」というキーワードを使って考えてみよう。
 - ②今日の授業を通して、大切だと思ったこと、課題解決のために自分ができることは何か考えてみよう。

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
単元の評価標準	<ul style="list-style-type: none"> -[知]家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。 -[技]消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解しているとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。 -[知]生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解しているとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費、持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理、消費行動と意思決定、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

● Web サイト(資料①～④作成に使用したもの)



金融庁 HP
報道発表資料
「応用編 4 貯める・増やす～資産形成～」



一般社団法人 全国銀行協会 HP
「外貨預金の特徴を知る」



FP オフィス「あしたば」HP



いるはに投資 HP



DIAMOND online
「【実は増え方が 10 倍違う?】預金は【金利】を必ず意識しなさい」

※2次元コードのリンク先については、令和4年10月(授業プリント作成)時点のものになります。

情 報

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

新学習指導要領実施を踏まえた「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の考察と実践

(2) 研究のねらい

新学習指導要領実施を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行う上で、学習評価の在り方が重要である。本研究は、3観点のうち「主体的に学習に取り組む態度」の評価に焦点を当て生徒の学習状況を適切に評価し、計画的に学習活動の改善を図ることを目指した。

2 実践事例

(1) 【事例1】単元指導計画

ア 科目名：情報Ⅰ

イ 単元名：コンピュータとプログラミング

ウ 単元の目標：

- ・ 目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用する技能を身に付ける。
- ・ 目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行うために考察する思考力を身に付ける。また、その結果を踏まえて問題解決の過程を評価し、適切な解決方法を考える力や改善する力を身に付ける。
- ・ 問題を解決する活動を通して、問題解決できるまで粘り強くアルゴリズムを考察しようとする態度と、グループで協働的に活動する中で情報社会に主体的に参画しようとする態度を身に付ける。

エ 単元の評価規準


知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①コンピュータの仕組みや五大装置の役割について理解している。 ②アルゴリズムやプログラムについて、正確に読み書きができる。 ③問題解決にコンピュータを効果的に活用することができる。	①問題を多角的に捉えている。 ②プログラムについて、命令順を入れ替えることやエラー箇所を修正することでアルゴリズム通りのプログラムとなるように考察している。 ③問題を多角的に捉え、必要に応じたシミュレーションを考察している。	①アルゴリズムやプログラムの書き方について分かりやすくまとめようとしている。 ②問題解決の手法や手順を論理的に正しく表現できるまで粘り強く考えようとしている。 ③問題解決を協働的にを行い、役割分担や議論などを通して解決しようとしている。

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	コンピュータの構造や五大装置の役割を理解する。	●		○	知①：穴埋めスライド 態①：Google サイト
2	2	アルゴリズムの概念や必要性を理解し、アルゴリズムを表現するツールとして、アクティビティ図を扱う。		●	●	思①態②：演習ファイル 態①：Google サイト
	3	アルゴリズムを表現するツールとして、フローチャートを扱う技能を習得する。	●			知②：演習ファイル
3	4	プログラミングの順次構造をレゴ・マインドストームで習得する。	●			知②：プログラム

	5 6	プログラミングの分岐構造と反復構造を、センサーを用いたレゴ・マインドストームで習得する。		● ○	○	思②：プログラム 態①：Google サイト
4	7 8	プログラミングの3つの基本構造を組み合わせたライントレースのプログラム作成をレゴ・マインドストームで行う。	○	● ○	○	知③思②：プログラム 態②③：活動報告書 Google サイト
	9 10	モデル化とシミュレーションの方法や必要性について、自動掃除ロボットの動き方をレゴ・マインドストームで再現することで習得する。	○	○ ○	○	知③思③：プログラム 態②③：活動報告書 Google サイト

カ 授業実践例 (2時間目/10時間)

学習活動	指導上の留意点	評価の観点 (評価方法)
<p>・本時の目的、ねらいを理解する。 ねらい：アルゴリズムとは何かを知り、協働的に行動の手順化ができるようになる。</p> <p>・動画①「アルゴリズムとは」について、コメントを確認する(図1)。</p> <p>・動画①「アルゴリズムとは」について的小テストをGoogle フォームで行う(図2)。</p> <p>・小テストの答え合わせを行う。</p> <p>・動画②「牛井提供のアクティビティ図を作ろう」を視聴した上で、グループでアクティビティ図を作成する(図3)。</p>  <p>動画②</p>	<p>・本時は事前に動画①「アルゴリズムとは」を視聴している前提で実施するため、動画の視聴確認と本時の目的の再確認をさせることに留意する。</p> <p>・動画へのコメントで視聴の有無を確認し、視聴していない生徒に対して、声掛けを行う。また本時で必要な知識を小テストで再度確認させる。</p> <p>・小テストの結果は記録に残す評価とはせず、小テストの結果を踏まえてGoogleサイトにまとめさせることで、生徒に自身の理解度の確認をさせる。</p> <p>・動画に登場する3人(受付、配膳、調理)それぞれの行動を時間軸に注意して考えるよう促す。</p> <p>・協働的な活動を促すため、グループ内で役割分担(機器操作、時間など)は教員側から指定しない。</p> <p>・スライド「アクティビティ図を作ろう」の使い方はグループ内で学び合いをさせ、必要に応じて教員が対応する。</p>	 <p>動画①</p> <p>思①態② アクティビティ図(演習ファイル)</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・クラスルームを使って、アクティビティ図をクラス内共有し、他グループのアクティビティ図に対してコメントを入力する(図3)。 ・本時の内容のまとめと感想をGoogleサイトにまとめる(図4)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入力項目は次の通り。 ①動画、授業で理解できたこととできなかったこと ②アクティビティ図を見比べて思ったこと 	態① Google サイト
--	---	------------------

<本時の評価ルーブリック>

思考・判断・表現①

評価	評価の観点・手立て
「十分満足できる」状況(A)	注文を受けてから提供までのアルゴリズムが、3人(受付、配膳、調理)の時間軸においても効率的に表現されている。
「おおむね満足できる」状況(B)	注文を受けてから提供までのアルゴリズムが、矛盾なく表現されている。
「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への手立て	アルゴリズムがどこまで表現できているか確認し、学習を振り返らせ、例を参考にしながら表現することを促す。

主体的に学習に取り組む態度①

評価	評価の観点・手立て
「十分満足できる」状況(A)	アルゴリズムの意味やアクティビティ図の使い方について、これまでの学習内容と関連付けたり、今後の見通しを立てたりするなど、自己調整しながらまとめようとしている。
「おおむね満足できる」状況(B)	アルゴリズムの意味やアクティビティ図の使い方について、本時の授業を振り返ってまとめようとしている。
「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への手立て	学習を振り返らせ、まとめ方を例示し、アルゴリズムの意味やアクティビティ図の使い方についてのまとめ方を考えさせる。

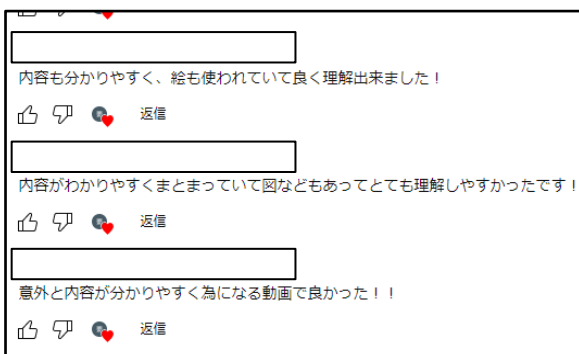


図1 動画に対する生徒のコメント (YouTube)

朝起きた後の行動

```

    graph TD
      A[顔を洗う] --> B[朝食を食べる]
      A --> C[TVでニュースを見る]
      B --> D[①]
      C --> D
      D --> E[着替える]
      E --> F(( ))
      style F fill:none,stroke:none
    
```

(1) このアクティビティ図を説明しているものを選択肢の中から選んでください。10ポイントください。

- 顔を洗った後、朝食を食べた後に①を行い、その2つの行動と同時にTVでニュースを見る。①を行い、ニュースを見終わると着替える。
- 顔を洗った後、朝食を食べた後に①を行い、その後TVでニュースを見る。ニュースを見終わると着替える。
- 顔を洗った後、日によって朝食を食べた後に①を行うか、TVでニュースを見るか決める。どちらかを行った後と着替える。

図2 動画①「アルゴリズムとは」について的小テスト (Google フォーム)

1班 牛丼提供のアク... ☆ 📄 🔄

ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 スライド 配置 ツール

3

記号の意味

記号	意味
●	開始
●	終了
▭	行動
—	移行処理
～必要な人は参考までに～	
◇	条件分岐

4

5

```

graph TD
    Start(( )) --> A[券を受け取る  
個数入力]
    A --> B[席に案内する]
    B --> C[お茶を渡す]
    C --> D[はしを準備する]
    C --> E[牛丼を作る]
    D --> F[伝票を入れる]
    E --> G[牛丼を運ぶ]
    F --> H[お会計  
ポイントカード持ってる  
か聞く]
    G --> H
    H --> End(( ))
  
```

1枚にコンパクトにまとまっている。
無駄を省いていて良い

事前に湯煎しや

お茶を渡すや伝票、お会計のポイントカードのどこまでやって細かくできてよかった。

細かく書いていてよかった。見やすい。
同時進行していて提供が速そう

図3 生徒がグループで作成したアクティビティ図とそれに対するコメント(Google スライド)

全ての色を混ぜたり黒とか暗めの色になると思っていたので白になることに高まりました。
それと虹を生み出す太陽の光も同じなのが疑問に思いました。

10月27日(木) アルゴリズムの表現

11 アルゴリズムの表現 P168/69

今日の感想

班の人たちと同時進行で行うことの難しさを感じた。日常の中でアルゴリズムを上手く使えるように慣れていけば時間の無駄がなくなると感じました。

印象に残ったこと

人に教えることって人生で一番大変なことだと思いました。普段の生活の中でも困っている人がいるのでアルゴリズムを習得できれば上手く教えることが可能になるのではないかと期待しています。

図4 生徒が作成した本時の部分のeポートフォリオ(Google サイト)

研究実施校：神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校(全日制)

実施日：令和4年10月27日(木)

授業担当者：一ノ瀬 要 教諭

(2) 【事例2】単元指導計画

ア 科目名：発展プログラミング(学校設定科目)

イ 単元名：GUIプログラミング(コンピュータとプログラミング)

ウ 単元の目標：

- ・プログラミングによってコンピュータを活用する方法について理解し技能を身に付けるとともに、CUIとGUIの表現方法について理解する。
- ・アルゴリズムを考え、表現し、プログラミングの過程を評価・改善するとともに、プログラミングの結果を踏まえて問題の適切な解決方法を考える。
- ・日常生活の中で使われているプログラムを見いだし改善することを通じて、問題解決にコンピュータやプログラミングを積極的に活用したり、情報社会に主体的に参画したりしようとする。

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①プログラミングによってコンピュータを活用する方法について理解し技能を身に付けている。 ②コンピュータの仕組みやGUIの特徴を理解している。 ③プログラムを評価・改善する方法について理解している。	①目的に応じたアルゴリズムや処理方法を考えたり、表現したりしている。 ②プログラミングの過程を評価し改善することができる。 ③目的に応じたプログラミングを行い、その結果を踏まえて適切な解決方法を考えている。	①日常生活の中で使われているプログラムを見いだし、再現しようとすることを通して、情報社会に主体的に参画しようとしている。 ②既存のプログラムを、より発展的なプログラムになるよう分析・評価・改善しようとしている。

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	○GUIプログラミングの基礎① ・CUIとGUIの違いを確認する。 ・プログラムを用いてGUIの画面を表現する方法を理解し、画面の大きさや背景色を変更する。	●			知①：ワークシート・成果物
2	2 3	○GUIプログラミングの基礎② ・コンピュータで色を表現する仕組みを理解し、プログラミングで活用できるようにする。 ・画面にラベル(テキスト)・ボタンを配置する。 ・画面上に図形を表示するためのプログラムの書き方を理解し、活用できるようにする。	●	●		知②：成果物 思①：成果物
3	4	○GUIプログラミングの基礎③ ・画面上に画像を表示するためのプログラムの書き方を理解し、活用できるようにする。	○		●	知②：成果物 態②：ワークシート、成果物
4	5	○おみくじプログラムの分析① ・乱数や画像を用いたおみくじプログラムを配付し、動作を分析する。 ・改良、追加する機能について検討する。			○	態②：ワークシート
5	6	○おみくじプログラムの分析② ・乱数や画像を用いたおみくじプログラムを配付し、動作を分析する。			●	態②：ワークシート

		・分析結果の意見を交換し、おみくじプログラムを発展的なものに改善する。				
6	7	○おみくじプログラムの分析③ ・作成したプログラムをお互いに実行・評価する。			○	態②：ワークシート、成果物
7	8	○おみくじプログラムの分析④ ・前時で分析し合った内容を基に更に改善する。 ・作成したプログラムをお互いに実行・評価する。		●		思②：授業観察・成果物
8	9 10 11 12	○応用プログラムの作成 ・日常生活にあるプログラムをGUIプログラムとして表現する。 ・作成したプログラムをお互いに評価・改善する。 ・実行・評価・改善を繰り返し、プログラムを発展させる。	●	○	●	知③：成果物 思①③：成果物・ワークシート 態①：授業観察・ワークシート

カ 授業実践例 (6・7時間目/12時間)

学習活動	指導上の留意点	評価の観点 (評価方法)
<p>1. 導入(10分)</p> <p>○配付されたおみくじプログラムを分析し、実装したい機能について前時に検討した内容を確認する(図1、2)。</p>	<p>・前時で記入した、実装したい機能について確認し、必要に応じて加筆させる。</p>	態② ワークシート
<p>2. 展開1(15分)</p> <p>○4～5人のグループを作り、実装したい機能について意見やアドバイスを伝え合う。</p>	<p>・アドバイスや意見をワークシートに記入し、実装可能か検討させる。</p>	
<p>3. 展開2(40分)</p> <p>○意見交換した内容を踏まえて、おみくじプログラムに変更を加える。</p>	<p>・意見交換した相手とも相談しながらプログラムを修正させる。 ・指摘されたアドバイスの中で、採用しないものがあればその理由を記入させる。</p>	
<p>4. 展開3(25分)</p> <p>○展開1と同じグループで、作成したプログラムを相互に実行し評価を行う(図3)。</p>	<p>・各作品(プログラム)をワークシートに沿って評価し、感想を記入させる。記入内容をGoogleフォームに転記し、提出させる。 ・消毒や手袋を装着させるなど、感染症対策に留意させる。</p>	態② ワークシート、成果物
<p>5. 振り返り</p> <p>○本時の授業の振り返りをGoogleフォームで記入する。</p>	<p>・今日の授業で学んだこと・発見したこと、自己評価をより高めるために必要だったことを文章で記述させる。</p>	

キ 観点別学習状況の評価の進め方

(7) 目標

プログラミングの過程を評価・改善するとともに、実行結果を踏まえて問題の適切な解決方法を考える。

(イ) 評価規準(主体的に学習に取り組む態度)

既存のプログラムを、より発展的なプログラムになるよう分析・評価・改善しようとしている。

(ウ) 展開

本時の授業では、事前に配付したおみくじプログラムの改善と、改善内容に対して意見交換を行うことでより発展的なプログラムを作成する。相互評価によりプログラムを多角的に評価することで既存のプログラムをより発展させたり、粘り強く改善に取り組ませたりする過程を通して「主体的に学習に取り組む態度」について見取る。

(エ) 評価の具体

本時の評価規準は、「既存のプログラムを、より発展的なプログラムになるよう分析・評価・改善しようとしている」であり、自分や他者のプログラムにおける問題点や改善点の発見、解決方法を模索しながらプログラミングを行うことがポイントとなる。そのため、実際に生徒が意見交換した内容やそれらを反映させた成果物、ワークシートを基に評価を行う。

評価	評価の観点・手立て
「十分満足できる」状況(A)	<ul style="list-style-type: none"> ・おみくじプログラムを分析し、問題点や改善点を発見して改善できる。 ・他者のプログラムを分析し、問題点や改善点、その解決方法を考え伝えることができる。 ・意見交換した内容で自身のプログラムに反映させない項目があっても、明確な理由を持っている。
「おおむね満足できる」状況(B)	<ul style="list-style-type: none"> ・おみくじプログラムを分析し、問題点を発見して改善しようとしている。 ・他者のプログラムを分析し、問題点やその解決方法を考えることができる。
「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・改善点が考えられない生徒に「おみくじの種類を増やす」「おみくじの出現確率を変える」等を例示し、改善するように促す。 ・他者のプログラムに対して一つ以上の意見や感想を記入するように促す。

発展プログラミング

No.09

()組 ()番 氏名 ()

[1] おみくじプログラムの分析

プリント裏面の分析シートを使って動作の確認をしよう!

※裏面に記入

[2] おみくじプログラムの改善

追加、改善したい点を考え、下の表に記入しよう!

	追加、改善したい点	他の人からのアドバイス	実装できたか○or× (できない場合はその理由)
①			
②			

図1 授業プリント1

発展プログラミング おみくじプログラム 分析シート			
順	【ソースコード】	【動作の分析】	【画面上の実行結果】
①	<code>import tkinter</code>		
②	<code>import random</code>		
③	<code>def click_btn():</code>		
④	<code>label["text"]=random.choice(["大吉", "中吉", "小吉", "凶"])</code>		

図2 授業プリント2

おみくじプログラム 相互評価シート

No.09-2

()組 ()番 氏名 ()

[1] おみくじプログラムの相互評価

A・・・「B」に加えて他にも改善ができていて、B・・・おみくじの出現する種類と確率を変えている。

	制作者	元のプログラムと比べて改善ができていて	良かった点、もっと改善すべき点
例	浅井 有哉	A・B	おみくじの種類や出現する確率を変えており、より本物に近いプログラムに改善できていた。文字がラベルに入りきっていないおみくじがあったので、大きさを変えたほうが良いと思った。
①		A・B	
②		A・B	

図3 授業プリント3

研究実施校：神奈川県立相模原総合高等学校(全日制)

実施日：令和4年10月21日(金)

授業担当者：浅井 雄大 教諭

3 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

新学習指導要領の実施を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、指導と評価の一体化を図り、適切に評価する授業を目指した。生徒の「自己調整力」「粘り強さ」を育む手立てや、評価規準に沿って多面的に評価する方法を実践事例として紹介し、教員が抱く評価に対する不安感を取り除く一助となるよう、研究を進めた。

一ノ瀬教諭(茅ヶ崎西浜高等学校)の実践では、アルゴリズムの表現方法について、アクティビティ図を用いて表現することを目的に反転学習を行った。生徒が事前に動画視聴を行い理解できるまで繰り返し視聴することで、粘り強い取り組みを期待し、理解を深めた状態で本時に進む展開であった。生徒はGoogle サイトを利用し各々の理解や反省、発展的な感想などをまとめた。生徒は自ら書き出すことで現状を把握し理解に努め、授業者はルーブリックを事前に準備し、記録に残す評価につなげていた。

浅井教諭(相模原総合高等学校)の実践では、プログラミングの単元を例に、生徒は既存のプログラムをより発展的なプログラムになるよう分析・評価・改善する相互評価を行った。授業者はコーディングがうまく動作に結びついたことのみを評価するのではなく、分析シートや相互評価シートを基に、課題に対して自己調整を行い、粘り強く取り組む過程を評価した。PDCAサイクルを用いて、生徒が主体的に分析・評価・改善しようとしている姿が見られた。

二つの実践事例で共通していたのは、生徒がペーパーテスト等のためだけに授業に取り組むのではなく、もっと面白い考え方はないか、もっと最短での答えはないかなど、創意工夫し、生徒自らが主体的に学びに向かうことができていたことである。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、挙手の回数など、表面的な態度を評価することは適切ではないと理解しているが、「粘り強さ」や「自己調整」という生徒の内面的な部分を評価することに難しさを感じている教員が多いのではないかと考える。

本研究では、数値化しづらい「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、明確な判断基準をもって、ワークシート、相互評価シート、Google サイトやGoogle フォームなど、生徒の学習状況を多面的に捉え評価を行った。

また、学習評価の課題として、教師が評価のための記録に労力を割かれ、指導に注力できないという指摘がなされている。実践例のように、生徒の「主体的な学び」を評価する場面を事前に検討し、精選することで評価に対する労力を減らすことも可能となると考える。さらに、指導に生かす評価を充実させたことで、指導と評価の一体化を実現させることにもつながったと考える。

「主体的に学習に取り組む態度」の見取り方について、本研究では二つの実践例を示したが、その妥当性、信頼性をどのように高めていくか今後も検討していく必要があると考える。

主体的・対話的で深い学びの実現に向け、教員が指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って、次の学びに向かうことができるように、よりの確な学習評価の方法を今後も追及していきたい。

農 業

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

「新観点別評価による評価方法の検証と考察」

(2) 研究のねらい

研究主題である「組織的な授業改善の推進～新学習指導要領の実施を踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践～」を踏まえ、新観点別評価における評価方法についての研究を行った。

2 実践事例

【実践事例1】

(1) 単元指導計画

ア 科目名：食品製造（畜産科学科1学年）

イ 単元名：身近な食品の科学（食品の鮮やかな色を保つには）

ウ 単元の目標：身近な食品に関する疑問の解決を通して、食品製造を理解するうえでの基礎知識を得る。

エ 単元の評価規準 a：知識・技術 b：思考・判断・表現 c：主体的に学習に取り組む態度

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な食品に関する疑問の解決を通し、食品製造を理解するうえでの知識・技術を身に付けている。	身近な食品に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	身近な食品の科学について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

オ 単元の指導と評価の計画 ○・・・記録に残す評価 ●・・・指導に生かす評価

次	時	学習活動	観点			評価のポイント・指導上のポイント
			a	b	c	
1	1～2	○栄養素の種類と働き ・栄養素の特徴を覚える。	○			5大栄養素の特徴を理解している。 ワークシート 定期試験
2	3	○青菜に塩なぜしおれるか？ ・浸透圧を理解する。		○	●	浸透圧の原理を理解し、調味料の種類による浸透圧の違いを考えることができる。 ワークシート 定期試験
3	4	○さめたご飯がおいしくないのはなぜか？ ・デンプンの構造とその変化を理解する。			○	αデンプンの食品加工への利用を理解している。 振り返りシート
4	5	○食品の鮮やかな色を保つには？ ・pHが食品に与えている影響について知る。		○	●	食品の色がpHによってどう応用されているか説明することができる。 ワークシート 定期試験
5	6 本時	○食品の鮮やかな色を保つには？ ・食品加工における有機酸の活用方法を調べる。		○	●	有機酸の食品加工の際の役割を自らで調べ、身近な食品でどう利用されているかまとめることができる。 ワークシート
6	7	○LL牛乳は、なぜ長もちするのか？ ・加熱殺菌方法を理解する。	○		●	それぞれの加熱殺菌方法の特徴や役割を理解している。 ワークシート 定期試験

本時の評価規準：

【思考・判断・表現】ワークシート

- ①有機酸の種類を調べワークシートに記入することができている。
- ②有機酸の食品加工時の使用例を調べワークシートに記入することができている。

<p>「十分満足できると判断される状況（A）」と判断される具体的な例</p>	<p>①有機酸の種類を調べその具体的な特徴を記入することができた。 ②有機酸の食品加工時の使用例だけではなく、使用目的や製品に使用した際の表示例などを発展的に調べることができ、科学的に有機酸のことをまとめることができた。</p>
<p>「満足できると判断される状況（B）」と判断される具体的</p>	<p>①有機酸の種類を調べ記入することができた。 ②有機酸の食品加工時の使用例を調べることができた。</p>
<p>「努力を要すると判断される状況（C）」と評価した生徒への手立て</p>	<p>有機酸の種類や食品加工時の使用例を調べることができなかった生徒には、有機酸の例を出し、自分で調べることができるようにヒントを出すなどの支援をする。また、振り返りシートで学習の理解度を確認し、努力を要すると判断した場合は、ワークシートだけではなく、Google Jamboardを再確認させ、「どのような食品で利用されているか」を考えられるように支援する。</p>

カ 授業実践例（6時間目／7時間）

学習活動（指導上の留意点を含む）	評価の観点（評価方法）
<p>1. 本時の目標を確認する。 ・本時の目標を振り返りシートに記録する。前回の授業内容を復習し、食品加工における有機酸の役割を確認する。</p> <p>2. 食品加工における有機酸の活用方法を理解する。 ・有機酸の説明をプリントに記入する。その後、有機酸の種類をChromebookで調べプリントに記録する。【個人ワーク】</p> <p>3. 有機酸の食品製造における役割を調べる。 ・Chromebookを用いて有機酸を食品加工時に使用している具体例を調べる。【個人ワーク】 ・調べた内容をGoogle Jamboardにてグループで共有する。 ・Google Jamboardに貼り付けた有機酸の役割を種類ごとに分類する。【グループワーク】</p> <p>4. 振り返りシートに本時の振り返りを記入する。</p>	<p>b 有機酸の種類を調べ記入することができている。（ワークシート）</p> <p>b 有機酸の食品加工時の使用例を調べ記入することができている。（ワークシート）</p>

研究実施校：神奈川県立中央農業高等学校(全日制)
実施日：令和4年11月17日(木)
授業担当者：江川 哲平 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア 単元における主体的・対話的で深い学びについて

今回の研究実践では、身近な食品に関する疑問を通して、食品製造を理解するうえでの基礎知識を得ることを目標に単元計画を考えた。畜産科学科の食品製造では1学年で1単位の実施のため、食品の事を身近に感じてもらいたく、毎授業で学習した内容が、実際にどのような食品を製造する際に応用されている技術なのか、どのような商品になっているのかを理解できるように授業づくりを考えた。

今回の研究実践では、食品加工における有機酸の役割について学習した。今年の1年生から1人1台ずつChromebookを持っているので、まずは個人ワークとして、食品製造に使用されている有機酸の種類をChromebookで調べプリントに記入した。(図1)

前時の授業でイチゴジャムにレモン汁を加えると、レモン汁に含まれる有機酸の働きで酸性になることを学んでいる。

アントシアニンの赤色が鮮やかになるということを実験により学習したことで、他の有機酸についても興味を持ち主体的に取り組むことができるように工夫した。

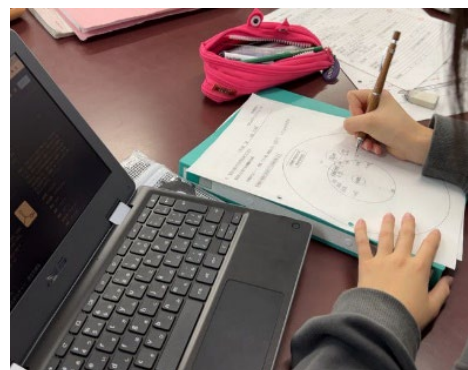


図1 ワークシートに記入する様子

次に調べた有機酸がどのような食品を製造する時に応用されているかを調べ、プリントに記入した。プリントの記入内容をもとに、Google Jamboardにそれぞれが調べた内容を入力し(図2)最後に入力された有機酸を班員で話し合いながら、種類ごとに分類(図3)した。班の生徒同士の協同を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」ができたと考える。今回の授業では、班で共有しただけになってしまったので、電子黒板を使用し班ごとに発表させるなどして、クラス全体で意見を共有する場面を設けることでできていれば、さらに自分の考えを広げ、深い学びができたと考える。

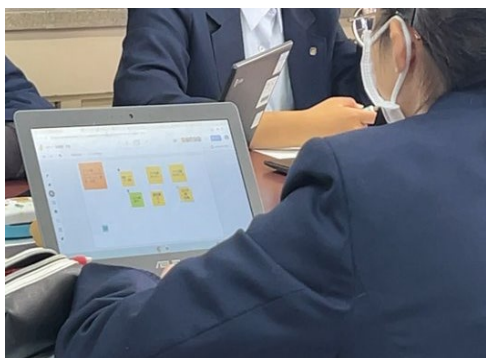


図2 Google Jamboardに入力



図3 有機酸の種類ごとに分類

イ 評価のポイント

今回の研究実践では、記録に残す評価として、【思考・判断・表現】をワークシート(図4)より評価することとした。個人ワークで行った、「①有機酸の種類を調べワークシートに記入することができている。」 「②有機酸の食品加工時の使用例を調べワークシートに記入することができている。」二つのワークの取組状況から行った。評価のポイントとして課題に対し、どこまで発展的に考え、表現できているかを評価の材料と考えた。ワークシートの評価については、書き込んだ量で判断しがちになるが、量ではなく、課題に対していかに考えが表現されているかに注目した。①の有機酸の種類に関しては、ほぼすべての生徒が有機酸の種類を調べプリントに書くことができていたが、有機酸の具体的な特徴まで記入できている生徒は少なかった。②の有機酸の食品加工時の使用例を調べワークシートに記入することができているかに関しては、ほとんどの生徒が利用されている食品のみ調べており具体的な、使用目的を記述している生徒は少なかった。個人ワークを実施する時間が短く、発展的に考えることができなかつたことも原因の一つであったと考える。

指導に生かす評価として振り返りシート(図5)の記入を行った。この単元では、実際にどのような食品を製造する際に応用されている技術なのか、どのような商品になっているのかを理解させたいので、それが確認できるよう、「どのような食品で利用されているか」を記入できるように工夫した。

1年3組 番 名前: _____

6. 食品の鮮やかな色を保つには？

食品加工における有機酸の活用

有機酸とは・・・ 酢酸、クエン酸、乳酸などの、(①)の(②)

有機酸の種類と食品加工での役割を調べよう

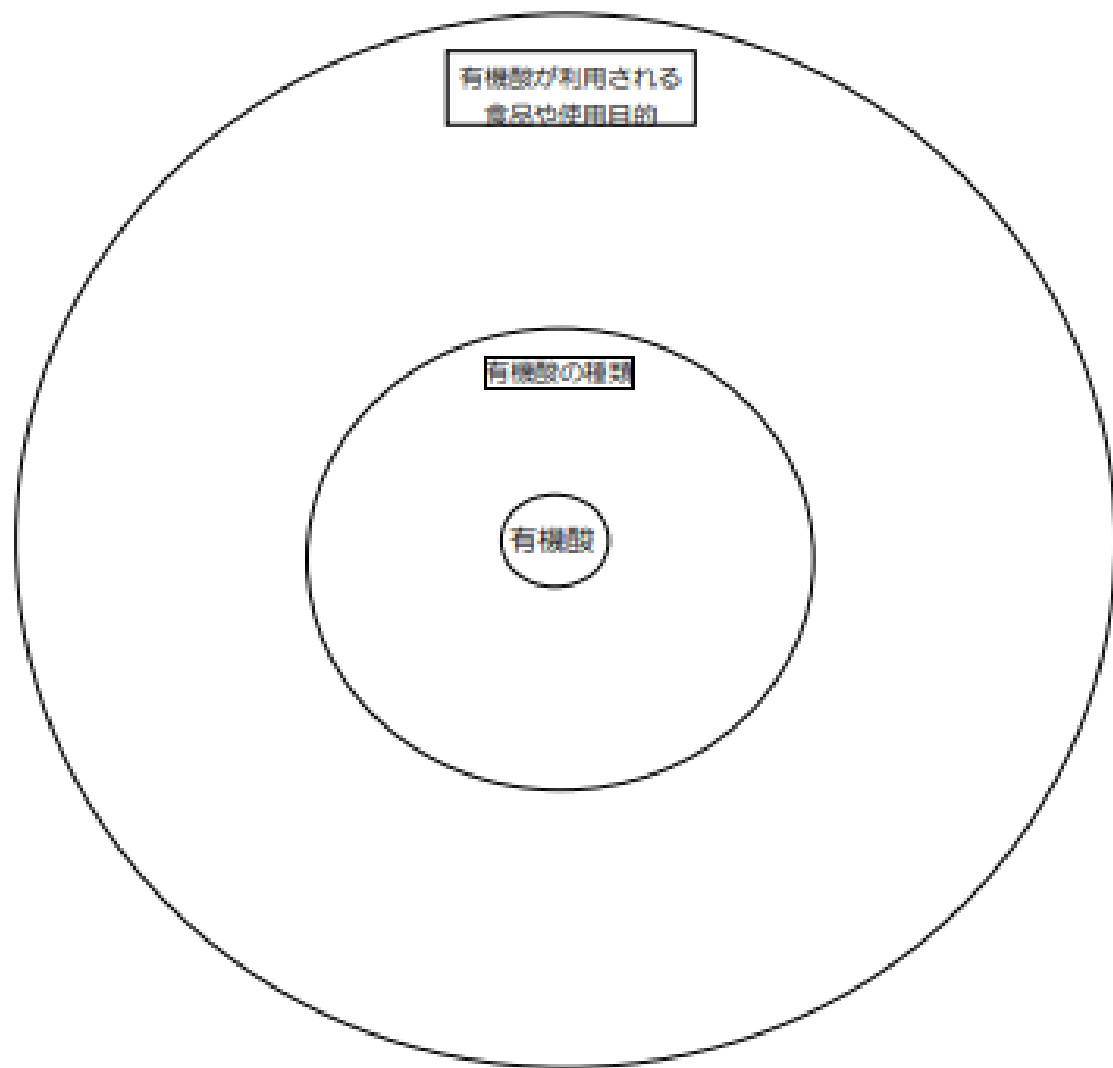


図4 使用したワークシート

単元：身近な食品の科学

本時の目標： _____ 月 日 ()	
授業内容：	
今日の授業で理解できたこと	どのような食品で利用されているか
自己評価： 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	

本時の目標： _____ 月 日 ()	
授業内容：	
今日の授業で理解できたこと	どのような食品で利用されているか
自己評価： 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	

本時の目標： _____ 月 日 ()	
授業内容：	
今日の授業で理解できたこと	どのような食品で利用されているか
自己評価： 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	

本時の目標： _____ 月 日 ()	
授業内容：	
今日の授業で理解できたこと	どのような食品で利用されているか
自己評価： 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	

図5 使用した振り返りシート

【実践事例2】

(1) 単元指導計画

ア 科目名：造園植栽（環境緑地科1学年）

イ 単元名：造園樹木（植物材料の種類と特性）

ウ 単元の目標：造園樹木について学び、造園樹木の特性に関する知識を身に付けるとともに、造園空間の目的や環境に応じた合理的な活用を考察し、地域の課題の解決に「主体的かつ協働的に取り組む態度」を習得する。

エ 単元の評価規準 a：知識・技術 b：思考・判断・表現 c：主体的に学習に取り組む態度

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
造園樹木の特性について理解しているとともに、特徴を適切に表現する技術を身に付けている。	造園樹木の適切な活用方法を科学的な根拠に基づいて創造的に考える。	造園樹木について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

オ 単元（題材）の指導と評価の計画

次	時	学習活動	観点			評価のポイント・指導上のポイント
			a	b	c	
1	1～4	○造園樹木の種類 ・造園樹木の植物学上の分類や実用上の分類などを理解する。	○			ノート 定期試験
2	5～8	○落葉広葉樹（緑化木：公園樹）の種類 ・緑化木：公園樹について理解する。 ・落葉広葉樹の種類を理解し、活用方法を考察する。 ・落葉広葉樹を観察し、スケッチをする。	○	○		観察レポート ノート 活動観察 定期試験
3	9～12	○落葉広葉樹（緑化木：街路樹）の種類 ・緑化木：街路樹について理解する。 ・落葉広葉樹の種類を理解し、活用方法を考察する。 ・落葉広葉樹を観察し、スケッチをする。	○	○		観察レポート ノート 活動観察 定期試験
4	13 本時	○落葉広葉樹の種類 ・落葉広葉樹の特性と植栽場所の環境状況を関連付けて考察し、振り返りを通して自らの学習状況を調整する。			○	ワークシート
5	14	○要素判断試験（落葉広葉樹） ・実物を観察し、各樹木を判別する。	○			要素試験 （小テスト）
6	15～17	○針葉樹（生垣用樹種）の種類 ・生垣用樹種について理解する。 ・針葉樹の種類を理解し、活用方法を考察する。 ・針葉樹を観察し、スケッチをする。	○	○		観察レポート ノート 活動観察 定期試験
7	18～20	○針葉樹（防潮用樹種）の種類 ・防潮用樹種について理解する。 ・針葉樹の種類を理解し、活用方法を考察する。 ・針葉樹を観察し、スケッチをする。	○	○		観察レポート ノート 活動観察 定期試験
8	21	○針葉樹の種類 ・針葉樹の特性と植栽場所の環境状況を関連付けて考察することができ、振り返りを通して自らの学習状況を調整する。			○	ワークシート
9	22	○要素判断試験（針葉樹） ・実物を観察し、各樹木を判別する。	○			要素試験 （小テスト）
10	23～24	○常緑広葉樹（防火用樹種）の種類 ・防潮用樹種について理解する。 ・常緑広葉樹の種類を理解し、活用方法を考察する。 ・常緑広葉樹を観察し、スケッチをする。	○	○		観察レポート ノート 活動観察 定期試験

本時の評価基準：

【主体的に学習に取り組む態度】ワークシート

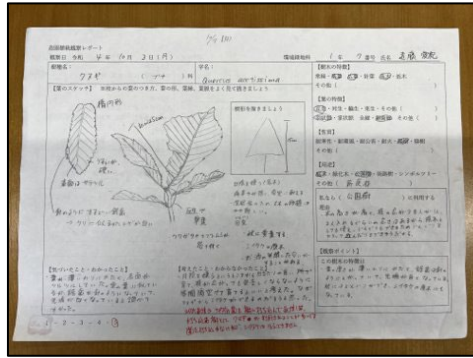
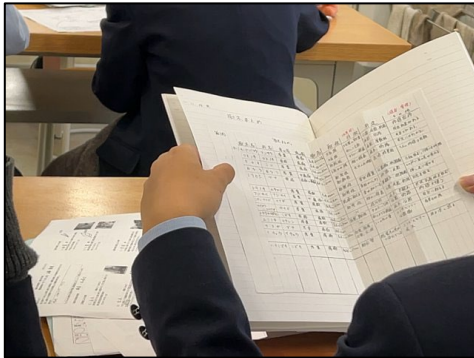
「十分満足できると判断される状況 (A)」と判断される具体的な例	造園樹木の特性と植栽する環境を関連付けて、適当な樹木を選定するとともに、振り返りを通して、今後の学習への取り組みについて考えることができる。
「満足できると判断される状況 (B)」と判断される具体的な例	造園樹木の特性と植栽する環境を関連付けて、適当な樹木を選定することができる。
「努力を要すると判断される状況 (C)」と評価した生徒への手立て	科学的根拠から樹木を選定することができない生徒は、全体との共有を通して、造園樹木の種類や特性について理解できるように支援する。

カ 授業実践例 (13時間目/24時間)

学習活動 (指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>①本時の学習内容について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容で身に付けた造園樹木の知識を活用し、科学的な根拠に基づいて地域の緑化に必要な樹木を選定する授業であることを確認する。 <div data-bbox="199 761 1109 1209" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>本日の授業目標 「知識に基づいて、適切な樹木を選定する力を深める」</p> <p>学習の取り組み</p> <p>樹木の知識 × 造園樹木の知識 = 適切な活用方法を考える</p> </div> <p>②地域が求める緑化と植栽の条件について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域が求める緑化を実現することと、樹木を植栽管理する条件を、関連付けて考える必要性を理解する。 <p>③地域の課題を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の最寄り駅である橋本駅の開発状況を学習し、開発に伴う緑地の減少が課題であることを理解する。 <div data-bbox="199 1500 1173 1982" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>過去</p> <p>現在</p> <p>未来</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>地域の課題・橋本駅周辺開発のコンセプト</p> <ul style="list-style-type: none"> 法定的な交通・連絡のゲートづくり 広域交通網を形成し、国内外を問わず広域的に情報、人材、文化等が活発に交流・連携するゲートづくりを進めます。 インベーション拠点としてのまちづくり 交通ゲート機能の活用やさらなる都市機能集積を進め、商業や学術、文化等、あらゆる分野で新たな価値を創造(イノベーション)するまちづくりを進めます。 情報発信拠点としてのまちづくり 首都圏有数の交通ゲートとして、生み出される価値や情報を次々と市民や来訪者に発信し、都市の魅力を向上する情報発信拠点としてのまちづくりを進めます。 環境共生・人の暮らしに配慮したまちづくり 緑地・自然環境や多様な世代の暮らし・活動に配慮したまちづくりを進めます。 </div> </div> </div>	

④適切な樹木を選定する（個人→ペア→全体）。

- 橋本駅の街路樹・シンボルツリーとして適当な樹木を考える。（ワークシートの活用）
- 自身が考えた橋本駅に適した街路樹とシンボルツリーをペアで共有する。その後、全体でも共有する。



観察レポートを活用

わたしが考える街路樹として植栽する樹木は()

理由は

あなたが考えた街路樹として植栽する樹木は()

理由は

(授業用ワークシート)

⑤街路樹・シンボルツリーに適した樹木の性質を理解する。

相模原市要覧1995年より(参考)

順位	樹木名	植栽本数
1	イチョウ	3032
2	ケヤキ	1324
3	サクラ	956
4	ナツツバキ	700
5	ツバキ	631
6	ユリノキ	613
7	マテバシイ	569
8	トウカエデ	555
9	ヤナギ	534
10	ハナミズキ	513

⑥本時の学習に対する振り返り

- 造園樹木の知識を活用し、科学的な根拠に基づいて地域の緑化に必要な樹木を選定する考え方を、身に付けられているかどうか、自己評価を通して確認するとともに、今後の学習への取組について考える。

本時の振り返り

授業でわかったこと・できたこと	授業でわからなかったこと・できなかったこと・疑問

本時の取り組みを振り返り、よかった点・改善点・今後の取組みかたなどを書こう(自己分析)

○よかった点は()

○改善点は()

○今後は()

(振り返りシート)

●指導に生かす評価
(授業用ワークシート)

○主体的に学習に取り組む態度
(振り返りシート)

研究実施校：神奈川県立相原高等学校(全日制)
実施日：令和4年11月24日(木)
授業担当者：小泉 幸太 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

本時の授業は、橋本駅周辺の開発に適した樹木の選定に取り組み、これまでの学習が適切に行われているかどうかを、振り返りを通して確認させる授業であった。振り返りシートに記入する振り返り状況から「主体的に学習に取り組む態度」の評価を試みた。本時の評価規準では、これまでの学習を生かすとともに、振り返りから今後の学習への取組を考えられることが「A」評価となる。そのため、振り返りシートで注目する点は「授業でわからなかったこと・できなかったこと・疑問（以下 改善点）」を挙げ、今後はどのように学習に取り組むかを具体的に記入できているかどうかである。授業用ワークシートでは樹木の選定がこれまでの学習を生かして判断できているかどうかを確認し、「指導に生かす評価」とした。

授業用ワークシートの樹木の選定の解答は、駅の周辺ということから人通りや交通量の多さを考慮し、耐公害性の有無や紅葉・樹形などの景観向上を重視した解答が多かった（表1）（表2）（資料1）。造園樹木の性質や特徴などの知識に基づいて適切なものを選定することができており、単元で身に付けさせたい力が身に付いていると考える。

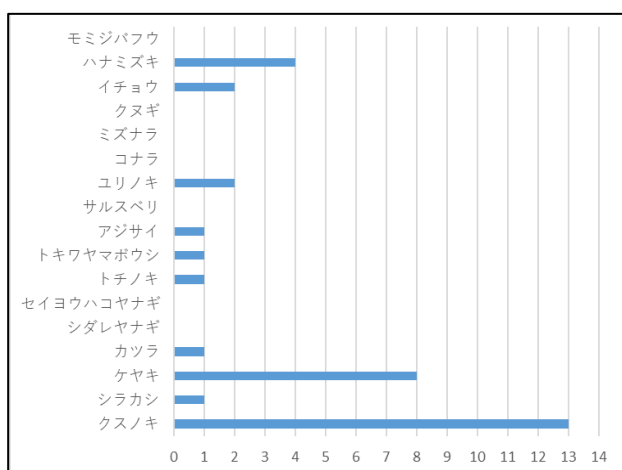


表1 シンボルツリーの選定

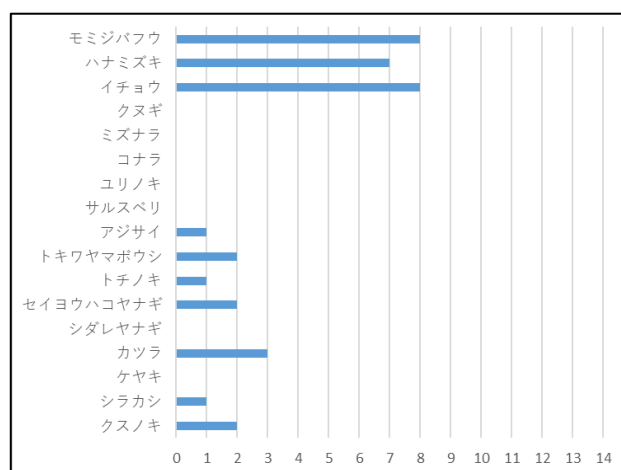


表2 街路樹の選定

[シンボルツリー]

- ・白や赤、ピンクの花が美しい。自然に樹形が整うため管理の手間がかからない（ハナミズキ）
- ・駅周辺は背の高い建物が多いため、遠くから見てもわかるような大きい樹木がいいと考えた。（ユリノキ）
- ・交通量が多くても排気ガスに耐えることができる。陰樹のため高い建物があって日陰が多くても問題ない。また常緑で落ち葉がないため掃除の手間がかからないから。（クスノキ）
- ・新宿御苑のように大きな樹木を中心に芝を張って広場をつくり、緑陰をいかした休憩場所や遊び場所としての幅広い年齢層の憩いの場にする（ケヤキ）

[街路樹]

- ・背が高く秋になると派手に紅葉し、グラデーションが美しい。樹皮にいい香りがあることと、生育管理に手間がかからない（モミジバフウ）
- ・橋本駅はコンクリートが多いので、根が浅いものもいいと考えた。また綺麗な花が咲く（ハナミズキ）
- ・様々な耐性を持っている。交通量が多くても大気汚染に耐え、事故などで火災が起きても防火性で防いでくれる。また黄葉で景観を良くしてくれる。（イチョウ）
- ・目立った実がないから鳥の被害はなく、通行人への落果の心配もない。また葉の形がハート型でイメージがよいから並木道をつくって「橋本はカツラ」と覚えてもらう。

資料1 樹木の選定理由（一部）

振り返りシートの「改善点」についての解答は、振り返りシート提出35名のうち30名が記入することができた（図3）。また「今後の取り組み（以下 今後）」については35名のうち35名が記入することができた。多くの生徒が学習の改善点を挙げ、今後の学習にむけて必要な手立てを考えられていたことから、十分な振り返りができていたと考える（資料2）。

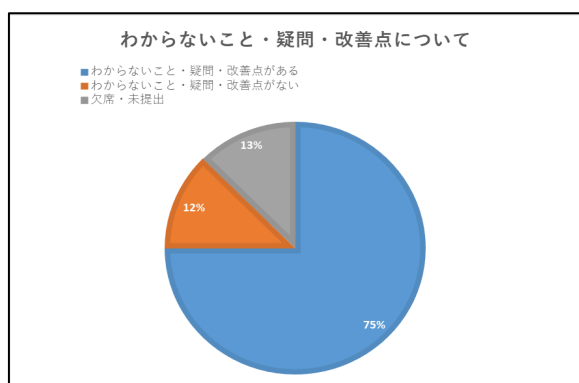


図3 わからないこと・疑問・改善点の記入

改善点	街路樹の植える場所はどのくらいの大きさならいいのか、落ち葉の許容範囲はどのくらいなのかがよくわからなかった。街路樹についてもっと知り、適切な選定をする。
今後	たくさんの樹木の特徴について知り、理解を深めていけるように頑張りたい。
改善点	植物への関心が浅かったせいで（適切な樹木が）わからなかった。
今後	植物への興味を持ち、いろいろなものを植栽の観点から見られるようにする。
改善点	樹木の候補は挙げられたが、決定的なものは選べなかった。より具体的な活用方法などを調べて観察レポートにまとめられるといいと思った。
今後	授業で学んだ樹木を、自分だったらどこに植えるかなどを想像しながら観察レポートをまとめていきたい。
改善点	植栽場所の自然環境や生活環境などの細かいところまで考えられなかった。
今後	植栽場所の環境や特徴を調べたうえで、考えていきたい。

資料2 「改善点」「今後の取り組み」（一部）

本時は3～12次の授業のまとめにあたり、振り返りシートから「主体的に学習に取り組む態度」の評価を試みた。まず、自らの学習を調整する側面を「改善点」・「今後」の記入の有無から評価し、粘り強い取り組みを行おうとする側面を「改善点」・「今後」の記入内容から評価した。40名（欠席4名）のうち30名の生徒は資料2にあるように、「改善点」「今後」を挙げ、内容についても具体的に述べる事ができていた。評価基準に基づいて評価をすると、40名のうち30名が「A」評価、改善点を挙げられていなかった5名が「B」評価、未提出で1名が「C」評価、4名は欠席のため未評価となっている。単元の目標に向けて段階的な授業の計画を実施し、単元で身に付ける力を生徒に示し続けたことで、生徒が学習の焦点を絞り、見直しをもって授業に取り組めた結果であると考えられる。

以上のことから、新観点別評価を評価するにあたり、単元で身に付ける力を生徒に示し、振り返りを行わせることと指導と評価の計画の作成の必要性を感じた。単元を通して身に付ける力を常に意識させることで、生徒自身が振り返りをした時に、どこに向かって学習しているのか、これまでの学習状況は目標に向かって適切に進められているのかを生徒に振り返らせることができる。生徒が振り返りを通して適切に学習状況の自己調整ができているかどうかを、教員は「主体的に学習に取り組む態度」の評価とすることができると考える。また、3観点の評価をするにあたり指導と評価の計画の作成は有効である。新観点別評価の指導と評価の計画を作成するにあたり、知識・技術に基づいて考察ができることや、学習の振り返りから「主体的に学習に取り組む態度」を評価することを踏まえると、段階的な指導と評価の計画が必要となる。指導と評価の計画の一つの例として、①知識・技術②思考・判断・表現③主体的に学習に取り組む態度の順序で、段階的に評価をする授業計画が考えられる。教科・科目の特性からすべての授業には当てはまらないが、指導と評価の計画を作成する一つの手立てとして提案したい。

新観点別評価を評価するにあたり課題もある。「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、場当たりの評価は不可能であるため、計画的な授業計画を必要とするが、年間を見通した授業計画を作成するには大きな労力と時間を要する。また二つの側面から評価するのも難しい。特に粘り強い取組を行おうとする側面を評価する際は、記述内容から評価を試みると、評価の線引きが曖昧になる恐れがある。

新観点別評価の評価方法や評価の検証には、まだまだ課題があり、今後とも引き続き工夫と改善が必要である。

工 業

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

工業教育における組織的な授業改善の推進～新学習指導要領の実施を踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の実践～

(2) 研究のねらい

本研究では、工業教育における組織的な授業改善の推進について、新学習指導要領の実施を踏まえた主体的・対話的で深い学びに向け、単元の指導計画及び評価方法等について検討し、より効果的な学習過程の実践につなげることをねらいとする。

2 実践事例

【事例1】

(1) 単元指導計画

ア 科目名：電気回路

イ 単元名：消費電力と発生熱量

ウ 単元の目標：

- ・消費電力と発生熱量について電流、電圧とそれら電気的諸量の相互関係を量的に取り扱う方法や計算により処理する方法を理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- ・消費電力と発生熱量における電流、電圧及び相互関係などに着目して、それに関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善する。
- ・消費電力と発生熱量について自ら学び、電流、電圧及び相互関係などを工業技術と関連付けた工業生産への活用に主体的かつ協働的に取り組む。

エ 単元の評価規準


知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
消費電力と発生熱量について電流、電圧とそれら電気的諸量の相互関係を量的に取り扱う方法や計算により処理する方法を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	消費電力と発生熱量における電流、電圧及び相互関係などに着目して、それに関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。	消費電力と発生熱量について自ら学び、電流、電圧及び相互関係などを工業技術と関連付けた工業生産への活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	【消費電力と発生熱量の基礎事項を確認する】			●	◇小テスト (Google フォーム)
2	2 3	【電力と電力量について理解する】 基本的な量の表し方・単位などを身近な製品を例えに出しながら理解する。	○			電力と電力量について、電気諸量を計算し求めることができる。 ◇ワークシート ◇クラス内発表
3	4 5	【ジュールの法則を用いて、熱量の計算ができるようにする】 ・各値を算出できるよう計算問題に取り組む。 ・ジュール熱について、身の回りのどこで利用されているか理解を深める。		○		ジュール熱の値を計算し求めることができる。 ◇小テスト
4	6	【ゼーベック効果とペルチエ効果及びこれらの応用例について理解を深める】 ・実社会のどのようなところで生かされているか理解を深める。		○	○	・ゼーベック効果、ペルチエ効果の実社会での活用について理解を深めようとしている。 ・他者の意見も取り入れながら、自分の意見を表出している。 ◇ワークシート ◇行動観察

5	7	【消費電力と発生熱量について確認テストを行う。】	○	消費電力と発生熱量に関する知識や電気諸量の求め方について理解している。 ◇小テスト
---	---	--------------------------	---	--

カ 授業実践例 (6時間目/7時間)

配分	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
導入 5分	○前回の復習 ○今回の授業概要とねらいの確認。	・ Google Classroomにて Google フォームを配信する。	
展開1 10分	○ゼーベック効果・ペルチエ効果の実験。 	・ ゼーベック効果により熱エネルギーが電気エネルギーに変換される様子を確認するため、生徒を検流計の針が見える場所に生徒を移動させる。 ・ ペルチエ効果の確認のため、ペルチエ素子の吸熱側を生徒に触らせることで体感させる。	行動観察 【記録なし】
展開2 30分	○ワークシートに各効果の実社会での活用を記入。 ○どの効果が活用されているのかも明記する。		行動観察 【記録なし】 ワークシート
まとめ 5分	○本時の振り返り。 ○自己評価、感想の記入。		ワークシートの生徒の記述内容 【記録】

研究実施校：神奈川県立横須賀工業高等学校
実施日：令和4年10月3日(月)
授業担当者：福山 延昭 総括教諭

消費電力と発生熱量

- 一般的に電工ドラム(コードリール)や掃除機の電源コードは、使用時にすべて引き出すことが望ましい。なぜ、電源コードをすべて引き出して使用するとよいか、あなたの意見を述べなさい。
- 「電気」を「熱」に変換している身近な電気機器を挙げなさい
- あなたが考える、最も効率の良いエアコンの使い方を答えなさい。

図1 単元の最初に配信したGoogle フォーム

熱電気現象

- ペルチエ効果とゼーベック効果の違いを説明しなさい。
- ゼーベック効果が利用されていると思われる、身近な電気機器を考えられるだけ記入しなさい。
- ペルチエ効果が利用されていると思われる身近な電気機器を考えられるだけ記入しなさい。
- 一般的に電工ドラム(コードリール)や掃除機の電源コードは、使用時にすべて引き出すことが望ましい。それはなぜか、答えなさい。
- あなたが考える最も効率の良いエアコンの使い方はどのような方法か、理由を述べた上で答えなさい。

図2 今回の授業で配信したGoogle フォーム

＜この単元で利用したフォームでの評価規準＞

	「十分満足できる」 (A) と判断できる状況	「おおむね満足できる」 (B) と判断できる状況	「努力を要する」(C) と判断した生徒に対する手立て
思考・判断・表現	ゼーバック効果、ペルチェ効果の現象を理解し、未知なるアイデアを想起させ、根拠に基づき検証し、実現しようとしている。または、根拠に基づき、実社会でどのような場面で利用・活用されているか推測し表現している。*1	ゼーバック効果、ペルチェ効果の現象を理解し、実社会のどのような場面で利用され、活用しているか、根拠に基づき検証し表現している。	ゼーバック効果、ペルチェ効果の現象を理解せず、根拠に基づかない憶測で検証しないまま表現している。 どの部分で各効果が利用されているか説明をしてもらうように促し、知識の定着を図る。
主体的に学習に取り組む態度	消費電力と発生熱量について自ら学び、工業技術と関連付けた工業生産への活用に主体的かつ協働的に取り組み、自らの学習を調整しながら、学ぼうとしている。*2	消費電力と発生熱量について自ら学び、工業技術と関連付けた工業生産への活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	消費電力と発生熱量について自ら学ぼうとせず、主体的にも協働的にも取り組もうとしない。実験への参加や提出物などを出すように言葉がけを行う。

*1 ゼーバック効果やペルチェ効果を利用して「こんなものが作りたい」という新しい発想や、「これにも使われているはず」という推測が行われているかどうか。

*2 同じフォーマットの質問の答え方から、自らの学習の調整を見取る。

＜生徒の解答例＞

『思考・判断・表現』

質問「ゼーバック効果やペルチェ効果は実社会のどのような場所で利用されていると思いますか？」

○生徒1 自販機でも使えると思いました。片面は冷たくなりもう片面は温かくなるから。

→ペルチェ素子は片面が冷たくなり片面が熱くなる性質を理解し、推測している。 評価「A」

○生徒2 ゼーバック効果を利用してエアコンの電気の値段を安くしたい。初めは涼しくなるまでは電力を使うけど部屋が冷たくなったら外と部屋の中で温度差ができるから少しエアコンで発電してエアコンに使っていた電力が安くなると思う。

→温度差によって起電力を生じるゼーバック効果のことを理解した上での発想。 評価「A」

○生徒3 パソコンのCPUの冷却に使われている。

→パソコンのCPUの冷却装置にペルチェ素子が使われることもあるということは授業内で紹介している。 評価「B」

○生徒4 車のハンドルをにぎった時についてで発電できるもの

→新しい発想ではあるが、ゼーバック効果等の現象を利用しているとはいいい難い。 評価「B」

『主体的に学習に取り組む態度』

質問「掃除機の電源コードを黄色いテープのところまで引き出して使用しなければならないのは何故か」

	1回目	2回目	評価
生徒5	コードが絡まっていると熱が発生するから。	コイルと同じようになり、ジュール熱が発生してコードが溶けたり、磁力が発生して無駄な消費電力が出る。	ジュール熱という言葉が加わり、学習の進捗が窺える。 評価「A」
生徒6	黄色の位置まで伸ばさないと壊れたりする可能性がある。	コードが巻いたままだとわずかにある抵抗によって発熱し、コードが密集していると発火する恐れがあるから。	具体的になぜ壊れるのか記述できるようになっている。 評価「A」
生徒7	熱が分散されるから。	熱を集中させないため。	電流によって熱が発生することは理解しているが、一回目二回目と学習の変化を見取ることができない。 評価「B」
生徒8	コード引き出していないと熱が生じ、きつとかなる。	たくさん巻いてあると、熱が溜まる。	授業で学んだ新しい知識が反映されていない。 評価「B」

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

我々の生活において欠かせない消費電力の基礎的知識を身に付けた上で、省エネが重要視される昨今、どのような取組が考えられるか、根拠を持って自分の意見を言えるような授業展開を行い、記録させることによって、主体的に学ぶ姿勢を評価する。また、熱電効果についても、実際に実験を行い、発電や吸熱の効果を実感させ、このような効果が実社会でどのような場所や場面で利用されているか推測し、共有することで主体的に対話的な活動から理解が深まる。その生徒の理解の変容を評価する。

また、ICT機器（タブレット、教材提示と情報配信用のみらいスクールステーション等）を活用し、視覚的に理解できるような環境づくりを行う。この単元における学習の記録をICT機器により保存し、消費電力と発熱量の関係に対する変化や、知識の展開を見える化し評価につなげていく。

(3) 成果と課題

熱電効果の現象を実演し体感させることで、生徒が興味・関心を持ち主体的な学習活動を行うことができる。また、熱電効果についての発問を行うことで、理解を深めていた。生徒の学びの変容を捉えるために、Google ClassroomやGoogle フォームなどのICTツールを活用することで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価と関連付けることができ、「指導と評価の一体化」の実践が行われていた。

今後、生徒の興味・関心を持たせながら授業展開を行うために、教師が生徒の「問い」を的確に受け止め、指導に生かすことが重要である。また、生徒が自らの学習の見通しを持ち自己の学習の調整を図るために、学習評価の方針等を生徒と共有することが望まれる。この共有により、生徒へ評価の結果をフィードバックする際に、どのような方針によって評価したのかを示すことが可能となる。

【事例2】

(1) 単元の指導と評価の計画

ア 科目名：工業技術基礎

イ 単元名：加工技術（形態を変化させる加工）

ウ 単元の目標：材料の特徴と加工方法を理解し、今後の課題制作などに活用するために、表現技法・技術を習得する。

エ 単元の評価規準

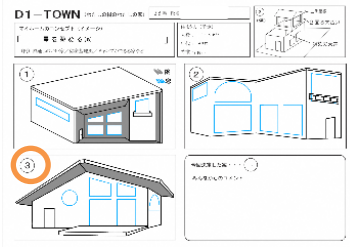

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工業技術基礎における加工の種類と技法を理解し、形態を変化させる加工について、安全や環境に配慮して計画し、制作する知識や技術を理解している。	工業技術における加工技術に関して、課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。	作業計画に主体的に取り組み、加工技術に関心を持ち、意欲的に作業をしている。 工業技術と関連付けた工業生産への活用主体かつ協働的に取り組もうとしている。

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント 指導上のポイント
1	1 4	【加工の種類と技法・作業計画】 ・加工の種類と技法について理解する。 ・作業工程を理解して作業計画を立てる。 ・表現のための材料体験と、表現方法の実践をする。 ・材料の表現についてまとめ、完成させる。	○		●	【評価のポイント】 ・制作物の提出内容 ・デジタル作業ノートの記入内容（学習内容の習熟度） 【指導上のポイント】 ・デジタル作業ノートを記入し振り返りをする。 ・ワークシートに書き込むことで学習の進みを確認させる。 ・授業観察や発言を通して主体的な学習活動へ導く。

2	5 10	<p>【調査・アイデア・図案・設計】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インテリアの表現について理解し、表現する。 ・建築物について調査する。 ・理想の建物になるようにスケッチし、アイデア展開する。 ・平面図に起こし、条件にあった模型が制作できるか考察する。 	○ ●	<p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平面図と模写の提出内容及び学習した技術の表現 ・デジタル作業ノートの記入内容(学習内容の習熟度) <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル作業ノートを記入し振り返りをする。 ・授業観察や発表、Google Jamboard等の意見交換を通して主体的・対話的な学びを深める。 ・ワークシートに書き込むことで、学習の進みを確認させる。
3	11 16	<p>【部材・組み立て・仕上げ・考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果物(住宅模型)を計画通りに制作する。 ・計画的に部材の切り取り、組み立てができているか確認する。 ・今までの学習を活かして、表現したいことができているか確認する。 ・計画通りに期限内に仕上げることを意識する。 ・この加工技術が、工業(建設系)の生産活動に使用される技術であることを理解する。 	○ ○ ●	<p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果物(住宅模型)の提出内容、加工技術への理解、習熟度 ・デジタル作業ノートの記入内容(学習内容の習熟度) <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル作業ノートを記入し振り返りをし、今回の加工技術が工業(建設系)の表現技法の一部として理解させる。 ・授業観察や発言を通して主体的・対話的に学ばせる。 ・ワークシートに書き込むことで、学習の進みを確認させる。

カ 授業実践例 (9-10時間目/16時間)

	学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点(評価方法)
<p>導入 10分</p> <p>展開1 60分</p>	<p>1. 前回までの復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スライドを利用して、建蔽率や容積率について確認する。 <p>2. 本時の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標を確認する。 自分の考えを見える化し、アドバイスを活かして模型を作るためのアイデアを決定する。 ○授業の流れを確認する。 <p>3. 宿題で出していた、ワークシートの中からスケッチを選び、自分の家の特徴を発表する。他の生徒のデザインを見て相互評価させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○宿題のスケッチから、自分の作品を見せながら発表させる。 ●タブレットを利用して、自分のスケッチを他の生徒に共有しながら説明する。モニターを使用して、自分のアイデアが他の人に共有できるようにする。他の生徒のデザインを見て良い所について観察する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>	<p>○スケッチを基に自分の考えを発表することができる。</p> <p>○自分のデザインを図面化することができる。</p> <p><思考・判断・表現></p>

○iPadから各自コメントを入力できるようにし、観察したことを伝える。

- ・ Google Jamboardによる付箋にコメント書いてその場で共有する。
(下図参照)
- ・ 人の意見を確認して追加で記入する。
- ・ 発表者1人につき1ページ。感想やアドバイスなどの記載。



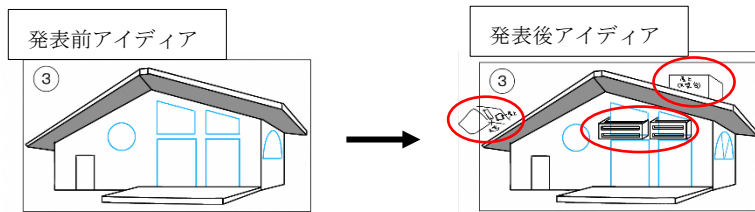
- 他者のデザインに対して積極的に意見ができる。
 - 他者からのアドバイスを聞き、修正・発展しようとしている。
- <主体的に学習に取り組む態度>

展開2
20分

4. 自分のアイディアにもらったコメントを確認し、デザインを変更・加筆させて決定させる。

○他者のアドバイスを自分のものとして反映させ、デザインをよりよくするための変更・加筆を行う。

- 決定したデザイン画を、クラスルームの課題へ提出させる。
(以前との変化を見る)



まとめ
振り返り
10分

5. 振り返り
○デジタル作業ノートを利用して、本時の振り返りを入力させる。

- 本時にやったこと、理解したことなどを入力し、デジタル作業ノートを Google Classroomから提出させる。



毎時、振り返りをすることで、作業の進み具合や理解度を確認する。

6	10/7	プレゼン	他の人のテーマやコンセプトもみて、色々な考え方があることに気づいた。自分の慣れていることばかり興味ができるような家をイメージしてみても面白いかなと思っ。発表者同僚の意見を聞いてもいいかもというアドバイスをもらったので、作れそうなスペースを加えてみて、こだわりをもっと書き加えていきたいと思う。	作品で「こうしてみたい」を実現させることが、デザイナーへの第一歩ですよ！
7	10/21	模型の作り方	五面図をプリントしてスチレンボードを切った。モデルペーパーメイキングを作った時よりも断面が綺麗に切れるようになり、組み合わせがうまくいきました。スプレーのりが後面に塗ってしまっていてうまくいかなかったのが、作業するスペースを分けたり角を塗って、綺麗に仕上げられるようにしたい。	白い糊型は白のまま展示できることが一番です。素敵な家を作ってください。
8	11/4	模型作り	ある程度のパーツができたので、窓の切り口を綺麗にしたり組み立てをイメージした図表をした。自分の考えている組み立てかたをメモしていたほうが作業のミスが減り、効率よく進められた。模型の授業全体を通して、人からもらった意見を参考にしながら改善できるように考える力がついたらと思う。人の意見を聞き取るのではなく自分なりに組み立てて見せる事で一人では思いつかなかったような角度から作品を考えられると知ったので勉強になった。	デザインの考え方で、自己表現の美事と違って、様々な人に同じように感じてもらえることが、白くなるかなと思います。その感覚が理解できているようで、成長を感じます。2学期お疲れ様でした。

研究実施校：神奈川県立神奈川工業高等学校(全日制)
実施日：令和4年10月7日(金)
授業担当者：橋本 喜代枝 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

作業ノートをデジタル化することで、ICTによる表現方法や習慣的な利用が身に付くようにした。自分の考えを発表したり、他者の意見を聞き入れたりする授業展開とし、主体的・対話的に学ぶ姿勢、その活動における変容、さらに作業ノートの振り返りを集約し、本時の目標に対する各自の学習達成度を評価した。座学の理解しにくい内容に関しては、スライドや動画などを利用して、主体的に取り組み、かつ短時間で理解できるよう工夫した。

(3) 成果と課題

制作前段階で各生徒が自分の作成案を発表し、他の生徒の意見をGoogle Jamboardの付箋機能を活用し共有することで、他の生徒の意見を自分の制作物の作成案に生かすことができた。発表前の作成案と発表後に修正した作成案を比較することで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関連付けることができた。また、振り返りを「デジタル作業ノート」としてICT化することで、情報共有が容易となり、教師・生徒間での対話が促進された。生徒の主体的・対話的で深い学びにつながるICT機器の活用方法について更なる工夫が今後の課題である。

3 まとめ

今年度より、高等学校において新学習指導要領による教育課程が実施され、新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実が求められている。また、1人1台端末の導入が始まり、日常的にPCを用いた授業が行われていくことになる。今回、新学習指導要領の実施を踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点から、工業教育として求められる学習過程の実践事例として研究授業を実施した。「指導と評価の一体化」をテーマとした教室での授業と、ICTを活用した実習での授業を行うことで、それぞれの授業において、生徒の学びが深まることが確認された。今回の授業実践が契機となり、様々な場面で活用され、授業改善が推進することを期待している。

商 業

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

タブレット端末を用いた『主体的に学習に取り組む態度』の評価の実践

(2) 研究のねらい

『主体的に学習に取り組む態度』の学習評価について、タブレット端末を用いて学習を自己調整させていく実践を通し、より良い評価の手立てを検討する。

2 実践事例

(1) 単元の指導と評価の計画

ア 科目名：簿記

イ 単元名：本支店会計（本支店間の取引・合併財務諸表）

ウ 単元の目標：

- ・本支店会計について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- ・本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- ・本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組む。

エ 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
本支店会計について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

オ 単元を貫く問い：事業拡大のため、社長が支店を一挙に2店舗作ろうとしています。経理担当者のあなたは社長より会計システムについてのアドバイスを求められました。「根拠」をもとにどのようなアドバイスをしますか？

カ 単元の指導と評価の計画

時	主な学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導のポイント
1	本支店間の取引の記帳：本支店間の取引の記帳方法について学習する。	○			・ [知] 【評価のポイント】本支店間の取引の記帳方法について理解しているかを評価する。（定期試験）
2	支店間取引の記帳：支店間取引の記帳方法について学習する。	○			・ [知] 【評価のポイント】支店間の取引の記帳方法について理解しているかを評価する。（定期試験）
3	本支店合併財務諸表の作成①：本支店合併財務諸表の作成方法について学習する。		○		・ [思] 【評価のポイント】本支店合併財務諸表の作成方法について合併の方法の妥当性と実務における課題を見だしているかを評価する。（定期試験）

4 研究 授業	本支店合併財務諸表の作成②：作成した財務諸表における課題を見だし、根拠に基づき自らの考えを表現する。	○	○	<p>・[思]【指導上のポイント】本支店間でのやり取りを通じた協働的な学びから、単元を貫く問いに取り組むための気付きを与える。</p> <p>・[思]【評価のポイント】本支店合併財務諸表の作成方法について、科学的な根拠に基づいて課題に対応しているかを評価する。 (Google フォーム、定期試験)</p> <p>・[態]【指導上のポイント】「他の生徒の意見」や、「単元を貫く問いへの取り組み方」などを記入させ、生徒が単元の学びを自覚的に捉えることができるようにする。</p> <p>・[態]【評価のポイント】単元を貫く問いの学習前後での考えの変化から単元の学びにどのように取り組んだのかを評価するとともに、他の生徒の意見を取り入れ、自身の学びを調整しながら進めようとしているかを評価する。 (Google フォーム、ワークシート)</p>
---------------	--	---	---	--

キ 「Google フォームによる振り返りシート」の内容（参考資料1）

- 1 単元を貫く問い（学習前） ※前述のオ参照
- 2-① 本支店間の取引の記帳について本店の仕訳について理解できたものにチェックをつけよう。
- 2-② 本支店間の取引の記帳について支店の仕訳について理解できたものにチェックをつけよう。
- 2-③ 学びの振り返り 理解度に応じて復習しよう。
- 3-① 支店間の取引の記帳について、理解できた仕訳にチェックをつけよう。（例：大宮支店は、横浜支店に対して現金¥350,000を送付した。）
- 3-② 学びの振り返り 理解度に応じて復習しよう。
- 4-① 本支店合併貸借対照表について、理解度にチェックをつけよう。
- 4-② 本支店合併損益計算書について、理解度にチェックをつけよう。
- 4-③ 学びの振り返り 理解度に応じて復習しよう。
- 5 単元を貫く問い（学習後） ※前述のオ参照
- 6 アドバイスを考えていく過程で、どのように解決しようと思いましたか？単元を貫く問いについてのあなた自身の考えが学習前後でどのように変化したかを振り返って、自分の学びについて記述しましょう。

2-①本支店間の取引の記帳について、**本店の仕訳**について理解できたものにチェックをつけよう。

- 本店から支店へ現金を送る仕訳。(例：本店は支店に現金¥50,000を送付し、支店はこれを受け取った。)
- 本店から支店へ商品を送る仕訳。(例：本店は支店に商品¥17,000(原価)を発送し、支店はこれを受け取った。)
- 本店が支店の売掛金を回収した仕訳。(例：本店は支店の売掛金¥100,000を現金で回収し、支店はこの連絡を受けた。)
- 支店の当期純利益を計上する仕訳。(例：支店は決算において当期純利益¥100,000を計上し、本店はこの連絡を受けた。)

①授業の終わりに、その時間に理解できた項目について、チェックを入れる。

②チェックが入らなかった項目に対して、後に理解ができるようになったら、チェックを入れる。

図1 フォーム質問項目例（2-①）

ク 授業実践例 (4時間目/4時間)

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入 (5分)	<p>見通しを持つ 横一列が厚木商店となり、窓側2人がA支店、真ん中2人が本店、廊下側2人がB支店役に分かれ、疑似的な店舗間のやり取りによるパフォーマンス課題（他店の貸借対照表はわからない）を通した本時の活動を確認する。</p>		
<p>本時の目標：2店舗以上の支店がある場合の合併貸借対照表を作成する際に、各店舗において、どのような会計処理が必要かを考えよう。</p>			
展開 (35分)	<p>予想を立てる ① ワークシートをもとに、合併貸借対照表作成するために、どのような会計処理が必要なのかを個人で考えて記入する。</p> <p>話し合う ② 同じ店舗のペアで意見交換し、新たな考えがあれば書き加える。 ③ 他店舗と意見交換し、必要な会計処理について確認する。新たな考えがあれば書き加える。</p> <p>合併財務諸表を作成する ④ スプレッドシートを使用して、自身の店舗の貸借対照表を作成する。 ⑤ 正しく貸借対照表が作成できたかを教員と確認する。 ⑥ スプレッドシートを使用して、合併貸借対照表を作成する。</p>	<p>・意見が出ない場合は、これまでどのような会計処理を行ってきたかを思い出させ、記入できるよう促す。</p> <p>・計算式等を用いていない場合は、スプレッドシートの特徴を生かし、計算式や関数を使用して作成するよう指示する。</p> <p>・各店舗の貸借対照表が完成したら、答え合わせをして間違っている場合はどこがどのように間違っているのか確認させてから、訂正させる。</p> <p>・合併貸借対照表の作成についてうまく進まない場合は、本店が中心となって各店舗と協力して作成するよう指示する。</p>	
まとめ (10分)	<p>学びを振り返る Google フォームの質問（「単元を貫く問いについて学習後の考え」と「単元の学びの振り返り」）に回答する。</p>	<p>・学習前と学習後を比べて変化した部分などを具体的に記述できるよう促す。</p>	<p>【思考・判断・表現】 本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見</p>

		<p>いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。</p> <p>「Google フォーム」</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p> <p>「ワークシート」、 「Google フォーム」</p>
--	--	---

研究実施校：神奈川県立厚木商業高等学校(全日制)
 実施日：令和4年11月22日(火)
 授業担当者：廣野 千夏 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア テーマ設定の背景

今年度の入学生より、新学習指導要領における観点別学習状況の評価が始まったが、「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価は、3観点の中でも特に難しく、多くの学校で悩みながら暗中模索している現状がある。また、同じく今年度の入学生より、個人所有による生徒1人1台端末環境下での学びが始まり、タブレット端末を用いた授業展開や様々な活用方法の研究が喫緊の課題となっている。

このような状況を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの過程におけるタブレット端末を用いた「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価の研究を行い、より良い評価の手立ての検討に資することを目指してテーマを設定した。

イ 指導のポイント

(ア) 主体的・対話的で深い学びのプロセス

生徒はまず、単元の初めに単元を貫く問いに対して、現時点での自分なりの考えを記述する。その後、単元の前半においては、知識・技術の習得を軸に進めていく。単元の後半においては、パフォーマンス課題に取り組みせ、知識・技術を活用させる場面を設け、思考・判断・表現の育成を図っていく。最後に、改めて単元を貫く問いに対して自分なりの考えを記述させるとともに、単元の学習全体を振り返らせらる。「主体的に学習に取り組む態度」は最後の振り返りの場面を中心に、どのように学びに取り組んできたのかを見取っていく(図2)。

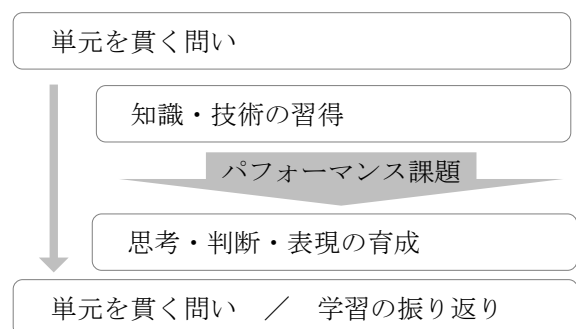


図2 学びのプロセス

(イ) 具体的な手立て

より良く「主体的に学習に取り組む態度」を見取るために三つの手立てを用いた。第一に単元を貫く問いの設定、第二にパフォーマンス課題の設定、第三にGoogle フォームによる振り返りである。

a 単元を貫く問いの設定

単元を貫く問いは、単元を通して考え続け、単元で学んだ知識や考え方などを総動員して取り組

む必要があり、問いに答えることで単元の目標が達成できるようにしていくことが望ましい。また、本単元における思考・判断・表現の評価規準の中に、「…科学的な根拠に基づいて課題に対応している」とあるが、商業科でいう科学的な根拠とは、経済や市場の動向、ビジネスに関する理論やデータ、ビジネスに関する成功事例や改善を要する事例などとされており、本単元では実社会での会計記録の付け方に着目して考えていることとした。以上の点を踏まえ、本支店会計における単元を貫く問いを「事業拡大のため、社長が支店を一举に2店舗作ろうとしています。経理担当者のあなたは社長より会計システムについてのアドバイスを求められました。「根拠」をもとにどのようなアドバイスをしますか？」と設定した。

この単元を貫く問いを単元の最初と最後に回答させることを通して、自身の考えが学習前後でどのように変化したかを振り返らせ、自身の学びの進め方について把握させる。この振り返りが自己の学習を調整しようとする姿の表れとなるため、これを見取っていく。

b パフォーマンス課題の設定

パフォーマンス課題とは、現実社会に則して様々な知識や技術を応用・総合しつつ、何らかの実践を行うことを求める課題であるが、「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価に当たってはパフォーマンス課題の設定が欠かせないとする。なぜなら、「主体的に学習に取り組む態度」が、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかを評価する観点とされているからである。

また、商業科においては、検定試験に類似する問題によって学習評価が行われる傾向が少なからずある。しかし、新学習指導要領においては、キャリア形成を見据えて学ぶ意欲を高めたり、様々な知識・技術などを活用してビジネスに関する具体的な課題の解決策を考案したりする実践的・体験的な学習活動を行うことが求められている。この点からも、実務に則した課題を課すパフォーマンス課題を設定することには大きな意義がある。

以上のことをもとに、①取引の提示方法を検定に準拠した問題文形式から、経理担当者からの報告という形式にし、②2人ずつのペアでそれぞれ本店、A支店、B支店を担当することとして、六人で一つの会社を形成し、タブレット端末を活用しつつ、協働して会計処理に取り組む課題を設定した（参考資料2及び、参考資料3）。

c Google フォームによる振り返り

昨年度の研究において、「主体的に学習に取り組む態度」を振り返りシートで見取っていく方法を実践した。今年度は、昨年度の振り返りシートを基にGoogle フォームで実践することとした（参考資料1）。紙ではなく、フォームで実施することによって、次のようなメリットが生じると考えられる。

- ①A4版などの紙の制約にとらわれない（YouTubeなどの動画教材へのリンクも掲載可）
- ②学習の自己調整がしやすくなる
（理解不足などを可視化させ、メタ認知につなげられる）
- ③個に応じた指導ができる
（わからなかった点について、指導する項目を作っておく）
- ④その時間のクラス全体の理解度を教員と生徒とが即時に確認できる
- ⑤用紙ならびに配付・回収の時間が節約される
- ⑥電子上に記録を残していける

その上で、「主体的に学習に取り組む態度」の涵養を意識して、フォームに次の内容を盛り込むこととした。

- ①目標を共有する
- ②見通し（学習内容のつながり）を持たせる
- ③単元全体の内容を反映した課題を与える（単元を貫く問い）
- ④チェックボックスによる毎時の振り返りにより、知識の理解度を把握させる
- ⑤理解できなかった項目について振り返りがしやすい仕組みを作る
- ⑥まとめの振り返りにより、自己の変容に気付かせる

特に現在、個別最適な学びが求められているが、フォームに盛り込む内容の④と⑤により、指導

の個別化の観点からも優れたツールとなると考えられる。なお、Google フォームによって振り返りを行う場合、Google フォームの設定変更を行い、いつ入っても、それぞれが前回の続きから始められるようにしておく必要がある。

ウ 検証

「主体的に学習に取り組む態度」についての学習評価は、ワークシート上での他者の意見を自分の新たな視点にしている様子や、Google フォームの質問項目⑥「アドバイスを考えていく過程で、どのように解決しようと思いましたか？単元を貫く問いについてのあなた自身の考えが学習前後でどのように変化したかを振り返って、自分の学びについて記述しましょう。」から、自己の学習を調整しながら、主体的かつ協働的に取り組もうとしている様子が見取ることができればB評価以上とし、83%がこれに該当した。

実際の回答としては、「1人で取り組むのではなく、一緒に取り組む人と話し合って協力することが大切だと分かった。」「最初は、社長へのアドバイスとして人数を増やしたりすることが大切だと思ったけれど、効率良くできるように仕事を分けてお互いに伝え合うことが大切だと思った。」などのような記述が見られた。これらの回答からも分かるように、自己の学習を調整しながら取り組む様子が記述からも見取ることができた。

また、事後アンケートを実施し、昨年度の研究で行った振り返りシートに追加・変更した項目についても調査を行った。アンケートの内容としては、質問①「学びのつながり」を示したことによって、理解しやすくなりましたか（図3）、質問②チェックを付けたり、外したりすることによって、理解度について状況把握しやすくなりましたか（図4）、質問③「学びの振り返り（理解度に応じて復習しよう）」によって、理解できなかったことに対して、理解できる助けになりましたか（図5）、である。いずれの項目も「とても思う」「思う」の割合が、90%近い数字となった。特に、質問②のチェックを付けたり、外したりしながら自分の理解度をその都度把握していく振り返りの在り方は、「とても思う」の割合が40%を越え、質問①と質問③の割合よりも大きく伸びていた。このことから、今年度新たに追加した要素の中では、一番効果があったと考えられる。

「学びのつながり」を示したことによって、理解しやすくなりましたか。 29件の回答

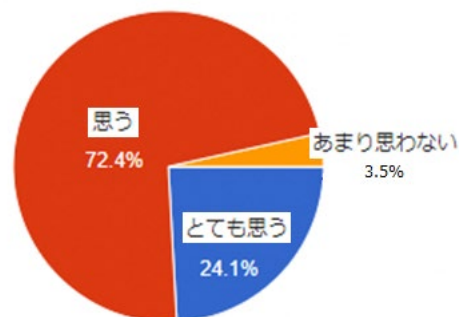


図3 事後アンケート①

チェックを付けたり、はずしたりすることによって、理解度について状況把握しやすかったか。

29件の回答

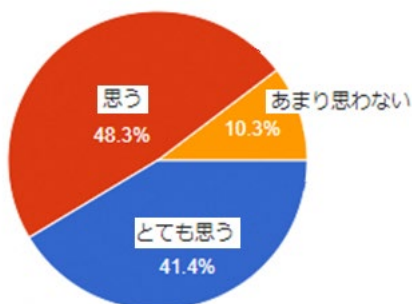


図4 事後アンケート②

「学びの振り返り」によって、理解できなかったことに対して、理解できる助けになったか。

29件の回答

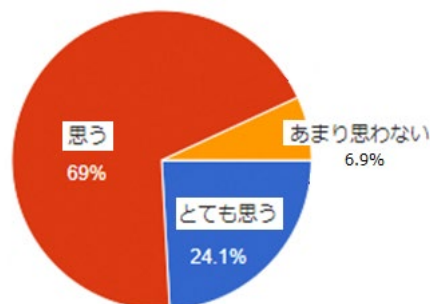


図5 事後アンケート③

エ 成果と課題

以上の検証の結果、今回の3つの手立てによって「主体的に学習に取り組む態度」の涵養に資することができ、Google フォームを活用した振り返りの有効性も確認できたと考える。生徒も、今回初めてタブレットを用いた学習活動を単位を通して行ったが、一時間ごとの振り返りの際に、自身の分かるところ分からないところを的確に把握でき、苦手な箇所をそのままにしないように取り組む姿勢が普段より多く見られた。これは、ワークシートではなく電子データで学習の記録を保存していくことによって、いつでも確認することができ、それが生徒自身の学習の調整をしやすくなったからだと考える。また、単位を貫く問いを設定することで、一時間ごとに見ていた授業が、単元のとまりを意識して単元全体を見通す視点を持てるようになり、深い学びにつながったように感じる。本時を参観した職員の意見も、今回のようなGoogle フォームの使い方については、利用してみたいという意見が多かった。今回の単元のみならず、他の単元や科目、教科で活用できるのではないかと考える。

しかし、課題も三点浮き彫りになった。一つは「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価していくためには「知識・技術」が習得できていないと、評価していくことが難しくなる点である。パフォーマンス課題に取り組んでいくには、それまでの知識・技術が習得されていなければならない。今回、公開研究授業の日程が決まっていたこともあり、知識・技術の習得過程が十分ではないままで当日を迎えることとなった。また普段の授業では、検定試験を想定した問題に取り組んできたため、より実務に近い課題の提示に生徒の戸惑いも多くあった。これらのことが要因となり、ほとんどの生徒がパフォーマンス課題に苦戦してしまい、想定以上に「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価が厳しいものとなってしまった。それぞれの観点は関連しているため、バランスよく育てていくには、普段から実務に則した課題の提示をしていく必要性を強く感じた。

次は、チェックボックスによる毎時の振り返りのさせ方に工夫が必要であるという点である。単元が進むごとに理解できた項目にチェックを付けていく生徒の姿は想定していた通りであったが、チェックを外す生徒の姿は見られなかった。しかし、パフォーマンス課題で苦戦している様子から、本来ならばチェックがついている状態とは思えない生徒も少なくなかった。これは、「チェックの付け方が成績に影響する」かのような印象を与えてしまっていた可能性があるのではないかと、推進委員の中では意見がまとまった。対策として、Google フォームでの振り返りを二つに分割し、成績に反映させない自己調整に役立つためのGoogle フォーム（「c Google フォームによる振り返り」の内容の①②④⑤）と、成績に反映させるGoogle フォーム（同じく内容の①③⑥）と分割すること等が考えられる。その上で、自己調整のために気兼ねなく使用してもらえれば、より効果が上がるのではないかと考える。

最後は、簿記が得意な生徒が必ずしもタブレットをうまく使いこなせるわけではなく、本来の学習の足かせになったケースが見られたことである。そもそもタブレットの扱いに慣れない生徒がどのクラスにも一定数いる。当然のことではあるが、学校全体としてタブレットの基礎的な技能の習得を底上げしていき、タブレットの作業によって本来の学習が妨げられないように取り組んでいく必要がある。

オ 今後の展望

商業科の授業において、特に検定試験に深く結びつく科目では、依然として「検定試験を意識した授業」が中心となっており、検定試験の問題にだけ対応できる生徒の育成になりがちである。しかし、予測困難な時代を生きていくにあたって、予測できる問題にだけ取り組ませるのではなく、未知の状況や現実の問題に数多くとりませていくことが求められる。

今回のパフォーマンス課題の実践は、普段とは違う授業の在り方によって、生徒に戸惑いを生じさせた点があったが、生徒の感想には意欲的なものも数多く見られた。たとえば「今までより現実味があって、簿記の考え方の基盤的なものが見えた気がする。帳簿の中だけの、現実とはかけ離れたものとしての考え方ではなくなった。」「今までの問題は一問一答形式な問題が多かったが、今回は周りとは協力して実務を行う感じが新鮮で、とても面白かった。より実践的になって、仕事についてのイメージがついた気がする。」「問題を簿記や帳簿の中だけのものと思わないで、実際に自分が経営したらどうしたら良いかと考える様になった。」といった感想が出るなど、自己のキャリア形成に結び付けている感想が予想以上に多かった。このことから、生徒の主体的な学びが実現できたのだと考える。

今後も「学びに向かう力」の涵養を念頭に置き、「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価の手立てについて検討を重ね、商業科の学習活動に役立てられる組立を実践していきたい。

3 参考資料

参考資料 1

(1) Google フォームの全体像

1年簿記 第7編 本支店会計

第29章 本支店間の取引
第30章 合併財務諸表

- 「思考・判断・表現」の評価のポイント
本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法について、根拠に基づいて表現できる。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のポイント
本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

出席番号

選択

学びのつながり
学びのつながりを意識しよう。

①本支店間の取引 → ②支店間の取引
↓ ↓
③④合併財務諸表の作成

1. 単元を貫く問い (学習前)
事業拡大のため、社長が支店を一挙に2店舗作るようとしています。経理担当者のあなたは社長より会計システムについてのアドバイスを求められました。「根拠」をもとにどのようなアドバイスをしますか？

回答を入力

2-①本支店間の取引の記帳について、**本店の仕訳**について理解できたものにチェックをつけよう。

- 本店から支店へ現金を送る仕訳。(例：本店は支店に現金¥50,000を送付し、支店はこれを受け取った。)
- 本店から支店へ商品を送る仕訳。(例：本店は支店に商品¥17,000(原価)を発送し、支店はこれを受け取った。)
- 本店が支店の売掛金を回収した仕訳。(例：本店は支店の売掛金¥100,000を現金で回収し、支店はこの連絡を受けた。)
- 支店の当期純利益を計上する仕訳。(例：支店は決算において当期純利益¥100,000を計上し、本店はこの連絡を受けた。)

2-②本支店間の取引の記帳について、**支店の仕訳**について理解できたものにチェックをつけよう。

- 本店から支店へ現金を送る仕訳。(例：本店は支店に現金¥50,000を送付し、支店はこれを受け取った。)
- 本店から支店へ商品を送る仕訳。(例：本店は支店に商品¥17,000(原価)を発送し、支店はこれを受け取った。)
- 本店が支店の売掛金を回収した仕訳。(例：本店は支店の売掛金¥100,000を現金で回収し、支店はこの連絡を受けた。)
- 支店の当期純利益を計上した仕訳。(例：支店は決算において当期純利益¥100,000を計上し、本店はこの連絡を受けた。)

2-③学びの振り返り
2-①・②の理解度に応じて復習しましょう。

- ・本店から支店へ現金送付の仕訳 → 【教P.319 例1】
- ・本店から支店へ商品送付の仕訳 → 【教P.320 例2】
- ・本店が支店の売掛金を回収した仕訳 → 【教P.321 例3】
- ・支店の当期純利益を計上する仕訳 → 【教P.325 ミニテスト】

● ● ●

5. 単元を貫く問い (学習後)
事業拡大のため、社長が支店を一挙に2店舗作るようとしています。経理担当者のあなたは社長より会計システムについてのアドバイスを求められました。「根拠」をもとにどのようなアドバイスをしますか？

回答を入力

6. アドバイスを考えていく過程で、どのように解決しようとしたか？単元を貫く問いのあなたの考えが学習の前後でどのように変化したかを振り返って、自分の学びについて記述しましょう。

このフォームにおいて、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」について評価することを示した。

単元の全体像（学びのつながり）を示すことによって、学びの見通しを示しつつ、どこの学びとどこの学びが関連しているのかを把握できるようにした。

単元を貫く問い（学習前）

「2 実践事例」の「キ 単元を通した『フォームによる振り返りシート』の内容」で示したように、メタ認知させる項目。（記録に残す評価の対象外）

2-③学びの振り返り
2-①・②の理解度に応じて復習しましょう。

- ・本店から支店へ現金送付の仕訳 → 【教P.319 例1】
- ・本店から支店へ商品送付の仕訳 → 【教P.320 例2】
- ・本店が支店の売掛金を回収した仕訳 → 【教P.321 例3】
- ・支店の当期純利益を計上する仕訳 → 【教P.325 ミニテスト】

個別最適な学び（指導の個別化）の一環として、理解できなかった項目に対して確認してほしい箇所を示すことによって、理解の定着を期待した。

単元を貫く問い（学習後）【思考・判断・表現】

単元を貫く問いの前後の変化から、自己変容への気付きを促し、単元の学びをどのように取り組んできたのかを記述させる。【主体的に学習に取り組む態度】

1年簿記 本支店会計まとめ課題

1年 組 番 名前:

厚木商店は、本店の他にA支店、B支店を展開する小売業です。決算にあたり、合併財務諸表を作成していく段階で未達事項がいくつかあったことが判明しました。()店の経理担当であるあなたは、この報告を受けて、適切な会計処理を行ってください。なお厚木商店は、本店集中計算制度を採用しています。



本店 経理担当

- ① A支店に送った現金¥100,000が、A支店に未達でした。
- ② B支店の買掛金¥70,000を現金で支払っていたが、B支店に未達でした。
- ③ A支店に発送した商品(原価)¥200,000がA支店に未達でした。



A支店 経理担当

- ④ B支店から依頼を受け、B支店の買掛金¥250,000を現金で立替え払いしたが、この通知がB支店に未達でした。
- ⑤ B支店の得意先XYZ商店に対する売掛金¥50,000をXYZ商店振り出しの小切手で受け取っていたが、本店にもB支店にも未達でした。



B支店 経理担当

- ⑥ 本店から出張している従業員の旅費¥32,000を現金で立て替え払いしたが、この通知が本店に未達でした。
- ⑦ A支店に現金¥150,000を送付したことが本店にもA支店にも未達でした。

合併貸借対照表を作成するために、()店として必要な会計処理を簡条書きで記入してみましよう。

【自分で考えたこと】

【新しい発見】

- 必要な会計処理が確認できたら、
- (1) 各店舗の貸借対照表を作成しよう。
 - (2) 本支店合併の貸借対照表を作成しよう。

※単元を貫く問い「経理担当者のあなたは【根拠】をもとにどのようなアドバイスをしますか?」について、学習後の考えをGoogle フォームに入力しましょう。

(3) 第4時の配付データ（エクセルファイルをGoogle ドライブ経由で配付）

参考資料3

本店のみに配付するデータ

未達事項処理前				未達事項処理後			
本店 貸借対照表				本店 貸借対照表			
資産	金額	負債・純資産	金額	資産	金額	負債・純資産	金額
現金	639,000	支払手形	1,107,000	現金		支払手形	
受取手形	936,000	買掛金	1,218,000	受取手形		買掛金	
売掛金	1,644,000	資本金	6,120,000	売掛金		資本金	
商品	769,000	当期純利益	621,000	商品		当期純利益	
建物	2,286,000			建物			
備品	612,000			備品			
A支店	1,217,000			A支店			
B支店	963,000			B支店			
	9,066,000		9,066,000				

本支店合併貸借対照表 令和〇年12月31日			
資産	金額	負債および純資産	金額
現金		支払手形	
受取手形		買掛金	
売掛金		資本金	
商品		当期純利益	
建物			
備品			

A支店のみに配付するデータ

未達事項処理前				未達事項処理後			
A支店 貸借対照表				A支店 貸借対照表			
資産	金額	負債・純資産	金額	資産	金額	負債・純資産	金額
現金	86,000	支払手形	706,000	現金		支払手形	
受取手形	703,000	買掛金	739,000	受取手形		買掛金	
売掛金	598,000	本店	967,000	売掛金		本店	
商品	343,000			商品			
備品	478,000			備品			
当期純損失	204,000			当期純損失			
	2,412,000		2,412,000				

B支店のみに配付するデータ

未達事項処理前				未達事項処理後			
B支店 貸借対照表				B支店 貸借対照表			
資産	金額	負債・純資産	金額	資産	金額	負債・純資産	金額
現金	504,000	支払手形	687,000	現金		支払手形	
受取手形	454,000	買掛金	1,300,000	受取手形		買掛金	
売掛金	747,000	本店	461,000	売掛金		本店	
商品	410,000			商品			
備品	227,000			備品			
当期純損失	106,000			当期純損失			
	2,448,000		2,448,000				

水 産

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

組織的な授業改善の推進

～新学習指導要領の円滑な推進を目指した主体的・対話的で深い学びの視点からの学習課程の実践～

(2) 研究のねらい

実践的・体験的な活動を通して、生徒自ら考え課題を発見し、見通しを立て、ICT活用を通して主体的・対話的な「深い学び」の実現ができるような指導方法の研究・検証を行い、教員相互の教育力を高めることを目標とした。

2 実践事例

(1) 単元指導計画

ア 科目名：水産海洋基礎

イ 単元名：第2章「水産業と海洋関連産業のあらまし」

第2節 とる漁業・つくり育てる漁業と資源管理

ウ 単元の目標：・とる漁業と資源管理について理解し、自身の言葉で説明することができる。

・とる漁業と資源管理について理解し、それらがどのように関係するか考えることができる。

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・漁具・漁法について基本的な内容を理解している。 ・資源管理型漁業について基礎的な内容を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁具・漁法についての概要や課題について合理的かつ創造的に解決しようとしている。 ・水産資源の特性、資源の適正管理などについての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業と資源管理について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・漁具・漁法の概要、水産資源の特性について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1～2	○とる漁業 ・探魚と集魚			○	探魚や集魚について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。
2	3～4	○とる漁業 ・漁獲法	○		●	漁具・漁法について基本的な内容を理解しようとしているか。
3	5	○とる漁業と資源管理 ・釣漁業と混獲		○	●	とる漁業と混獲についての課題発見及び合理的かつ創造的な解決がなされているか。

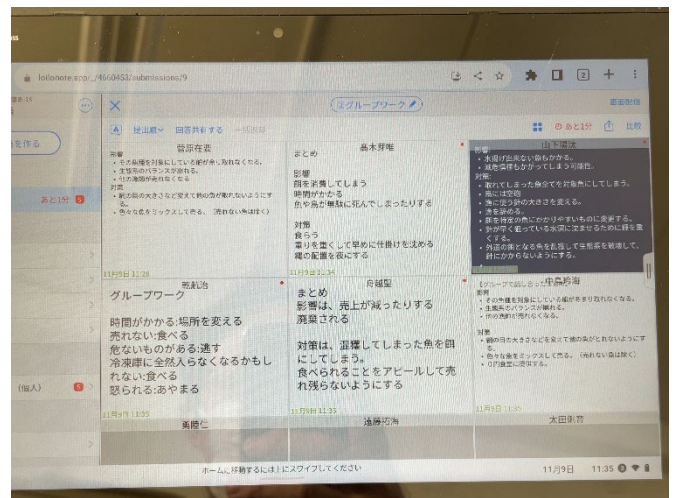
カ 授業実践例 (5時間目/5時間)

学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的な評価規準	評価方法
○本時の目標を確認	○本時の流れと学習目標を理解させる。		
○釣漁業における混獲について理解する。 ・混獲とは何か考えさせる ・まぐろはえ縄漁法の確認 ・湘南丸遠洋航海実習における対象魚と混獲魚を説明	○混獲について理解させる。 ・混獲について理解させる。 ・実際に実習で体験した釣実習で混獲の有無を考えさせる。 ・まぐろはえ縄漁業における対象魚と混獲魚を考える。	○釣漁業と混獲について自ら思考を深め、事象に対し説明できるか。 【思考・判断・表現】	観察法
○とる漁業における混獲の影響とその対策を考えさせる。(ロイロノート) ・個人ワーク ・グループワーク ・発表(班代表が発表) ○まとめ ・各々の意見を聞いてから個人ワーク(ロイロノート)	○漁業における混獲の影響を理解させ、混獲を減らす工夫や活用法を考えさせる。 ・個人、班で混獲の影響とその対策を考える。 ・混獲はどのような影響があるか(生物資源、乱獲、生物環境、投棄、未利用魚)個人と班で考える。 ・漁具の工夫、漁場選択 ・混獲魚(未利用魚)の活用方法	○漁業における混獲の影響、混獲を減らす工夫や活用法について思考を深め、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その過程や結果を表現しているか。 【思考・判断・表現】	グループワーク 机間指導 指導 発表
○実習船「湘南丸」におけるまぐろはえ縄漁業の混獲対策 ・実習における混獲対策紹介 ○本校における未利用魚の活用 ・本校未利用魚の活用紹介(エチオピア・ミズウオ)	○まぐろはえ縄漁業における混獲対策を理解させる。 ・トリポール、サークルフック、サメ放流 ・漁獲と混獲対策の難しさ ・混獲を防ぐための規制 ・本校における実践事例		発問
○本時のまとめ ・とる漁業と資源管理について ・「なぜ混獲対策が必要なのか」2日後14時まで考え、提出箱に提出(ロイロノート)	○振り返り ・とる漁業と資源管理について ・振り返る時間を与えるため、課題として提出	○本日の内容を踏まえているか。 ○とる漁業と混獲の問題を資源管理の観点から解決しようとしているか。 【主体的に学習に取り組む態度】	課題

研究実施校：神奈川県立海洋科学高等学校(全日制)

実施日：令和4年11月9日(水)

授業担当者：牧園 尚朗 教諭・藤岡 高昌 教諭・
荻原 佑介 教諭・澤村 和洋 教諭
原田 貴博 総括教諭



(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

科目「水産海洋基礎」における今回の単元は、漁業者の育成を目指す水産・海洋高校において重要な単元である。また今回授業を行った船舶運航科1年生は3年次に科目「総合実習」の遠洋航海においてマグロはえ縄漁業実習を経験する。探魚法や漁獲法においては、すでに1年生の夏に実施したサバ釣り実習やアマダイ釣り実習を例題に挙げ、経験したことをこの単元に取り込み、さらに興味や関心を深めさせ、自己の学習と実習活動を振り返り、3年次の実習とその後のキャリア形成の方向性につながるように取り組んだ。3年次にマグロはえ縄漁業を経験するため、とる漁業のうち釣漁業に重点を置き、はえ縄漁法で漁獲される生物と混獲についての問題を考えさせた。

混獲という課題を合理的かつ創造的に解決できるかを判断するために、ロイロノートにおいて個人の考えを記入させ、その考えをグループワークにて対話を行い発表した。個人とグループで考えさせたあとに、実習船「湘南丸」で実際に実施している混獲対策を例題にあげることで、3年次の実習において再度混獲について考えるとともに、とる漁業と資源管理についての意識を将来漁業に従事したときに生かせるような指導を心掛けた。また、生徒に考えさせるという観点から、生徒自身の考える時間を多くとり、教員は最低限のサポートをするような指導を心掛けた。グループワークや意見交換の様子を通して主体的に学習に取り組む態度も組み込めることもできたと授業実践をして感じた。ロイロノートにおいて「なぜ混獲対策が必要か」というあえて漠然とした課題を出し、その回答が評価規準を満たしているか課題提出後に教員間で確認して評価を行った。いくつかのキーワードの中で、評価対象となる資源管理について記述されている提出課題の一例を以下に示す。

- ・資源を減らさないためにも、針の大きさを変えるなど漁具を工夫して資源保護をする大切さを学んだ。
- ・混獲という言葉は初めて聞き、それが漁業や生態系に与える影響を学んだ。

- ・今までは釣りをしている時に混獲など気にしていなかったが、これからはできるだけ対象魚だけを狙うような工夫をしようと思った。身近なところから意識を変えていきたい。
- ・漁業の混獲によって、生態系や資源、漁業への影響がどのくらいあるか今後調べたい。
- ・漁業資源には限りがあり、皆が使う資源なので無駄に捕らず、有効に利用する必要を知った。
- ・魚は捕ればとれるほど良いと思っていたが、混獲におけるデメリットを知って考えが変わった。
- ・混獲された生物をすぐに逃がしても弱ってしまうこともある。混獲された生物を食品にすることも有効だが、少量だと手間もかかる。混獲対策のために漁法や餌を変えることで今までの漁法も変えなければならないなどデメリットな面の対応も検討が必要だ。

今回、生徒個人のiPadによるロイロノートの活用、電子黒板でのパワーポイントや写真などの説明などICT教材を活用して感じたことは、ロイロノートは授業において各班や個人の進捗状況がリアルタイムで把握でき、包括的に意見集約や画面集約ができる点は良かった。課題は教員、生徒ともにICTに不慣れで入力などで授業がスムーズに進行しないことがまだある。これは積極的に活用して慣れるしかない。今後も有効なICTの活用を通して主体的・対話的で深い学びの実現ができるような指導方法の研究・検証を定期的に行い、教員相互の教育力を更に高めていきたい。

・ロイロノートにおける課題提出の一部抜粋

利用できる魚ならまだしも、利用できない魚や、絶滅危惧種に認定されている魚を、弱らせてしまったり、死なせてしまうことがある可能性があるから。	本命がい以外魚が取れすぎると漁業の効率化が下がる 生態系にも影響を与える可能性がある	混獲危惧種とかが釣った時に混獲したり死んでしまう 本命が釣れない魚が死んでしまう 「混獲」 しょうがないからにも混獲しないかな？ 書りつけて本命に餌を注げる。	混獲の必要性 全ての魚を取ってしまうと生態系に影響してしまうから。 魚が少なくなるのを防ぐため	対象魚が取れる確率が下がる 絶滅危惧種など、種の存続に影響するから 売上が下がるから	混獲対策が必要なのか？ もしかしたら取ったやつが絶滅危惧種になるかもしれないから	混獲の対策が必要なのか、その魚や魚が絶滅しないようにするため。他にもその魚をとりたいたいもいるので対策が必要だと思います。
11月9日 11:59	11月9日 11:59	11月9日 12:01	11月9日 12:09	11月9日 20:27	11月9日 21:12	11月10日 10:57
混獲危惧種とかを釣ると混獲危惧種が死んでしまう可能性があるから	なぜ混獲対策が必要なのか？ 持続可能な漁業をするために必要なことだと思います。	混獲の害 混獲危惧種とかを釣ると混獲危惧種が死んでしまう可能性があるから。 ・色んな生き物が混獲してしまえば生態系に影響があるから。 対策は ・餌を変える ・網の大きさを変える	なぜ混獲対策が必要か 狙ってないものは価値が低いので、釣れても困るし、命が傷ついてしまうから 今後の漁業にも悪影響が出るかもしれない	狙った魚以外が捕れても売れない魚だったら資源を減らすだけでメリットがないから	混獲対策はなぜ必要なのか 生態系にも影響を与える可能性があるから、対策が必要だと思います。	商品 金にならない 釣っちゃいけない釣れると漁場に被害とかめんどくさい処理に困る 対策 餌にする リリース
11月10日 11:37	11月10日 16:03	11月10日 20:09	11月11日 08:21	11月11日 08:22	11月11日 08:23	11月11日 08:56
影響 絶滅危惧種や保護対象の生物を捕獲してしまう。 対策: 鳥→空砲、魚→餌になる魚の種類を特定のものにかかものにする。	資源が減り無駄な命がへる	魚の取りすぎで資源不足になったり食物連鎖を乱すから	狙っていない魚がどんと釣れてしまうと、海に帰さないで殺して廃棄しなければならなくなってしまうので結局、餌の無駄になってしまう。	他の魚を取ってしまったら餌の無駄や小さい魚とかを逃がしたりしても弱らせてしまう	混獲によって絶滅危惧種が針にかかってしまうことで死んでしまうことや、魚自体の数が減ることにより食物連鎖が壊れるという問題につながるから	狙いじゃない魚が絶滅する時間と費用の無駄になるから
11月11日 08:56	11月11日 08:58	11月11日 08:59	11月11日 09:17	11月11日 09:19	11月11日 09:36	11月11日 11:00
絶滅危惧種とかをとってしまう恐れがあるから	絶滅危惧種や水揚げできない出来ない魚が混獲してしまうと行けないから	生き物が絶滅してしまう可能性があるから 食物連鎖を崩す	混獲の害 ・混獲危惧種とかを釣ると混獲危惧種が死んでしまう可能性があるから。 ・混獲危惧種とかを釣ると混獲危惧種が死んでしまう可能性があるから。 ・混獲危惧種とかを釣ると混獲危惧種が死んでしまう可能性があるから。 ・混獲危惧種とかを釣ると混獲危惧種が死んでしまう可能性があるから。	年間種別漁獲量でバランスを取るため	・対象としていない魚まで獲ってしまうと目的としている魚の漁獲量が減ってしまうから ・対象としていない魚が取れてしまったら、市場に出せないのが勿体無い	魚は無限にいるわけじゃないから。 取りすぎると魚のほとんどが絶滅危惧種になってしまう。

看 護

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

模擬電子カルテを用いた情報管理における看護師としての倫理観を育てる授業の実践と評価

(2) 研究のねらい

看護における情報の活用と管理について、模擬電子カルテを用いた演習を通して患者の立場に立って考えることにより、看護師としての倫理観を育むことを目的として、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業の実践と適切な学習評価の工夫について検討する。

2 実践事例

(1) 単元の指導と評価の計画

ア 科目名：看護情報

イ 単元名：看護における情報の活用と管理

ウ 単元の目標：

- ・看護における情報の活用と管理について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- ・看護における情報の活用と管理に関する課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだす。
- ・看護における情報の活用と管理について自ら学び、看護における課題解決に主体的かつ協働的に取り組む。

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・看護における情報の活用と管理について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・看護における情報の活用と管理に関する課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだしている。	・看護における情報の活用と管理について自ら学び、看護における課題解決に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

オ 単元のテーマ：患者さんの情報を守るために何ができるだろう

カ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1 2	・保健医療福祉分野の情報システムの基本とその特徴を理解する。 ・情報セキュリティと関連法規について理解する。	○			知 情報システムの基本と特徴や関連法規について理解している。 (ワークシート・定期試験)
2	3	・看護の課程において、情報を共有し、健康問題の解決に効果的に利用する方法について理解する。	○	●	●	知 看護における情報の活用方法について理解している。 (ワークシート・定期試験) 思 看護における情報の活用やその問題点と解決方法について考えている。 (ワークシート)

						態 看護における情報の活用とその基礎知識となる情報システムについての学びと課題を、自ら振り返り、今後の学習にいかそうとしている。 (振り返りシート)
3	4 5	・看護において個人情報を取り扱う際の、情報管理の重要性とセキュリティ対策について考える。		○	○	思 看護における情報管理の重要性やセキュリティ対策について考え、文章や発表で表現している。 (ワークシート・発表内容 振り返りシート) 態 ① 看護における情報管理について、クラスメートと協力して演習に取り組んでいる。 (活動の観察) 態 ② 看護における情報の活用と管理についての単元を通じた学びと課題を、振り返っている。 (振り返りシート・アンケート)

キ 授業実践例 (4・5時間目/5時間)

学習活動 (指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
【導入】 ①前時の復習とともに、本時の学習目標を確認する。 ・前時の学びと結びつけながら、本時の学習目標を理解し共有することで、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。 ・単元のテーマ「患者さんの情報を守るために何ができるだろう」について考えを深められるように意識付ける。 ②入院の際に、どのような情報が必要か考え、共有する。 ・入院時に取り扱われる患者の個人情報について考え、クラス全体で共有する。 ・入院時以外にも、多くの場面で個人情報が取り扱われていることを知るとともに、個人情報の管理の必要性に気付かせ、本時の学習内容につなげる。 【展開】 ③本時の活動内容について確認する。 ・模擬電子カルテの演習について理解し、見通しを持って主体的に取り組めるようにする。 ④模擬電子カルテから、患者の情報を収集し、患者情報シートにメモを取る。 ・看護学生が患者情報を収集する場面として設定し、自分が重要だと思う情報をメモする。 ・模擬電子カルテ(エクセルにより作成した教材)のファイルは、パスワードを設定し、ファイルを開く際にパスワードを入力することで、情報管理の重要性を意識づける。	思 情報収集で気付いたことや情報収集における注意点とその理由を、メンバーと意見交換しながら深めて、ワークシートに記入している。 (ワークシート・発表内容・振り返りシート)

<手立て>
 患者の立場に立った
 医療安全や情報管理
 の視点で考えること
 をアドバイスする。

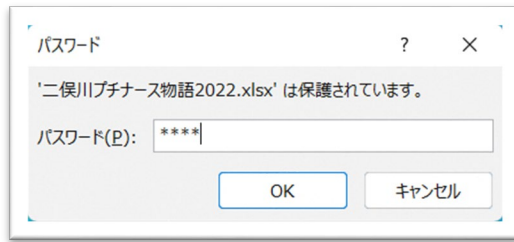


図1 パスワード入力画面

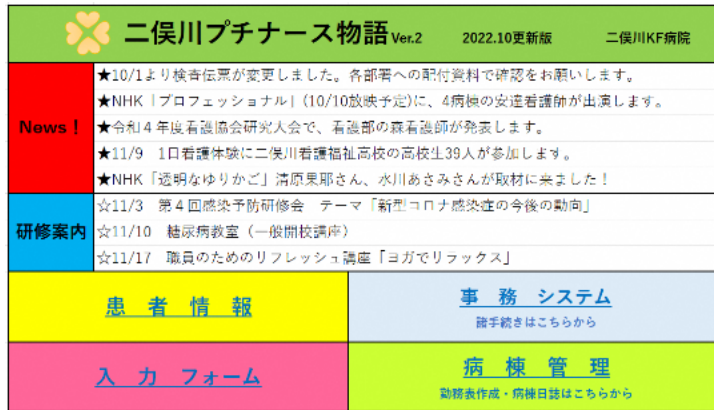


図2 模擬電子カルテ画面①

ホーム	退院情報	患者基本情報	入院経路情報	指示簿	検査データ	画像データ
患者基本情報 (データベース) : 二俣川 高子						
氏名	二俣川 高子					
年齢	89歳					
生年月日	昭和12年9月1日					
性別	女					
職業	無職 (専業主婦だった)					
社会資源	介護保険の利用なし。年金受給あり。					
住居環境	4LDKマンション、5階建ての4階。エレベーターあり。洋式トイレ手すりはなし。					
家族構成	長女(64歳)、長女の夫(65歳)、孫(女34歳)、(夫は1年前に死亡)					
性格	穏やか、夫が死んでから口数が少なくなった。我慢強い、きれい好き。(長女より)					
視覚障害	老眼 (老眼鏡使用)					
聴覚障害	老人性難聴 (右の耳元で大きな声で話すとは話可能)					
言語障害	なし					
運動障害	なし					
その他	最近物忘れが多い。					
入院前の生活動作	食事：時間はかかるが、自分で食べられる。時々むせ込みあり。薬の物は食べにくい。					
	排泄：自立					
	入浴：一部介助					
	更衣：自立					
	移動：杖歩行で、ゆっくり可能。					

図3 模擬電子カルテ画面②

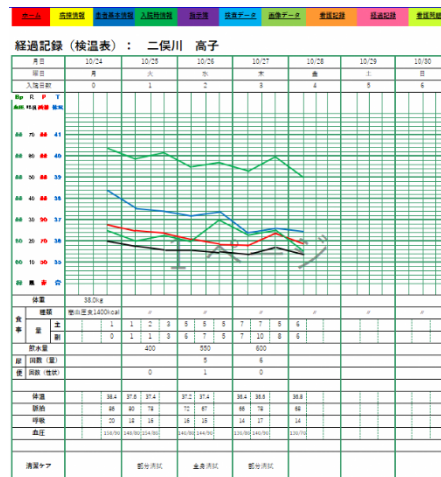


図4 模擬電子カルテ画面③



図5 模擬電子カルテからの情報収集①



図6 模擬電子カルテからの情報収集②

⑤情報収集を通して気付いたことをワークシートに記入する。

・看護において多くの個人情報を取り扱っていること、および情報の取り扱いの注意点（確実にログアウトをする／メモ紙はなくさないように確実に保管する／メモ紙には記載方法に気を付けて記入する／メモ紙には記録した後にシュレッダーをかける／収集した情報は学習以外の場所で話さない など）についても気付かせる。



図7 ワークシートへの記入

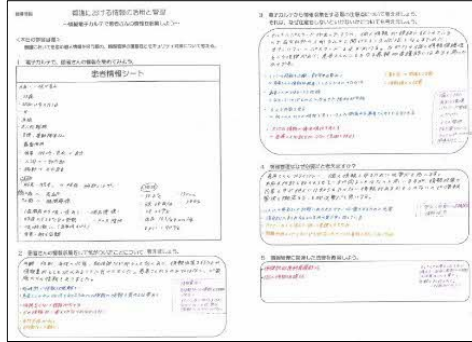


図8 ワークシート（参考資料1）

⑥情報管理の視点から、情報収集における注意点とその理由についてワークシートに記入する。

⑦情報管理はなぜ重要であるのかについて、ワークシートに記入する。

・情報管理の重要性を患者の立場に立って考え、患者の安全を守ることの意識が持てるようにする。

⑧個人ワークの内容を、グループで共有する。

・自分の考えを積極的に話すこととともに、人の意見はペンの色を変えてワークシートに記入し、クラスメートと協力して考えを深められるように意識づける。

⑨クラス全体で、グループで話し合った内容を共有する。

・自分の考えを、その理由を明確にしながらかつて創意工夫して的確に Google Jamboardで表現できるようにする。

・グループ全員で前に出て、Google Jamboardを使用して発表し、クラス全体でワークの内容を共有できるようにする。



図9 グループワーク



図10 グループ発表

⑩情報管理の重要性と関連法規の確認を行う。

・既習内容の保健師助産師看護師法と個人情報保護法について復習し、関連法規による根拠を理解させる。

・「基礎看護」の記録の単元や、「看護臨地実習」のオリエンテーション内容とも結びつける。

【まとめ】

⑪本時の学びを共有する。

・本時の学びで自分が最も心に残ったことを、Google Jamboardに各自が記入し、

態一①

グループワークで話し合ったことを、整理しわかりやすく発表しようとしている。

（活動の観察）

<手立て>

発表内容についてのポイントや根拠を意識して発表するようにアドバイスする。

態一②

演習の学びとともに、情報管理の基礎

クラス全体で共有できるようにする。

⑫本時の学びを振り返る。

・Googleフォームのアンケートに回答し、学びの振り返りを行い、電子カルテについての理解を深め、看護としての倫理観が高まったことをクラスで共有できるようにする。

・単元を通して学習の振り返りを、振り返りシートに記入させる。



図11 Google Jamboardでの学びの共有

知識も振り返り、自己の学習の成果や課題を主体的に考えようとしている。

(振り返りシート)

(アンケート)

<手立て>

学習の成果を認めながら、課題を一緒に考え、これからの学習への取組にいかせるようにする。

図12 振り返りシート

研究実施校：神奈川県立二俣川看護福祉高等学校(全日制)

実施日：令和4年10月28日(金)

授業担当者：池端 万須美 教諭 安達 ゆかり 教諭
伊藤 ゆき 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア 研究の目的

看護における情報の活用と管理については、医療・看護で取り扱う個人情報の特徴とその情報を共有するためのシステムを理解し、関係法規を遵守して適切に行う必要がある。また、医療・看護における著しい情報の進歩に対応していけるように、情報管理の基本的な知識をいかしながら、患者の立場に立って自ら考え行動できる看護師としての倫理観を身に付けることが重要である。本研究はその育成に資することを目的としている。

そこで本研究は、「情報管理における看護師としての倫理観」の育成を主体的・対話的で深い学びにおいて実現させることを目指し、「情報管理における看護師としての倫理観」を「守秘義務を遵守し、個人情報の保護に努めるとともに、これを他者と共有する場合には適切な判断のもとに行おうとする考え方や姿勢」と定義した。これは、日本最大の看護師職能団体である公益社団法人 日本看護協会による看護者の倫理綱領の条文5に、看護者は守秘義務を遵守し、個人情報の保護に努めるとともに、これを他者と共有する場合には適切な判断のもとに行う旨が示されており(日本看護協会 2021)、この条文を基にした。

イ 指導のポイント(研究の手立て)

今回の研究授業においては、医療情報システムや個人情報の保護に関する基本的な知識を基に、模擬電子カルテを使用し、具体的な情報管理の方法とその理由を考えていくことを通して、情報管理に関して看護者が持つべき倫理的な考え方や姿勢に気づき、学びを深めることをねらいとした。そのために、「看護で取り扱う情報やその場面をイメージすること」「対話を通して学びを共有し深めること」「目標達成のために自ら学習を調整し主体的に取り組むこと」の3点を主なポイントとした。

(7) 「看護で取り扱う情報やその場면을イメージすること」

まず、「看護で取り扱う情報やその場면을イメージすること」については、エクセルで作成した模擬電子カルテで、患者の基本情報や経過記録、看護計画などの情報を具体的に示し、身体面、心理面、社会面から実際の患者をイメージすることで、患者や家族の心情にも思いを寄せ、患者の立場に立って情報管理を考えられることを目指した。今回の演習では、臨地実習で患者を受け持つ際に情報収集を行うという設定で演習に取り組み、情報の収集の場면을身近なものとして捉えさせ、生徒の関心が高まるようにした。また、模擬電子カルテを開くためのパスワードを設定し、情報管理の重要性を意識づけた。これらのことにより、生徒は医療や看護の場で取り扱う情報の内容や看護師の情報収集の場면을イメージし、情報を取り扱う際の注意点やその理由について具体的に考えることができた。また、患者や家族の立場に立って安全や安心を守るとともに人権を守ることの重要性について学びを深め、そのことが患者との信頼関係の構築に必要であるということの気付きにもつながった。

生徒の授業後の感想では、「電子カルテには、患者さんの重要な情報がたくさんあることがわかり、情報を守ることの大切さと難しさがわかった。」「情報を守るためには多くの注意点があり、しっかりと自分で考えて行動することが必要だと思った。」「根拠を考えながら、情報収集や情報管理を行うことが大切だということに気付いた。」「情報管理は患者さんの安全や安心を守ることにつながっていることがわかった。」「個人情報を守ることは、人権を守ることだと思った。」「情報管理は、患者さんだけでなく家族や病院、学校などとの信頼関係を築くために、大切なのだとわかった。」「患者さんの個人情報を預かっているという自覚と責任を持つ必要があると感じた。」「講義で習った内容と模擬電子カルテの演習がつながって、看護と情報がどのようにつながっているのかがわかった。」「実際に受け持ち患者さんの情報を取っているような楽しみな気持ちで、患者さんを想像しながら演習を行なった。」「講義ではわかったつもりだったが、実際に情報収集をして考えてみると難しく、多くの知識が必要だと思った。」「もっと情報管理について知りたくなり、実習も楽しみになった。」などの記載があった。

(4) 「対話を通して学びを共有し深めること」

「対話を通して学びを共有し深めること」については、模擬電子カルテからの情報収集を通して気がついたことや、情報収集をする際の注意点とその理由、情報管理が必要な理由について、ワークシートに沿ってグループワークを行った。グループは四人の班編成とし、自由に意見交換を行い、その内容をGoogle Jamboardを使用してまとめた。発表はグループメンバー全員で行うことにより、全員が積極的に参加できるようにした。グループワークで自分の考えを表現し伝えることにより、個人ワークで考えたことを整理し深めるとともに、グループメンバーの考えを知ること、様々な面から情報管理について考え、自分が気付かなかった視点に気付くことができたと考える。

生徒の授業後の感想では、「グループワークで他の人の意見を多く知る機会があり、視野を広くすることができた。」「グループワークを通して、自分の考え方が大きく変わり、自分の意見を発信する力や他の人の意見を取り入れる力をつけ、大きく成長できた。」「自分の意見を、他の人の視点で見ってもらうことができ、自分も考えを深められた。」「相手の考えとも照らし合わせて一つの意見にまとめることができ、知識も増えて考えも深まった。」「グループワークで考えが深まり、意見を共有することは看護において必要なことだとわかり、これからも話し合いを大切にして良い看護ができるようにしたい。」などがあった。

(5) 「単元の目標達成のために自ら学習を調整し主体的に取り組むこと」

「単元の目標達成のために自ら学習を調整し主体的に取り組むこと」については、情報管理についての倫理的な視点から、「患者さんの情報を守るために何ができるだろう」という単元のテーマを設定し、授業目標や授業計画を明確に示した。単元を通して考え身に付けてほしい力を生徒が理解することで、見通しをもって学習に取り組めるようにした。また、振り返りシートを活用して自ら学ぶ姿勢を大切にすることを意識づけ、毎回授業終了後に学びと課題を記入するとともに、最終的に単元全体の振り返りを行い記入することとした。

全ての生徒は振り返りシートに、授業毎に学んだことや気付きを記載することができ、今後知りたいことやわからなかったことなどについても記載できている者も多かった。「将来、看護師になった時に、情報の流出などの大きな問題の発生を防ぐために、今から情報について勉強していきたい。」

「今回の講義で情報管理の重要性がわかったので、情報を守るための方法をもっと学んでいきたい。」
 「これまで、自分は情報管理についての知識や意識があると思っていたが、今回、授業を受けてももっと勉強しなければいけないことがわかった。」
 「看護で情報管理について正しい行動を取れるようになるためには、普段の生活から情報について考えていかなければならないと思った。」
 「授業前に比べると授業後にわかるようになったことが多く、自分の成長を感じた。」などの感想があった。

ウ 評価について

観点別学習状況の評価の進め方としては、評価規準に基づいて、「知識・技術」は定期テストにより評価し、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」はワークシート・振り返りシートの内容や発表内容から評価した。

「思考・判断・表現」については、ア「看護における情報システムの基本的な知識に基づき、根拠を持って情報管理について考えられていること」、イ「患者の立場に立って看護倫理を踏まえ情報管理について考えられていること」をポイントとして、ワークシートや振り返りシートなどから見取った。ア・イのそれぞれについて、a「十分考えられている」、b「考えられている」、c「考えられていない」の3段階で評価し、ア・イの両項目についてaだった者を「十分満足できる(A)」とし、ア・イの両項目がbの者と、項目アがaで項目イがb、または項目アがbで項目イがaの者を「おおむね満足できる(B)」とした。ア・イの両項目がc、または項目アかイのどちらかがcの者を「努力を要する(C)」として、各観点毎に3段階で評価することとした。

「主体的に学習に取り組む態度」については、ウ「情報管理について学ぼうとする意欲・姿勢を持っていること」と、エ「情報管理についての自分の学びや課題を毎回の授業で考えられていること」をポイントとして、ワークシートや振り返りシートから見取り、「思考・判断・表現」と同様に、ウ・エのそれぞれについて3段階で評価したものにに基づき、「十分満足できる(A)」「おおむね満足できる(B)」「努力を要する(C)」の3段階で評価した。

エ 検証について

「情報管理における看護師としての倫理観」の育成度合いの評価については、単元の前において4件法によるアンケート調査を行い、比較・検討した。質問①～④の全項目において、「よくわかる」「大体わかる」と答えたもののうち、質問⑤において、「とてもある」「まずまずある」と答えた割合が、どの程度高まったかによって検証した。質問項目は次のとおりである。

- 質問① 看護で取り扱う情報には、どのようなものがあるか、わかりますか？
 質問② 看護において、情報がどのように取り扱われているか、わかりますか？
 質問③ 情報を守るために、どのような行動を取ればよいか、わかりますか？
 質問④ 看護において、なぜ情報管理が重要か、わかりますか？
 質問⑤ 情報管理が重要だという意識が、今、あなた自身にあると思いますか？
 質問⑥ 情報管理について、これから学んでいきたいと思いませんか？

アンケート結果は次の通り、授業後においてはほぼ望ましい状態となった。(N=35)

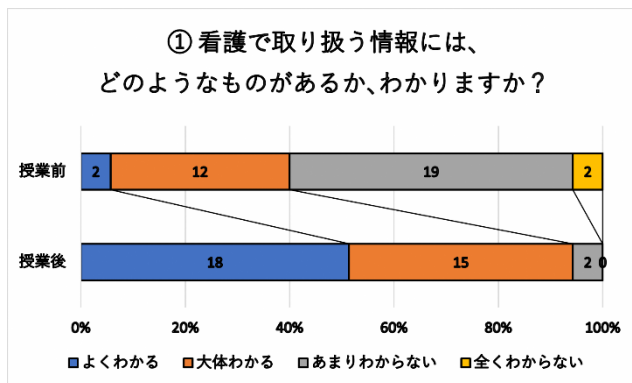


図13 アンケート項目①

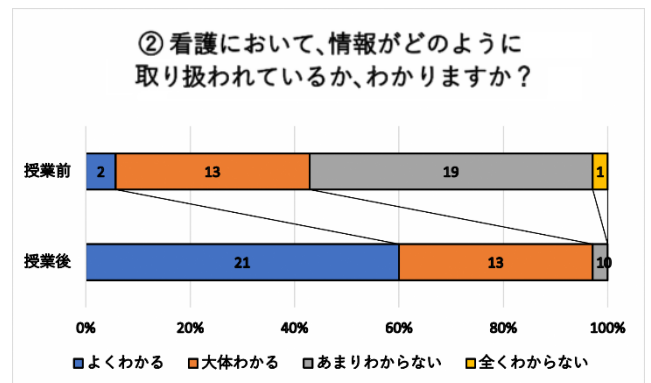


図14 アンケート項目②

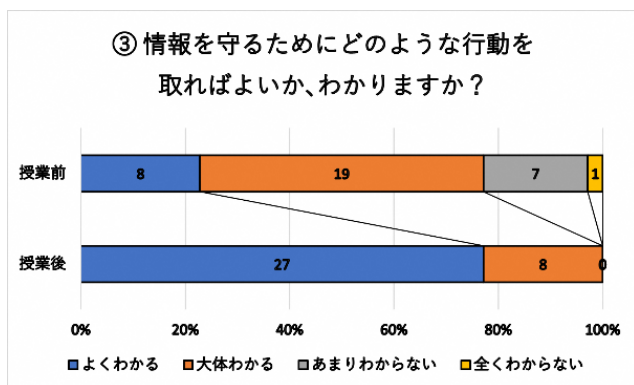


図15 アンケート項目③

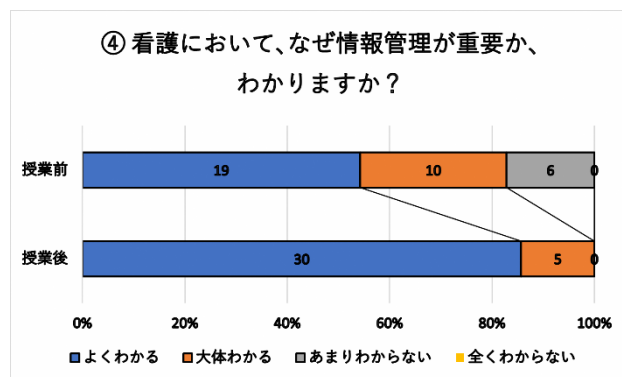


図16 アンケート項目④

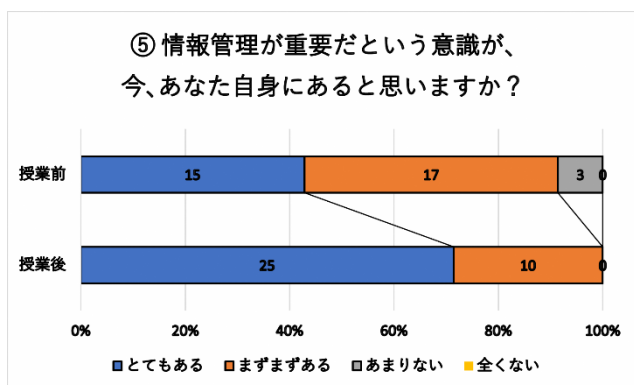


図17 アンケート項目⑤

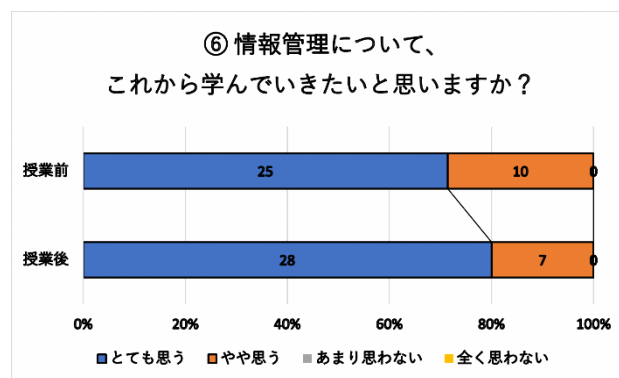


図18 アンケート項目⑥

質問項目別にみると、「よくわかる」または「大体わかる」と回答した者の合計は、質問①「看護で取り扱う情報には、どのようなものがあるか、わかりますか？」については、授業前は40%（14人）で、授業後は94%（33人）となった（図13）。質問②「看護において、情報がどのように取り扱われているか、わかりますか？」については、授業前は43%（15人）で、授業後は97%（34人）となった（図14）。質問③「情報を守るために、どのような行動を取ればよいか、わかりますか？」については、授業前は77%（27人）で、授業後は100%（35人）となった（図15）。質問④「看護において、なぜ情報管理が重要か、わかりますか？」については、授業前は83%（29人）で、授業後は100%（35人）となった（図16）。質問⑤「情報管理が重要だという意識が、今、あなた自身にあると思いますか？」については、「とてもある」または「まずまずある」と回答した者の合計は、授業前は91%（32人）で、授業後は100%（35人）となった（図17）。質問⑥「情報管理について、これから学んでいきたいと思いませんか？」については、「とても思う」または「やや思う」と回答した者の合計は、授業前後ともに100%（35人）であった（図18）。各質問項目とも、数値の大幅な上昇が確認された。

そのうえで、「情報管理における看護師としての倫理観」の育成度合いについて検証する。質問①～④の全項目について、「よくわかる」または「大体わかる」と答えた生徒で、かつ、質問⑤についても「とてもある」「まずまずある」と答えた者の合計の変化は、授業前は29%（10名）であったが、授業後は91%（32人）となり、大幅な上昇が確認できた。

オ 研究の成果と今後の課題

検証結果より、今回の一連の研究授業の取組が、本研究の目的であった「情報管理における看護師としての倫理観の育成」について、大いに効果があったと考える。

もともと生徒の看護・医療職への目的意識・関心は高く、これまでも「基礎看護」や「看護臨地実習」などの科目において、情報管理の重要性は意識付けをしてきていた。しかし、今回の単元の学習を通して、授業後には質問⑤において全ての生徒が「とてもある」または「まずまずある」と回答するに至り、特に「とてもある」と回答した者の割合が71%（25人）となり、授業前より43%（15人）増加したこと

は大きな成果である。これらは、情報管理に関する基礎的な知識を基に、模擬電子カルテを使用した演習を行うことで、看護で取り扱う情報の内容や取り扱いの方法、具体的な情報保護のための行動やその理由などについて理解を深め、情報管理に対する意識が向上したためだと考える。

また、質問⑥の主体的に情報管理を学ぶ姿勢についても、授業後には全ての生徒が「とてもそう思う」または「ややそう思う」と回答するに至ったが、そのうち「とてもそう思う」と答えた者は80% (28人)に上った。このことは、今後進化する情報システムに対応して自ら考え行動していくために、継続して主体的に学び続けるという看護師としての大切な姿勢を身に付けることに役立ったことを示している。

今後の課題としては、長期的な視点で組織的に情報管理における倫理観を育成していくために、看護教科の他科目との連携を図りながら、学習段階を踏まえて学年毎の到達度を明確にした学習計画を立案していくことが重要だと考える。加えて、臨地実習や外部講師による講演なども関連付けながら、多様な学習の機会をいかして、生徒の実体験を通した効果的な学習を展開する必要がある。そして、生徒一人ひとりの学びを大切にしながら、看護師としての倫理観の育成を図り、適切に情報を管理し、看護にいかしていける力を育んでいきたい。

参考文献

公益社団法人日本看護協会 2021 「看護職の倫理綱領」 p. 4

看護における情報の活用と管理
～模擬電子カルテで患者さんの情報を収集しよう～

参考資料 1

<本日の学習目標>

看護において患者の個人情報扱う際の、情報管理の重要性とセキュリティ対策について考える。

1 電子カルテで、患者さんの情報を集めてみよう。

患者情報シート

2 患者さんの情報収集をして気がついたことについて、ペアワークで話し合おう。

3 電子カルテから情報収集をする際の注意点について考えましょう。それは、なぜ注意をしないといけないかについても考えましょう。

4 情報管理はなぜ必要だと考えますか？

5 情報管理に関連した法律を復習しよう。

_____ H 番 氏名 _____

看護における情報の活用と管理
～患者さんの情報を守るために何が出来るだろう？～

<単元>

看護における情報の活用と管理

<テーマ>

患者さんの情報を守るために何が出来るだろう！

<単元の目標>

- ①看護における情報の活用と管理について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- ②看護における情報の活用と管理に関する課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだす。
- ③看護における情報の活用と管理について自ら学び、看護における課題解決に主体的かつ協働的に取り組む。

<評価の規準>

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
看護における情報の活用と管理について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	看護における情報の活用と管理に関する課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだしている。	看護における情報の活用と管理について自ら学び、看護における課題解決に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

<授業の内容・時間>

- ①医療・看護に関する情報システムの特徴とセキュリティ・・・2時間（講義）
- ②看護における情報の活用・・・1時間（講義）
- ③看護における情報管理・・・2時間（演習）

<振り返りシート>

この単元を通して、「患者さんの情報を守るために何が出来るだろう！」というテーマについて、考えてほしいと思います。

振り返りシートを使い、自分の学びと課題を振り返りながら、自ら学ぶ姿勢を大切にしていきたいと思います。



振り返りシート

参考資料 2

月日	自分の学びと課題
単元全体の振り返り	

_____ H 番 氏名 _____

福 祉

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

新学習指導要領の実施を踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点からの学習課程の実践

(2) 研究のねらい

I C T機器、視聴覚教材を活用し、生徒が主体的・対話的で深い学びにつながる授業展開の実践、検討の実施。

2 実践事例

(1) 単元指導計画

ア 科目名：社会福祉基礎（1年）

イ 単元名：子どもの権利と児童虐待

ウ 単元目標：子どもの権利条約と我が国の子ども家庭福祉に関する取組や課題について理解し、第三者として児童虐待が疑われる場面に直面した際にできることについて考察し、表現する。

エ 単元の評価規準： a:知識・技術 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度


知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
子どもの権利条約と我が国の取組や児童虐待への対応などの諸課題について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	児童虐待に直面した際の関わり方について、自身の役割や課題を発見し、解決する力を身に付けている。	児童虐待に直面した際の関わり方について主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時間	学習内容	学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
				a	b	c		
1	1・2	子どもの権利	子どもの権利を保障するための日本における取組を理解し、今後の権利擁護についてあり方を考察する。	○		●	a:子どもの権利について理解し、適切に記述している。 c:子どもの権利の役割について主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	ワークシート
2	3 (本時)	子どもの権利と児童虐待	視聴覚教材を活用し、児童虐待が疑われる場面に直面した際にできることについて考えることができる。		○	○	b:“児童虐待だと疑われる場面”に直面した時の虐待への気づきや自分の役割について、おおむね具体的に考察し、記述している。 c:虐待を疑う場面での自分の役割について、学んだことをおおむね活用し、具体的な表現をすることや、わかりやすい発表に向けて、粘り強く取り組もうとしている。	ワークシート (cの評価については、本時と単元終了時の変容を確認する。)
3	4	児童虐待への対応	児童養護の実態、児童虐待防止法について理解するとともに今後の対応の在り方を学ぶ。	○			a:児童の健全育成に向けた施策について理解し、正しい知識を身に付けている。	ワークシート
4	5・6	児童相談所と市町村の役割	児童福祉に関する市町村と児童相談所の役割、それらの機能と地域社会との関わりについて学ぶ。	○			a:児童相談所と市町村の役割と機能、地域社会との関わりについて理解している。	プリント

カ 授業実践例（3時間目/6時間）

- ・本時のねらい：児童虐待が疑われる場面に遭遇したときに、自身の役割や課題を発見し、解決に向けた具体的な対応について思考・判断・表現する力を身に付ける。
- ・本時の学習活動

学習活動（指導上の留意点を含む）	評価の観点（評価方法）
<p>1. 導入（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問あなたは虐待を疑う場面に直面したとき、どのような対応をしますか。 ・ワークシートに自分の考えを記入する。 ・授業後に自分の行動・対応の変容を確認する。 <p>2. 展開1（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材の視聴前に、登場人物について簡単に説明する。 ・法務省チャンネル【人権啓発動画『『誰か』のこと じゃない。』児童虐待編】を視聴する。（※冒頭から約3分を視聴する。結末の解説部分は学習活動につなげるため、視聴しない。）視聴覚教材を視聴することで、取り組む課題のイメージを共有する。 URL：https://www.youtube.com/watch?v=saDIFthyd1E（令和4年10月21日取得） ・視聴覚教材を見て、気になったところについてメモをとる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>＜メモを書くにあたってのポイント＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翔太くんが困っていたことは何か、気付いたことを書く。 ・翔太くんの保護者が翔太くんにしてしまったことは何か、気付いたことを書く。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの①～③に自分の考えを記入する。 ①翔太くんの保護者の立場だった場合、“なぜこのようなことをしてしまった”のだろうか、気付いたことを書く。 ②あなたが美緒さんの立場で発見者だった場合、“あなたができること”は何か考えを書く。 ③メモや①、②の状況に気付き、“対応しようとするときに悩んでしまうこと”は何か、考えたことを書く。 <p>3. 展開2（25分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で役割分担を行う。 ・個人で考えた内容をもとに、グループで検討を行う。 ・検討した結果をもとに、グループ毎に意見をまとめ、発表・共有する。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>4. まとめ（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループから出た意見をもとに、自分たちが出来ることについて確認する。 ・“対応としてできそうなこと”をまとめる。 ・一人で対応するのではなく、悩んだら相談し、複数で対応できるように促す。 ・頼る場所として、外部機関の連絡先を伝える。 	<p>主体的に学習に取り組む態度 （ワークシート）</p> <p>思考・判断・表現 （ワークシート）</p>

研究実施校：神奈川県立綾瀬西高等学校（普通科・全日制課程）

実施日：令和4年10月21日（金）

授業担当者：三品 隆広 総括教諭

○本時の評価規準

【思考・判断・表現】

学習活動における具体的評価規準	“児童虐待だと疑われる場面”に直面した時の虐待への気付きや自分の役割について、おおむね具体的に考察し、記述している。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体例	“児童虐待だと疑われる場面”に直面した時の虐待への気付きや自分の役割について、具体的に考察し、分かりやすく表現している。
「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への指導の手立て	“児童虐待だと疑われる場面”に直面した時の虐待への気付きや自分の役割について、視聴覚教材の内容を振り返りながら、虐待を疑う場面や自分の役割について考えることができるよう支援する。

【主体的に学習に取り組む態度】

学習活動における具体的評価規準	虐待を疑う場面での自分の役割について、学んだことをおおむね活用し、具体的な表現をすることや、わかりやすい発表に向けて、粘り強く取り組もうとしている。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体例	虐待を疑う場面での自分の役割について、学んだことを活用し、具体的な表現をすることや、わかりやすい発表に向けて粘り強く取り組もうとしている。
「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への指導の手立て	虐待を疑う場面での自分の役割について、視聴覚教材を活用しながら、自分の役割に気付くように支援する。

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

本時の授業では、生徒が具体的なイメージを持ち、主体的な学習に向けた視聴覚教材等の教材研究及び授業展開に主眼を置き、動画視聴やグループワーク等の学習活動を展開した。評価については、動画視聴後のグループワークや発表等の学習活動で、虐待を疑う場面での自分の役割について具体的に表現しているかをワークシート等で確認して評価した。

ア 動画の活用による生徒の共通理解の促進

本時の単元が「子どもの権利と児童虐待」となっている。その中で、「子ども」「虐待」について、定義があるものの、各々の生徒がイメージする「子ども」「虐待」は異なっていると考えられた。そのため、法務省から配信されている動画を生徒が視聴することで、対象となる子どもや、どのような場面が虐待の疑いがある状況なのかを確認することができた。このことにより、共通の認識をした上でグループワークにつなげられたので、自然と生徒が発言する場面が見られた。

イ グループワークにおける生徒の主体性

動画の具体的な場面を挙げて、虐待の疑いがあるのではないかと、というグループワークができていた。また、動画に登場する人物について、生徒自身が登場人物の中の誰の立場ならどう考えるか、どう行動できるのかを考えを深めていた。動画の内容で分かりにくい点については、グループ内で生徒同士が状況を確認しあうことで理解を深めていた。このことから、動画視聴により、生徒のグループワークを活性化させる動機付けの材料となることが考えられる。

実際に、グループワークを行う前までは、何を伝えたい動画なのか分からないという生徒がいた。しかし、グループワークを通して、他の生徒からの情報提供及び情報の整理を行う中で、そうした生徒も動画の内容について理解を深めることができた。動画だけを示すのではなく、動画を他者と情報共有することで、認識の違いを修正すると同時に、生徒が他者に説明する能力の育成に効果があったと考える。

ウ 本時における生徒の変容

本時の最初に子どもの権利や虐待に関する確認事項及び復習を行った上で、「虐待を疑う場面に直面した時に、どのような対応をしますか」という発問を行った。その際、生徒の記述からは「相談に応じる」「生徒を気にかける」「見なかったことにする」「虐待なのかどうか、本人に確認する」といった意見が挙げられた。虐待について生徒自身が虐待を受けている子どもに対してできることを考えたものの、内容が抽象的なものや、虐待の真偽について子ども本人への確認を行おうとする内容や、虐待自体から目をそらす内容についても意見が挙げられた。生徒自身がどの立場で考えるのかということと虐待の定義が曖昧であるためにこれらの考えが記述されたのではないかと考えた。

その後、虐待が疑われる場面の動画について視聴し、虐待の定義と立場を明確にした上で再度、どのような対応ができるか考える機会を設けた結果、「声をかけたり、気づかたりする」、「様子を見たりする」、「相談できる場所に話をする」、「信頼できる大人に相談する」、「本人の話を聞く」、「保護者の様子を確認する」「とにかくすぐに、相談所に電話する」といった記述へと変容していた。

これらの変容について、「虐待を受けている子ども自身が、これからさらに虐待を受けるようなことが無いようにすること」や、「主観だけで判断するのではなく、専門的な機関や立場からの対応が事件や事故を防げるのではないかと」といった視点に生徒自身が気付いたからではないかと考えた。

エ 課題

今回の研究授業では、ワークシートの記述内容から生徒の変容を読み取ることを行ったが、記述内容は多様であるため、簡単には数値化できない。評価を行う際にどのような点について生徒が成長し、より深い学びにつながったのかを示しにくい点は今後の課題であり、生徒の変容について数値を用いた形での評価方法の対応を今後の研究テーマとしても設定する必要があると考える。虐待などの授業内容の扱い方、説明の方法について、生徒への配慮が必要な点は、どの授業でも常に課題であると考えている。

Q あなたが児童虐待を疑う場面に遭遇したとき、どのような対応をしますか？

1 【人権啓発動画『『誰か』のこと じゃない。』児童虐待編】を視聴して考えよう
<メモ:翔太くんがこまっていたこと、保護者が翔太くんにしてしまったことなど>

① 翔太くんの保護者の立場だった場合、“なぜこのようなことをしてしまった“のだろうか、気づいたことを書きましょう。

② あなたが美緒さんの立場で発見者だった場合、“あなたができること“は何か考えを書きましょう。

③ メモや①、②の状況に気づいたとき、“対応として悩んでしまうこと“は何か、考えたことを書きましょう。

2 グループで考えを共有し、自分たちができることを検討しよう。

①	
②	
③	

○ 他グループの参考になった意見を書きましょう。

G	
G	
G	
G	
G	

3 自分たちにできることは何か考えよう。

○ 虐待が疑われる場面に直面した際に、第三者として“自分が”できそうなことを考えよう！

--

【 G】 記録用紙

①	
②	
③	

<発表用原稿>

私たちのグループは、_____だと思いました。
なぜなら、_____だ
と考えたからです。

総合的な探究の時間

「総合的な探究の時間」は、各校において育成を目指す資質・能力や学校の特色によってその目標が決まるため、この時間の教育活動が創意工夫に満ちた豊かなものになるよう、組織的な授業改善を進めているところである。特に高等学校では、生徒の実情や地域から期待される役割などが非常に多様で、総合的な探究の時間において育成を目指すべき資質・能力がその高等学校のミッションを体現するものであり、学校全体で教職員が連携してその実現に向かっていくことが必要である。その中で県立高校改革実施計画における教育課程研究開発校が、「総合的な探究の時間」に係る研究(令和4年度～令和6年度)の指定校として11校指定された。全般的な研究として、市ケ尾、横浜清陵、藤沢西、秦野総合、大和、津久井の6校が、SDGsをテーマとした展開に係る研究として、川崎、舞岡、横須賀南、山北、有馬の5校が研究を行っている。どの学校においても組織的な取組として、「総合的な探究の時間」をカリキュラム・マネジメントの中核として進めていくために、各教科・科目等との関わりを意識しながら、学年・教科を跨いだ学校全体での研究が進んでいる。

「総合的な探究の時間」については、教育課程研究会の研究推進委員を選出せず、県立高校指定校事業での取組で対応することとなっている。指定校事業開始初年度(平成31年度)から「研究報告」を作成し、教育課程研究会の研究報告に掲載している。

今年度は、各指定校が新たな指定期間(令和4年度～令和6年度)の初年度として、研究のねらいである「探究のプロセスによる学習過程を実現するための適切な指導の在り方、探究的な学習の指導力向上」について、それぞれのテーマを設定し、研究に真摯に取り組んできた。公開研究授業や研究協議の中で特に取組の重要性が挙げられたのは、「社会課題を自分事として捉えるための手立て」であり、指定校の11校において、様々な取組が実践された。今回は、2校(秦野総合、川崎)に関する取組内容について掲載する。

以下に2校の単元指導計画の一部と、両校の工夫についてまとめた。

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

「総合的な探究の時間」の組織的な取組

(2) 研究のねらい

「総合的な探究の時間」において求められる探究のプロセスによる学習過程を実現するための適切な指導の在り方、探究的な学習の指導力向上について研究する。

2 実践事例

(1) 秦野総合高等学校(全般的な研究)

① 教育課程表上の名称：総合的な探究の時間

② 総合的な探究の時間の目標(学校としての目標)：高齢社会の進行、政治や経済のグローバル化の進展、絶え間ない技術革新による生活環境の変化等を踏まえ、持続可能な社会の構築のために、地域・国家・世界に関わる課題を主体的に探究し、他者と協働しながら積極的に解決しようとする態度・能力を育成する。

③ 2年次の探究課題：「身の回りのものの未来」

自分の興味のある事柄の「未来」について、あらゆる情報を収集し、内容を整理する。整理した情報(題材)について、自らの視点から分析し、論理的に探究の結果をまとめる。

④ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
探究の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技術を身に付け、地域や社会の課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	地域や社会の課題と自己の関わりから問いを見だし、自ら課題をたて、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、他者の意見を尊重しつつ、新たに価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を身に付けている。

⑤ 単元の指導と評価の計画(全12時間)

次	時	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1	1 2	課題設定 ・系列に分かれ、各系列内でテーマを設定し、調べ学習などを通して問いを見いだす。 ・テーマにそって課題を探究し、社会的な意義や価値を考えて設定する。 ・課題についての解決方法を考える。 ・課題を解決するための手立てについて計画する。	○	○		・行動観察 ・探究学習用教材
2	3 6	情報収集 ・計画に基づき、観察や、実験、調べ学習、調査(活動)、文献やインターネットを利用したデータ収集を実施する。 ・課題解決のためのデータとして妥当なものであるか確認し、不十分な場合は調べ直しを行う。 ・中間発表を系列内で実施する。		○		・探究学習用教材 ○ ・中間発表
3	7 10	整理・分析 ・課題解決のために観察、実験、調査(活動)、文献やインターネットを利用し、収集したデータを整理・分析し、考察する。		○		・探究学習用教材
4	11 12	まとめ・表現 ・研究をまとめ、レポートを作成する。 ・系列内で発表し、相互評価する。 ・相互評価を基に、まとめ直し、レポートを修正する。 ・発表用資料(ポスター・スライド等)を作成し、2年次の中で最終発表会を実施する。 ・学習成果のまとめと1年間の学習を振り返る。	○		○	・行動観察 ・発表 ・ポスター ・スライド

⑥ 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

【学校の視点から】

探究する過程において、必要な情報を収集し、自らの意見を持ちながら積極的に解決しようとする態度を育成できるような指導をする。他者との意見交換において、考察した内容を共有し、新たに得た情報を踏まえて、さらに考察させる。最終的に、学習の振り返りを行い、探究の過程で得た知識や能力について考え、自己実現や進路の決定にいかしていく。

【教育課程研究会担当の視点から】

○[単元を通した段階的かつ継続的な指導]

生徒が立てる問いやその問いに対する手立てが表面的な課題意識に留まってしまうことが難しさとして挙げられた。生徒が主体的に学習に取り組み、課題の解決に向けて深く思考するためには、個々に設定したテーマを「自分事」として捉えさせることが不可欠である。また、課題解決のための手立ての計画立案や発表に向けた取組をより充実させるためには、単元を通した段階的かつ継続的な指導が必要である。

○[ピア・フィードバック]

「まとめ・表現」では、単元指導において「自分事として捉えた生徒自身の意見や探究の内容が、他者とのやり取りの中でいかに推敲されるか」ということが求められる。具体的な指導の一例としては、生徒が立てた問いや課題解決の手立てに対して、相互に評価を行う「ピア・フィードバック」が考えられる。ペアやグループの小集団において発表の機会を増やし、生徒が他者を意識して内容を伝え、自身の発表内容に対する反応があることで、自身が立てた問いや手立てについてより深い考察を与えることが期待される。その際には話し手だけではなく、聞き手の指導もあわせて必要となる。どのような点に気を付けながら、話し手の発表内容を聞くかを示したチェックリストを作成する、もしくは、話し手の

発表に対してどのように質問するかを具体的に教示する等、教員による支援や指導の工夫があるとよいだろう。

○[教科等横断的に課題解決を図ることによる深い学び]

総合的な探究の時間においては教科等横断的な学びを通じて探究を深めていくことが求められている。例えば、獲得した知識・技能を数学や理科等において習得した思考力・判断力を用いてデータ収集や分析・活用を行い、国語や外国語等で身に付けた表現力を小論文の執筆やプレゼンテーションにいかしながら、教科横断的に課題解決を図ることにより深い学びを促すことが考えられる。

○[単元における生徒の変容の見取り]

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校総合的な探究の時間』によると、「まとめ・表現」の「思考力・判断力・表現力」では、「整理・分析した結果や自分の考えをまとめたり他者に伝えたりすること，振り返ること対象や自分自身に対する理解が深まることなどが期待されている」（文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター 2021）とあり、その単元における取組が「知識・技能」の習得に留まらず、いかに生徒の「思考力・判断力・表現力」が深まる指導になっているかが大切であり、自己評価や相互評価の状況を含めた生徒の振り返りの記述等から、単元における生徒の変容を見取れるようにすることが求められる。

(2) 川崎高等学校(SDGsをテーマとした展開に係る研究)

① 教育課程表上の名称：総合的な探究の時間

② 総合的な探究の時間の目標(学校としての目標)：自己の在り方生き方を社会との関わりの中で考え、自己理解・他者理解・社会認識を深める学習活動や、興味関心・進路等に応じた探究活動、及び様々な学習スキルの習得を通じ、知の総合化と知識・技能の深化を図るとともに、人間関係能力を高め、社会が直面する課題を探究し、社会への参画を促すことを学習のねらいとする。

③ 1年次の探究課題：「SDGsとは何か知ろう」

SDGsの意味を理解し自己理解・他者理解を深め、自己の在り方生き方について考える中で課題意識を養うとともに、基本的な討論の方法や情報の収集などの探究の手法について学ぶ。

④ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
探究の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技能を身に付け、社会に関する基本的な概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	社会で見られる問題を自己との関わりから捉えて、課題について情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、新たな価値を創造し、より良い社会を実現しようとする態度を身に付けている。

⑤ 単元の指導と評価の計画(全9時間)

次	時	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1	1 2	課題設定 ・SDGsの達成すべき17の目標について学ぶ。 ・自己の興味・関心のある新聞記事を選び、SDGsとの関連について考える。			○	・行動観察
2	3 6	情報収集・整理・分析 ・選んだ新聞記事とSDGsの関連について、情報を収集する。収集した情報を整理・分析し、考察する。 ・配付された資料(⑦参考資料)を参考にスライドにまとめる。			○	・行動観察 ・スライド
3	7 9	まとめ・発表 ・根拠となる正確な情報を示しながら、作成したスライドを活用し発表する。 ・発表を聞いて、相互評価をし、自分なりの考えや疑問に感じたことを書く。	○	○		・発表 ・スライド ・ワークシート

⑥ 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

【学校の視点から】

新聞記事を活用することにより、身近な事柄からSDGsについて意識させる工夫をした。生徒自身が興味・関心のある記事を選ぶことで、主体的に情報を収集し、考察することができると考えた。また、テーマが多様になるため、どの発表も新鮮さがあり、聞く側も集中できていた。質問できる時間をしっかり確保することや、質問しやすい環境(教師の声掛けや、グループで質問するなど)を作り出すことで、さらに主体的・対話的で深い学びにつながると感じた。

しかし、多くの生徒は発表の際に使用したワークシートに個人の感想のみを書いており、疑問に思ったことや質問をしたいことについては、ほとんど意見が出ることがなかった。今後の課題として、様式等の工夫が必要であると感じた。今回は、年次(クラス単位)での発表であったが、今後は年次全体や他年次と行うことにより、更に、SDGsへの関心が高まることや、角度を変えて探究していくことができると考える。

【教育課程研究会担当の視点から】

○[主体的な学習]

新聞記事を活用することにより、生徒自身が興味を持っている身近な事柄を入口にして、SDGsに関連付けて生徒が主体的に学習に取り組むことができる。

○[発表や対話の時間の確保]

発表の機会をできるだけ多く設置することが望ましい。ただし、クラス全体への発表だと時間をとってしまうので、例えば、説明と質疑応答を組み込んだグループ内での発表やペアワークによる対話でもよい。生徒が自分の考えを発言することで自身の考えが深まり、他者の考えを聴くことで視野が広がるため、主体的・対話的で深い学びにつながる。

○[情報リテラシーに関する指導]

スライド作成やグラフ作成については、一定程度時間を確保して指導することが望ましい。その後、探究学習のプロセスを何度か経験することで、生徒は情報リテラシーを身に付けることができる。また、参考資料をスライドに載せる際のルールなども指導する必要がある。

○[ファシリテーターの役割]

教員はファシリテーターとして教室をコントロールする。発表毎に必ず質疑応答の時間を確保し、生徒の学習活動を教員が見守るという意識を作ることが大切となる。

○[学校全体の体制づくり]

学年や年次の教員への指示を明確にし、指示書のようなものを作成すると、どの教員が担当しても同じように対応できる。また、取組が学年や年次ごとに大きく変わることがないように、学校全体の取組として位置付けて、継続していくことが大切である。

○[外部の教育資源の活用]

この授業計画では新聞記事を活用しているが、他の教育資源の活用も検討するとよい。動画や統計データを活用できるので、学習活動の幅を広げることが可能である。

- ・「かながわ気候変動WEB」(神奈川県気候変動適応センター)

https://www.pref.kanagawa.jp/osirase/0323/climate_change/pdf/r2_manual.pdf

(2023年1月13日取得)



- ・「高校における健康・未病学習」

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cz6/kodomo/koukou.html>

(2023年1月13日取得)



- ・「神奈川県総合防災センター」

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/zn2/bousaicenter/homepage.html>

(2023年1月13日取得)



- ・「神奈川県自然環境保全センター」

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4y/top.html>

(2023年1月13日取得)



SDGsの発表の流れについて

2022.9.21
配布資料

【テーマ】 新聞記事からSDGsについて考える

【方法】

- ・新聞記事から、気になる記事をピックアップする。（記事の写真を撮る。）
- ・裏面の例を参考にしながら、新聞記事からSDGsに関するスライドを作成する。
以下の内容については必ず記載すること。

- ① タイトル
- ② ID氏名
- ③ 記事の要約（日付と新聞社名を記載）
- ④ この記事と関連付けたSDGs項目
- ⑤ そこから考えたこと（現状、提案、なぜこうなったのか？など。さらに記事を深読みも可）
- ⑥ まとめ

*裏面のスライドはあくまで例です。イラストやグラフなど、見やすいように作成しましょう！

【発表】 1人3分程度

<日程>

日時	活動内容	備考
9月21日(水)90分授業	SDGsを知ろう、クイズ、発表準備	
9月28日(水)90分授業	発表準備	
10月 5日(水)90分授業	発表準備	地域貢献デーの後に実施
10月19日(水)40分授業	【発表①】	特別時間割
11月 2日(水)90分授業	【発表②】	

飼い犬は高齢者の元気を保つ？

×
SDGs

ID 氏名○○ ○○

1

新聞の要約〈2022年○月○日（○）○○新聞〉

- 犬を飼っている人や過去に飼ったことがある人は、飼ったことがない人に比べ、**介護が必要だったり、亡くなったりするリスクが半減**
- 理由は、飼い犬の散歩や飼い主たちとの交流が、健康維持に役立っているのでは！
- 猫を飼っている人の調査ではリスクの低減する効果はみられなかった……。が、飼い猫の心理的な効果を指摘する他の研究もあり、猫との触れ合いが健康によい可能性は否定されていない。

2

SDGsとの関連

3 すべての人に健康と福祉を



すべての人に健康と福祉を

と関連して、何か考えられないだろうか？

3

現在は医師不足が問題となっている…

- 日本は、人口414人に1人の医師がいる計算
- 世界では、数万人に1人の医師の国が多くある



犬、猫と触れ合い、介護や死亡リスクを低減させれば、良い方向に進むのでは？

4

提案！


保護犬・猫と触れ合って健康に！



5

提案！ 保護犬・猫と触れ合って健康に！

<提案した理由>

- 2018年度、殺処分は犬7,687頭、猫30,757頭 

•犬猫を飼うことや、飼えない人でも触れ合う場を様々な場所で作ることで、少しでも健康につながるのではないかと！

高齢者にも犬猫にとっても幸せ☆

6

しかし、課題も…

- 飼うためにかかる費用は？
- 触れ合う場所の提供はどのようにするのか？誰が？場は？



7

課題解決のために、**社会**ができること

- ～を実施する
- という制度をつくる

課題解決のために、**私たち**ができること

- ～をしてみる
- 普段から、○○○をしてみる

8

3 成果と課題

(1) 成果

- ・探究のプロセスによる学習過程を実現するための授業計画及び授業実践が全ての指定校で行われていた。
- ・公開研究授業を対面で行い協議することを通して、成果や課題を共有し、自校の授業を振り返り、授業改善のきっかけとなった。
- ・生徒自身が興味を持っている身近な事柄を入口にして、SDGsに関連付けて考察をし、情報収集や整理、分析をすることで、探究のプロセスに沿った学習に主体的に取り組むことができた。
- ・生徒が主体的に粘り強く探究学習に取り組むことができるように、教員がファシリテーターとして生徒の学習活動を見守る体制ができていた。
- ・他者の発表を相互評価し、自分なりの考えをワークシートに記入することで、他者の意見を尊重できる授業進行となっていた。

(2) 課題

- ・各学校において主担当が授業計画を行い、ワーキングチームやプロジェクトチームを中心に授業の指導のポイントを他の教員に伝えているが、探究的な学習に対する理解の差が原因となり、教員ごとに指導に差が出てしまう。管理職も含め、学校全体で総合的な探究の時間に対して指導体制の充実を前向きに検討していく必要がある。
- ・生徒に情報リテラシーを身に付けさせるには、スライド作成やグラフ作成について、一定程度時間を確保して指導することが必要である。
- ・参考資料をスライドに載せる際のルールなど、著作権を意識した整理・まとめができるよう指導する必要がある。
- ・グループ内での発表やペアワークによる対話などの発表の機会を頻繁に組み入れて、生徒同士の対話をより深める必要がある。
- ・外部団体へのインタビューやウェブで得られる様々な教育資源を活用して、学習活動の幅を広げることが必要である。

引用文献

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター 2021 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料高等学校総合的な探究の時間』 東洋館出版社 p. 46

特別活動

1 研究のテーマ及びねらい

(1) 研究テーマ

特別活動における資質・能力の三つの視点(「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」)から合意形成や意思決定を実践するホームルーム活動 ～ルールメイキングをテーマとした指導事例～

(2) 研究のねらい

特別活動における資質・能力の三つの視点(「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」)から、合意形成あるいは意思決定を実践するホームルーム活動を想定し、各学校において特別活動の「評価の観点」とその趣旨、並びに評価規準を作成する際の参考となるよう、今年度は指導内容のテーマを「ルールメイキング」に設定し、指導計画及び評価の事例を作成する。

2 研究の内容及び方法

令和4年度から「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」が年次進行で実施されることに伴い、高等学校特別活動においても学習評価の改善が求められている。

高等学校における特別活動の記録については、各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分に満足できる活動の状況にあると判断される場合に、「○」印を記入する。

評価の観点を決めるに当たっては、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえ、例えば「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」のように、各学校において具体的に定めることができる。評価をするに当たっては、「十分に満足できる活動の状況」とは「生徒のどのような姿」を目指すのかを校内で検討し、「目指す生徒の姿」について共通理解を図ることが求められる。なお、生徒のよさや可能性を積極的に評価することが大切である点に留意する。「○」印を付けた具体的な活動の状況等については、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に簡潔に記述することも考えられる。

このような背景から、今年度も昨年度同様に、推進委員が所属する各学校の実情を基に上記資質・能力の三つの視点で合意形成あるいは意思決定を実践するホームルーム活動を想定し、指導事例を作成することとした。そして今年度は、生徒自身が自主的に議論を重ね、自分たちで学校の規則を見直したり新たにルールを作り出したりする、いわゆる「ルールメイキング」への取組が、生徒の主体性や自主性を育むことにつながると考え、指導内容のテーマを「ルールメイキング」と設定した。また、指導事例を推進委員全体で協議し、一つの学校での指導事例を考案することに決めた。その学校として重点化した内容を踏まえて特別活動の「評価の観点」を設定し、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成した。

《補助簿について》

日々の活動や様子を観察し、蓄積していく評価補助簿は、生徒のよさを積極的に読み取り、記録を蓄積していくことで、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」を育てていく上でとても有効なツールであると考え。生徒一人ひとりの活動状況を把握すると同時に、学年のみならず全校の教員が評価資料を共有することができるため、共通理解を図り、学校の教育方針を明確化して、生徒に対する多角的・多面的指導に資することができる。「目指す生徒の姿」の実現に向けた評価実践に補助簿を活用することで、より具体化された指導と評価の一体化が実施できると考えている。

《高等学校特別活動の「内容のまとめり」について》

特別活動の「内容のまとめり」(高等学校)

■ ホームルーム活動

- (1) ホームルームや学校における生活づくりへの参画
- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

■ 生徒会活動

■ 学校行事

- (1) 儀式的行事
- (2) 文化的行事
- (3) 健康安全・体育的行事
- (4) 旅行・集団宿泊的行事
- (5) 勤労生産・奉仕的行事

3 指導事例

研究授業は未実施であるが、推進委員の所属校での実施を想定した指導事例として掲載する。

《指導事例》神奈川県立伊勢原高等学校(全日制の過程)

教諭：高橋 若奈

(1) 目指す生徒の姿

- ・ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるために、様々なルールが設定された背景を理解し、異なる立場に立って考えながら合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。
- ・ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるために、異なる立場に立って考えながら課題を多角的に見いだし、多様な意見を取り入れながら自分の意見を伝え、合意形成に協働して取り組んでいる。
- ・ホームルーム及び社会の一員として、主体的に学び考え、自分の意見を相手に伝えようとするだけでなく、他者と協働しながら意見をまとめ合意形成を図ろうとする中で、良好な人間関係を作ろうとしている。

(2) 指導と評価の計画案：「ルールについて考える」

① 生徒(学校)の様子

本校は、インクルーシブ教育実践推進校として、生徒の特性や地域・学校等の実情を踏まえ、すべての生徒が共に学び、相互理解を深める教育を推進している。発達障害等の特性のある生徒や、小中学校での不登校経験者や外国につながるのある生徒も数多く在籍する中で、一人ひとりが他者を思いやり、コミュニケーションを取りながら生活している。

学力は標準的だが、素直で真面目な生徒が多く、授業内の個人ワークやグループワークには主体的に取り組んでいる。

② 内容のまとめ：「ホームルーム活動(1)ホームルームや学校における生活づくりへの参画」

③ 議題：「よりよい生活を送るために、他者とのルールメイキングを考える」

④ ホームルーム活動(1)で育成を目指す資質・能力

- ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるために諸問題を話し合っ解決することや、他者を尊重し協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。【知識及び技能】
- ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるための課題を見いだし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 多様な他者と積極的に協働しながら日常生活の向上・充実を図り、他者への尊重と思いやりを深めて互いのよさを生かす関係を作ろうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

⑤ 内容のまとめりごとの評価規準

【ホームルーム活動(1)「ホームルームや学校における生活づくりへの参画」の評価規準】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間生活を よりよくしようとする態度
ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるために諸問題を話し合っ解決することや、他者を尊重し協働して取り組むことの大切さを理解している。 話し合い活動や合意形成を得るための手順や活動の方法を身に付けている。	ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるための課題を多角的に見いだしている。 課題を解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	当事者として、多様な他者と積極的に協働しながら日常生活の向上・充実を図ろうとしている。 他者への尊重と思いやりを深めて互いのよさを生かす人間関係を作ろうとしている。

⑥ 一連の活動と評価

時間	議題及び題材 ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ホーム ルーム 活動 1	【テーマ：ルールメイキング①】 社会のルールについて考える ○ねらい 時代や社会の変化に合わせてルールも変化していく、ということについて考える。 ○活動 身近な法律である交通ルール(道路交通法)について、改正の内容やその社会的背景について調べ、共有する。	・ 社会生活を向上、充実させるために、交通ルールとその変遷について知っている。		・ 社会や時代の変化に合わせてルールも見直され、変わるということを理解しようとしている。
ホーム ルーム 活動 2	【テーマ：ルールメイキング②】 学校の校則について考える ○ねらい ルールが設定され変わっていく意図や背景を考える。 ○活動 自他の校則について、校則の設定の目的や時代背景などを調べ、学校でのルールメイキングについて考える。	・ 他者の立場を尊重して、別の立場に立って考えることができる。 ・ 校則を設定した背景について考えながら、合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	・ その校則が設定された背景について、生徒・教員・保護者・地域などの様々な立場に立って考え、課題を多角的に見いだしている。	・ 身近な題材として自身と重ね合わせて考えようとしている。

ホームルーム活動3	<p>【テーマ：ルールメイキング③】</p> <p>他者とのルールメイキングを考える</p> <p>○ねらい</p> <p>他者と生活していく上でのルールの必要性を考える。</p> <p>○活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある場面を想定したロールプレイを行い、個人ワーク、グループワークを通してルールメイキングを体感する。 ・生活していく上でルールを作ることや変えていくことの必要性・重要性を知る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を主張することができる。 ・集団の一員としての自覚を持って、一人ひとりの思いを意見として出し合い、多様な意見を取り入れ、互いに譲歩できる点を考えて合意形成を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を伝えるなど、積極的に協議しようとしている。 ・他者の意見を受け入れようとしている。 ・自他の意見を踏まえて、互いのよさを生かす人間関係を作ろうとしている。
-----------	--	--	---	--

⑦ ホームルーム活動「他者とのルールメイキングを考える」について

ア 議題（あるいは題材）

数人でルームシェアを行うと仮定し、共同生活を送る上でのルールを話し合いにより決定していく。役や住環境の設定はある程度こちらから提示する。

イ 本時における目指す生徒の姿

- ・ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるための課題を多角的に見だし、互いの意見や考えを認め合いながら話し合うことで、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して取り組んでいる。
- ・ホームルーム及び社会の一員として、他者と協働して自分と異なる意見や視点を取り入れながら日常生活の向上・充実を図ろうとし、共同生活を送る上で、他者と互いに気持ちよく生活をしていくためのルールが必要であることを理解しようとしている。

ウ 本時の展開 「共同生活をするときのルールを考えよう」

	生徒の活動	目指す生徒の姿
導入 (5分)	①本時の内容の説明を聞く。	①合意形成を行う姿勢や意欲がある。
展開1 (10分)	②一人暮らしを想定し、基本的な生活スタイルを考える。	②自分の生活スタイルを想像し、次の展開の土台となる自分の考えをまとめることができる。
展開2 (30分)	③4～5人でグループを作り、そのメンバーでルームシェアをするとしたときのルールを考える。(20分) ④各グループのルールや決定のポイントなどを共有する。(10分)	③自分の意見を主張しつつ、他者の意見をうまく取り入れるバランス感覚を持つ。よりよい集団生活を送るためにルールを設定したり、自他のよさを生かして生活上の役割を分担したりして、多数決ではなく、話し合いによって合意形成を図っている。【思考・判断・表現】 ④新たな意見や視点を自分に取り入れようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
終末 (5分)	⑤本時の振り返り ⑥「ルールメイキング」のまとめ	⑤自分の意見を伝え、多様な他者の意見も尊重しながら、協力して課題を解決することの重要性を実感できている。【思考・判断・表現】 ⑥共同生活を送る上で、他者と互いに気持ちよく生活をしていくためのルールが必要であること、状況に応じてそのルールを変化させていくことも必要だということを理解しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

⑧ 補足

・本時の展開の③の基本的なルールは、

1. 相手の意見を否定しない(他者を思いやる)
2. 相手の気持ちを考え、相手の意見の背景を理解する
3. 自分の意見は持つが、固執しすぎない
4. 話し合いですべて決める(意見が食い違ってもジャンケンなどで決めない)
5. 相手を納得させる

とする。

人数が多ければ、同じ人が連続で話さないなどのルールを入れてもよい。

⑨ 評価

・評価については、補助簿などを作成し、個別に評価していく。

(評価補助簿の例)

番号	目指す生徒の姿 名前	各テーマ			グループ活動			メモ
		知識	表現	態度	知識	表現	態度	
		合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	課題を多角的に見いだしている。	自分や自分の身近にある「ルール」について様々な立場から考えようとしている。	諸問題を話し合って解決することや、他者を尊重し協働していくことの大切さを理解している。	課題解決のために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図っている。	他者への尊重と思いやりを深めて互いのよさを生かす関係を作ろうとしている。	
1	A							
2	B							
3	C							
4	D							

⑩ まとめ(解説として)

- ・本研究では、ルールの作成や変更・改定を「ルールメイキング」とし、合意形成を実践するホームルーム活動の指導と評価の計画案を作成した。
- ・本指導と評価の計画案は、調べたことに対して自分の意見や考えを持つこと、それを相手に伝えること、他者の意見を尊重しながら合意形成を図っていくことを軸に作成した。他者の意見に頼るばかりでなく、また、自分の意見に固執することもなく、主体性と協調性のバランスを体感できるような展開にしていきたい。なお、本校生徒の実態に合わせて、ルームシェアのロールプレイの役割は教員側が提示する形にしたが、各校の生徒の実態に合わせて、生徒が話し合いの中で役割を考える形式も想定される。
- ・一連のホームルーム活動を通して、他者と関わりながら生活していくにはある程度のルール(法律・条例・地域のルール・校則・クラスのルールなど)が必要であることや、状況に応じてルールを変化させていくことも必要であるということを理解させたい。また、ルールを作るためにはどのようなことを考える必要があるのかということや、ルールを変えるにはどれだけの時間がかかるのかということなど、合意形成に至るまでの過程を重視したい。したがって、活動3においては最終的に決まらなくてもよい。共有の時に、「どの点が譲歩・妥協できなかったのか」「すり合わせが難しかったのはどこか」などを発表させて、ルールを作っていくことの難しさを感じさせてもよい。

道 徳 教 育

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

「SOSの出し方に関する教育」の推進

(2) 研究のねらい

本研究は、特別活動のホームルーム活動において「SOSの出し方に関する」授業を実践し、今後の道徳教育の参考とすることを目的とする。

(3) 背景

我が国の自殺者数は、近年全体としては減少傾向にあるものの、小中高生の自殺者数は増加傾向である。令和2年には小中高生の自殺者数が過去最多、令和3年には過去2番目の水準であった。

平成28年に、自殺対策基本法が改正され、学校における児童・生徒を対象とした教育の実施について示された。この改正の趣旨や我が国の自殺の実態を踏まえ、自殺総合対策大綱(厚生労働省 2022)では、「児童生徒の自殺対策に資する教育の実施」として、次の3点が示されている。

- ① 命の大切さ・尊さを実感できる教育
- ② 様々な困難・ストレスへの対処方法を身に付けるための教育(SOSの出し方に関する教育)
- ③ 心の健康の保持に係る教育

加えて、文部科学省では自殺予防教育について、「子供に伝えたい自殺予防(学校における自殺予防教育導入の手引)」(文部科学省 2014)で次の内容を示している。

- 学校における自殺予防教育の目標
 - 「早期の問題認識(心の健康)」「援助希求的態度の育成」
- 育成すべき資質・能力等
 - ・ 長い人生において問題を抱えたり危機に陥ったりしたとき、問題を一人で背負い込まずに乗り越える力を培うこと
 - ・ 自分自身や友達の危機に気づき、対処したり関わったりし、信頼できる大人につなぐこと
- 授業内容
 - ・ 自殺の深刻な実態を知る
 - ・ 心の危機のサインを理解する
 - ・ 心の危機に陥った自分自身や友人への関わり方を学ぶ
 - ・ 地域の援助機関を知る

また、これらの教育は、学校全体でその必要性を共有し、一体となって取り組むことが重要であるとされている。

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説総則編』には、道徳教育の目標について「人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」(文部科学省 2018 p.29)と示されている。小・中学校における「特別の教科である道徳」の学習等を通じた道徳的諸価値の理解を基にしながら、自分自身に固有の選択基準・判断基準を形成していくことが大切であるとされている。高等学校においては、小・中学校と異なり道徳科が設けられていないことから、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の指導のための配慮が必要とされており、公民科の「公共」及び「倫理」並びに特別活動を中核的な指導場面とし、各教科・科目等の特質に応じ、適切な指導を行うこととしている。『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説特別活動編』には、ホームルーム活動の内容に「青年期の悩みや課題とその解決」、「生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立」等が示されている。

このことから、本研究では、自殺総合対策大綱の「児童生徒の自殺対策に資する教育の実施」より、「様々な困難・ストレスへの対処方法を身に付けるための教育(SOSの出し方に関する教育)」に着目し、特別活動のホームルーム活動において、自分の知らない自分自身について知ること(メタ認知)や、心の危機に陥った自分自身や友人への関わり方を学び、主体的な判断の下に適切な行動を考えるための授業実践を行うこととした。

2 実践事例

(指導事例案1)

SOSの出し方に関する授業 ～アクティビティ(助け鬼)から援助希求行動について考える～

- (1) **ねらい**：ア 自分一人では解決することが困難な問題に直面した時、周囲にSOS(援助希求行動)を出すことの必要性について考えを深めることができる。
 イ 他者とのつながりを持つことの重要性について考えることができる。
- (2) **評価規準**：アクティビティを通して、助けを求めることの必要性や他者とのつながりを持つことの重要性について理解し、援助希求行動について自らの言葉で表現している。
- (3) **対象・場所**：2年1組40名・武道場
- (4) **使用教材**：フリースボール(6個)、バトン、ストップウォッチ、ワークシート
- (5) **本時の流れ**(50分)

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法等
5分	○導入 ・「助け鬼」を行い、気付いたことを共有し、深めていく学習であることを理解する。 ・アイスブレイク	・4人一組の班に分ける。	
40分	○展開1(助け鬼) ・ルールの確認 ※クラスを半分(5班ずつ)に分ける。 半分は活動、半分は観察する。 ①仕切られた範囲内での鬼ごっこ ②鬼は複数いる(バトンを持つ) ③ボールを持っている人は捕まえられない ④ボールが欲しいときは「助けて」と言う ⑤鬼ごっこ中は走らない ○展開2(振り返り) ①鬼ごっこ中に起きた事象を、ワークシートに書く ②現実と引き比べるとそれはどんな事象かを班で話し合う ③対策・対応について話し合う ○展開3(発表) ・話し合った内容を各班1分で発表する。	・捕まったり捕まえられたりすることを楽しむことを伝える。 ・鬼ごっこの最中に起こった事象を観察し、発表することを伝える。 ・事象とは何かについて、ヒントを言っておく。(後ろを向いていたので渡せなかった等) ・悩みを一人で抱え込む中高生が多い現状を伝え、相談の受け手はたくさんいることに気付かせる。	・アクティビティを通して助けを求めることの必要性や他者とのつながりを持つことの重要性について考え、話している。 【観察】
5分	○まとめ ・本時を振り返り、学習の感想をワークシートに書く。	・相談機関の連絡先が分かる資料を提示する。 ・養護教諭、担任より、苦しいときは相談に応じるので一人で悩まないでほしいというメッセージを伝える。	・援助希求行動について自らの言葉で表現している。【ワークシート】

研究実施校：神奈川県立市ケ尾高等学校(全日制)

実施日：令和4年11月21日(月)

授業担当者：岡 豊 教諭

(6) ワークシート

ワーク1. 起こった出来事を6つの書き出しに続けて書いてみよう。6つの書き出し以外の内容は、⑦に書いてみよう。

書き出し	出来事
①ボールを投げたら、	
②ボールを投げたのに、	
③ボールを投げた時、	
④ボールを投げたのに、	
⑤「助けて」と言ったら、	
⑥「助けて」と言ったのに、	
⑦	

ワーク2. 「ワーク1」で書いた出来事①～⑦を、普段の生活に置き換えるとどうなるだろう？

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦

ワーク3. 「ワーク2」で置き換えた内容で、対策（対応）が必要なものについて、どうすればよいかを班で話し合おう。

--

今日の授業で感じたことを書きましょう。

--

※生徒が記入した内容

ワーク1. 起こった出来事を6つの書き出しに続けて書いてみよう。6つの書き出し以外の内容は、⑦に書いてみよう。

書き出し	出来事
①ボールを投げたら、	相手が助かった。 相手が受け取ってくれた。
②ボールを投げたのに、	だれもキャッチしてくれなかった。
③ボールを投げた時、	受け取った。 助かったと思った。
④ボールを投げたのに、	受け取らなかった。 背中を向けていた。
⑤「助けて」と言ったら、	ボールを投げた。 助けてくれた。
⑥「助けて」と言ったのに、	だれもボールを投げしてくれなかった。 助けてくれなかった。
⑦ボールを持っている人たちが	持っていない人を守っていた。

ワーク2. 「ワーク1」で書いた出来事①～⑦を、普段の生活に置き換えるとどうということだろう？

① 勉強を教えたら、相手のテストの点数が上がった。 話しかけたら会話が弾んだ。
② あいさつしたのに、だれも気付いてくれなかった。 話しかけたのに無視された。
③ 悩みを打ち明けてくれた時、相談に乗った。
④ 「相談に乗るよ」と声をかけてくれたのに、一人で抱え込んでいた。
⑤ つらいときに「助けて」と言ったら、話を聞いてくれた。
⑥ 勇気を出して「助けて」と言ったのに、だれも気付いてくれなかった。
⑦ いじめられている子をみんなで守った。

ワーク3. 「ワーク2」で置き換えた内容で、対策（対応）が必要なものについて、どうすればよいかを班で話し合おう。

④について、一人で抱え込まず、だれかに相談できるようにする。

(7) 授業実施後の振り返り

鬼ごっこの内容から普段の生活を振り返るといふ展開は、生徒の中でも気付きが生まれ、ねらいの達成のために非常に効果的であった。また、相談機関や保健室の紹介など、養護教諭との連携も、生徒たちに安心感を与え効果的であった。しかし、ワーク2については、事前に具体的な例を示しておく、発問を工夫するなど、生徒の気付きをより深めるための改善が必要である。また、アクティビティにおいて、助け合う場面をより多く作り出す設定の工夫により、より効果的な授業になると考える。

《指導事例案2》

SOSの出し方に関する授業 ～ワークを通して他者のSOSを受け止めることについて考える～

- (1) **ねらい**：他者の意見の受け止め方(傾聴力)について理解する。
- (2) **評価規準**：聴き方のポイントを自ら発見しながら理解することができる。
- (3) **対象・場所**：3年4組38名・ホームルーム教室
- (4) **使用教材**：スライド、タイマー、ワークシート
- (5) **本時の流れ**(45分)

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法等
10分	<p>○導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れとねらいを確認する ・アイスブレイク(お地蔵さんワーク) <p>★3人一組を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ①話し手・聴き手・観察者を決める。 ②話し手は決められた題材に関して1分間話をする。 ③聞き手は無反応で腕組みをして話を聴く。 ④1分後、観察者は、二人の様子を話す。話し手・聴き手も会話をしているときの気持ち等を話す。 ⑤話し手・聴き手・観察者を交代して①～④を同様に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生の自殺者が多い現状について伝える。 ・援助希求行動とそれを受ける側の学習をすることを伝える。 ・話し手・聴き手ともに自分がどのような気持ちになるか観察しながらワークを進め、観察者は二人の様子をよく観察するよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手は、聴き手の聴き方に左右されるということについて考えたり、発表したりしている。 <p>【観察】</p>
30分	<p>○展開1(傾聴力ワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①3人一組でアイスブレイクの続きの順番で、話し手・聴き手・観察者を決める。 ②話し手は決められた悩みごとを聴き手に相談する。 ③聴き手は与えられた指示*に従い、受け答えをする。 (※批判・アドバイス・すり替え) ④傾聴力診断テストを実施する <p>○展開2(傾聴力ワーク)</p> <p>話し手・聴き手・観察者を交代して展開1の①～③を同様に行う。</p> <p>※診断テスト結果を基に、傾聴を意識した受け答えをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手・聴き手ともに自分がどのような気持ちになるか観察しながらワークを進め、観察者は二人の様子をよく観察するよう指示する。 ・ついつい質問したくなる自分や、自分のことを考えてしまう自分がいることに気付かせ、援助希求行動には相手(話し手)を主語にして話を聴くことが大切であることを説明する(気付かせる)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談する側の気持ちを考え、日頃の自分の話の聴き方について振り返っている。 <p>【観察】</p>
5分	<p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時を振り返り、学習の感想をワークシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生の自殺者が多い現状について伝え、自分はかけがえない存在であることを気付かせる。 ・相談機関についてスライドで紹介する。 ・苦しいときは、相談に応じるので一人で悩まないでほしいというメッセージを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・援助希求行動に対する受け手側の心得について考えている。 <p>【ループリック】</p>

研究実施校：神奈川県立横浜清陵高等学校(全日制)
 実施日：令和4年12月1日(木)
 授業担当者：平本 美咲 教諭

(6) ワークシート

2022. 12. 01 SOSの出し方に関する授業～傾聴について～

4桁番号 _____ 名前 _____

◎今日の目標

1. 聴き方のポイントを自ら発見する
2. 話し手は聴き手の聴き方に左右されるということに気付く

◎ループリック（自己評価→ABCに○をつける）

1. A：積極的にワークに参加し、自分の聴き方について改めて気付いたことがあった
B：積極的にワークに参加したが、自分の聴き方について改めて気付いたことは思い浮かばなかった
C：積極的にワークに参加したり、自分の聴き方について考えることができなかった
2. A：人との会話における聴き方に関するヒントが得られ、今後にいかせそう
B：人との会話における聴き方に関するヒントが得られたが、今後にどういさせるか分からない
C：人との会話における聴き方に関するヒントが得られなかった

◎今日の授業で、最も印象に残ったこと、気付きなど

(7) 生徒記入抜粋（◎今日の授業で、最も印象に残ったこと、気付きなど）

- ・仲の良い友達の相談にのるときには、否定してしまったり、自分の思うことをどんどん話してしまっていたから、その前にまず共感したりすることが大切だなと気付くことができた。
- ・観察者をやったときに、否定とかしているわけではなくても相槌がないと感じ悪いなと思った。
- ・今まで、このようにして自分の言動や振る舞いについて深く考えたことがなかったのですが、人の話を聞くのがとても好きなので、不快な思いをさせないように改めて気を付けようと思いました！
- ・会話の途中で口をはさむのはよくないなと改めて思った。自分が喋り過ぎているかもしれないと思った。共感したり、相槌を打ったり、聞くときの態度も話し手にとっては重要になってくると考えた。
- ・相手の反応が悪いと話したくないなって思う時があるから、周りの子にそういうふうに使われないようにしようと思った。
- ・意識なしに人を傷つけているかもしれないので気を付けようと思った。

(8) 授業実施後の振り返り

ワークについて、生徒の演技力に委ねられる部分が多かったが今回に関しては、話が苦手な生徒もいたものの概ねよく取り組んでいた。生徒の実態に応じて、簡単な原稿を用意するなどの工夫が必要である。

また、ワークのテーマについてはどこまで配慮すべきか難しいところではあるが、実際にテーマと合致するような状況の生徒もいるということを想定してケアをする必要がある。

役割分担にあった観察者の視点を全体で共有することができると、生徒自身が客観的に物事を捉えてより多くの気付きを得ることができると思う。

引用文献・参考文献

神奈川県教育委員会 2022 「児童・生徒の自殺予防に向けたこころサポートハンドブック(改訂版)」

<http://www.pref.kanagawa.jp/documents/25122/kokorosuporthandbook.pdf> (2023年2月3日取得)

厚生労働省 2022 「自殺総合対策大綱～誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して～」

<https://www.mhlw.go.jp/content/001000844.pdf> (2023年2月3日取得)

文部科学省 2018 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説総則編』東洋館出版社

文部科学省 2018 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説特別活動編』東京書籍

文部科学省 2014 「子供に伝えたい自殺予防(学校における自殺予防教育導入の手引)」

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2014/09/10/1351886_02.pdf (2023年2月3日取得)

神奈川県高等学校教育課程研究会研究推進委員及び協力者氏名

国語	芦原 徹 花田 千春	新谷 智子 早川 達也	杉山 真里亜 古川 光太郎	滝澤 亮介 保川 郁子	田島 裕明
地理歴史	内田 圭亮 西村 拓哉	武田 真史	谷口 圭一郎	土谷 優子	角田 義彦
公民	河崎 千愛希	中野 文	野々村 洋樹	松村 貴志	山口 真歩
数学	石井 壮平 永野 健史	大石 卓	佐藤 陽亮	竹林 滉平	田中 直也
理科	板橋 和政 山西 康介	伊東 秀悟	菊川 正太	喜納 悠大	藤原 靖
保健体育	大谷 真波 本多 純一郎	小野 憲一 柳原 鉄平	佐伯 実穂 良田 直優	竹内 大輔 脇 千登勢	千葉 正範
芸術(音楽)	青山 拓也 福井 和加奈	小野寺 昌枝 松山 裕香	瀧本 真英	中田 大樹	濱田 愛深
芸術(美術・工芸)	麻生 茉希 村本 亜美	渥美 恵美	井關 麻恵	黒瀬 佳代子	櫻井 伸浩
芸術(書道)	小野 昭香	関口 奈緒美	田中 咲	堀川 千夏子	茂木 彩華
外国語(英語)	小犬丸 彰宏	小坂 はつ実	佐藤 亮介	田村 友美	柳谷 孝一
家庭	有嶋 茜 那須野 恭昂	大城 利恵子	岡田 寛未	後藤 南津恵	知念 朋子
情報	青木 善彦 西川 諒	浅井 雄大 松本 甫	一ノ瀬 要	大澤 凌	近藤 愛子
農業	江川 哲平 藤巻 聡	小野 裕士	小泉 幸太	後藤 隼人	野川 圭太
工業	池田 圭佑 松本 真一	栗山 博樹 宮城 泰文	佐々木 英治 根塚 千晶	橋本 喜代枝	福山 延昭
商業	椎葉 健一	廣野 千夏	遠山 宏子	藤田 芳枝	真壁 こはる
水産	萩原 佑介	澤村 和洋	原田 貴博	藤岡 高昌	牧園 尚朗
看護	安達 ゆかり	池端 万須美	伊藤 ゆき		
福祉	今井 千晶	露木 雅史	平林 美織	三品 隆広	
総合的な探究の時間	県立高校改革に基づく「総合的な探究の時間」指定校の取組を研究集録に反映させる。研究推進委員は選出しません。				
特別活動	篠崎 倫也	高橋 若奈	中村 百恵	西山 有希乃	村田 周子
人権教育	木目田 美咲	柴田 行裕	末吉 直美		
道徳教育	岡 豊	加藤 雄司	田部 慧	平本 美咲	八本 侑士

担当者

高校教育課

小野 亜希子	安井 俊之	橋本 雅史	石塚 悟史	坂本 和啓	永末 福太郎
山口 真也	巻田 洋平	比良 剛	中島 勉	岡野 裕子	高橋 晋太郎
田中 秀樹	牧野 貴志	乾 浩幸	大里 有哉	川上 敬子	青木 美穂
田村 悠					

保健体育課

藤田 崇史

行政課

栗林 利昭

総合教育センター

大石 智子	岩崎 英久	森 知都	秋吉 克則	小林 純	近藤 充暁
杉野 文弘	太田 健夫	小林 大起	田澤 諭子	石松 敦子	西村 崇志
鳥屋尾 雄一郎	石井 孝明	伊藤 謙二	川村 一枝	西川 陽平	戸塚 敦士
勝山 光仁	安藤 芽伊実	内藤 伯香	新垣 有里乃	高野 真依	岡田 絵美子
長岡 幸司	萩原 正博	外赤 広太	深川 伸一	加藤 充洋	森本 祥夫
吉野 雅史	村越 みどり	玉井 正史	神戸 秀巳	岡部 佳文	梶原 健司
中村 ふじ	市川 誠人	竹中 仁	栗木 雄剛	山本 聡	山本 文美
田村 幸久					

令和4年度 高等学校教育課程研究会 研究報告 第2集

発行 令和5年3月
発行者 田中 俊穂
発行所 神奈川県立総合教育センター
〒251-0871 藤沢市善行7-1-1
電話 (0466)81-1694 (研修研究企画課)
URL <https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/>

※本冊子は、ウェブサイトで閲覧できます。

再生紙を使用しています



神奈川県立総合教育センター
〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1
TEL (0466) 81-0188[代表]
FAX (0466) 84-2040
URL <https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/>

